

本書の構成

第1章 概要

この章では、サーバのセットアップと運用の概要について説明しています。

第2章 OSインストールの前に

この章では、OSインストールを行う前の注意事項について説明しています。インストールを行う前に、必ずお読みください。

第3章 サーバのインストール

この章では、サーバにOSをインストールする方法について説明しています。

第4章 OSインストール後の操作

この章では、OSインストール後に行う操作について説明しています。本サーバを運用する前に、必ず行ってください。

第5章 高信頼ツール

PRIMERGYでは、高信頼ツールを導入することを推奨しています。

この章では、それぞれのインストール方法や、使用方法について説明しています。

第6章 クライアントのインストール

この章では、WizardConsoleを使用したネットワークアカウントの設定方法や、クライアントへのインストール方法について説明しています。

第7章 ハードウェア増設時の操作

この章では、ドライバの作成方法とインストール方法について説明しています。

付録

この章では、トラブルシューティングと、ネットワークパターンについて説明しています。また、ServerStartを使用してインストールを行う場合に有効なデザインシートを添付しています。

PRIMERGY マニュアルについて

本サーバのマニュアルには、以下の 5 種類があります。本書は、OS のインストールからセットアップ方法、サーバを運用するために必要な設定について解説しており、本サーバ全体の情報は解説しておりません。したがって、本サーバ全体の情報が知りたい場合は、以下のマニュアルも併せてお読みください。

『梱包物一覧』を除く各マニュアルは、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD の以下からご参照いただけます。

<CD-ROM ドライブ>¥MANUAL¥index.htm

- 安全上のご注意

本サーバを正しくお使いいただくための重要な情報を記載しています。

本サーバをお使いになる前に熟読し、理解されたうえで本サーバをお使いください。

- はじめにお読みください

本サーバの開梱から運用までの流れを説明しています。

電源を入れる前にお読みください。

- ハードウェアガイド

内蔵オプション装置の取り付け、ハードウェアの設定、およびトラブルシューティングについて説明しています。

- ソフトウェアガイド（本書）

OS インストール方法、クライアントセットアップ方法、および高信頼ツールについて説明しています。

- プレインストールドライバ情報

OS インストールタイプにインストールされているドライバ情報について説明しています。

- ServerView ユーザーズガイド

ServerView の使用方法について説明しています。

- ServerView Webextension ユーザーズガイド

ServerView Webextension の使用方法について説明しています。

- REMCS エージェント運用ガイド

REMCS エージェントの使用方法について説明しています。

本書の表記

■本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

diskcopy a: a:
 ↑ ↑

↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。
また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。

■画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつないで表記しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

なお、本書ではお使いのOS以外の情報もありますが、ご了承ください。

製品名称	本文中の表記
Microsoft® Windows®95 Operating System	Windows 95
Microsoft® Windows®98 Operating System	Windows 98
Microsoft® Windows® Millennium Edition	Windows Me
Windows 95 および Windows 98、Windows Me	Windows 95/98/Me
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version4.0	Windows NT Workstation 4.0
Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows 2000 Professional
Microsoft® Windows® 2000 Server および Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server	Windows 2000 Server、または Windows 2000
Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version4.0 および Microsoft® Windows NT® Server, Enterprise Edition 4.0	Windows NT Server 4.0、または Windows NT 4.0
Microsoft® Windows®XP Professional	Windows XP
Microsoft® Small Business Server 2000	SBS 2000
NetWare® 5.1	NetWare 5.1

■ ソフトウェア説明書について

本書で説明する事項以外で、参考となる情報や留意事項は、「ソフトウェア説明書」に記載されています。ServerStartをお使いになる前に、必ずお読みください。

「ソフトウェア説明書」は、「README.TXT」というファイル名で、ServerStart CD-ROM のルートディレクトリに登録されています。テキストエディタなどで開いてお読みください。

■ ServerStartに関する最新情報について

ServerStartに関する最新の情報は、富士通パソコン情報サイト FMWORLD.NET のビジネス向けホームページでご確認ください。

<http://www.fmworld.net/biz/>

VGA、PS/2 は、米国 IBM の米国での登録商標です。

Microsoft、Windows、MS、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Xeon は、米国インテル社の商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

NetWare および IntranetWare は、米国 Novell, Inc. の登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright® FUJITSU LIMITED 2002

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

目次

第 1 章 概要

1.1 サーバセットアップの流れ	12
1.2 ServerStart の特長	13
1.3 高信頼ツールについて	17
1.3.1 サーバ監視ツール	17
1.3.2 運用管理支援ツール	18
1.3.3 システム診断支援ツール	18
1.3.4 遠隔保守支援ツール	19
1.3.5 高信頼ツールの導入について	20

第 2 章 OS インストールの前に

2.1 インストール方法の選択	22
2.2 システム要件	23
2.3 ServerStart を起動する前に	25
2.3.1 サーバ導入前の準備	25
2.3.2 Service Pack について	27
2.3.3 情報ファイルについて	27
2.3.4 ServerStart 使用時の注意事項	28
2.3.5 ServerStart でサポートするオプションカード	30
2.4 OS を手動インストールする前に	31
2.4.1 Windows NT Server 4.0 / Windows 2000 Server 共通注意事項	31
2.4.2 Windows 2000 Server をインストールする場合	33
2.4.3 Windows NT Server 4.0 をインストールする場合	34
2.4.4 NetWare 5.1 をインストールする場合	35

第 3 章 サーバのインストール

3.1 OS インストールタイプの開封	38
3.1.1 ServerStart を使用して開封する	38
3.1.2 ServerStart を使用せずに開封する（Windows 2000 Server の場合） ..	41
3.1.3 ServerStart を使用せずに開封する（Windows NT Server 4.0 の場合） ..	42
3.2 ガイドモード	50
3.2.1 ガイドモードの起動	50
3.2.2 コンフィグレーションファイルを開く／作成する	53
3.2.3 RAID ウィザード	53
3.2.4 ディスクウィザード	54
3.2.5 OS インストールウィザード	56
3.2.6 アプリケーションウィザード	61
3.2.7 サーバアプリケーションセットアップウィザード	62
3.2.8 クライアント一括導入ウィザード	62

3.2.9 コンフィグレーションファイルを閉じる／保存する	65
3.2.10 インストールの開始	65
3.3 事前設定モード	69
3.3.1 事前設定モードの起動	69
3.3.2 各ウィザードの設定を行う	72
3.3.3 インストールの開始	72
3.4 エキスパートモード	76
3.4.1 エキスパートモードの起動	76
3.4.2 RAID システム構成ツール	79
3.4.3 メンテナンス区画の作成	79
3.4.4 ディスクアドミニストレータ	80
3.4.5 OS インストールウィザード	81
3.4.6 アプリケーションウィザード	86
3.4.7 インストールの開始	86
3.5 複数台（2台目以降）へのインストール	89
3.5.1 インストールの準備	89
3.5.2 ガイドモードでインストールを行う	89
3.5.3 事前設定モードでインストールを行う	91
3.6 再インストール	93
3.6.1 再インストールの前に	93
3.6.2 OS インストールタイプの再インストール	94
3.6.3 ガイドモード／事前設定モードでの再インストール	94
3.6.4 エキスパートモードでの再インストール	94
3.7 OS の手動インストール（C150 の場合）	96
3.7.1 Windows 2000 Server のインストール	96
3.7.2 Windows NT Server 4.0 のインストール	100
3.7.3 NetWare 5.1 のインストール	104
3.7.4 Linux のインストール	106
3.8 OS の手動インストール（L100 の場合）	107
3.8.1 Windows 2000 Server のインストール	107
3.8.2 Windows NT Server 4.0 のインストール	110
3.8.3 Linux のインストール	114
3.8.4 IDE RAID 管理ツールのインストール	114

第4章 OS インストール後の操作

4.1 メモリダンプ／ページングファイルの設定	116
4.1.1 メモリダンプを取得するための設定方法 (Windows 2000 Server の場合)	116
4.1.2 メモリダンプを取得するための設定方法 (Windows NT Server 4.0 の場合)	120
4.2 システム修復ディスクの作成	124
4.2.1 システム修復ディスクの作成（Windows 2000 Server の場合）	124
4.2.2 システム修復ディスクの作成（Windows NT Server 4.0 の場合）	125

4.3 保守ツールの作成	126
4.3.1 ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクの作成	126
4.3.2 Global Array Manager ／ Storage Manager の作成方法	128
4.3.3 ハードウェア構成ツールの作成方法	129
4.4 サーバ運用前の留意事項	132
4.4.1 Windows Update (システムを最新にする)	132
4.4.2 手動で OS のインストールまたは開封を行った場合	132
4.4.3 Service Pack の適用	134
4.4.4 Windows 2000 インストール後に存在するその他のデバイスについて	134
4.4.5 不要なファイルについて	135
4.4.6 CD-ROM からの自動実行機能について	135
4.4.7 OS インストールタイプをお使いの方へ	136
4.4.8 バックアップについて	137

第 5 章 高信頼ツール

5.1 RAS 支援サービス	140
5.1.1 RAS 支援サービスのインストール方法	140
5.1.2 RAS 支援サービスの使用方法	141
5.1.3 部品寿命情報	141
5.1.4 障害の通知方法の設定	144
5.2 サーバ監視ツール [ServerView]	146
5.2.1 異常発生の通知	146
5.2.2 ハードウェアの監視	147
5.2.3 ハードウェアの状態の表示	148
5.2.4 集中管理／遠隔操作／サーバダウン時の通知	150
5.2.5 ServerView のインストール	151
5.2.6 インストール後のサーバの設定について	151
5.2.7 オプション装置を追加監視する	152
5.3 テープ装置のメンテナンス [Tape Maintenance Checker]	153
5.4 クライアントからのサーバの電源制御	
[Power MANagement for Windows]	154
5.5 システム環境の診断機能 [FM Advisor]	155
5.5.1 診断方法	155
5.5.2 定義ファイルの入手方法	156
5.6 トラブル原因の早期発見 [PROBEPRO]	
－サーバ環境の更新履歴の確認	157
5.6.1 インストール方法	157
5.6.2 動作環境を定義する	158
5.6.3 初回インストール時の初期設定について	159
5.6.4 アンインストール方法	159
5.6.5 シンボルファイルの準備	159
5.7 トラブル原因の早期発見 [DSNAP] －サーバ環境情報の一括取得	161

5.8 サーバの遠隔操作	
[SystemWalker® / LiveHelp® Client V5.2]	162
5.8.1 インストール方法	162
5.8.2 操作概要	162
5.8.3 その他の機能	164
5.9 サーバ同士の時刻合わせツール [Chronoworker/S]	166
5.9.1 インストール方法	166
5.9.2 運用の手順	166
5.9.3 起動と終了の方法	167
5.9.4 アンインストール方法	168
第 6 章 クライアントのインストール	
6.1 クライアントのセットアップ	170
6.1.1 クライアントへのインストールとセットアップ操作の流れ	170
6.1.2 WizardConsole の各機能	171
6.1.3 各 OS 環境における利用可能な機能	172
6.1.4 WizardConsole を利用するための準備	173
6.2 クライアントコンピュータの追加／変更	175
6.2.1 コンピュータの変更、追加	176
6.2.2 コンピュータ情報の取得	177
6.2.3 コンピュータの一括導入	178
6.2.4 コンピュータの削除	178
6.3 ユーザ、グループ、共有資源の追加／変更	179
6.3.1 ユーザの追加／変更	180
6.3.2 グループの追加／変更	180
6.3.3 共有資源フォルダの追加／変更	181
6.3.4 ユーザ、グループ、共有資源の関連付け	182
6.4 リモート OS セットアップ	186
6.4.1 リモート OS セットアップを起動する	186
6.4.2 OS セットアップ情報を設定する (Windows 2000 Professional の場合)	187
6.4.3 OS セットアップ情報を設定する (Windows NT Workstation 4.0 の場合)	189
6.4.4 OS セットアップ情報の登録名を変更する	189
6.4.5 OS セットアップ情報を確認／変更する	190
6.4.6 CD-ROM イメージを削除する	190
6.5 クライアントセットアップ	191
6.5.1 クライアントセットアップを起動する	192
6.5.2 セットアップ情報（アプリケーション）を追加する	194
6.5.3 セットアップ情報（ファイル）を追加する	197
6.5.4 セットアップ情報（実行コマンド）を追加する	197
6.5.5 セットアップ情報の内容確認／設定変更	198
6.5.6 セットアップ資源をサーバへ登録する	198
6.5.7 セットアップ資源の登録解除	199

6.6 クライアントのデスクトップ環境を設定する	201
6.6.1 「デスクトップ環境設定」画面での操作	203
6.6.2 デスクトップ環境の設定	204
6.7 クライアントブート設定	206
6.7.1 クライアントブート設定を起動する	207
6.7.2 OS セットアップ用	208
6.7.3 ClientWizard 用フロッピーディスクの作成	211
6.7.4 クライアントのインストール方法、起動方法の変更	211
6.8 クライアントへのインストール	212
6.8.1 クライアントに OS がインストールされていない場合	212
6.8.2 クライアントに OS がインストールされている場合	213
6.8.3 セットアップ資源がクライアントへインストールされるタイミング ..	216
6.9 変更した情報の登録	218
6.10 WizardConsole 使用時の留意事項	219
6.10.1 トラブルシューティング	219
6.10.2 バックアップドメインコントローラ (BDC) に関する 留意事項 (Windows NT Server 4.0 の場合)	221
6.10.3 クライアントコンピュータの追加／変更時の留意事項	222
6.10.4 クライアントセットアップに関する留意事項	222
6.10.5 CSV ファイルフォーマットについて	224
6.11 WizardMenu によるデスクトップメニューの作成	226
6.11.1 動作環境	227
6.11.2 WizardMenu を作成する	227
6.12 WizardConsole のアンインストール	230

第 7 章 ハードウェア増設時の操作

7.1 ドライバの作成方法	234
7.1.1 ドライバの作成方法	234
7.2 ドライバのインストール	238
7.2.1 LAN ドライバのインストール (Windows 2000 Server)	238
7.2.2 LAN ドライバのインストール (Windows NT Server 4.0)	239
7.2.3 最新のドライバについて	240

付録

A トラブルシューティング	242
A.1 インストール先区画サイズについて	242
A.2 RAID を構築するときの留意事項	243
A.3 複数 LAN アダプタ搭載時の留意事項	245
A.4 LAN ドライバの詳細設定について	246
A.5 Windows 2000 セットアップ中に自動ログオンされない場合	249
A.6 Active Directory 構築中に入力画面で停止した場合	249
A.7 インストール時に表示されるエラーメッセージについて	249
A.8 Windows NT でのドライブ文字の割り当てについて	250

A.9 スーパーフロッピー形式の光磁気ディスクの使用方法	251
A.10 Windows 2000 インストール後に発生する イベントログのエラーについて	252
A.11 メモリダンプが取得できない場合	253
A.12 カスタムメイドにおけるプレインストールタイプについて	254
A.13 システムの修復について	254
A.14 プリンタのセットアップについて	256
A.15 ServerStart のアンインストール	256
B ネットワークパターン別設定方法	257
B.1 ServerStart で構築できるネットワークパターン	257
B.2 Windows NT 4.0 ドメインの構成	260
B.3 Active Directory の構成（新しいフォレスト）	261
B.4 Active Directory の構成（新しいツリー）	264
B.5 Active Directory の構成（追加ドメインコントローラ）	269
B.6 Active Directory の構成（子ドメイン）	272
B.7 ドメインメンバーサーバの構成	276
B.8 スタンドアロンサーバの構成	278
C IDE RAID 管理ツールについて	281
C.1 FastCheck Monitoring Utility	281
C.2 アレイの一貫性チェック（Synchronize）	287
C.3 FastTrak Service	288
D デザインシート	289
RAID ウィザード	289
ディスクウィザード	290
OS ウィザード（Windows NT 4.0 インストールウィザード）	291
OS ウィザード（Windows 2000 インストールウィザード）	295
アプリケーションウィザード	299
サーバアプリケーションセットアップウィザード	299
クライアント括導入ウィザード（クライアントシステム設計）	300
クライアント括導入ウィザード（クライアントセットアップ）	302
クライアント括導入ウィザード（デスクトップ設計）	304

第1章

概要

この章では、サーバのセットアップと運用の概要について説明しています。

1.1 サーバセットアップの流れ	12
1.2 ServerStart の特長	13
1.3 高信頼ツールについて	17

1.1 サーバセットアップの流れ

本体の設置が完了したら、サーバにOSのインストールとセットアップを行います。以下の流れでセットアップを行ってください。

インストール方法の選択

「2.1 インストール方法の選択」(→P. 22)を参照して、どの方法でインストールを行うかを決めます。また、あらかじめ運用するネットワークパターンも決めておきます。「B ネットワークパターン別 設定方法」(→P. 257)を参照してください。

本サーバには、OSのインストール/セットアップから、高信頼ツールのインストールまで、一括して自動インストールが行えるServerStartが添付されています。ServerStartを使用してインストールを行うことを推奨しています。

インストール前の注意事項確認

OSインストールを行う前に、「2.3 ServerStartを起動する前に」(→P. 25)または「2.4 OSを手動インストールする前に」(→P. 31)を参照して、注意事項を確認しておきます。

OSのインストール/セットアップ

「第3章 サーバのインストール」(→P. 37)のそれぞれのインストール方法を参照して、サーバにOSのインストールおよびセットアップを行います。

インストール後の操作

サーバ運用の前に、「第4章 OSインストール後の操作」(→P. 115)を参照して、インストール後の操作を行います。

高信頼ツールのインストール

手動でOSをインストールした場合など、高信頼ツールをインストールします。ServerStartで一括インストールした場合も、ServerViewおよびPROBEPROは、サーバ運用前に設定が必要です。「第5章 高信頼ツール」(→P. 139)を参照してください。

サーバの運用

クライアントのセットアップ

クライアントコンピュータをセットアップする場合は、「第6章 クライアントのインストール」(→P. 169)を参照してください。サーバ運用を開始後セットアップ作業が行えます。

1.2 ServerStart の特長

ServerStart は、PRIMERGY の初期導入を支援する、簡易セットアップツールです。ServerStart は、導入作業の簡素化、推奨ドライバの確実なインストールを実現します。

ServerStart の導入

使用しない

- 複雑なハード設定 (RAIDの設定など)
- ユーザ定義、アクセス権、ネットワークの設定
- 導入時、逐次入力が必要でミスがおきやすく時間がかかる

例) IPアドレスの設定、ユーザ作成、コンピュータ名の登録等の作業が必要

使用する

- RAIDの自動構成が可能
- 推奨ドライバ (SCSIやLAN等) の自動インストールにより、信頼性の高いインストールを実現
- 高信頼ツールの自動インストールが可能 ※2

例) OSインストール時の作業等を自動化 ※1

※1 一部の入力 (使用許諾等) と媒体の入れ替えを除く

※2 高信頼ツールは、サーバの管理において、システムの安定稼動のために総合力を発揮するソフトウェアです

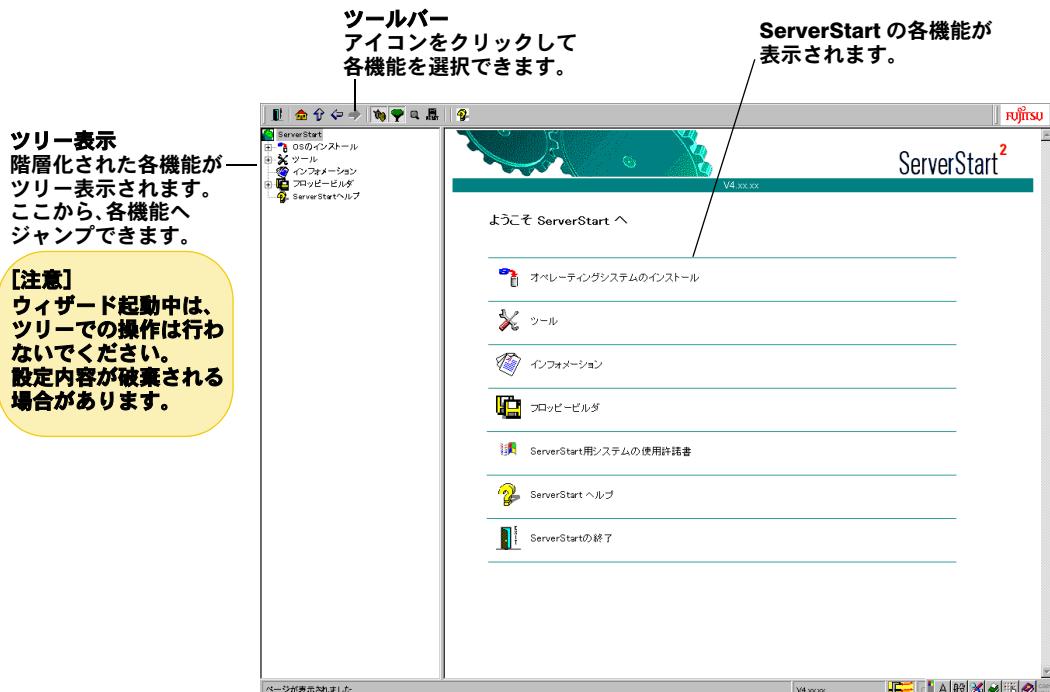
■ わかりやすいユーザインターフェース

わかりやすいユーザインターフェースにより、必要な情報を簡単に設定できます。

● メイン画面

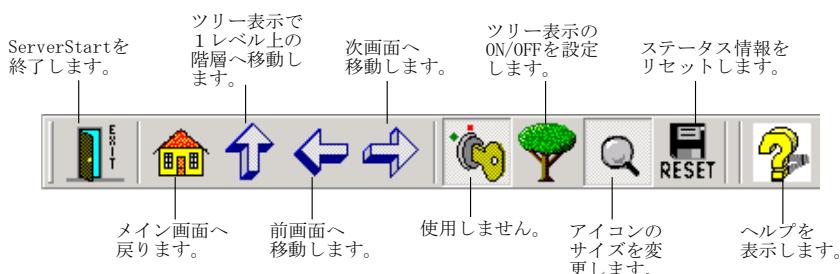
ServerStart を起動すると、次の画面が表示されます。

画面およびツールバーは、各モードにより異なります。



● ツールバー

- ガイドモード／エキスパートモードの場合



● ウィザード画面

各ウィザードをクリックすると、ウィザード画面が表示されます。

ウィザード画面で、各項目を設定していきます。ウィザード画面では、画面下の **?** をクリックすると、項目設定のヒントとなる説明が表示されます。



ここで **?** をクリックすると、項目の説明が表示されます。

■ ネットワークの構築ができます

ServerStart では、サーバの導入時に Windows NT Server 4.0 および Windows 2000 Server のワーカグループ、ドメイン等のネットワークモデルでネットワークを構築できます。サーバをプライマリドメインコントローラとしてネットワークを構築する場合、WizardConsole を利用し、クライアントのセットアップおよびアプリケーションのセットアップを簡単に行うことができます。

WizardConsole には、主に以下の機能があります。

- ・コンピュータの追加 / 変更
- ・リモート OS セットアップ
- ・クライアントセットアップ
- ・クライアントブート設定
- ・コンフィグレーションファイルの作成
- ・設定したアカウント（グループ / ユーザ / 共有資源）の一覧表示

WizardConsole の操作など、詳細は「第 6 章 クライアントのインストール」(→ P.169) を参照してください。構築できるネットワークパターンについて、詳細は「B ネットワークパターン別 設定方法」(→ P.257) を参照してください。

■ ドライバの自動インストール

自動認識したオプションカードなどに対して、インストール時に推奨ドライバを組み込みます。これにより、誤って古いバージョンのドライバを組み込んだり、サーバ添付以外のドライバを組み込むというようなドライバの入れ間違いを防止し、潜在的なインストールのミスを防ぎます。

■ RAID の自動構成

アレイコントローラカードを使用する場合は、事前に RAID の種類と使用するディスクの本数を指定し、RAID のユーティリティを起動せずにディスクアレイを構成できます。

■ OS インストールモデルの開封

開封とは、OS インストールモデルのプロダクトキーの入力やネットワークの設定を行い、インストールを完了させることです。開封に必要な情報をあらかじめ設定できるので、開封時に設定内容を確認しなくても、すでに設定した内容に従ってスムーズに開封できます。

1.3 高信頼ツールについて

高信頼ツールは、サーバの運用において、システムの安定稼動のために総合力を発揮するソフトウェア群です。通常運用時からトラブル発生時の復旧までを次の各ツールが役割を分担します。

- ・ サーバ監視ツール
- ・ 運用管理支援ツール
- ・ システム診断支援ツール
- ・ 遠隔保守支援ツール

1.3.1 サーバ監視ツール

サーバ監視ツールとは、管理者に代わってハードウェアの状態を監視し、異常発生時には管理者に通知を行うツールのことです。次の3つの役割があります。

役割	サーバ監視ツール	対象 OS
サーバ異常の早期発見	ServerView	Windows／Linux
ディスク異常の早期発見	RAID 管理ツール	Windows
定期交換部品の状況監視	RAS 支援サービス	

■ サーバ異常の早期発見 [ServerView]

ServerView は、サーバの大切な資源を保護するために、サーバのハードウェアが正常な状態にあるかどうかを監視するソフトウェアです。ServerView を使用すると、サーバのハードウェアが常時監視下に置かれ、万一トラブルの原因となり得る異常が検出された場合には、管理者にリアルタイムに通知されます。これにより、サーバの管理者は早期に対応してシステムの異常を取り除き、トラブルを未然に防ぐことができます。

■ ディスク異常の早期発見 [RAID 管理ツール]

RAID 管理ツールは、ディスクアレイの監視を行うソフトウェアです。RAID 管理ツールは Windows NT/Windows 2000 システムのサービスとして動作し、イベントが発生した場合、イベントビューアのアプリケーションログにイベントログを残し、同時にウィンドウがポップアップしてハードディスクの故障、リビルト状況などを表示して知らせます。

■ 定期交換部品の状況監視 [RAS 支援サービス]

RAS (Reliability, Availability, Serviceability) 支援サービスは、サーバの定期交換部品である電源／ファン／SCSI アレイコントローラカード上のバッテリ／UPS のバッテリの状況を監視し、定期交換部品の交換時期になったときに通知する機能を持ったソフトウェアです。

1.3.2 運用管理支援ツール

運用管理支援ツールとは、サーバの運用が常にうまく行われるようにするための装置の管理を支援するツールのことです。次の3つの役割があります。

役割	運用管理支援ツール	対象 OS
テープ装置の管理	Tape Maintenance Checker	Windows
効率的な電源制御	Power MANagement for Windows	
サーバ同士の時刻合わせ	Chronoworker/S	

■ テープ装置の管理 [Tape Maintenance Checker]

テープ装置のクリーニング間隔を監視し、クリーニングが必要な場合に管理者へ通知することにより、確実なバックアップを実現します。

■ 効率的な電源制御 [Power MANagement for Windows]

コンソール側のソフトウェア（電源制御）から Wakeup On LAN 対応機のエージェントの電源を投入および切断（自動シャットダウン）します。

■ サーバ同士の時刻合わせ [Chronoworker/S]

サーバとサーバ間、サーバとクライアント間の時刻合わせが行えます。

1.3.3 システム診断支援ツール

システム診断支援ツールとは、通常の運用時や万一のトラブル発生時などのシステム状態の診断を支援するツールのことです。次の2つの役割があります。

役割	システム診断支援ツール	対象 OS
システムの健康診断	FM Advisor	Windows
トラブル原因の早期発見	PROBEPRO、DSNAP	

■ システムの健康診断 [FM Advisor]

FM Advisor は、お使いのコンピュータの動作環境を調査し、アドバイスするべき情報がないかをチェックするアプリケーションです。また、サーバの動作環境取得ツールとしてもお使いいただくことができ、これらの情報をを利用して、問題の解決に役立てることができます。

■ トラブル原因の早期発見 [PROBEPRO / DSNAP]

● PROBEPRO

PROBEPRO は、お客様の Windows NT/Windows 2000 システムでトラブルが発生した際に、弊社サポート技術者がトラブル発生前後のシステム環境の変更点や特異点を客観的に特定し、トラブル解決をより迅速に行うことの目的としたトラブル解決支援プログラムです。

PROBEPRO は、Windows NT/Windows 2000 システムのトラブル発生に備えて、システム稼動中にシステム情報(モジュール情報、レジストリ情報、パフォーマンス情報)を収集します。収集したパフォーマンス情報から、システム全体やプログラム単位のメモリ使用量をグラフ作成することができます。

● DSNAP

DSNAP は、障害調査用資料を一括して採取するコマンドラインユーティリティです。システムファイルの構成情報や主要なレジストリの設定、イベントログをコマンドライン操作で容易に採取できます。

DSNAP は、お客様の Windows NT/Windows 2000 システムに問題が発生した際に、弊社サポート技術者がお客様のシステム・ソフトウェア構成および設定状況を正確に把握し、調査を円滑に進めるために使用します。メモリダンプと共に弊社サポート技術者にお渡しください。

1.3.4 遠隔保守支援ツール

遠隔保守支援ツールとは、遠隔地からのサーバの保守を支援するツールのことです。次の2つの役割があります。

役割	遠隔保守支援ツール	対象 OS
サーバの遠隔操作	SystemWalker / LiveHelp® Client V5.2	Windows
サポートサービス	REMCS エージェント	

■ サーバの遠隔操作 [SystemWalker/LiveHelp® Client V5.2]

SystemWalker／LiveHelp® Client V5.2（以下 LiveHelp Client と略します）は、離れた場所に設置されたサーバをリモート操作するためのソフトウェアです。LiveHelp Client を使うことにより、サーバの管理者は自席に居ながら、離れた場所に設置されたサーバを自由に操作できます。

■ サポートサービス「REMCS エージェント」

弊社サポートセンターとの連携サービス（リモート保守サービス）をご利用になる際に使用するソフトウェアです。

REMCS エージェントを使用するには、動作環境として「ServerView」が必要です。

1.3.5 高信頼ツールの導入について

PRIMERGY に添付の高信頼ツールは、ServerStart を使用した場合、OS インストール時に「アプリケーションウィザード」で一括してインストールできます。

一括インストールされる高信頼ツールは、以下のとおりです。

高信頼ツール	一括インストール
RAS 支援サービス	○
RAID 管理ツール	○ *1
FM Advisor	△
ServerView	△
DSNAP	△
SystemWalker/LiveHelp® Client V5.2	△
PROBEPRO	△
Tape Maintenance Checker	×
Power MANagement for Windows	×
Chronoworker/S	×
REMCS エージェント	×

○：必ずインストールされます。

△：インストールする場合、選択が必要です。

×：手動インストールしてください。

*1 : RAID コントローラが搭載されていない場合はインストールされません。

※ Linux では、ServerStart を用いた一括インストールをサポートしていません。

重要

▶ 高信頼ツールを ServerStart で一括インストールした場合

ServerView および PROBEPRO については、インストール後、設定作業が必要です。「第5章 高信頼ツール」(→ P.139) を参照してください。

ServerStart で OS インストール時にインストールしなかった場合や、手動で OS をインストールした場合などは、各ツールの標準のインストーラによりインストールしてください。

標準のインストーラを使用したインストール方法については、「第5章 高信頼ツール」(→ P.139) を参照してください。

■ ServerView のインストールについて

ServerView を ServerStart の一括インストールでインストールした場合、インストールされるのは ServerView Basic です。ServerView Full をインストールしたい場合は、ServerStart でインストールせずに、手動でインストールを行ってください。また、管理端末で集中管理を行う場合は、ServerView Console をインストールする必要があります。

「5.2 サーバ監視ツール [ServerView]」(→ P.146) を参照し、あらかじめどのように運用するかを確認してください。

ServerView Full のインストール、ServerView Console のインストールについては、『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。

第 2 章

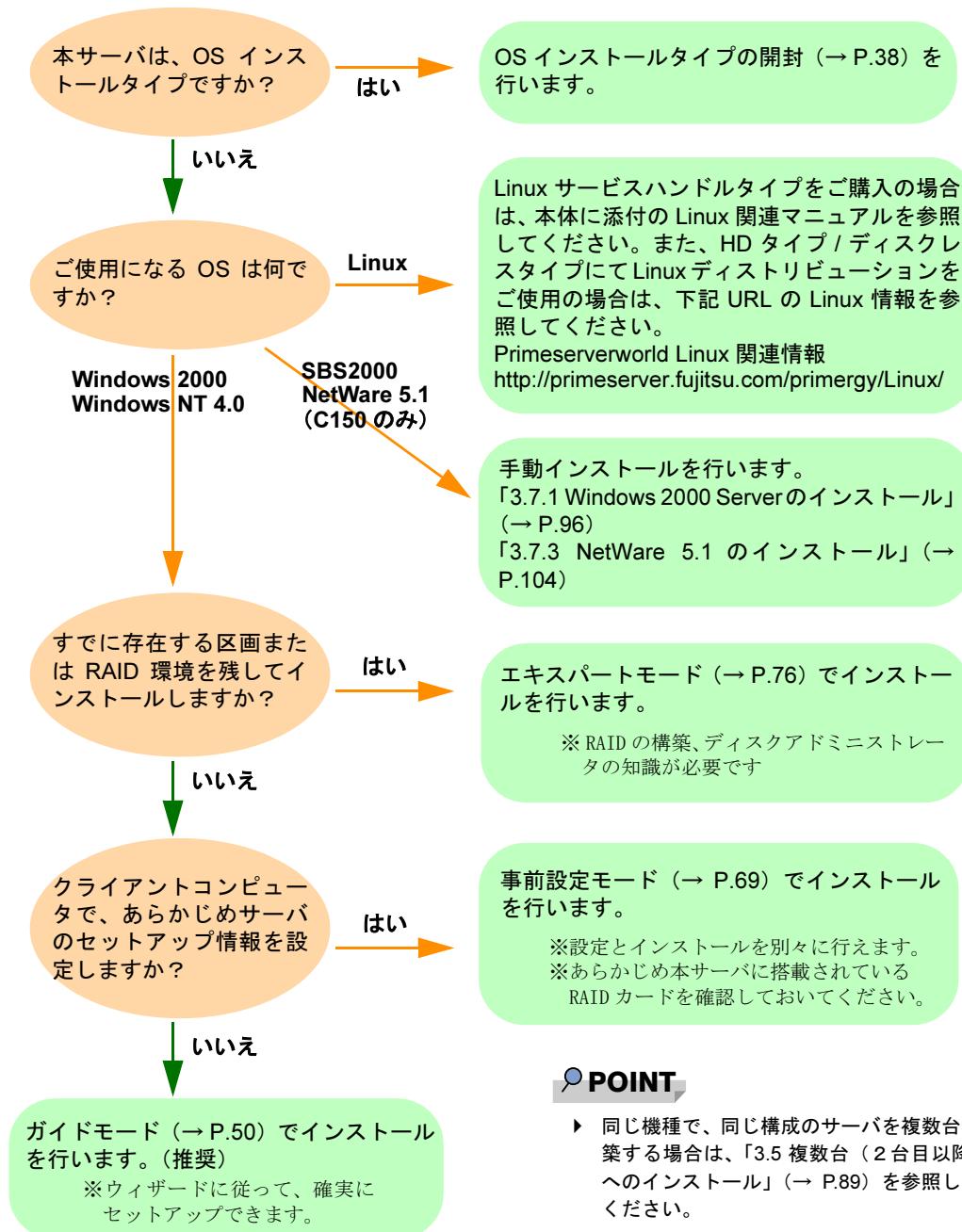
OS インストールの前に

この章では、OS インストールを行う前の注意事項について説明しています。インストールを行う前に、必ずお読みください。

2.1 インストール方法の選択	22
2.2 システム要件	23
2.3 ServerStart を起動する前に	25
2.4 OS を手動インストールする前に	31

2.1 インストール方法の選択

初めて OS をインストールする場合、インストール方法には、いくつかの方法があります。以下を参考に、どの方法でインストールを行うか決定してください。
再インストールの場合は、「3.6 再インストール」(→ P.93) を参照してください。



POINT

- 同じ機種で、同じ構成のサーバを複数台構築する場合は、「3.5 複数台（2台目以降）へのインストール」(→ P.89) を参照してください。

2.2 システム要件

操作を始める前に、あらかじめ以下の CD-ROM、またはフロッピーディスクをお手元にご用意ください。

■ 事前設定モードを使用するとき

ハードウェア	<input type="checkbox"/> 当社 FMV シリーズなど Windows 95/98/Me、Windows NT Workstation 4.0、 Windows 2000 Professional が動作するパーソナルコンピュータ本体 (CD-ROM ドライブ必須、10MB 以上の空き容量が必要)
ソフトウェア	<input type="checkbox"/> Microsoft® Internet Explorer 5.01 以上

■ サーバをセットアップするとき

ハードウェア	<input type="checkbox"/> お買い上げいただいた PRIMERGY 本体 複数の LAN カードを搭載した場合、WizardConsole は利用できません。
ソフトウェア	<input type="checkbox"/> 使用する OS (Windows NT、Windows 2000 Server) の CD-ROM <input type="checkbox"/> ServerStart の CD-ROM 同じモデルを複数台導入するとき、異なる版数の CD-ROM がある場合は、最新のものを使用してください。 <input type="checkbox"/> コンフィグレーションファイル登録用のフロッピーディスク (本製品に添付の「ServerStart フロッピーディスク」を用意してください。) <input type="checkbox"/> 修復ディスクを作成するための未使用的フロッピーディスク…1枚 <input type="checkbox"/> Service Pack の CD-ROM Windows NT / Windows 2000 で ServerStart の CD-ROM に入っている Service Pack を使用する場合は不要です。 <input type="checkbox"/> アプリケーションのインストール用 CD-ROM サーバアプリケーションをインストールする場合に必要です。 (BrightStor ARCserve 2000、ARCserve 2000 など) <input type="checkbox"/> オプションカードに添付されているドライバのフロッピーディスクなど <input type="checkbox"/> PRIMERGY ドキュメント & ツール CD

■ クライアントをセットアップするとき

ハードウェア	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 当社 FMV シリーズなど Windows 95/98/Me、Windows NT Workstation 4.0、Windows 2000 Professional、Windows XP が動作するパーソナルコンピュータ本体（LAN カード搭載）<input type="checkbox"/> ハブユニット、ルータ<input type="checkbox"/> LAN ケーブル（必要本数分）<ul style="list-style-type: none">・ サーバのインストール後は、LAN などのご使用になる接続形態に合わせてクライアントコンピュータを接続してください。・ 複数の LAN カードを搭載した場合、リモート OS セットアップおよびクライアントセットアップは利用できません。
ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> クライアントセットアップファイル登録用のフロッピーディスク（未使用のフロッピーディスク … 必要枚数） →「クライアントブート設定」で使用します。<input type="checkbox"/> クライアントにインストールする OS の CD-ROM（クライアントに OS をインストールする場合）<input type="checkbox"/> Microsoft® Internet Explorer 3.02 以上（デスクトップ設計で Web メニューを使用する場合）

2.3 ServerStart を起動する前に

ServerStart を使用して OS をインストールする前に、以下の事項をよくお読みください。

2.3.1 サーバ導入前の準備

2

OSインストールの前に

■ 内蔵オプション取り付け時の注意

ServerStart を使用して OS をインストールするとき、内蔵オプションや周辺機器を使用する場合は、以下の点に注意してください。これらの注意を守っていただかなければ、正常にインストールが行われません。

- ・『ハードウェアガイド 第4章 内蔵オプションの取り付け』を参照し、正しいスロットにオプションカードを取り付けてください。
- ・OS のインストール先となるハードディスク以外は接続しないでください。
- ・SCSI オプション装置（ハードディスクキャビネット、光磁気ディスクユニットなど）を増設する場合は、OS のインストールおよびセットアップが終了してから電源を切断して接続を行ってください。

■ BIOS セットアップユーティリティ

ServerStart は、ハードウェアセットアップ（BIOS、SSU ユーティリティ等）には対応していません。『ハードウェアガイド』を参照し、BIOS セットアップユーティリティや SSU 等により、ご使用の環境に合わせた設定を行ってください。

■ SCSI コンフィグレーションユーティリティ

SCSI コンフィグレーションユーティリティの設定、および確認を行ってください。

なお、オプションの SCSI カードを搭載して、外部 SCSI オプション装置（ハードディスクキャビネット、光磁気ディスクユニットなど）を増設する場合は、OS のセットアップが終了してから電源を切断し、接続を行ってください。

操作方法について詳しくは、『ハードウェアガイド 第5章 ハードウェアの設定について』を参照してください。

■ サーバ導入時に搭載するメモリ容量について

Windows NT Server 4.0 の場合、OS インストール時に搭載するメモリ容量は、2GB 以下にしてください。2GB を超えるメモリを搭載する場合は、OS のインストールおよびセットアップ終了後、サーバの電源を切断してメモリの増設を行ってください。

ただし機種によっては、2GB より少ないメモリ容量に制限されている場合があります。『ハードウェアガイド 第7章 技術情報』でご確認ください。

☞ 重要

- ▶ Windows NT Server 4.0 インストール時に、2GB を超えるメモリを搭載した場合は、セットアップ起動時にエラーとなり、セットアップを継続できなくなります。

POINT

- ▶ ServerStart のサポートについて
ServerStart がサポートするオプションカードや、自動インストールするデバイス、アプリケーションについては、「2.3.5 ServerStart でサポートするオプションカード」(→ P.30) を参照してください。

■ RAID 構築について

すでに構築済みの RAID 環境を残してインストールする場合は、エキスパートモードをご利用ください。

SCSI アレイコントローラカードの交換等で、すでに構築済みのディスクを利用する場合は、SCSI アレイコントローラカードを交換する前に、フィジカルパックを削除しておく必要があります。

フィジカルパックを削除する方法は、SCSI アレイコントローラカードによって異なります。サーバ本体、または SCSI アレイコントローラカードに添付されているマニュアルの FastBuild、Storage Manager On ROM (SMOR) または EzAssist の使用方法 (SCSI アレイコントローラカードによって異なります) を参照してください。

ServerStart で RAID 構築する場合、アレイの初期化はバックグラウンド初期化 (BGI) 機能を利用します。初期化が完了しているか確認する場合は、各 SCSI アレイコントローラカードの管理ツールで確認することができます。管理ツールの利用方法は、管理ツール (FastCheck Monitoring Utility、Storage Manager または Global Array Manager) のヘルプ、または SCSI アレイコントローラカードのマニュアルを参照してください。

■ LAN ケーブルについて

LAN カードに LAN ケーブルを接続せずに、OS のインストールやアプリケーションの自動インストールを行った場合、セットアップ後、イベントビューアにエラーが記録される場合があります。セットアップ時には、必ず LAN ケーブルを接続してください。

2.3.2 Service Packについて

ServerStart CD-ROMには、Microsoft® Windows NT® Version 4.0 および Microsoft® Windows ® 2000 Service Packが収められています。Service Packの種類については、CD-ROMのレーベルに記述されているので確認してください。

■ Service Pack の適用

事前設定モードまたはガイドモードの「アプリケーションウィザード」で、「Service Pack」を選択しなかった場合は、Service Packは適用されません。この場合、OSインストール後に適切なService Pack（Option Pack含む）を適用してください。

適用可能なService Packについては、ServerStartを起動し、「インフォメーション」－「ServerStart ソフトウェア情報」を参照してください。

2.3.3 情報ファイルについて

ServerStartでは、コンフィグレーションファイル、クライアントセットアップファイルの2つのファイルを使用します。

■ コンフィグレーションファイル（**SerStartBatch.ini**）

コンフィグレーションファイルには、ServerStartで設定したサーバの情報およびクライアントの情報が登録されます。

サーバ情報ファイルは、1枚のフロッピーディスクに1ファイルのみ登録してください。

※ 重要

- ▶ コンフィグレーションファイルの名前について
コンフィグレーションファイルの名前は、任意の名前を付けることができますが、ガイドモードまたは事前設定モードでインストールする際に使用できる名前は「SerStartBatch.ini」のみです。インストールを実行する場合は、必ずServerStartフロッピーディスクに「SerStartBatch.ini」のファイル名で保存して使用してください。

■ クライアントセットアップファイル（**.CPD**）

クライアントをセットアップするためのファイルです。ServerStartでサーバをインストールしたあとに、WizardConsole機能を使用して作成します。

クライアントセットアップファイルを登録したフロッピーディスクを使うと、クライアントのセットアップが自動的に行えます。また、あらかじめクライアントに配布するアプリケーションなどの資源が登録されている場合は、セットアップ時にアプリケーションなどのインストールも自動的に行われます。

クライアントごとに1つのフロッピーディスクを作成した場合は、クライアントごとにセットアップします。全クライアントを1つのフロッピーディスクに作成した場合は、順番にセットアップを行ってください。

2.3.4 ServerStart 使用時の注意事項

■ ServerStart の操作について

ServerStart の操作は、主にマウスを使用します。Tab キーおよびカーソルキーで項目の移動などが行えない場合があります。ServerStart ご利用時には、必ずマウスをご用意ください。

■ CD-ROM の取り出しについて

ServerStart 起動中は、ServerStart CD-ROM を取り出さないでください。ServerStart CD-ROM を取り出し、再度挿入すると、複数の ServerStart が起動し、それまで入力していた設定内容が失われる可能性があります。

■ ServerStart 起動時の画面解像度と色数について

ServerStart CD-ROM からシステムを起動する際、システム搭載メモリが 256MB より少ない場合、ServerStart の解像度は 800 × 600 ドット、16 色表示となります。このため、アイコン表示や、ハイライト表示等が一部見にくくなることがあります。ご了承ください。

■ エキスパートモード／ガイドモード時の IME について

ServerStart CD-ROM からシステムを起動して、エキスパートモードまたはガイドモードを使用する場合、日本語を入力することができます。この時、画面右下に IME ツールバーが表示されますが、この IME ツールバーを「タスクバーにドッキング」しないでください。一度 IME ツールバーをタスクバーにドッキングすると、ServerStart 実行中、IME ツールバーが表示されなくなります。

■ モードの移動について

コンフィグレーションファイルを開いて、ウィザードでインストール項目を入力している際に、別のモードへ移動しないでください。(例えば、Windows NT 4.0 ガイドモード実行中に Windows 2000 ガイドモードを実行しないでください。)

入力中のモードから別のモードに移動する場合、コンフィグレーションファイルを保存する必要があります。なお、コンフィグレーションファイルを保存せずに [キャンセル] をクリックすると、それまでに入力した内容は破棄されます。

■ インストール中の問題について

Windows NT Server 4.0 のインストール時、GUI セットアップ完了後の再起動でシステムがハングすることがあります。この場合、セットアップは正常に行われているので、一旦電源を切断し、再度電源を入れてセットアップを続行してください。

■ ServerStart の終了について

エキスパートモード／ガイドモード実行後、ServerStart を終了すると、システムが再起動されます。シャットダウン完了後画面の表示が消えたところで電源ボタンを押し、システムの電源を切断してください。

■ ServerStart 用システムの使用許諾書について

ServerStart 起動画面からリンクされている「ServerStart 用システムの使用許諾書」は、ServerStart CD-ROM 内に含まれている Windows NT に関する使用許諾書です。ServerStart 起動用の Windows NT は、別途正規にライセンスされた Windows NT または Windows 2000 Server をインストールするためだけに使用可能です。

■ RAID の初期化について

ServerStart で RAID の自動構築を行った場合、RAID の初期化はバックグラウンドで行われます。ディスクを取り外す場合、RAID ユーティリティなどで初期化が完了したかどうかを確認してから作業を行ってください。

■ PRIMERGY 以外のコンピュータでシステムを ServerStart CD-ROM から起動した場合について

ServerStart CD-ROM は、PRIMERGY 以外では起動しません。PRIMERGY 以外で起動した場合は、次のメッセージが表示されます。

この場合、ServerStart CD-ROM をドライブから取り出して再起動してください。

```
Fujitsu siemens BIOS Lock Version 2.0
Please wait ...
Manufacture string is "xxxx"
Product name is "xxxx"
Start of ServerStart rejected !
ServerStart is allowed to run on PRIMERGY systems only !
Remove the CD from it's drive and reboot the computer
```

また、一部のコンピュータでは、次のメッセージを表示したまま停止することがあります。この場合も、ServerStart CD-ROM をドライブから取り出して再起動してください。

```
Fujitsu siemens BIOS Lock Version 2.0
Please wait ...
```

■ システム管理ポート用 IP アドレスの設定について

システム管理ポート用 IP アドレスを設定する場合は、ガイドモードの「システム構成ウィザード」で値を設定し、「アプリケーションウィザード」で「ServerView」をインストールするよう設定してください。

■ FMV-DP849 での ServerStart 起動時の画面解像度と色数について

ServerStart CD-ROM からシステムを起動する際、ディスプレイに FMV-DP849 を接続した場合、ServerStart の解像度は 640 × 480 ドット、16 色表示となります。このため、アイコン表示やハイライト表示などが一部見にくくなることがあります。ご了承ください。

2.3.5 ServerStart でサポートするオプションカード

ServerStart がサポートするオプションカードは、PRIMERGY がサポートするものの中で、PCI に対応したものです。カードの搭載枚数や搭載位置については、『ハードウェアガイド 第4章 内蔵オプションの取り付け』を参照してください。

ServerStart でサポートするオプションカードは、以下のとおりです。サポートするカードはサーバの機種により異なりますので、『ハードウェアガイド 第4章 内蔵オプションの取り付け』を参照してください。

■ ドライバ自動インストールに対応するオプションカードとオンボード I/O

名称	型名	バス	ドライバ自動インストール
オンボード FDD/IDE	—	—	○
オンボード IDE RAID		PCI	○
IDE アレイコントローラカード		PCI	○
オンボード LAN	—	PCI	○
オンボード Video	—	PCI	○
LAN カード	PG-1851	PCI	○
	PG-1861	PCI	○
	PG-1871/ 1871L	PCI	○
	PG-188/1881	PCI	○
	PG-189/1891	PCI	○
SCSI カード	PG-128	PCI	○
	PG-129	PCI	○
	PG-130L	PCI	○
SCSI アレイコントローラカード	PG-141B	PCI	○
ファイバチャネルカード	PG-FC102	PCI	○
ISDN 接続 G3/G4 FAX 通信カード	GP5-161	PCI	×
RS-232C カード	GP5-162	PCI	Windows NT Server 4.0 × Windows 2000 Server ○
通信カード ISDN	GP5-165	PCI	×
通信カード V/X	GP5-163	PCI	×
FAX モデムカード	FMV-FX533	PCI	×
リモートサービスボード	PG-RSB101	PCI	×

2.4 OS を手動インストールする前に

ServerStart を使用せず、OS を手動でインストールする場合、事前に以下の事項をよくお読みください。

2.4.1 Windows NT Server 4.0 / Windows 2000 Server 共通注意事項

■ オンボード IDE アレイコントローラカード使用時の注意 (L100 のみ)

● オンボード IDE アレイコントローラの接続確認

Windows 2000 Server または Windows NT Server 4.0 を手動でインストールする場合は、インストールの前にオンボード IDE アレイコントローラ配下にアレイ構成が作成されていることが必要です。ハードディスクユニットを 1 台だけ搭載している場合は、RAID 0 のアレイを構成してください。RAID 1 のアレイを構成する場合は、アレイを構成したあと、必ずハードディスクの初期化を行ってください。

ハードディスクの初期化はバックグラウンド処理で行うこともできます。アレイ構成の作成方法およびハードディスクの初期化については、『ハードウェアガイド 第5章 ハードウェアの設定』を参照してください。

● ハードディスク タイプご使用の場合

ベースボード上のジャンパピン JP2 を「1-2」に設定してください。詳細は『ハードウェアガイド 第5章 ハードウェアの設定』を参照してください。本設定を変更しないと、オンボード IDE アレイコントローラ配下にアレイ構成を作成できません。

■ IDE アレイコントローラカード使用時の注意 (C150 のみ)

● IDE アレイコントローラカードの接続確認

OS をインストールする前に、IDE アレイコントローラカードのコンフィグレーションが終了しており、IDE アレイコントローラカード配下のシステムドライブの初期化が終了している必要があります。

■ SCSI アレイコントローラカード使用時の注意 (C150 のみ)

● SCSI アレイコントローラカードの接続確認

OS をインストールする前に、SCSI アレイコントローラカードのコンフィグレーションが終了しており、SCSI アレイコントローラカード配下のシステムドライブの初期化が終了している必要があります。

● SCSI アレイコントローラカードの設定 (Advanced Functions) 確認

Storage Manager on ROM (SMOR) を起動して確認します。

SCSI アレイコントローラカード配下のシステムドライブの初期化や、SMOR ユーティリティの起動方法および設定の確認方法については、カード添付の取扱説明書を参照してください。

POINT

- ▶ SMOR 起動時に「SMOR Missing」とメッセージが表示され、サーバが起動しない場合があります。この場合は、BIOS セットアップユーティリティを起動し、「Advanced」メニューの「Advanced System Configuration」—「USB Host Controller」を「Disabled」に変更して、再起動してください。SMOR 終了後、上記変更を元に戻してください。

■ BIOS セットアップユーティリティ

『ハードウェアガイド 第5章 ハードウェアの設定について』を参照し、BIOS セットアップユーティリティの設定、および確認を行ってください。

■ SCSI コンフィグレーションユーティリティ

『ハードウェアガイド 第5章 ハードウェアの設定について』を参照し、SCSI コンフィグレーションユーティリティの設定、および確認を行ってください。

■ ブート OS のインストール先

ブート OS は、必ず内蔵ハードディスクユニットにインストールしてください。

■ インストールに必要な容量

OS をインストールする区画サイズには、メモリダンプの取得に必要な空き容量を考慮する必要があります。詳細は、「4.1 メモリダンプ／ページングファイルの設定」(→ P.116) を参照してください。

■ オプションカード搭載時の注意

オプションカードを使用する場合には、各種オプションカードの留意事項を必ず参照してください。

■ 外部 SCSI オプション装置搭載時の注意

SCSI カードまたは SCSI アレイコントローラカードを搭載して、SCSI オプション装置（ハードディスクキャビネット、光磁気ディスクユニット、DAT など）を増設する場合は、OS のインストールが終了してから接続してください。OS のインストールが終了する前に接続すると、ドライブ文字が正しく割り当てられない場合があります。詳細は、「A トラブルシューティング」(→ P.242) を参照してください。

■ 拡張 RAM モジュール搭載時の注意

使用する OS によって搭載可能容量が異なります。また、サーバは、一部のメモリ領域を PCI リソースに使用するため、使用可能容量に制限があります。

以下に拡張 RAM モジュールの搭載可能容量と使用可能容量を示します。

OS	搭載メモリ容量	使用可能メモリ容量
Windows NT Server 4.0 (*1)	~ 3.25GB	搭載メモリ容量と同じ
	3.25 ~ 4.0GB	3.25 ~ 3.9GB (*2)
Windows 2000 Advanced Server	~ 3.25GB	搭載メモリ容量と同じ
	3.25 ~ 4.0GB	3.25 ~ 3.9GB (*2)
	4.0GB ~	搭載メモリ容量 - (0.1 ~ 0.75GB) (*2)

(*1) Windows NT Server 4.0 / Windows 2000 Server は、最大 4GB までサポートします。

(*2) PCI リソースとして 0.1 ~ 0.75GB 使用するので、搭載するカードの種類によって使用可能メモリは変動します。

なお、お使いの機種の最大搭載メモリ容量については、『ハードウェアガイド 第 7 章 技術情報』を参照してください。

■ 再起動時の注意

- インストールの途中で、セットアッププログラムが再起動するようにメッセージが表示されます。
 - Windows NT Server 4.0 の場合
1 分ほど待ってから、再起動してください。
 - Windows 2000 Server の場合
自動的に再起動するのを待ってください。
- SCSI アレイコントローラカードの機能である、バックグラウンド初期化処理中はハードディスクのアクセスランプが点灯していますが、再起動は可能です。バックグラウンド初期化処理については、SCSI アレイコントローラカードに添付の取扱説明書を参照してください。なお、電源は切らないでください。バックグラウンド初期化中に電源を切る必要がある場合は、SCSI アレイコントローラカードに添付の取扱説明書を参照してください。

2.4.2 Windows 2000 Server をインストールする場合

■ CD-ROM ブートの確認

サーバ本体の BIOS 設定で、CD-ROM ブート可能であることを確認してください。

■ SBS 2000 の場合

SBS 2000 をインストールする場合は、4GB 以上の空き容量が必要です。

2.4.3 Windows NT Server 4.0 をインストールする場合

■ メモリ容量について

Windows NT Server 4.0 をインストールする場合のメモリ容量は最大 2GB です。2GB 以上のメモリ容量の場合は、OS のインストールができません。2GB を超えるメモリを増設する場合は、OS をインストールして Service Pack 適用後に増設してください。

■ 複数のハードディスクユニットを接続している場合

本サーバに複数のハードディスクユニットを接続し、Windows NT Server 4.0 をインストールする際に、ハードディスクユニットの容量が正しく表示されず、希望する区画（パーティション）を作成することができない場合があります。

この場合には、本体添付の「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」で DOS プロンプトを起動し、FDISK コマンドを使用して Windows NT Server 4.0 を組み込むハードディスクユニットにあらかじめ 8MB の区画を作成します。その後 Windows NT Server 4.0 のインストールで区画設定を行うときに、作成した区画を削除し、新たに区画を作成し直します。

以下の手順に従って区画を作成してください。

- 1 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」を作成します。**
ServerStart CD-ROM から作成します。詳細は、「4.3 保守ツールの作成」(→ P.126) を参照してください。
- 2 作成したフロッピーディスクをセットします。**
MS-DOS 6.2 Startup Menu が表示されます。
- 3 「4.Basic (Japanese Environment)」を選択し、【Enter】キーを押します。**
DOS プロンプトが表示されたら、以下のコマンドを入力してください。
A:¥>fdisk 【Enter】
- 4 基本 MS-DOS 領域を作成します。**
「1.MS-DOS 領域または、論理 MS-DOS ドライブを作成」を選択して、「1. 基本 MS-DOS 領域を作成」を選択します。以降、画面の指示に従って、8MB の基本 MS-DOS 領域を確保します。
- 5 区画の設定を終えたら、【Esc】キーを押し、FDISK を終了します。**
- 6 Windows NT Server 4.0 のインストールを行います。**

■ インストール時の注意

インストール時には、最初から CD-ROM をセットせずに、インストール画面で CD-ROM を要求された後にセットしてください。

2.4.4 NetWare 5.1 をインストールする場合

■ 光磁気ディスクユニットの搭載について

光磁気ディスクユニットを搭載する場合は、NetWare 5.1 をインストールしてから搭載してください。光磁気ディスクユニットを搭載した状態で NetWare 5.1 をインストールすると、正常にインストールできない場合があります。

第3章

サーバのインストール

この章では、サーバに OS をインストールする方法について説明しています。

3.1	OS インストールタイプの開封	38
3.2	ガイドモード	50
3.3	事前設定モード	69
3.4	エキスパートモード	76
3.5	複数台（2 台目以降）へのインストール	89
3.6	再インストール	93
3.7	OS の手動インストール（C150 の場合）	96
3.8	OS の手動インストール（L100 の場合）	107

3.1 OS インストールタイプの開封

OS インストールタイプの場合は、開封作業が必要です。開封作業は、ServerStart を使用して行います。CD-ROM ドライブが搭載されていないモデルをご使用の場合などは、「3.1.2 ServerStart を使用せずに開封する（Windows 2000 Server の場合）」（→ P.41）または「3.1.3 ServerStart を使用せずに開封する（Windows NT Server 4.0 の場合）」（→ P.42）を参照して開封作業を行ってください。

3.1.1 ServerStart を使用して開封する

開封するサーバに ServerStart CD-ROM をセットして開封します。ハードウェア構成を変更する場合は、開封作業完了後に行ってください。

POINT

- ▶ あらかじめ事前設定モードで各種設定を行い、コンフィグレーションファイルを作成して開封することもできます。この場合は、事前設定モードでのインストールと同様の操作になります。操作方法については、「3.3 事前設定モード」（→ P.69）を参照してください。

1 サーバの電源を入れ、すぐに ServerStart CD-ROM をセットします。

ServerStart が起動し、ServerStart フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。

重要

- ▶ 電源を入れた後、すぐに ServerStart CD-ROM をセットしてください。セットせずにいると、ハードディスクから OS が起動します。この場合は「3.1.2 ServerStart を使用せずに開封する（Windows 2000 Server の場合）」（→ P.41）、または「3.1.3 ServerStart を使用せずに開封する（Windows NT Server 4.0 の場合）」（→ P.42）を参照して開封作業を行ってください。

2 添付の ServerStart フロッピーディスクをセットして、[作成] をクリックします。

OS プレインストールタイプの開封を行うか、新規インストールを行うかのメッセージが表示されます。

3 [OK] をクリックします。

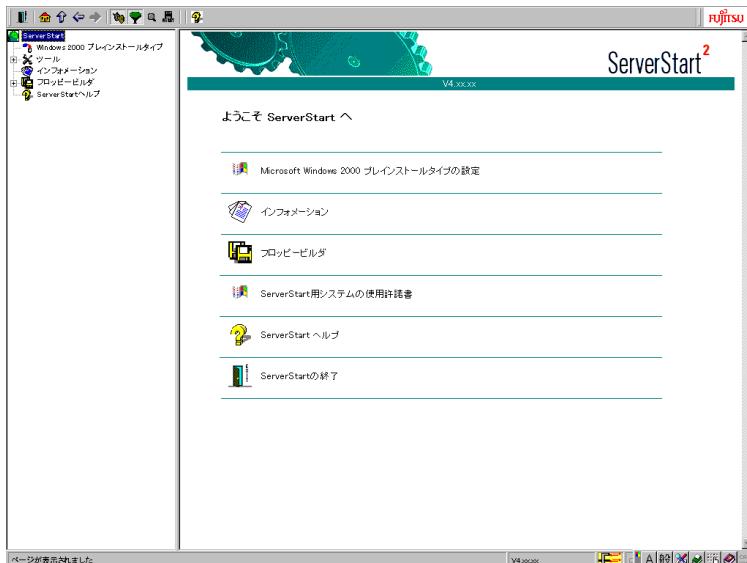
「ServerStart フロッピーディスクの作成」画面が表示されます。



4 [ServerStart フロッピーディスクを作成する] をクリックします。
「フロッピーの内容を消去します。よろしいですか?」というメッセージが表示されます。

5 [はい] をクリックします。
ServerStart フロッピーディスクの作成が開始されます。作成が完了すると、メッセージが表示されます。

6 [OK] をクリックします。
「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。



7 [(OS) プレインストールタイプの設定] をクリックします。
Windows NT 4.0 の場合→ [Microsoft Windows NT 4.0 プレインストールタイプの設定]
Windows 2000 の場合→ [Microsoft Windows 2000 プレインストールタイプの設定]
プレインストールモードが起動します。

(Windows 2000 の場合)



8 [(OS) インストールウィザード]、[アプリケーションウィザード] を起動し、
ウィザードに従って OS インストールタイプの開封情報を入力します。
「3.2.5 OS インストールウィザード」(→ P.56)、「3.2.6 アプリケーションウィザード」(→ P.61) を参照して設定を行ってください。

⚠️ 重要

- ▶ ウィザード起動中は、ツリーの操作を行わないでください。設定内容が破棄される場合があります。

9 [(OS) のインストールを開始する] をクリックします。

メンテナンス区画の使用許諾画面が表示されます。

10 [OK] をクリックします。

ライセンス契約の同意画面が表示されます。

11 [同意する] をクリックします。

インストールが開始されます。以降、画面の指示に従ってインストールを行ってください。

⚠️ 重要

- ▶ 設定情報によって、途中アプリケーションの CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。指示に従って CD-ROM をセットして [OK] をクリックしてください。
- ▶ インストール中、あらかじめ設定した内容 (CD キーなど) に誤りがあると、エラーが表示されます。正しい値を直接インストール中の画面で入力して処理を続行してください。

12 インストール OS が Windows NT Server 4.0 の場合は、以下の操作を行います。

1. パスワード設定の画面が表示されます。管理者用パスワードを半角 14 文字以内で入力し、[OK] をクリックします。
パスワードは必ず設定してください。ただし、Windows NT Server 4.0 をバックアップドメインコントローラとしてインストールした場合は、パスワード設定画面は表示されません。
2. 「修復ディスクユーティリティ」画面が表示されます。
修復ディスクの作成には、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクが 1 枚必要です。
3. フロッピーディスクをセットして [修復ディスクの作成] をクリックします。
以降、画面の指示に従って操作してください。
4. 修復ディスクの作成が終了すると Internet Explorer のインストールが開始されます。
インストール作業を続行してください。

13 完了メッセージが表示されます。何かキーを押します。

14 すべての処理が終了すると、インストールした OS が起動します。

これで OS インストールタイプの開封は終了です。

サーバの運用を開始する前に、「第4章 OS インストール後の操作」(→ P.115) を参照し、「修復ディスクの作成」、「高信頼ツールのインストール」などをに行ってください。

Windows 2000 インストールタイプの場合、[Windows 2000 インストールウィザード] で [SNMP Service] を選択した場合および [アプリケーションウィザード] で [ServerView] を選択した場合でも、SNMP サービスおよび ServerView はインストールされません。『ServerView ユーザーズガイド 第2章 2 インストール前の準備』を参照してインストールしてください。

3.1.2 ServerStart を使用せずに開封する (Windows 2000 Server の場合)

以下の手順に従って、Windows 2000 Server のセットアップを行ってください。開封時の設定の詳細については『ファーストステップガイド』を参照してください。

1 サーバの電源を入れます。

Windows 2000 Server セットアップが起動します。

[次へ] をクリックして、セットアップを続行します。

2 ソフトウェア使用許諾契約に同意します。

表示された使用許諾契約の内容をよく読んだ上で、[同意します] を選択して [次へ] をクリックします。

3 名前と組織名を入力します。

名前と組織名を入力し、[次へ] をクリックします。組織名は省略できます。

4 プロダクト ID を入力します。

本体側面に貼付の「Certificate of Authenticity」のバーコード上に印刷されている番号（プロダクト ID）を入力し、[次へ] をクリックします。

5 ライセンスモードが表示されます。設定を変更せずに [次へ] をクリックします。

6 コンピュータ名と、Administrator のパスワードを設定します。

コンピュータ名は自動的に作成され表示されますが、変更できます。コンピュータ名と Administrator のパスワードを入力して [次へ] をクリックします。

7 ネットワークの設定を行います。

「カスタム設定」を選択した場合は、「ネットワークコンポーネントの設定」画面が表示されます。設定を行って [次へ] をクリックします。

8 ワークグループ、またはドメイン名の設定を行い、[次へ] をクリックします。

9 セットアップが開始されます。完了画面が表示されたら、[完了] をクリックします。

システムが再起動されます。

これで Windows 2000 Server のセットアップは終了です。

サーバの運用を開始する前に、「第 4 章 OS インストール後の操作」(→ P.115) を参照し、「修復ディスクの作成」、「高信頼ツールのインストール」などを行ってください。

3.1.3 ServerStart を使用せずに開封する (Windows NT Server 4.0 の場合)

以下の手順に従って、Windows NT Server 4.0 のセットアップを行ってください。

■ Windows NT Server 4.0 のセットアップ

開封時の操作の詳細については、『ファーストステップガイド』を参照してください。

重要

- ▶ 開封作業中は、指示がない場合はフロッピーディスクおよび CD-ROM をセットしないでください。
- ▶ ハードウェア構成を変更する場合は、開封作業完了後に行ってください。
- ▶ ネットワークアダプタの組み込み画面で、本体に添付のドライバを手動で組み込む必要があります。オンボード LAN に対応したドライバを「7.1 ドライバの作成方法」(→ P.234) を参照して、事前に作成しておいてください。このときに、ネットワークアダプタの自動検出を行うとシステム異常が発生し、開封できなくなる場合があります。

1 サーバの電源を入れます。

Windows NT Server 4.0 セットアップが自動的に始まります。

2 ソフトウェア使用許諾契約に同意します。

表示された使用許諾契約の内容をよく読んだ上で、[同意します] をクリックします。

3 名前と組織名を入力します。

名前と組織名を入力し、[次へ] をクリックします。組織名は省略できます。

4 プロダクト ID を入力します。

「Microsoft Windows NT Certificate of Authenticity」のバーコード上に印刷されている番号(プロダクト ID)を入力し、[次へ] をクリックします。

5 コンピュータ名を入力します。

コンピュータ名を入力し、[次へ] をクリックします。

6 サーバの種類を選択します。

以下のメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

システム管理者またはコンピュータの製造元によって指定されたセットアップパラメータが、存在しないかまたは無効です。この情報を入力するよう求められます。

必要な情報を入力すると、無人セットアップは続行します。

システム管理者またはコンピュータの製造元に 'adsvservertype' の値が存在しないかまたは無効であることを報告してください。

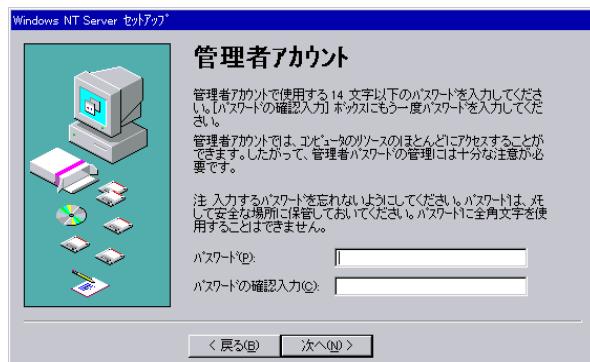
サーバの種類を選択する画面が表示されます。

インストールするサーバの種類を選択し、[次へ] をクリックします。



7 管理者アカウントを入力します。

管理者 (Administrator) のパスワードを入力し、[次へ] をクリックします。



8 Windows NT ネットワークをインストールします。

ネットワークインストールの開始を確認する画面が表示されます。[次へ] をクリックします。

9 ネットワークへの参加方法を選択します。

- 「サーバーの種類」で「プライマリ ドメインコントローラ」または「バックアップ ドメインコントローラ」を選択した場合
- 以下の画面が表示されます。

「ネットワークに接続」を選択し、[次へ] をクリックします。



- 「サーバーの種類」で「スタンドアロンサーバー」を選択した場合
以下の画面が表示されます。

「ネットワークに参加する」をクリックし、「ネットワークに接続」にチェックを付け、[次へ] をクリックします。



10 Microsoft Internet Information Server をインストールします。

Microsoft Internet Information Server をインストールする場合は、「Microsoft Internet Information Server をインストールする」を選択し、[次へ] をクリックします。



11 ネットワークアダプタを組み込みます。

事前に作成したドライバディスクを使用して、LAN ドライバを組み込みます。



重要

- ▶ [検索開始] は絶対にクリックしないでください。[検索開始] をクリックすると、致命的なエラーが発生する場合があります。致命的なエラーが発生した場合は再インストールが必要です。

12 ネットワークプロトコルを組み込みます。

インストールするプロトコルを選択し、[次へ] をクリックします。

Microsoft Internet Information Server をインストールした場合は「TCP/IP」は必須です。



13 ネットワークサービスを選択します。

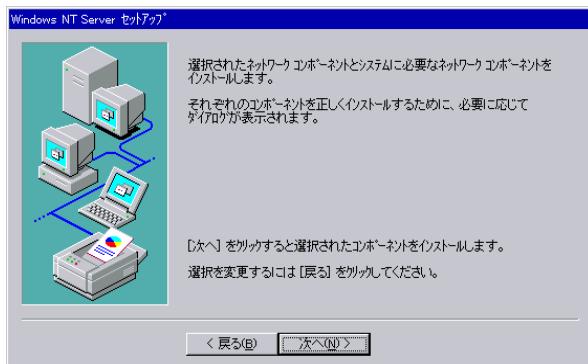
Microsoft Internet Information Server をインストールした場合は、「Microsoft Internet Information Server 2.0」が表示されます。

インストールするプロトコルを選択し、[次へ] をクリックします。



14 ネットワークコンポーネントをインストールします。

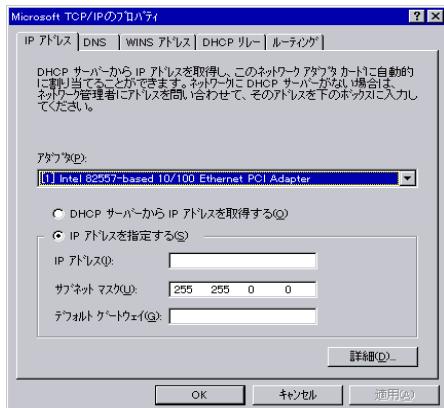
[次へ] をクリックします。



ネットワークプロトコルに「TCP/IP」をインストールした場合は次の画面が表示されます。DHCP サーバを使用する場合は、[はい] をクリックします。



IP アドレス／サブネットマスクなどを設定し、[OK] をクリックします。複数の LAN カードを搭載している場合は、各 LAN カードごとに設定が必要です。



15 ネットワークのバインドを行います。

[次へ] をクリックし、ネットワークのバインドを行います。

**16 ネットワークを起動します。**

[次へ] をクリックし、ネットワークを起動します。

**17 ドメインとサーバを指定します。**

サーバの種類によって、操作が異なります。

●「サーバーの種類」で「プライマリ ドメインコントローラ」を選択した場合

ドメインコントローラが管理するドメイン名を指定します。ここで指定するドメイン名は、ネットワーク上で一意である必要があります。

ドメイン名を指定後、[次へ] をクリックします。



- 「サーバーの種類」で「バックアップ ドメインコントローラ」を選択した場合
ネットワーク上で動作中のプライマリ ドメインコントローラのドメイン名を指定します。

ドメイン名を指定後、[次へ] をクリックします。



- 「サーバーの種類」で「スタンドアロン サーバー」を選択した場合

ドメインに所属するか、ワークグループに所属するかを選択し、ドメイン名かワークグループ名を入力します。ドメイン名は、ネットワーク上に存在するプライマリ ドメインコントローラのドメイン名を入力してください。また、ワークグループ名は、すでに存在するワークグループ名（そのワークグループに所属します）か、ネットワーク上で一意のワークグループ名を入力します。

ドメイン名またはワークグループ名を入力後、[次へ] をクリックします。



18 コンピュータを再起動します。

再起動を促す画面が表示されたら、コンピュータを再起動します。

19 管理者権限でログオンします。

管理者権限でログオンすると、Internet Explorer のセットアップが行われます。

セットアップが終了すると自動的に再起動されます。

20 管理者権限でログオンします。

これで Windows NT Server 4.0 のセットアップは終了です。

サーバの運用を開始する前に、「第4章 OS インストール後の操作」（→ P.115）を参照し、「修復ディスクの作成」、「高信頼ツールのインストール」などを行ってください。

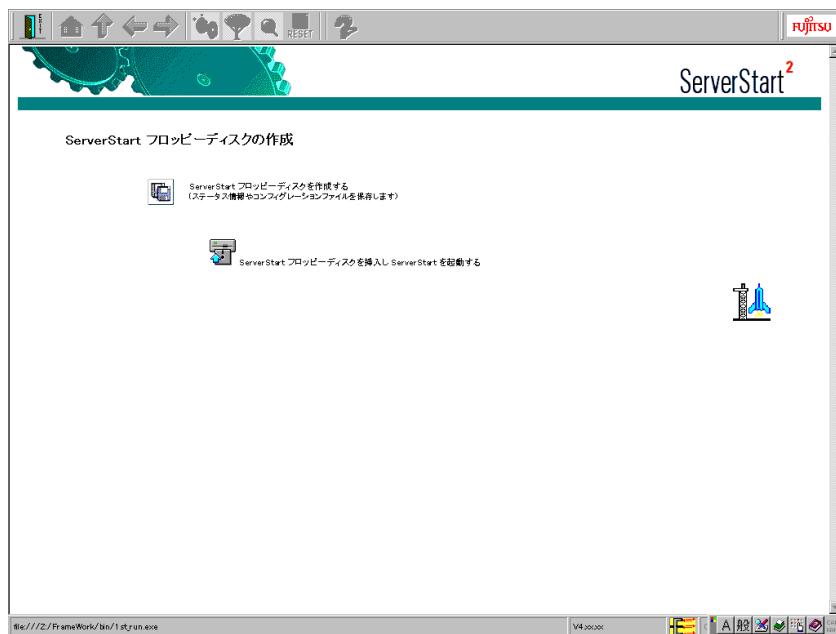
3.2 ガイドモード

ガイドモードでは、ウィザードに従って、ハードウェアの構成やインストールOSの設定等を行い、インストールに必要な情報をコンフィグレーションファイルに保存後、引き続きOSをインストールします。

3.2.1 ガイドモードの起動

ガイドモードを起動します。

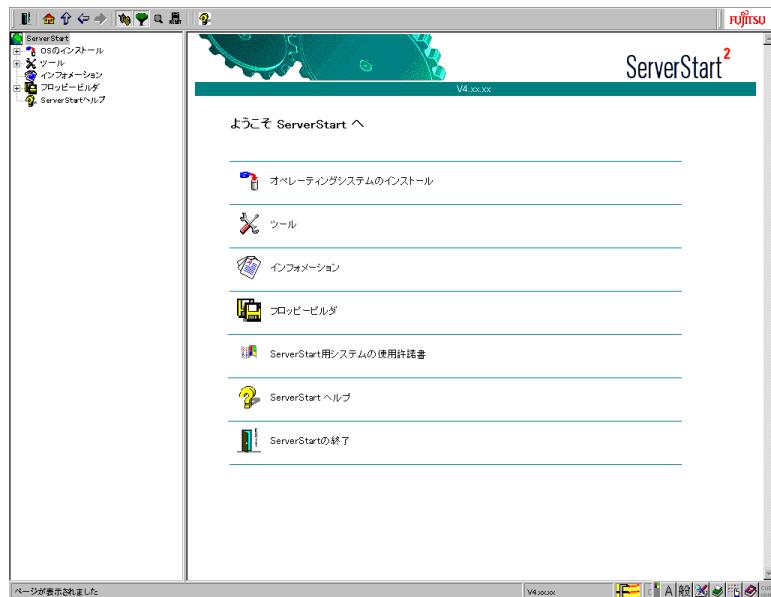
- 1** サーバの電源を入れて、すぐに ServerStart CD-ROM をセットします。
ServerStart が起動し、ServerStart フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。
- 2** 添付の ServerStart フロッピーディスクをセットして、[作成] をクリックします。
「ServerStart フロッピーディスクの作成」画面が表示されます。



- 3** [ServerStart フロッピーディスクを作成する] をクリックします。
「フロッピーの内容を消去します。よろしいですか?」というメッセージが表示されます。
- 4** [はい] をクリックします。
ServerStart フロッピーディスクが作成されます。作成が完了すると、メッセージが表示されます。

5 [OK] をクリックします。

「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。

**6** [オペレーティングシステムのインストール] をクリックします。

「オペレーティングシステムのインストール」画面が表示されます。

7 [Microsoft Windows Operating Systems のインストール] をクリックします。

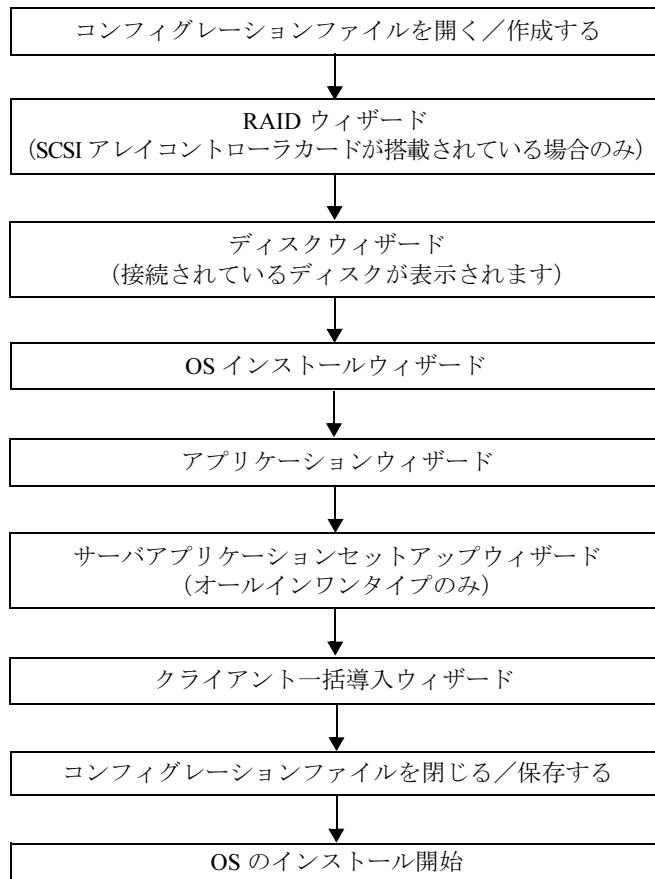
「Microsoft Windows Operating Systems のインストール」画面が表示されます。

8 インストールする OS を選択します。

- 9 [(OS) のインストールガイドモード] をクリックします。
選択した OS のガイドモードが起動します。



以下の流れで、各ウィザードを起動して設定を行ってください。
ウィザードを終了すると、ガイドモード画面に戻ります。



重要

- ▶ ウィザード起動中は、ツリーの操作を行わないでください。設定内容が破棄される場合があります。
- ▶ システム構成ウィザードについて
通常は、システム構成ウィザードの設定内容を変更する必要はありません。設定内容を変更した場合、システムが起動しなくなることがあります。指示がない場合は起動しないでください。

3.2.2 コンフィグレーションファイルを開く／作成する

コンフィグレーションファイルを開きます。または、新規に作成します。

- 1 [コンフィグレーションファイルを開く／作成する] をクリックします。
「ServerStart コンフィグレーションファイルを開きます」画面が表示されます。



重要

- ▶ 一度コンフィグレーションファイルを開くと、「[コンフィグレーションファイルを閉じる／保存する]」をクリックするまで、別のファイルを読み込むことはできません。

- 2 コンフィグレーションファイルを選択して、[作成] をクリックします。

3.2.3 RAID ウィザード

RAID の構成を行います。ガイドモードでは、アレイコントローラカードが搭載されている場合のみ、RAID ウィザードが表示されます。

重要

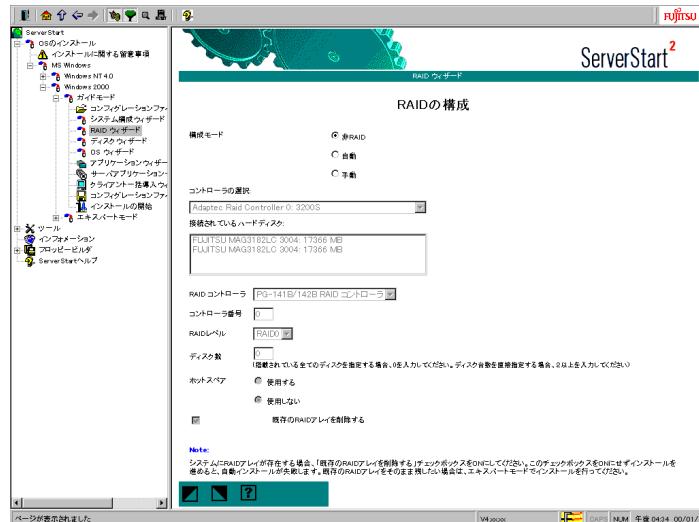
- アレイコントローラカードを変更する場合は、フィジカルパックを削除してから搭載カードを変更してください。フィジカルパックの削除方法は、サーバ本体、または各アレイコントローラカードのマニュアルを参照してください。

1 [RAID ウィザード] をクリックします。

「RAID の構成」画面が表示されます。

すでに組み込まれているアレイコントローラカードのみ表示されます。

また、アレイコントローラカードに接続されているディスク数が表示されます。



2 各項目を設定し、[(ウィザード終了)] をクリックします。

RAID ウィザードが終了します。

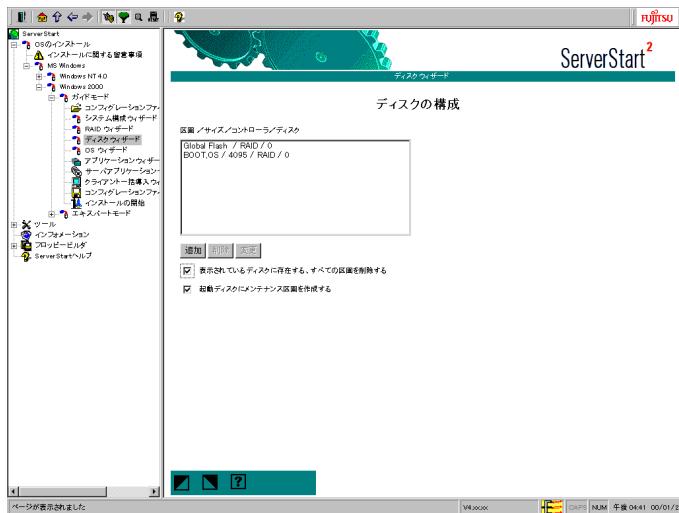
3.2.4 ディスクウィザード

ハードディスクの区画作成とフォーマットを行います。

重要

- ディスクウィザード起動時には、デフォルト値が設定されています。必ず [変更] をクリックして、内容を確認してください。また、必要に応じて適切な設定に変更してください。

- 1** [ディスクウィザード] をクリックします。
「ディスクの構成」画面が表示されます。



POINT

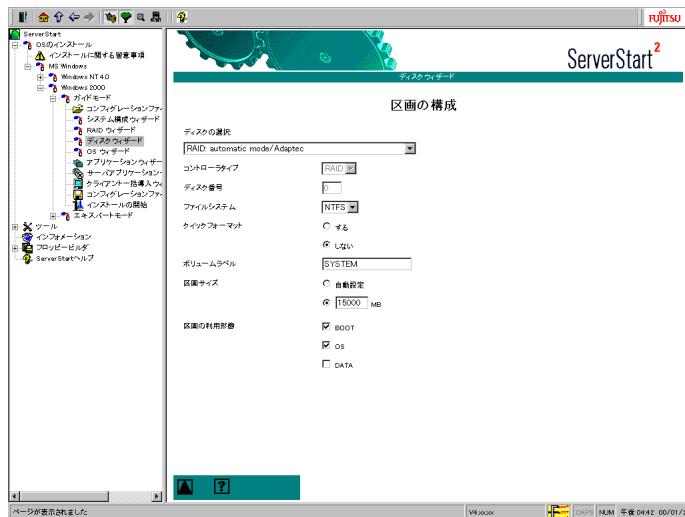
- インストール先ディスクに、すでに区画が存在する場合は、「表示されているディスクに存在する、すべての区画を削除する」にチェックを付けてください。
- インストール先ディスク以外のディスクで、すでにアクティブパーティションが存在する場合は、アクティブパーティションが存在するディスクに区画を作成後、「表示されているディスクに存在する、すべての区画を削除する」にチェックを付けてください。

- 2** 必要に応じて、パーティションを追加／削除／変更します。

●パーティションを追加する

- [追加] をクリックします。

「区画の構成」が表示されます。



⚡ 重要

- ▶ FAT ファイルシステムの区画サイズについて
「ファイルシステム」に「FAT」を選択し、「区画サイズ」を 4095MB 以上または「自動設定」に指定した場合は、区画サイズは 4095MB で作成されます。
- ▶ ボリュームラベルの文字制限について
ボリュームラベルには次の文字数制限があります。制限以上入力できる場合がありますが、インストールに失敗する可能性がありますので、制限内で入力してください。
 - ・FAT 全角 5 文字（半角 11 文字）以内
 - ・NTFS 全角／半角 32 文字以内

2. 各項目を設定し、[▲(上へ)] をクリックします。
パーティションリストに新しいパーティションが追加されます。
- パーティションを削除する
 1. 削除するパーティションを選択して、[削除] をクリックします。
パーティションが削除されます。
- パーティションの構成を変更する
 1. 変更するパーティションを選択して、[変更] をクリックします。
「区画の構成」が表示されます。
 2. 各項目を設定し直し、[▲(上へ)] をクリックします。
パーティションが変更されます。

- 3 設定が終了したら、[■(ウィザード終了)] をクリックします。
ディスクウィザードが終了します。

⚡ 重要

- ▶ 「起動ディスクにメンテナンス区画を作成する」がチェックされていない場合は、確認メッセージが表示されます。メンテナンス区画を作成する場合は [はい] をクリックしてください。

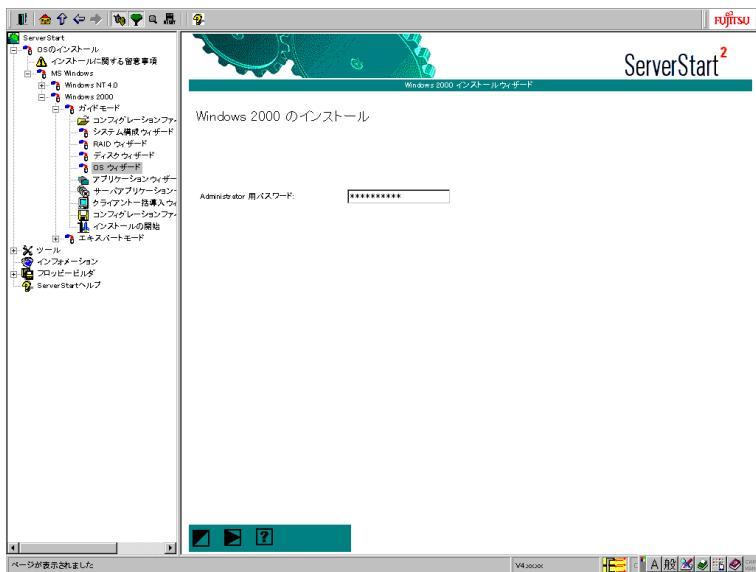
3.2.5 OS インストールウィザード

コンピュータ情報や、ユーザ情報、ネットワークプロトコルなどの設定を行います。
ServerStart では、いくつかのネットワークパターンを構築できます。ドメインコントローラを構成する場合は、「B ネットワークパターン別設定方法」(→ P.257) を参照してください。

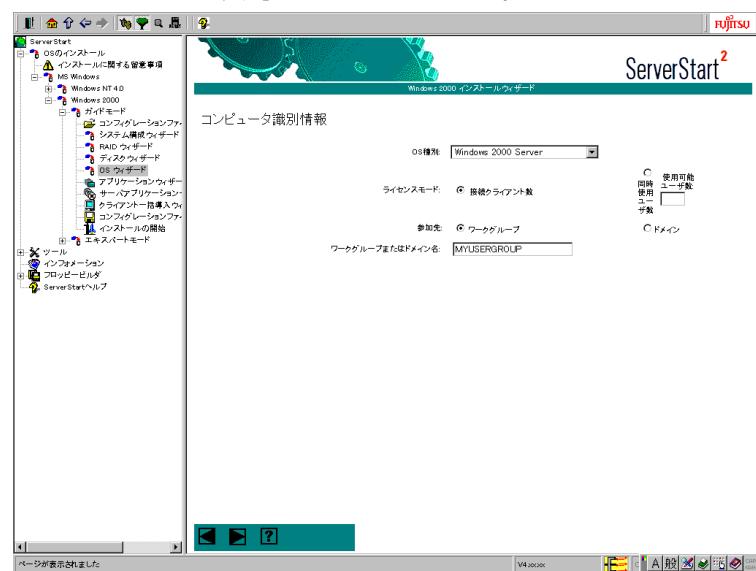
POINT

- ▶ インストールする OS により設定画面が異なります。ここでは、Windows 2000 Server を例に説明します。

- 1** [Windows 2000 インストールウィザード] をクリックします。
「Windows 2000 のインストール」画面が表示されます。

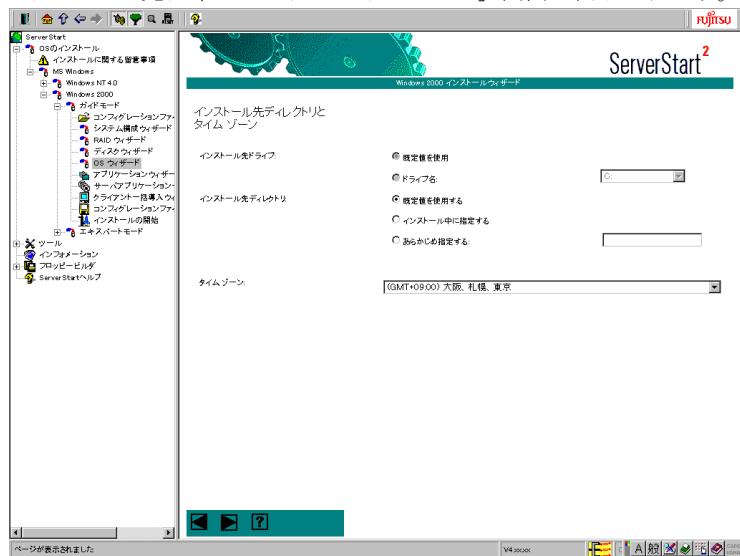


- 2** Administrator 用パスワードを入力して、[(次へ)] をクリックします。
「コンピュータ識別情報」画面が表示されます。



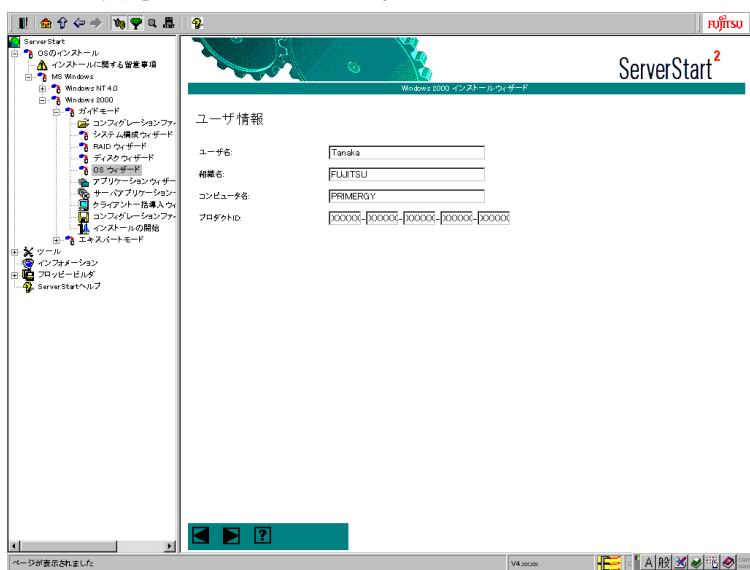
3 各項目を設定し、[(次へ)] をクリックします。

「インストール先ディレクトリとタイムゾーン」画面が表示されます。



4 各項目を設定し、[(次へ)] をクリックします。

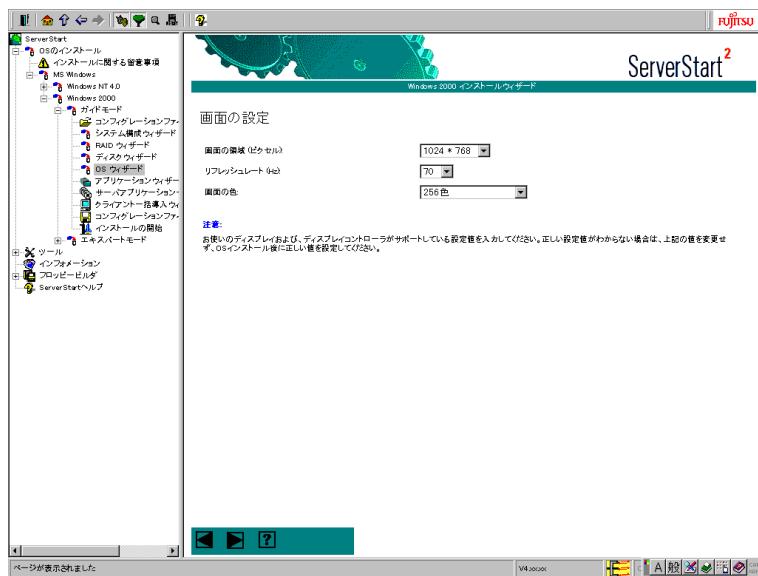
「ユーザ情報」画面が表示されます。



5 各項目を設定し、[▶ (次へ)] をクリックします。

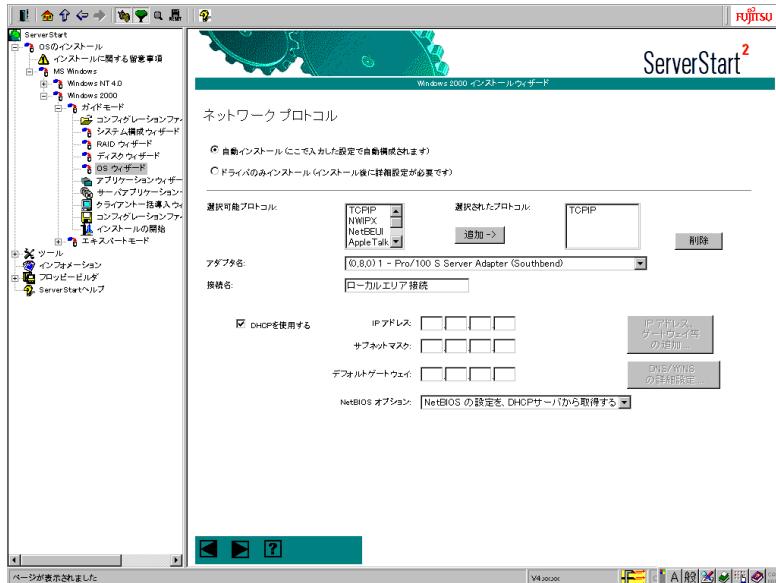
「画面の設定」画面が表示されます。

OS インストールタイプ開封の場合は、手順 6 に進みます。



6 各項目を設定し、[▶ (次へ)] をクリックします。

「ネットワークプロトコル」画面が表示されます。

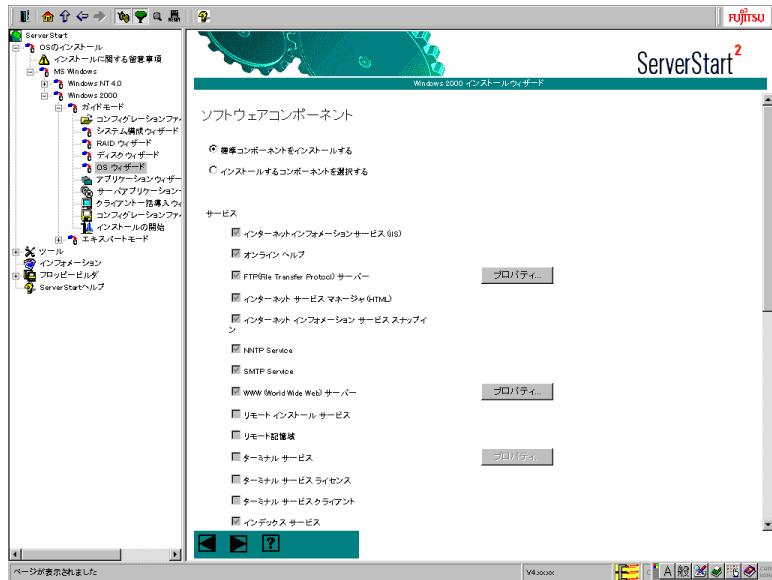


重要

- インストールする OS が Windows NT Server 4.0 の場合は、「手動でネットワークの設定を行う」をチェックすると、LAN ドライバのインストールや IIS の設定も手動で行う必要があります。

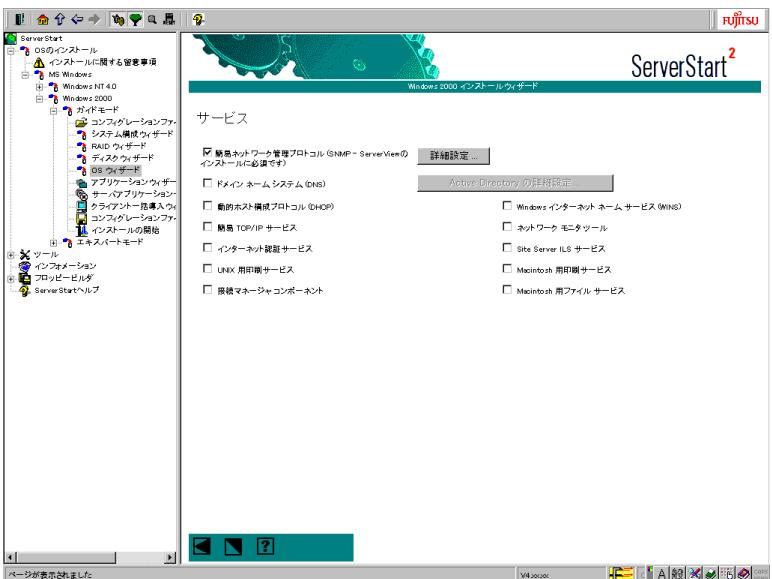
7 各項目を設定し、[(次へ)] をクリックします。

「ソフトウェアコンポーネント」画面が表示されます。



8 各項目を設定し、[(次へ)] をクリックします。

「サービス」画面が表示されます。



9 各項目を設定し [(ウィザード終了)] をクリックします。

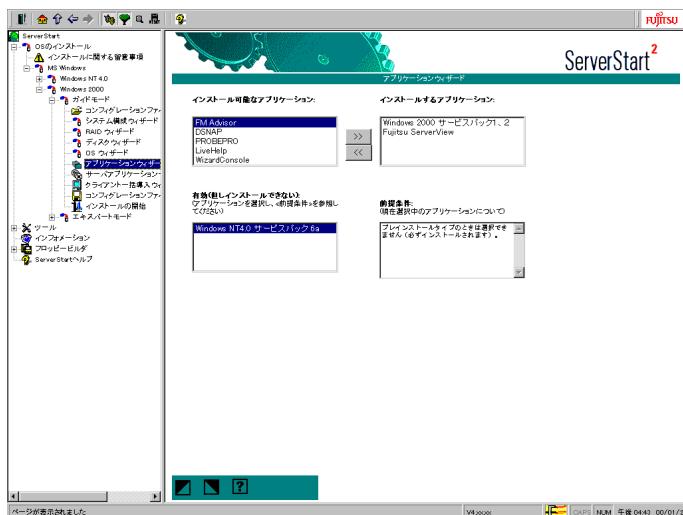
OS インストールウィザードが終了します。

3.2.6 アプリケーションウィザード

クライアントセットアップのための WizardConsole や、高信頼ツールのインストールを設定します。

1 [アプリケーションウィザード] をクリックします。

アプリケーションウィザードが表示されます。



重要

▶ WizardConsole をインストールする場合

クライアントの導入や、クライアントのインストール／セットアップ等を行う場合は、WizardConsole をチェックしてください。WizardConsole をインストールするには、OS インストールウィザードで、以下のように設定してください。

- ・ Windows NT 4.0 の場合、「コンピュータ情報」画面で「コンピュータ種別」を「プライマリドメインコントローラ」に設定してください。
- ・ Windows 2000 の場合は、「サービス」画面で、「ドメインネームシステム (DNS)」を選択し、「Active Directory の詳細設定」をクリックして「Active Directory をインストールする」を設定してください。

▶ ServerStart を使用した Service Pack のインストール

ServerStart では CD-ROM のラベルに記載されている Service Pack をインストールすることができます。CD-ROM のラベルに記載されていない Service Pack をインストールする場合は、ServerStart で OS のインストールを完了後、手動で Service Pack のインストールを行ってください。

2 「インストール可能なアプリケーション」リストから、インストールするアプリケーションを選択し、[>>] をクリックします。

インストールするアプリケーションをすべて「インストールするアプリケーション」リストに設定してください。

3 [(ウィザード終了)] をクリックします。

アプリケーションウィザードが終了します。

3.2.7 サーバアプリケーションセットアップウィザード

オールインワンタイプをご購入の場合は、インストールするサーバアプリケーションの設定を行います。

- 1** [サーバアプリケーションセットアップウィザード] をクリックします。
- 2** 「サーバアプリケーションセットアップ」をクリックします。
「アプリケーション一覧」が表示されます。
サーバアプリケーションセットアップで自動インストール可能なアプリケーションは、オールインワンタイプに添付されているアプリケーションのみです。
- 3** インストールするサーバアプリケーションを選択し、[アプリケーション] – [アプリケーション設定] をクリックします。
「アプリケーション資源の設定」画面が表示されます。
- 4** 各項目を設定し、[次へ] をクリックします。
「アプリケーションのインストールパラメータ設定」画面が表示されます。設定画面は、アプリケーションごとに異なります。

※ 重要

- ▶ ARCserve 2000 をインストールする場合は、「BrightStor ARCserve 2000/ARCserve 2000」を選択し、「アプリケーション資源の設定」画面の「アプリケーション CD-ROM ボリューム名」を「As2000aewe」に変更してください。
- ▶ ヘルプには、インストールに関する重要な情報を記載しています。必ず参照してください。また、各アプリケーションの詳細については、アプリケーション添付のマニュアルを参照してください。

- 5** 各項目を設定し終わったら、[完了] をクリックします。
「サーバアプリケーションセットアップ」に戻ります。インストールするサーバアプリケーションごとに設定を行ってください。
- 6** [アプリケーション] – [終了] をクリックします。
「セットアップウィザード」に戻ります。
- 7** [ (ウィザード終了)] をクリックします。
ガイドモード画面に戻ります。

3.2.8 クライアント括導入ウィザード

プライマリドメインコントローラや Active Directory を導入する場合は、ドメインにコンピュータ、ユーザーアカウント等を作成できます。

重要

- ▶ クライアント括導入ウィザードを実行する場合は、[アプリケーションウィザード] で WizardConsole を選択してください。また、OS インストールウィザードで、ドメインコントローラの設定を行う必要があります。詳細は、「B ネットワークパターン別 設定方法」(→ P.257) を参照してください。

POINT

- ▶ クライアントの導入設定は、インストール終了後に WizardConsole でも設定できます。WizardConsole について詳しくは、「第 5 章 高信頼ツール」(→ P.139) を参照してください。

1 [クライアント括導入ウィザード] をクリックします。

2  「クライアントシステム設計」をクリックします。

サーバを使用するクライアントの情報や、サーバに設定するグループ、共有フォルダの設定および関連付けを行います。

● クライアントシステム設計の設定方法

1. [クライアントシステム設計] をクリックします。

「コンピュータの設定」画面が表示されます。あらかじめサーバのコンピュータ名が表示されています。

2. サーバに接続するクライアントコンピュータの情報を設定します。

[追加] ([変更]) をクリックすると、「コンピュータの追加／変更」画面が表示されます。

1. 項目を設定して、[追加] ([変更]) をクリックします。

続けて追加するコンピュータを設定できます。

2. すべてのコンピュータを設定後、[閉じる] をクリックします。

コンピュータ情報が登録され、「コンピュータの設定」画面に戻ります。

重要

- ▶ 256 件のコンピュータが登録されているサーバ情報ファイル (WizardConsole で作成) を読み込んだとき、設計中のコンピュータ 1 件と、読み込んだ 256 件 (No.2 ~ No.257) の計 257 件が表示されることがあります。この場合、登録されるのは No.2 ~ No.257 の 256 件のみです。No.258 も入力可能状態になりますが、入力は無効になります。

3. [次へ] をクリックします。

「グループの設定」画面が表示されます。あらかじめ設計しているサーバで予約されているグループ名が表示されます。

4. サーバを利用するグループを登録します。

[追加] ([変更]) をクリックすると、「グループの追加／変更」画面が表示されます。

1. 項目を設定して、[追加] ([変更]) をクリックします。

続けて追加するグループを設定できます。

2. すべてのグループを設定後、[閉じる] をクリックします。

グループ情報が登録され、「グループの設定」画面に戻ります。

重要

- ▶ 設計しているサーバで予約されているグループ名は作成できません。

5. [次へ] をクリックします。

「ユーザの設定」画面が表示されます。設計しているサーバで予約されているユーザ名が表示されます。

6. サーバを利用するユーザの情報を登録します。

[追加] ([変更]) をクリックすると、「ユーザの追加／変更」画面が表示されます。

- 項目を設定して、[追加] ([変更]) をクリックします。

続けて追加するユーザを設定できます。

- すべてのユーザを設定後、[閉じる] をクリックします。

ユーザ情報が登録され、「ユーザの設定」画面に戻ります。

重要

- ▶ ここではユーザのパスワードは設定できません。セキュリティのためにも、運用開始時に、必ずパスワードを設定してください。
- ▶ 設計しているサーバで予約されているユーザ名は作成できません。

7. [次へ] をクリックします。

「共有資源の設定」画面が表示されます。設計しているサーバで予約されている共有名が表示されます。

8. ユーザ、グループ等で共有して利用するフォルダ名を登録します。

[追加] ([変更]) をクリックすると、「共有資源の追加／変更」画面が表示されます。

重要

- ▶ 8.3形式 (xxxxxxxx.xxx) より長いフォルダ名の場合は、MS-DOSのワークステーションから共有できない可能性があります。

- 項目を設定して、[追加] ([変更]) をクリックします。

続けて追加する共有資源を設定できます。

- すべての共有資源を設定後、[閉じる] をクリックします。

共有資源情報が登録され、「共有資源の設定」画面に戻ります。

9. [完了] をクリックします。

「クライアントシステム設計」画面が表示されます。

10. 関連付けの操作を行います。

関連付けの操作については、「6.3.4 ユーザ、グループ、共有資源の関連付け」(→ P.182) を参照してください。

3 [(次へ)] をクリックします。

「クライアントセットアップ」アイコンが表示されます。

4 [「クライアントセットアップ」] をクリックします。

クライアントにインストールするアプリケーション、コピーするファイル、およびクライアントで実行するコマンドを指定します。設定項目の詳細については、ヘルプを参照するか、「6.5 クライアントセットアップ」(→ P.191) を参照してください。

5 [(次へ)] をクリックします。

「デスクトップ設計」アイコンが表示されます。

6 「デスクトップ設計」をクリックします。

サーバ側で、クライアントのデスクトップ環境を一括管理します。

設定項目の詳細については、ヘルプを参照するか、「6.6 クライアントのデスクトップ環境を設定する」(→ P.201) を参照してください。

7 [(ウィザード終了)] をクリックします。

クライアント一括導入ウィザードが終了します。

3.2.9 コンフィグレーションファイルを閉じる／保存する

すべてのウィザードの設定が終了したら、コンフィグレーションファイルを保存します。

1 [コンフィグレーションファイルを閉じる／保存する] をクリックします。

「ServerStart コンフィグレーションファイルの保存」画面が表示されます。

2 [保存] をクリックします。

コンフィグレーションファイルが保存されます。

重要

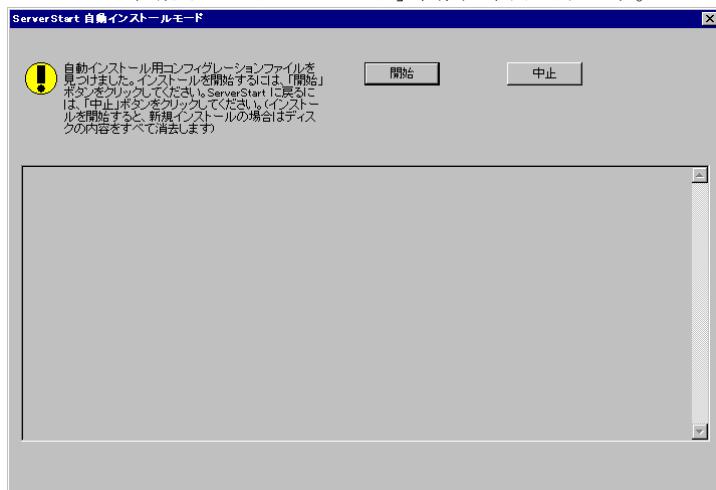
- ▶ コンフィグレーションファイルの名前は任意に指定できますが、OS インストールが可能な名前は SerStartBatch.ini のみです。OS インストールを行う場合は、必ず ServerStart フロッピーディスクに SerStartBatch.ini という名前で保存してください。

3.2.10 インストールの開始

続けてサーバに OS をインストールします。

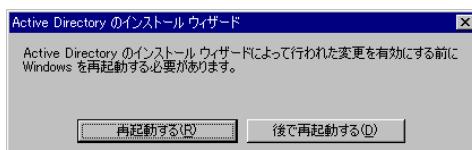
インストール中は、インストール操作以外のマウスおよびキーボード操作を行わないでください。インストールに失敗する原因になります。

- 1 [(OS) のインストールの開始] をクリックします。**
 「ServerStart 自動インストールモード」画面が表示されます。



- 2 [開始] をクリックします。**
- RAID を構築した場合は、システムが再起動されます。メンテナンス区画で使用する MS-DOS の使用許諾メッセージが表示された場合は [OK] をクリックします。
 ServerView の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。
 ServerView をインストールしない場合は、メッセージは表示されません。
- 3 PRIMERGY マニュアル&ツール CD-ROM をセットし、[OK] をクリックします。**
- ファイルのコピーが行われ、終了後、以下のメッセージが表示された場合は、それぞれ指示に従って操作してください。
1. ServerStart CD-ROM をセットするようメッセージが表示された場合は、
 ServerStart CD-ROM をセットして [OK] をクリックします。
 2. Service Pack の CD-ROM をセットするようメッセージが表示された場合は、
 Service Pack の CD-ROM をセットし、[OK] をクリックします。
 Service Pack を選択していない場合、ServerStart に添付されている Service Pack を使用する場合は、メッセージは表示されません。
- OS の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。
- 4 OS の CD-ROM をセットし、[OK] をクリックします。**
- ライセンス契約の画面が表示されます。
- 5 [同意する] をクリックします。**
- ファイルのコピーが開始され、終了後、CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出すようメッセージが表示されます。
- 6 CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出し、[OK] をクリックします。**
- システムが再起動します。再起動後、インストール処理が続行されます。
 自動で OS の GUI セットアップ、LAN ユーティリティのインストール、サービスパックのインストール、Active Directory のインストールが行われます。

7 再起動の確認メッセージが表示されたら、[再起動する] をクリックします。



再起動後、高信頼ツールのインストールが行われます。

8 サーバアプリケーションのインストールが行われます。

設定したアプリケーションごとに、サーバアプリケーション画面が表示されます。



アプリケーションの CD-ROM をセットし、CD-ROM ドライブを指定して [OK] をクリックしてください。すべてのアプリケーションがインストールされた後、CD-ROM ドライブの CD-ROM を取り出し、何かキーを押します。

9 RAID ユーティリティのインストールが行われます。

インストール処理の詳細については、各 SCSI アレイコントローラに添付の取扱説明書を参照してください。インストールするユーティリティにより、インストール後再起動を促すメッセージが表示されますが、再起動しないようにしてください。

- Promise FastCheck Utility の場合

インストールはすべて自動で行われます。再起動のメッセージは表示されません。

- DPT Storage Manager の場合

以下のメッセージが表示されます。[いいえ] をクリックしてください。



- MYLEX Global Array Manager Client の場合

[No, I will restart my computer later.] を選択し、[Finish] をクリックします。

10 インストール OS が Windows NT Server 4.0 の場合は、以下の操作を行います。

1. パスワード設定の画面が表示されます。管理者用パスワードを半角 14 文字以内で入力し、[OK] をクリックします。

パスワードは必ず設定してください。ただし、Windows NT Server 4.0 をバックアップドメインコントローラとしてインストールした場合は、パスワード設定画面は表示されません。

2. 「修復ディスクユーティリティ」画面が表示されます。

修復ディスクの作成には、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクが 1 枚必要です。

3. フロッピーディスクをセットして、[修復ディスクの作成] をクリックします。
画面の指示に従って操作してください。

 **POINT**

- 万一、Windows NT システムファイル、システム構成、およびスタートアップ時の環境変数などが損傷を受けた場合は、修復ディスク上に保存した情報を使ってこれらを再構築できます。

11 インストール完了のメッセージが表示されたら、何かキーを押します。

12 システムを再起動します。

「スタート」ボタン→「シャットダウン」をクリックし、「再起動」を選択して〔OK〕をクリックします。

システムが再起動します。これでサーバのセットアップ、インストールは終了です。

3.3 事前設定モード

事前設定モードでは、Windows 95/98/Me、Windows NT Workstation 4.0、Windows 2000 Professional がインストールされているコンピュータ（CD-ROM ドライブ搭載、空き容量 10MB 以上）で、インストールに必要な情報を設定し、コンフィグレーションファイルに保存します。保存したコンフィグレーションファイルをサーバにセットしてインストールを行います。

3.3.1 事前設定モードの起動

事前設定モードを起動します。

- 1 事前設定を行うクライアントコンピュータに、すでに ServerStart がインストールされている場合、インストール済みの ServerStart をアンインストールします。

アンインストール方法については、「A.15 ServerStart のアンインストール」（→ P.256）を参照してください。

重要

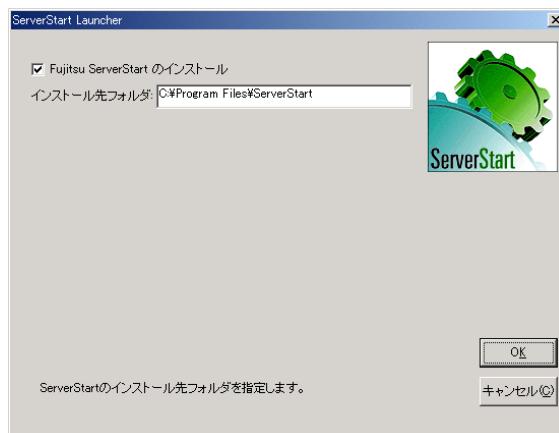
- 異なるバージョンの ServerStart がインストールされている状態で事前設定モードを起動すると、フロッピービルダ機能や、インストールウィザード機能が正常に動作しない可能性があります。インストール済みの ServerStart は、必ずアンインストールしてください。

- 2 クライアントコンピュータに、ServerStart CD-ROM をセットします。

「ServerStart Launcher」画面が表示されます。

「ServerStart Launcher」画面が表示されない場合は、CD-ROM 内の "Launcher.exe" を実行してください。

はじめて ServerStart をインストールする場合は、次の画面が表示されます。



- 3** すべてチェックされた状態を確認し、インストールフォルダを指定して [OK] をクリックします。

インストールが実行され、「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。



- 4** [フロッピービルダ] をクリックします。

「フロッピービルダ」画面が表示されます。



- 5** [ServerStart フロッピーディスクの作成] をクリックします。

フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。

- 6** 添付の ServerStart フロッピーディスクをセットし、[OK] をクリックします。

「フロッピーの内容を消去します。よろしいですか？」とメッセージが表示されます。

7 [はい] をクリックします。

ServerStart フロッピーディスクの作成が開始されます。作成が完了すると完了メッセージが表示されます。

8 [OK] をクリックします。

9 画面左側に表示されているツリーの、[OS のインストールー事前設定モード] をクリックします。

「オペレーティングシステムのインストール」画面が表示されます。

重要

- インストール開始前に、[インストールに関する留意事項] をクリックし、参照してください。ディスクの構成に関する制限事項など、重要な情報が記述されています。

10 [Microsoft Windows Operating Systems のインストールー事前設定モード] をクリックします。

「Microsoft Windows Operating System のインストール」画面が表示されます。

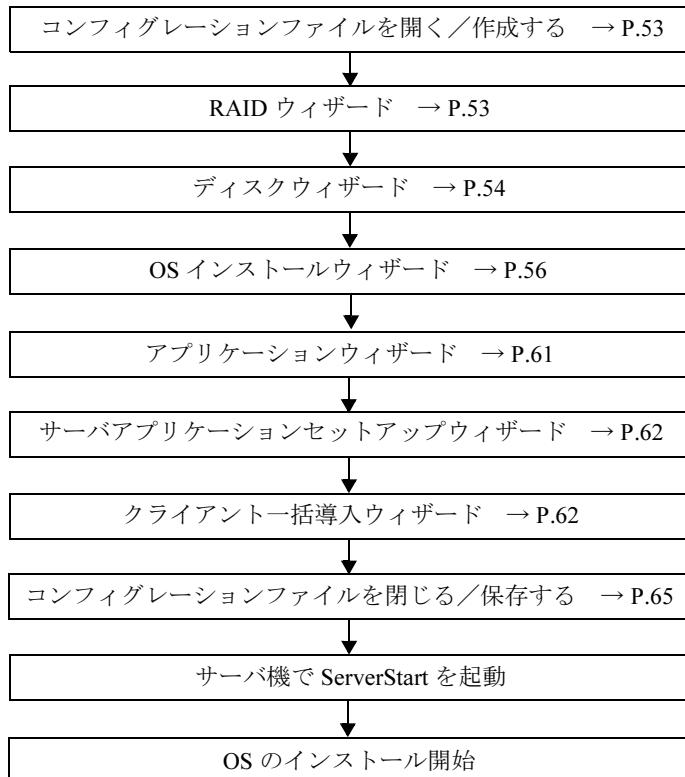
11 インストールする OS を選択します。

「事前設定インストール」画面が表示されます。



3.3.2 各ウィザードの設定を行う

以下の流れで、各ウィザードをクリックして設定を行ってください。設定方法については、「ガイドモードの各ウィザード（「3.2.2 コンフィグレーションファイルを開く／作成する」（→ P.53）～「3.2.9 コンフィグレーションファイルを閉じる／保存する」（→ P.65））」を参照してください。ウィザードを終了すると、事前設定モード画面に戻ります。



重要

- ▶ ウィザード起動中は、ツリーの操作を行わないでください。設定内容が破棄される場合があります。
- ▶ システム構成 ウィザードについて
通常は、システム構成 ウィザードの設定内容を変更する必要はありません。設定内容を変更した場合、システムが起動しなくなることがあります。指示がない場合は起動しないでください。

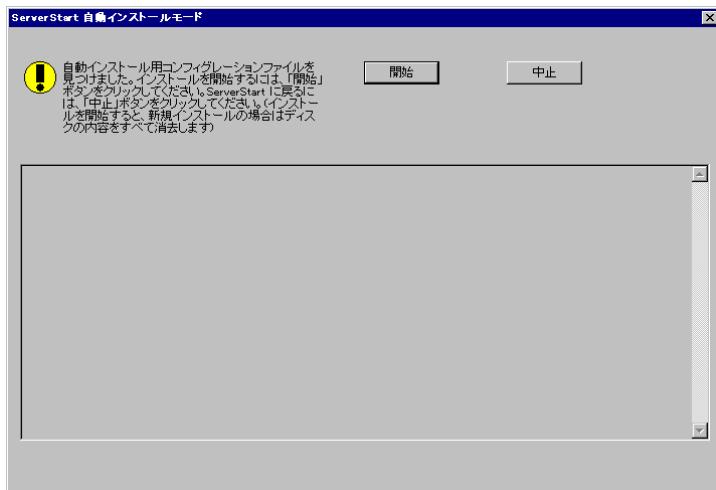
3.3.3 インストールの開始

作成したコンフィグレーションファイルを使用して、サーバに OS をインストールします。インストール中は、インストール操作以外のマウスおよびキーボード操作は行わないでください。インストールに失敗する原因になります。

- 1 サーバの電源を入れて、すぐに ServerStart CD-ROM をセットします。
ServerStart フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。

- 2** 作成したコンフィグレーションファイルをセットして、[OK] をクリックします。

「ServerStart 自動インストールモード」画面が表示されます。



- 3** [開始] をクリックします。

RAID を構築した場合は、システムが再起動されます。再起動後、MS-DOS の使用許諾メッセージが表示された場合は [OK] をクリックします。

ServerView の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。

ServerView をインストールしない場合は、メッセージは表示されません。

- 4** PRIMERGY マニュアル&ツール CD-ROM をセットし、[OK] をクリックします。

ファイルのコピーが行われ、終了後、以下のメッセージが表示された場合は、それぞれ指示に従って操作してください。

1. ServerStart CD-ROM をセットするようメッセージが表示された場合は、ServerStart CD-ROM をセットして [OK] をクリックします。
 2. Service Pack の CD-ROM をセットするようメッセージが表示された場合は、Service Pack の CD-ROM をセットし、[OK] をクリックします。
Service Pack を選択していない場合、ServerStart に添付されている Service Pack を使用する場合は、メッセージは表示されません。
- OS の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。

- 5** OS の CD-ROM をセットし、[OK] をクリックします。

ライセンス契約の画面が表示されます。

- 6** [同意する] をクリックします。

ファイルのコピーが開始され、終了後、CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出すようメッセージが表示されます。

- 7** CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出し、[OK] をクリックします。

システムが再起動します。再起動後、インストール処理が続行されます。

自動で OS の GUI セットアップ、LAN ユーティリティのインストール、サービスパックのインストール、Active Directory のインストールが行われます。

8 再起動の確認メッセージが表示されたら、[再起動する] をクリックします。

再起動後、高信頼ツールのインストールが行われます。

9 サーバアプリケーションのインストールが行われます（オールインワンタイプのみ）。

設定したアプリケーションごとに、サーバアプリケーション画面が表示されます。



アプリケーションの CD-ROM をセットし、CD-ROM ドライブを指定して [OK] をクリックしてください。すべてのアプリケーションがインストールされた後、CD-ROM ドライブの CD-ROM を取り出し、何かキーを押します。

10 RAID ユーティリティのインストールが行われます。

インストール処理の詳細については、各 SCSI アレイコントローラに添付の取扱説明書を参照してください。インストールするユーティリティにより、インストール後再起動を促すメッセージが表示されますが、再起動しないようにしてください。

- Promise FastCheck Utility の場合

インストールはすべて自動で行われます。再起動のメッセージは表示されません。

- DPT Storage Manager の場合

以下のメッセージが表示されます。[いいえ] をクリックしてください。



- MYLEX Global Array Manager Client の場合

[No, I will restart my computer later.] を選択し、[Finish] をクリックします。

11 インストール OS が Windows NT Server 4.0 の場合は、以下の操作を行います。

1. パスワード設定の画面が表示されます。管理者用パスワードを半角 14 文字以内で入力し、[OK] をクリックします。

パスワードは必ず設定してください。ただし、Windows NT Server 4.0 をバックアップドメインコントローラとしてインストールした場合は、パスワード設定画面は表示されません。

2. 「修復ディスクユーティリティ」画面が表示されます。

修復ディスクの作成には、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクが 1 枚必要です。

3. フロッピーディスクをセットして、[修復ディスクの作成] をクリックします。

以降、画面の指示に従って操作してください。

 **POINT**

- 万一、Windows NT システムファイル、システム構成、およびスタートアップ時の環境変数などが損傷を受けた場合は、修復ディスク上に保存した情報を使ってこれらを再構築できます。

12 インストール完了のメッセージが表示されたら、何かキーを押します。

13 システムを再起動します。

「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、「再起動」を選択して【OK】をクリックします。

システムが再起動します。これでサーバのセットアップ、インストールは終了です。

3.4 エキスパートモード

エキスパートモードでは、ウィザードを使用せず、ディスク構成ツールや RAID 構成ツールなどを起動してハードウェアの構成を行い、インストールを行います。

3.4.1 エキスパートモードの起動

エキスパートモードを起動します。

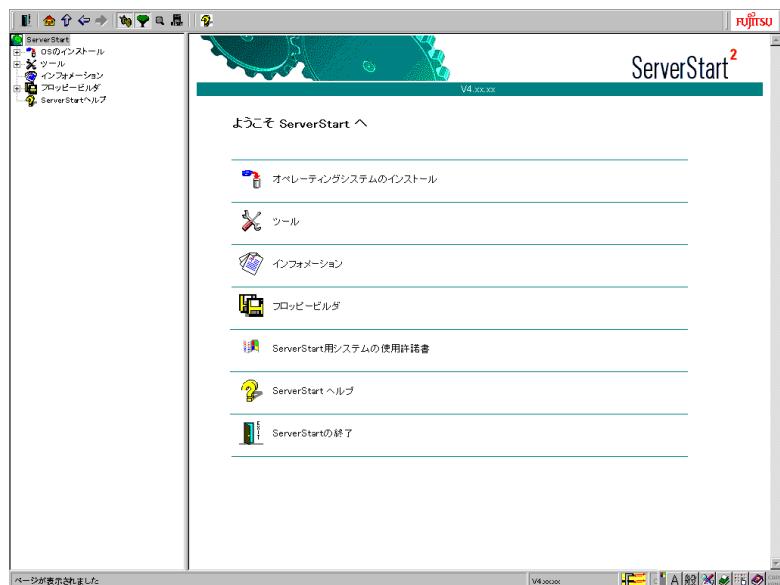
- 1 サーバの電源を入れ、すぐに ServerStart CD-ROM をセットします。**
ServerStart が起動し、ServerStart フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。
- 2 添付の ServerStart フロッピーディスクをセットして、[作成] をクリックします。**
「ServerStart フロッピーディスクの作成」画面が表示されます。



- 3 [ServerStart フロッピーディスクを作成する] をクリックします。**
「フロッピーの内容を消去します。よろしいですか？」とメッセージが表示されます。
- 4 [はい] をクリックします。**
ServerStart フロッピーディスクの作成が開始されます。作成が完了すると完了メッセージが表示されます。

5 [OK] をクリックします。

「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。

**6** [オペレーティングシステムのインストール] をクリックします。

「オペレーティングシステムのインストール」が表示されます。

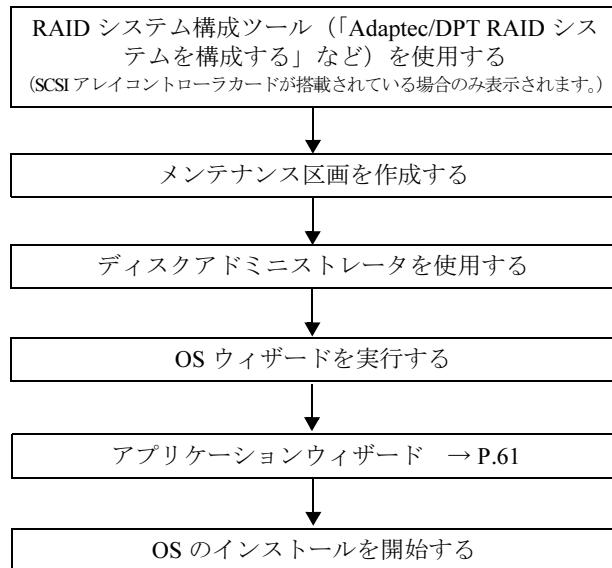
7 [Microsoft Windows Operating System のインストール] をクリックします。**8** インストールする OS を選択します。

9 [エキスパートモード] をクリックします。

エキスパートモードが起動します。



以下の流れで、各設定ツールを起動して設定を行ってください。各ツールでの設定終了後、エキスパートモード画面に戻ります。



POINT

- エキスパートモードには、ハードウェア構成を行う際に、構成ツールの起動の順番を制御することができる「ガイダンス機能」があります。ガイダンス機能が有効になっていると、ディスクの構成が完了していないとOSのインストールを開始できないなどの制御ができます。ガイダンス機能のON/OFFは、ServerStartナビゲーションバーの「自動ガイド」アイコンをクリックして指定します。
- ガイダンス機能が有効になっている場合、構成ツールを起動できる時は、信号アイコンが青色になります。赤色の場合は、構成ツールを起動できません。

重要

- ▶ サーバ構成ウィザードについて
通常は、サーバ構成ウィザードの設定内容を変更する必要はありません。設定内容を変更した場合、システムが起動しなくなることがあります。指示がない場合は起動しないでください。

3.4.2 RAID システム構成ツール

RAID の構築を行います。

POINT

- ▶ 搭載しているアレイコントローラカードによってタイトル名が異なります。ここでは、PG-142B カードを搭載した場合を例にとって説明しています。
- ▶ 各項目の詳細については、各 RAID 管理ツールのヘルプを参照してください。
- ▶ RAID 構成ツールおよびヘルプは、英語表記です。

1 [Adaptec/DPT RAID システムを構築する] をクリックします。
「Adaptec Storage Manager - SERVERSTART」が表示されます。

2 RAID 構成を設定します。
RAID 構成の設定方法は、ヘルプを参照してください。

3 「FILE」メニューから「Exit Adaptec Storage Manager」を選択し、[OK] をクリックします。
「Adaptec Storage Manager - SERVERSTART」が終了し、再起動の確認画面が表示されます。

4 [はい] をクリックして再起動します。
再起動後、再度エキスパートモードを起動してください。

3.4.3 メンテナンス区画の作成

メンテナンス区画作成ツールを起動してメンテナンス区画（Global Flash 区画）を作成します。メンテナンス区画は、サーバ保守用アプリケーションをインストールするための区画です。サポートサービスをご利用される場合は、メンテナンス区画が必要となりますので、必ずメンテナンス区画を作成してください。

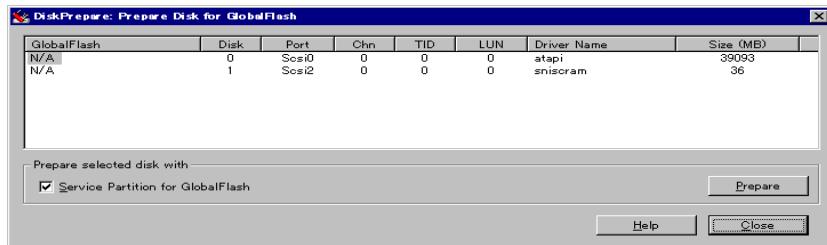
重要

- ▶ 起動ディスクに区画が存在している場合は、ディスクアドミニストレータを使ってすべての区画を削除しておく必要があります。
- ▶ メンテナンス区画作成ツール、ヘルプは英語表記となります。

1 [メンテナンス区画を作成する] をクリックします。
MS-DOS の使用許諾メッセージが表示されます。

2 [OK] をクリックします。

「DiskPrepare: Prepare Disk for GlobalFlash」画面が表示されます。

**3 作成先ディスクを選択して、[Prepare] をクリックします。**

メンテナンス区画が作成されます。

4 [Close] をクリックします。

エクスパートモードの画面に戻ります。

3.4.4 ディスクアドミニストレータ

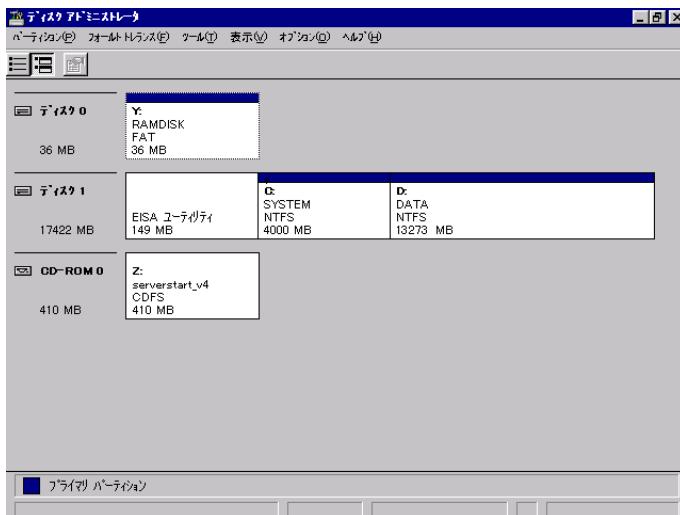
ディスクアドミニストレータを起動して、区画を作成してフォーマットを行います。

ディスクアドミニストレータの詳細については、ヘルプを参照してください。

重要

- ▶ メンテナンス区画（Global Flash 区画）を作成する場合、起動ディスク（アクティブパーティションを作成するディスク）に存在するすべての区画を削除してください。
- ▶ アクティブパーティションを、必ず C ドライブに設定してください。
- ▶ RAID システム構成ツールで RAID 構築を行っても、ディスクアドミニストレータを起動した時に、以前の区画情報が残っている場合があります。この場合、ディスクのすべての区画を削除し、新しく区画を作成し直してください。
- ▶ 設定可能な区画サイズに制限があります。「A.1 インストール先区画サイズについて」(→ P.242) を参照して、設定可能な区画サイズを確認してください。
- ▶ すでに Windows 2000 Server を NTFS 区画にインストールしている環境に、Windows NT Server 4.0 はインストールできません。区画をすべて削除してから、インストールしてください。

- 1** [ディスクアドミニストレータを使用する] をクリックします。
ディスクアドミニストレータが起動します。



- 2** 使用する区画を作成し、フォーマットします。
- 3** 「パーティション」メニューから [ディスクアドミニストレータの終了] を選択します。

ディスクアドミニストレータを終了し、エキスパートモードの画面に戻ります。

3.4.5 OS インストールウィザード

コンピュータ情報や、ユーザ情報、ネットワークプロトコルなどの設定を行います。

ServerStart では、いくつかのネットワークパターンを構築できます。ドメンコントローラを構成する場合は、「B ネットワークパターン別 設定方法」(→ P.257) を参照してください。

POINT

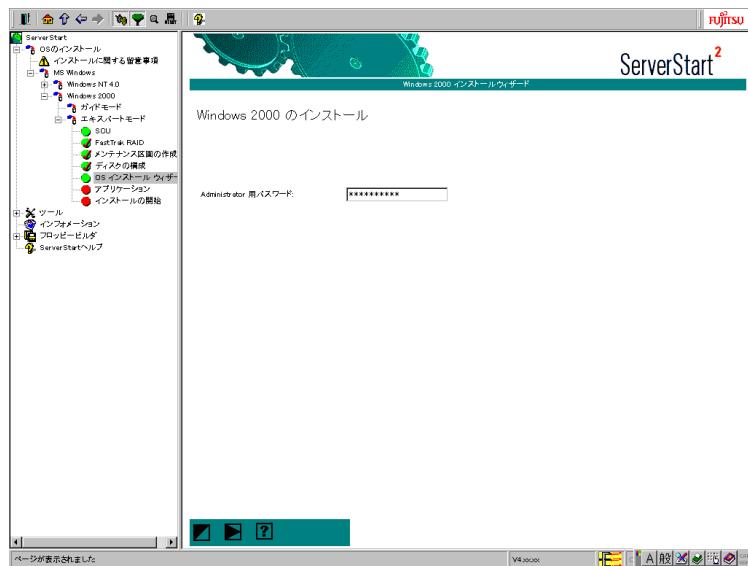
- インストールする OS により設定画面が異なります。ここでは、Windows 2000 Server を例に説明します。

- 1** [Windows 2000 ウィザードを実行する] をクリックします。
コンフィグレーションファイルを指定するメッセージが表示されます。



2 [いいえ] をクリックします。

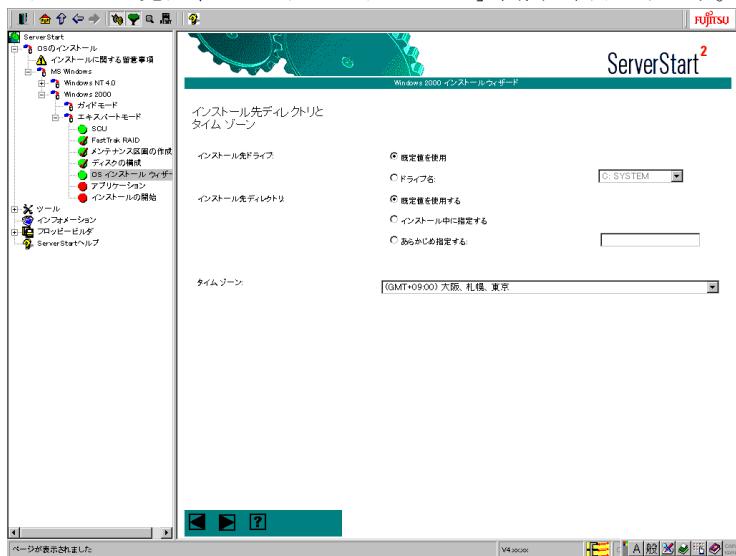
「Windows 2000 のインストール」画面が表示されます。

**3** Administrator のパスワードを入力し、[(次へ)] をクリックします。

「コンピュータ識別情報」画面が表示されます。



- 4 各項目を設定し、[(次へ)] をクリックします。**
 「インストール先ディレクトリとタイムゾーン」画面が表示されます。



- 5 各項目を設定し、[(次へ)] をクリックします。**
 「ユーザ情報」画面が表示されます。



6 各項目を設定し、[(次へ)] をクリックします。

「画面の設定」画面が表示されます。プレインストールモードの場合は、手順 7 に進みます。

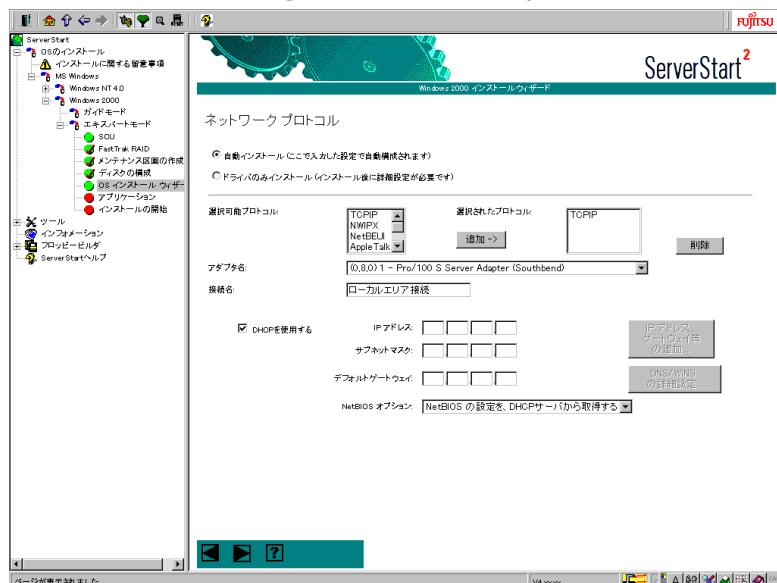


重要

- インストールする OS が Windows NT Server 4.0 の場合は、「ログオン後に画面設定を行う」にはチェックを付けずに、初期設定のまま「次へ」をクリックしてください。「ログオン後に画面設定を行う」にチェックを付けてインストールを行った場合、インストールは正常に行われますが、イベントログに複数のエラーが検出されます。

7 各項目を設定し、[(次へ)] をクリックします。

「ネットワークプロトコル」画面が表示されます。

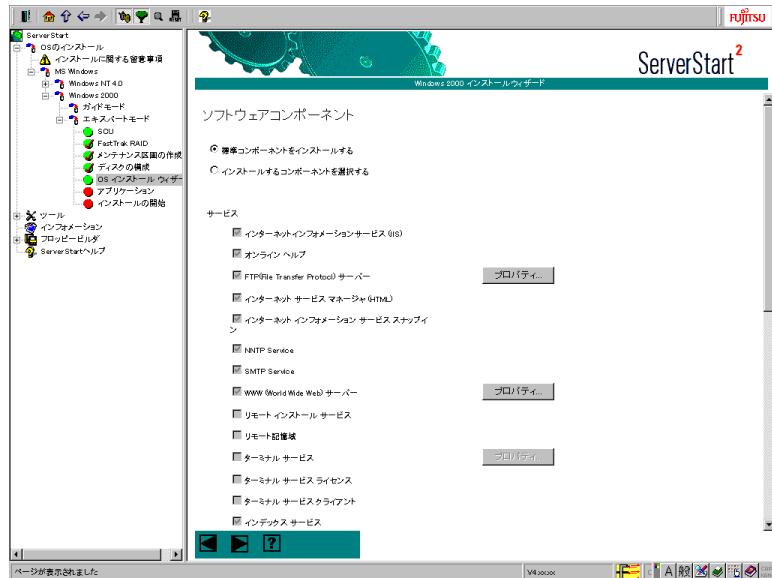


重要

- ▶ インストールする OS が Windows NT Server 4.0 の場合は、「手動でネットワークの設定を行う」をチェックを付けると、LAN ドライバのインストールや IIS の設定も手動で行う必要があります。

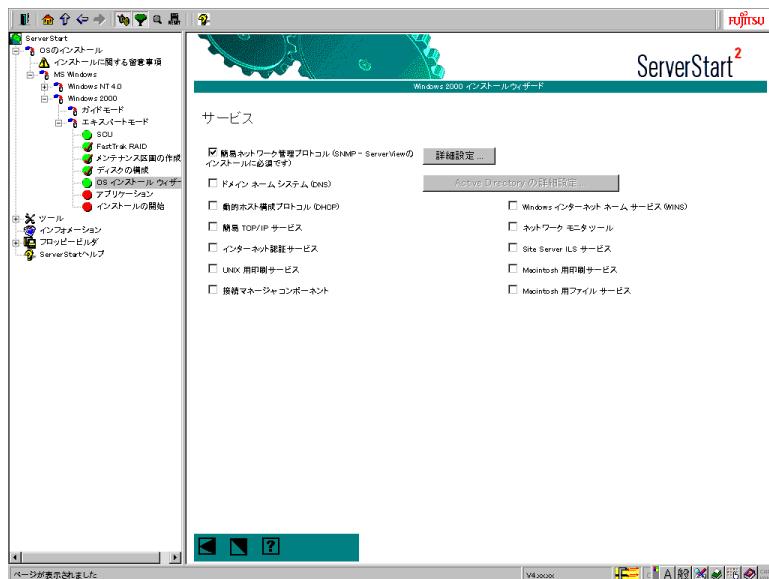
8 各項目を設定し、[(次へ)] をクリックします。

「ソフトウェアコンポーネント」画面が表示されます。



9 各項目を設定し、[(次へ)] をクリックします。

「サービス」画面が表示されます。



10 各項目を設定し、[(ウィザード終了)] をクリックします。

エキスパートモードの画面に戻ります。

3.4.6 アプリケーションウィザード

クライアントセットアップのための WizardConsole や、高信頼ツールのインストールを設定します。

アプリケーションウィザードの詳細については、「3.2.6 アプリケーションウィザード」(→P.61) を参照してください。

3.4.7 インストールの開始

OS をインストールします。

重要

- ▶ インストール用の区画が空き区画でない場合は、確認メッセージが表示されます。問題がない場合は、[OK] をクリックしてインストールを続行してください。
- ▶ インストール中、あらかじめ設定した内容 (CD キーなど) に誤りがあるとエラー画面が表示されます。正しい値を直接インストール中の画面で入力して処理を続行してください。ただし、ここで修正した内容はコンフィグレーションファイルには反映されません。

1 [Windows 2000 のインストールを開始する] をクリックします。

現在の設定を保存するか、確認画面が表示されます。

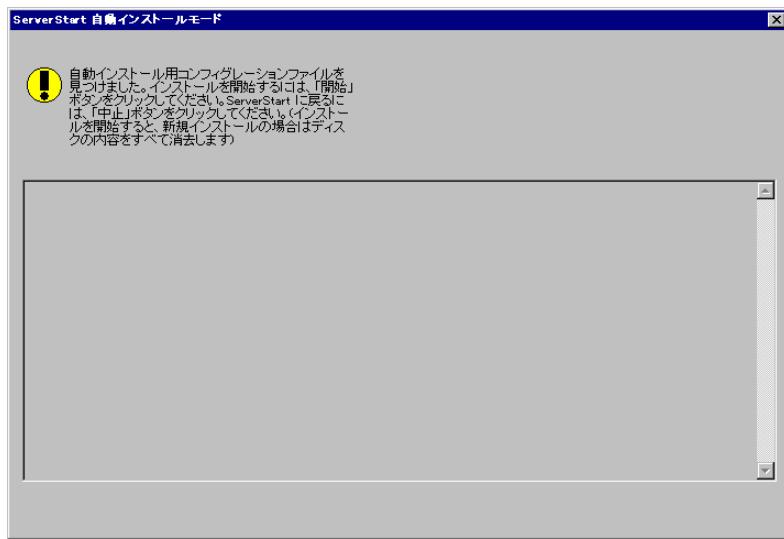
2 [はい] をクリックします。

「ServerStart コンフィグレーションファイルのバックアップコピー」画面が表示されます。



3 ファイル名を入力して、[保存] をクリックします。

「ServerStart 自動インストールモード」画面が表示されます。



ServerView の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。

ServerView をインストールしない場合は、メッセージは表示されません。

4 PRIMERGY マニュアル&ツール CD-ROM をセットし、[OK] をクリックします。

ファイルのコピーが行われます。

終了後、以下のメッセージが表示された場合は、それぞれ指示に従って操作してください。

1. ServerStart CD-ROM をセットするようメッセージが表示された場合は、ServerStart CD-ROM をセットして [OK] をクリックします。
2. Service Pack の CD-ROM をセットするようメッセージが表示された場合は、Service Pack の CD-ROM をセットし、[OK] をクリックします。

Service Pack を選択していない場合、ServerStart に添付されている Service Pack を使用する場合は、メッセージは表示されません。

OS の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。

5 OS の CD-ROM をセットし、[OK] をクリックします。

ライセンス契約の画面が表示されます。

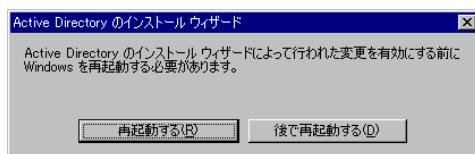
6 [同意する] をクリックします。

ファイルのコピーが開始され、終了後、CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出すようメッセージが表示されます。

7 CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出し、[OK] をクリックします。

システムが再起動します。再起動後、インストール処理が続行されます。

自動で OS の GUI セットアップ、LAN ユーティリティのインストール、サービスパックのインストール、Active Directory のインストールが行われます。

8 再起動の確認メッセージが表示されたら、[再起動する] をクリックします。

再起動後、高信頼ツールのインストールが行われます。

9 RAID ユーティリティのインストールが行われます。

インストール処理の詳細については、各 SCSI アレイコントローラに添付の『取扱説明書』を参照してください。インストールするユーティリティにより、インストール後再起動を促すメッセージが表示されますが、再起動しないようにしてください。

- Promise FastCheck Utility の場合

インストールはすべて自動で行われます。再起動のメッセージは表示されません。

- DPT Strange Manager の場合

以下のメッセージが表示されます。[いいえ] をクリックしてください。



- MYLEX Global Array Manager Client の場合

[No, I will restart my computer later.] を選択し、[Finish] をクリックします。

10 インストール OS が Windows NT 4.0 の場合は、以下の操作を行います。

1. パスワード設定の画面が表示されます。管理者用パスワードを半角 14 文字以内で入力し、[OK] をクリックします。

パスワードは必ず設定してください。ただし、Windows NT Server 4.0 をバックアップドメインコントローラとしてインストールした場合は、パスワード設定画面は表示されません。

2. 「修復ディスクユーティリティ」画面が表示されます。

修復ディスクの作成には、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクが 1 枚必要です。

3. フロッピーディスクをセットして、[修復ディスクの作成] をクリックします。

以降、画面の指示に従って操作してください。

POINT

- 万一、Windows NT システムファイル、システム構成、およびスタートアップ時の環境変数などが損傷を受けた場合は、修復ディスク上に保存した情報を使ってこれらを再構築できます。

11 インストール完了のメッセージが表示されたら、何かキーを押します。**12 システムを再起動します。**

「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、「再起動」を選択して [OK] をクリックします。

システムが再起動します。これでサーバのセットアップ、インストールは終了です。

3.5 複数台（2台目以降）へのインストール

ServerStart を使用して、複数台のサーバをインストールする方法について説明します。

同じ機種で同じ構成のサーバを複数台インストールする場合は、1台目のインストール時に作成したコンフィグレーションファイルを編集して、2台目以降をインストールすることができます。これにより、設定時間の短縮が図れます。ただし、1台目のインストールを、ServerStart を使用してガイドモードまたは事前設定モードで行う必要があります。

■ 重要

- ▶ 1台目のサーバに添付されている ServerStart のバージョンと、2台目以降のサーバに添付されている ServerStart のバージョンが同じであることを確認してください。バージョンが違う場合、この方法でのインストールはできません。

3.5.1 インストールの準備

■ 必要なソフトウェア

2台目以降のサーバをインストールするには、次のソフトウェアが必要です。あらかじめお手元にご用意ください。

- インストールする OS の CD-ROM
- Service Pack CD-ROM
- ServerStart CD-ROM
- ServerStart フロッピーディスク

A : 1台目のインストール時に使用したコンフィグレーションファイルの入った
「ServerStart フロッピーディスク」

B : 2台目以降のサーバに添付されている ServerStart CD-ROM に添付の
「ServerStart フロッピーディスク」

- PRIMERGY ドキュメント & ツール CD (ServerView のインストール)
- インストールするサーバアプリケーションの CD-ROM (ARCserve2000、ServerProtect 等)

■ インストール前の操作

インストールの前に、次の作業を行ってください。

A をコピー元、B をコピー先として Windows Explorer またはコマンドプロンプトでディスクコピーを実行してください。

3.5.2 ガイドモードでインストールを行う

ガイドモードでコンフィグレーションファイルを編集してインストールを行います。

- 1 サーバの電源を入れ、すぐに ServerStart CD-ROM をセットします。**
ServerStart が起動し、ServerStart フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。
- 2 事前にディスクコピーした ServerStart フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットして、[作成] をクリックします。**
「ServerStart フロッピーディスクの作成」画面が表示されます。
- 3 [ServerStart フロッピーディスクを挿入し、ServerStart を起動する] をクリックします。**
「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。
- 4 [オペレーティングシステムのインストール] をクリックします。**
「オペレーティングシステムのインストール」画面が表示されます。
- 5 [Microsoft Windows Operating System のインストール] をクリックします。**
「Microsoft Windows Operating System のインストール」画面が表示されます。
- 6 インストールする OS をクリックします。**
- 7 [(OS) のインストールガイドモード] をクリックします。**
 - ・Windows NT 4.0 の場合は、「Windows NT 4.0 のインストールガイドモード」をクリックします。
 - ・Windows 2000 の場合は、「Windows 2000 のインストールガイドモード」をクリックします。
 ガイドモードが起動します。
- 8 [コンフィグレーションファイルを開く／作成する] をクリックします。**
「ServerStart コンフィグレーションファイルを開きます」画面が表示されます。
- 9 A ドライブの「SerStartBatch.ini」を指定して、[開く] をクリックします。**
ガイドモードの画面に戻ります。
各ウィザードの設定からインストールの完了までの手順については、「3.2 ガイドモード」(→ P.50) を参照してください。

各ウィザードの設定項目には、1台目のインストール時に設定した内容が設定されています。2台目以降のインストールでは、[OS インストールウィザード] の、以下の項目を変更する必要があります。その他の項目については、必要に応じて設定を変更してください。

画面名	設定項目名	備考
ユーザ情報	コンピュータ名	1台目と2台目以降が同じネットワーク上にある場合は、変更が必要です。
	プロダクト ID/CD キー	変更は必須です。
ネットワークプロトコル	IP アドレス	1台目と2台目以降が同じネットワーク上にある場合は、変更が必要です。

変更しないウィザードは、起動する必要はありません。

1台目のインストール時に設定した内容が各ウィザードに反映されていない場合は、もう一度フロッピーディスクのディスクコピーからやり直してください。

3.5.3 事前設定モードでインストールを行う

事前設定モードでコンフィグレーションファイルを編集してインストールを行います。あらかじめ事前設定モードを実行するクライアントコンピュータを用意してください。

- 1 事前設定を行うクライアントコンピュータに、すでに ServerStart がインストールされている場合、インストール済みの ServerStart をアンインストールします。

アンインストール方法については、「A.15 ServerStart のアンインストール」(→ P.256) を参照してください。

重要

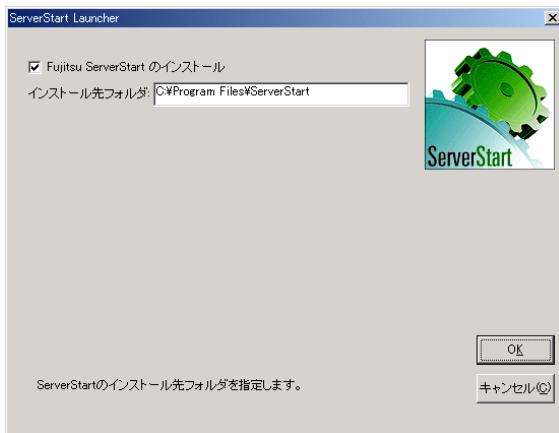
- 異なるバージョンの ServerStart がインストールされている状態で事前設定モードを起動すると、フロッピービルダ機能や、インストールウィザード機能が正常に動作しない可能性があります。インストール済みの ServerStart は、必ずアンインストールしてください。

- 2 クライアントコンピュータに、ServerStart CD-ROM をセットします。

「ServerStart Launcher」画面が表示されます。

「ServerStart Launcher」画面が表示されない場合は、CD-ROM 内の "Launcher.exe" を実行してください。

はじめて ServerStart をインストールする場合は、次の画面が表示されます。



- 3 [Microsoft Windows Operating Systems のインストールー事前設定モード] をクリックします。

「Microsoft Windows Operating Systems のインストール」画面が表示されます。

- 4 インストールする OS を選択します。

- ・Windows NT 4.0 の場合は、[Microsoft Windows NT 4.0 新規インストールー事前設定モード] をクリックします。
- ・Windows 2000 の場合は、[Microsoft Windows 2000 新規インストールー事前設定モード] をクリックします。

事前設定モードが起動します。

- 5** フロッピーディスクドライブに、事前にディスクコピーした ServerStart フロッピーディスクをセットし、[コンフィグレーションファイルを開く／作成する] をクリックします。

「ServerStart コンフィグレーションファイルを開きます」画面が表示されます。

- 6** A ドライブの「SerStartBatch.ini」を指定して、[開く] をクリックします。
事前設定モードの画面に戻ります。

各ウィザードの設定からインストールの完了までの手順については、「3.3 事前設定モード」(→ P.69) を参照してください。各ウィザードの設定項目には、1台目のインストール時に設定した内容が設定されています。2台目以降のインストールでは、[OS インストールウィザード] の、以下の項目を変更する必要があります。その他の項目については、必要に応じて設定を変更してください。

画面名	設定項目名	備考
ユーザ情報	コンピュータ名	1台目と2台目以降が同じネットワーク上にある場合は、変更が必要です。
	プロダクト ID/CD キー	変更は必須です。
ネットワークプロトコル	IP アドレス	1台目と2台目以降が同じネットワーク上にある場合は、変更が必要です。

変更しないウィザードは、起動する必要はありません。

1台目のインストール時に設定した内容が各ウィザードに反映されていない場合は、もう一度フロッピーディスクのディスクコピーからやり直してください。

3.6 再インストール

ServerStart を使用してサーバを再インストールする方法について説明します。

ServerStart を使用しない場合は、「3.7 OS の手動インストール (C150 の場合)」(→ P.96)、または「3.8 OS の手動インストール (L100 の場合)」(→ P.107) を参照してインストールを行ってください。

3.6.1 再インストールの前に

■ 再インストール時の注意事項

再インストールをする前に、以下の注意事項をよくお読みください。

3

● 外部 SCSI オプション装置搭載時の注意

SCSI カードまたは SCSI アレイコントローラカードを搭載して、SCSI オプション装置 (ハードディスクキャビネット、光磁気ディスクユニット、DAT など) を増設している場合は、再インストールの前に取り外してください。再度 SCSI オプション装置を増設する場合は、OS のインストールが終了してから接続してください。OS のインストールが終了する前に接続すると、ドライブ文字が正しく割り当てられない場合があります。詳細は、「A.8 Windows NT でのドライブ文字の割り当てについて」(→ P.250) を参照してください。

POINT

- その他の注意事項については、初回インストールの場合と同じです。

■ インストール方法の選択

前回のインストールをどの方法で行ったかによって、再インストールの方法は異なります。以下の表を参照して該当する参照先へお進みください。

前回のインストール	再インストール	参照
OS インストールタイプの開封	ガイドモード	「3.2 ガイドモード」(→ P.50)
	事前設定モード	「3.3 事前設定モード」(→ P.69)
	エクスパートモード	「3.4 エクスパートモード」(→ P.76)
	手動	「3.7 OS の手動インストール(C150 の場合)」(→ P.96) 「3.8 OS の手動インストール(L100 の場合)」(→ P.107)
ガイドモード 事前設定モード	事前設定モード	「3.6.3 ガイドモード／事前設定モードでの再インストール」(→ P.94)
エクスパートモード	エクスパートモード	「3.6.4 エクスパートモードでの再インストール」(→ P.94)

3.6.2 OS インストールタイプの再インストール

OS インストールタイプの開封を行った場合、再インストールは、他の方法の初回インストールと同じ手順で行ってください。

OS のインストール完了後、必ず以下の手順で OEM 情報をインストールしてください。

CD-ROM ドライブを D: として説明しています。ご使用の環境に合わせて読み替えてください。

- 1 管理者権限でサーバにログオンします。**
- 2 CD-ROM ドライブに ServerStart CD-ROM をセットします。**
「Server Start」画面が表示されたら、いったん Server Start を終了します。
- 3 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「コマンドプロンプト」の順にクリックします。**
- 4 次のように入力し、それぞれ【Enter】キーを押します。**
d: 【Enter】キー
oemcopy 【Enter】キー
- 5 以降は、画面のメッセージに従ってインストールを行ってください。**

POINT

- ▶ インストールしたサポート情報は、以下の手順で見ることができます。
 1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
 2. 「システム」アイコンをダブルクリックし、起動させます。
 3. 「全般」タブの「サポート情報」をクリックします。サポート情報が表示されます。

3.6.3 ガイドモード／事前設定モードでの再インストール

前回のインストールをガイドモードまたは事前設定モードで行った場合、再インストールには、前回のインストールで使用した「ServerStart フロッピーディスク」をそのまま使用できます。前回のインストールと全く同じ設定で再インストールを行う場合は、「ServerStart フロッピーディスク」内のコンフィグレーションファイルを編集する必要はありません。「3.3.3 インストールの開始」(→ P.72) を参照してインストールを行ってください。

3.6.4 エキスパートモードでの再インストール

前回のインストールをエキスパートモードで行った場合、再インストールには、前回のインストール時に保存したコンフィグレーションファイルを使用できます。コンフィグレーションファイルは、ServerStart フロッピーディスク内に保存されている必要があります。

ただし、コンフィグレーションファイルに保存されている設定項目は、「OS インストールウィザード」と「アプリケーションウィザード」のみです。

設定が保存されていない項目については、初回インストール時と同様に設定が必要です。「3.4 エキスパートモード」(→ P.76) を参照し、エキスパートモードでのインストールを行ってください。

POINT

- ▶ 以下の項目は設定が保存されていません。それぞれ設定してください。
 - ・システム構成ウィザード（通常設定する必要はありません。）
 - ・RAID の構築
 - ・メンテナンス区画の作成
 - ・区画の作成／フォーマット

設定が保存されている項目については、以下の操作を行い、コンフィグレーションファイルの設定内容を読み込みます。

- 1** エキスパートモードを起動します。
- 2** [(OS) ウィザード] を起動すると、コンフィグレーションファイルを指定するようメッセージが表示されます。
- 3** コンフィグレーションファイルの入ったフロッピーディスクをセットし、[はい] をクリックします。
「ServerStart コンフィグレーションファイルを開きます」画面が表示されます。
- 4** A ドライブの「SerStartBatch.ini」を指定して [開く] をクリックします。
設定内容が読み込まれ、OS インストールウィザードに反映されます。
- 5** 各設定項目に値が反映されているか確認し、ウィザードを終了します。
アプリケーションウィザードも同様に、各設定項目が正しく反映されているか確認します。
以降の手順は初回インストール時と同様です。

3.7 OS の手動インストール (C150 の場合)

ServerStart を使用しない場合の、OS インストール方法について説明します。
インストールを開始する前に「2.4 OS を手動インストールする前に」(→ P.31) をお読みになり、留意事項を確認してください。

3.7.1 Windows 2000 Server のインストール

POINT

- サーバ本体に搭載の SCSI または IDE アレイコントローラカード配下に Windows 2000 Server をインストールするハードディスクが接続されている装置を対象にしています。

1 ドライバディスクを作成します。

Windows 2000 Server をインストールする前に、必要なドライバを用意してください。Windows 2000 Server で使用するドライバには、ServerStart CD-ROM から作成するものもあります。Windows 2000 Server で使用するドライバの種類とドライバディスクの作成方法の詳細については、「第 7 章 ドライバの作成方法」(→ P.234) を参照してください。

●インストール時に使用するドライバ

オプションカード / オンボードコントローラ	ドライバ
チップセット	C150 Chipset Driver V1.0
グラフィックカード	C150 Display Driver for Windows 2000 V6.55.01-010107x-906c
オンボード LAN	*
LAN カード (PG-1851)	
LAN カード (PG-1871L)	
LAN カード (PG-189)	*
IDE アレイコントローラカード	*
SCSI アレイコントローラカード (PG-141B)	*
SCSI カード (PG-128)	OS 標準提供のドライバ
SCSI カード (PG-129)	*
FAX モデムカード (FMV-FX533)	FMV-FX533 モデムカード用ドライバ
上記以外のオプションカード	各オプションカードに添付のドライバ

*ServerStart CD-ROM から作成します。

2 メンテナンス区画を作成します。

サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を、ServerStart CD-ROM を使用して作成します。保守サポートサービスをご利用になる場合は、メンテナンス区画が必要となります。メンテナンス区画は、エキスペートモードの機能を使用して作成します。詳細は、「3.4 エキスペートモード」(→ P.76) および「3.4.3 メンテナンス区画の作成」(→ P.79) を参照してください。なお、メンテナンス区画作成後は、ServerStart を終了して、サーバ本体の電源を切断してください。

重要

- ▶ メンテナンス区画のサイズについて
サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を作成した場合は、150MB 使用します。
ディスクアドミニストレータを使用した場合には、メンテナンス区画のことが「EISA ユーティリティ」と表示されます。そのまま削除せずに使用してください。

3 Windows 2000 Server の CD-ROM を準備します。

サーバの電源を入れた直後に Windows 2000 Server の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。このとき、フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っていないことを確認してください。ハードディスクにアクティブ領域が設定されていると、画面に以下のメッセージが表示されます。

Press any key to boot from CD....

この場合、メッセージが表示されている間に任意のキーを押すことで、CD-ROM からブートします。

4 Windows 2000 Server セットアップ画面が表示されます。

セットアップ画面表示直後に以下のメッセージが画面下に表示されるので、【F6】キーを押します。

Press F6 if you need to install a third party SCSI or RAID driver ...

重要

- ▶ このメッセージは、セットアップ画面（青い画面）が表示された直後のわずかな時間しか表示されませんので、画面が青色に変わったあとすぐに【F6】キーを押してください。

5 手動でドライバを組み込みます。

1. 以下のメッセージが表示されたら【S】キーを押します。

To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives, or special disk controllers for use with Windows 2000, including those for which you have a device support disk from a mass storage device manufacturer, press S.

2. 「Please insert the disk labeled Manufacturer-supplied hardware support disk into Drive A:」というメッセージが表示されたら、ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、【Enter】キーを押します。

以下のメッセージが表示されます。

You have chosen to configure a SCSI Adapter for use with Windows 2000, using a device support disk provided by an adapter manufacturer.

Select the SCSI Adapter you want from the following list, or press ESC to return to the previous screen.

3. お使いのカードにより、以下を選択します。

・IDE アレイコントローラの場合

Win2000 Promise FastTrak100 (tm) LP/TX2/TX4
Controller

・SCSI アレイコントローラの場合

Adaptec I20 RAID Adapters for Windows 2000 & XP 32bit

・SCSI コントローラの場合

Symbios Ultra3 PCI SCSI Driver

4. 画面の指示に従って、インストールを行ってください。

インストール中にフロッピーディスクをセットするようメッセージが表示された場合は、それぞれ ServerStart CD-ROM から作成した以下のドライバディスクをフロッピーディスクドライブにセットして【Enter】キーを押してください。

・IDE アレイコントローラカードの場合

「Onboard/IDE RAID Card FastTrak100LP Drivers Disk V2.03L10」

・SCSI アレイコントローラの場合

「PG-141B/142B Windows 2000 Driver and Storage Manager V3.23L20 Disk1」

・SCSI カードの場合

「PG-129 Windows 2000 Driver V5.09L40」

POINT

- 他のカードのドライバをインストールする場合は、手順4、5を繰り返して、ドライバをインストールしてください。

6 セットアッププログラムの指示に従って、インストール作業を続行します。

●SBS 2000 をインストールの場合

- インストールするハードディスクユニットのパーティションを選択するようメッセージが表示されます。

画面の指示に従って、4GB 以上のパーティションを作成します。必ず NTFS ファイルシステムでフォーマット後、インストールを続けてください。

- フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されたら、ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをフロッピーディスクドライブにセットして【Enter】キーを押してください。

- インストール終了後、画面の指示に従って再起動してください。ログオン後、「Small Business Server 2000 セットアップ」画面が表示されます。

【Small Business Server 2000 セットアップ】をクリックし、画面の指示に従って SBS 2000 のインストールを行ってください。

POINT

- インストールの要件を満たしていないシステムにインストールを行った場合、インストール中に「Suite 要件」画面が表示され、説明が表示されます。説明を参考に、要件を満たすように変更後、インストールを継続してください。

※ 重要

▶ 再起動時の注意

インストールの途中で、セットアッププログラムが再起動するメッセージを表示します。この場合、自動的に再起動するのを待ってください。

7 LAN ドライバをインストールします。

ServerStart CD-ROM を使用して、LAN ドライバをインストールします。詳細は、「7.2.1 LAN ドライバのインストール (Windows 2000 Server)」(→ P.238) を参照してください。

8 チップセットドライバをインストールします。

1. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。

ServerStart の画面が表示された場合は、いったん ServerStart を終了します。

2. ServerStart CD-ROM 内の以下のコマンドを実行します。

```
<CD-ROM>:¥DRIVERS¥ChipSet¥Intel¥infinst_autol.exe
```

3. 以降、画面の指示に従ってインストールを行ってください。

4. 「InstallShield(R) ウィザードが完了しました。」と画面に表示されたら、ServerStart CD-ROM を CD-ROM ドライブから取り出し、[完了] をクリックしてシステムを再起動します。

9 ディスプレイドライバをインストールします。

1. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。

ServerStart の画面が表示された場合は、いったん ServerStart を終了します。

2. 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、表示されたメニューから「管理」を選択します。

3. 表示された画面内の一覧から「デバイスマネージャ」をクリックします。

4. 「その他のデバイス」配下の「ビデオコントローラ (VGA 互換)」をダブルクリックします。

5. ビデオコントローラ (VGA 互換) のプロパティ画面が表示されたら、「ドライバ」タブを選択し、「ドライバの更新」をクリックします。

6. デバイス ドライバのアップグレード ウィザードの開始画面で [次へ] をクリックします。

7. ハードウェア デバイス ドライバのインストール画面で「デバイスに最適なドライバを検索する (推奨)」を選択し、[次へ] をクリックします。

8. ドライバ ファイルの特定画面で「場所の指定」のみを選択し、[次へ] をクリックします。

9. 「製造元のファイルのコピー元」を「D:¥DRIVERS¥VIDEO¥ATI¥Rage128¥W2K」に指定し、[OK] をクリックします。

10. 「ドライバ ファイルの検索」画面で以下のメッセージが表示されるのを確認し、[次へ] をクリックします。

次のドライバが検索されました。

ビデオ コントローラ (VGA 互換)

現在のドライバよりさらに適切なドライバが検出されました。このドライバをインストールするには、[次へ] をクリックしてください。

d¥drivers¥video¥ati¥rage_128¥w2k¥ati2kaa.inf

11. 「デバイス ドライバのアップグレード ウィザードの完了」画面で以下のメッセージが表示されるので、[完了] をクリックします。

RAGE 128 ULTRA
このデバイスに対するソフトウェアのインストールが終了しました。

12. ServerStart CD-ROM を CD-ROM ドライブから取り出し、設定内容を有効にするためにシステムを再起動してください。

10 各ドライバのインストール終了後、Windows 2000 Service Pack を適用します。

Windows 2000 Service Pack の CD-ROM から Service Pack を適用します。詳細については、画面の説明を参照してください。

Service Pack 適用時に、ドライバが Service Pack 内のドライバに置換される場合があります。詳細については、各ハードウェアに添付のマニュアルを参照してください。

ServerStart には CD-ROM のラベルに記載されている Service Pack が搭載されています。

この Service Pack を適用するには、CD-ROM 内の以下の EXE を起動してください。

ここでは CD-ROM ドライブを d: としています。

```
d:\w2ksp3.exe
```

これで Windows 2000 Server のインストールは終了です。

サーバの運用を開始する前に、「第4章 OS インストール後の操作」(→ P.115) を参照し、「修復ディスクの作成」、「高信頼ツールのインストール」などを行ってください。

3.7.2 Windows NT Server 4.0 のインストール

POINT

- サーバ本体に搭載の SCSI または RAID アレイコントローラカード配下に Windows NT Server 4.0 をインストールするハードディスクが接続されている装置を対象にしています。

1 ドライバディスクを作成します。

Windows NT Server 4.0 をインストールする前に、必要なドライバを用意してください。

Windows NT Server 4.0 で使用するドライバには、ServerStart CD-ROM から作成するものがあります。Windows NT Server 4.0 で使用するドライバの種類とドライバディスクの作成方法の詳細については、「7.1 ドライバの作成方法」(→ P.234) を参照してください。

● インストール時に使用するドライバ

オプションカード / オンボードコントローラ	ドライバ
グラフィックカード	C150 Display Driver for Windows NT Vers.6.55.01-010107x-906c
オンボード LAN	*
LAN カード (PG-1851)	
LAN カード (PG-1871)	
LAN カード (PG-189)	*
IDE アレイコントローラカード	*
SCSI アレイコントローラカード (PG-141B)	*
SCSI カード (PG-128)	*
SCSI カード (PG-129)	*
FAX モデムカード (FMV-FX533)	FMV-FX533 モデムカード用ドライバ
上記以外のオプションカード	各オプションカードに添付のドライバ

*ServerStart CD-ROM から作成します。

2 メンテナンス区画を作成します。

サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を、ServerStart CD-ROM から作成します。保守サポートサービスをご利用になる場合は、メンテナンス区画が必要となります。メンテナンス区画は、エキスパートモードの機能を使用して作成します。詳細は、「3.4 エキスパートモード」(→ P.76) および「3.4.3 メンテナンス区画の作成」(→ P.79) を参照してください。

なお、メンテナンス区画作成後は、ServerStart を終了してサーバ本体の電源を切断してください。

重要

- ▶ メンテナンス区画のサイズについて
サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を作成した場合は、150MB 使用します。
ディスクアドミニストレータを使用した場合には、メンテナンス区画のことが「EISA ユーティリティ」と表示されます。そのまま削除せずに使用してください。

3 Windows NT Server 4.0 のセットアップディスク 1 をフロッピーディスクドライブにセットし、サーバの電源を入れます。

このとき、CD-ROM ドライブに CD-ROM が入っていないことを確認してください。

4 Windows NT Server セットアップ初期画面が表示されます。

セットアップ初期画面の指示に従って、セットアップディスクの交換を行います。
Windows NT Server セットアップ画面が表示されます。

5 CD-ROM ドライブコントローラのドライバをインストールします。

1. 画面下方に、以下のメッセージが表示されたら、【S】キーを押します。

大容量記憶装置の検出を省略するには、S キーを押してください。
SCSI アダプタ、CD-ROM ドライブ、および特殊なディスク コントローラを手動で選択してインストールできます。

2. 画面下方に、以下のメッセージが表示されたら、【S】キーを押します。

Windows NT で使用する SCSI アダプタ、CD-ROM ドライブ、
または特殊なディスク コントローラを追加して指定する場合は、
S キーを押してください。大容量記憶装置のメーカーのデバイス
サポート ディスクで指定する場合も、S キーを押してください。

3. 以下を選択します。

IDE CD-ROM(ATAPI 2.2)/PCI IDE Controller

4. 画面の指示に従って、「Windows NT Server Setup Disk #3」をフロッピーディスク ドライブにセットし、【Enter】キーを押します。
ドライバがインストールされます。

6 手動でドライバを組み込みます。

1. 画面下方に、以下のメッセージが表示されたら、【S】キーを押します。

Windows NT で使用する SCSI アダプタ、CD-ROM ドライブ、
または特殊なディスク コントローラを追加して指定する場合は、
S キーを押してください。大容量記憶装置のメーカーのデバイス
サポート ディスクで指定する場合も、S キーを押してください。

2. 以下を選択します。

その他 (ハードウェアメーカー提供のディスクが必要)

3. ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクを、フロッピーディスク ドライブにセットし、【Enter】キーを押します。
4. お使いのカードにより、以下を選択します。

- IDE アレイコントローラの場合

WinNT Promise FastTrak100 (tm) LP/TX2/TX4 Controller

- SCSI アレイコントローラの場合

Adaptec I20 RAID Host Adapters for NT4.0

- SCSI コントローラの場合

Symbios Ultra3 PCI SCSI Driver

ドライバがインストールされます。

7 選択したコントローラが表示されます。

確認後、【Enter】キーを押します。

8 セットアッププログラムの指示に従って、インストール作業を続行します。

Windows NT Server の CD-ROM を入れるようメッセージが表示されたら、Windows NT Server の CD-ROM をセットします。

9 Windows NT Server 4.0 をインストールするハードディスクユニットのパーティションを選択する画面が表示されます。画面の指示に従って、パーティションを作成し、インストールを続行してください。

10 ドライバのフロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。 ServerStart CD-ROMから作成した以下のドライバディスクをフロッピーディスク ドライブにセットして、【Enter】キーを押します。

- IDE アレイコントローラカードの場合

「Onboard/IDE RAID Card FastTrak100LP Drivers Disk V2.03L10」

- ・SCSI アレイコントローラの場合
「PG-141B/142B Windows NT Driver and Storage Manager V3.23L10 Disk1」
- ・SCSI カードの場合
「PG-129 Windows NT Driver V5.05」

11 以降、セットアッププログラムおよび『Windows NT Server ファーストステップガイド』の指示に従って、Windows NT Server 4.0 のインストールを続行します。

重要

▶ 再起動時の注意

インストールの途中で、セットアッププログラムが再起動するようにメッセージを表示します。この場合、1分ほど待ってから、再起動してください。

SCSI アレイコントローラカードをご使用の場合で、バックグラウンドで初期化処理中はハードディスクのアクセスランプが点灯していますが、再起動は可能です。

12 LAN ドライバをインストールします。

「ネットワークアダプタカードの検出」画面が表示されたら、ServerStart CD-ROM から作成した LAN ドライバディスクを使って、LAN ドライバをインストールします。インストール方法について、詳細は「7.2.2 LAN ドライバのインストール (Windows NT Server 4.0)」(→ P.239) を参照してください。

13 インストール終了後、Windows NT 4.0 Service Pack を適用します。

本サーバに添付されている Service Pack のうち、最新の Service Pack を適用します。詳細については、画面の説明を参照してください。

重要

▶ ドライバは置換しないでください。

Service Pack適用中に、ドライバを置換するかどうかのメッセージが表示される場合がありますが、置換しないでください。

14 再起動後、ディスプレイドライバをインストールします。

1. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。

ServerStart の画面が表示された場合は、いったん ServerStart を終了します。

2. ServerStart CD-ROM 内の以下のコマンドを実行します。

```
<CD-ROM>:¥DRIVERS¥VIDEO¥ATI¥Rage128¥NT4¥setup.exe
```

画面の指示に従い、インストールを行います。

3. インストール終了後、ServerStart CD-ROM を CD-ROM ドライブから取り出し、設定内容を有効にするためにシステムを再起動してください。

これで Windows NT Server 4.0 のインストールは終了です。

サーバの運用を開始する前に、「第 4 章 OS インストール後の操作」(→ P.115) を参照し、「修復ディスクの作成」、「高信頼ツールのインストール」などを行ってください。

3.7.3 NetWare 5.1 のインストール

POINT

- サーバ本体に搭載のSCSIカードまたはSCSIアレイコントローラカード配下にNetWare 5.1をインストールするハードディスクが接続されている装置を対象にしています。

1 ドライバディスクを作成します。

NetWare 5.1 をインストールする前に、必要なドライバを用意してください。

NetWare 5.1 で使用するドライバには、ServerStart CD-ROM から作成するものがあります。NetWare 5.1 で使用するドライバの種類とドライバディスクの作成方法の詳細については、「7.1 ドライバの作成方法」(→ P.234) を参照してください。

●インストール時に使用するドライバ

オプションカード / オンボードコントローラ	ドライバ
グラフィックコントローラ	OS 標準提供のドライバ
オンボード LAN	*
LAN カード (PG-1851)	
LAN カード (PG-1871)	
LAN カード (PG-189)	*
SCSI アレイコントローラカード (PG-141B)	*
SCSI カード (PG-128)	*
SCSI カード (PG-129)	*
Pentium 4 用の修正プログラム	*
上記以外のオプションカード	各オプションカードに添付のドライバ

*ServerStart CD-ROM から作成します。

2 データのバックアップを行います。

インストール前に、ハードディスクユニットのフォーマットを行います。ハードディスクユニット内に大切なデータが含まれている場合は、事前にバックアップを行ってください。

3 ハードディスクユニットの区画設定と DOS 基本ファイルをコピーします。

1. ハードディスクユニットの区画設定を行います。

NetWare 5.1 の CD-ROM (Operating System) をサーバにセットし、システムを再起動します。DOS が起動し、NetWare 5.1 のインストーラが起動します。

2. 「Select this Line to install in Japanese」を選択します。

3. 「Read License Agreement」の内容を確認し、[Accept License Agreement] を選択します。

4. DOS の基本ファイルをコピーする区画を作成します。

「Create a New Boot Partition」を選択します。

「Options」の「Modify」を選択し、「Enter new DOS Partition size (in MB)」に基本 DOS 領域に必要な容量を設定します。

「Continue」を 2 回選択し、システムを再起動します。

4 再起動後、NetWare 5.1 のインストーラが起動します。

画面の指示に従って、インストールを行っていきます。

5 Pentium 4 用の修復プログラムをインストールします。

1. 「新しいサーバですか、グレードアップですか？」と表示されたら、「オプション」ウィンドウにカーソルを合わせ、【F3】キーを押します。
2. ServerStart CD-ROM から作成した「PRIMERGY C150 NetWare 5.1 Pentium(R) 4 Patch V1.0L10」をセットします。
3. 「A:¥RESPONSE.TXT」と入力して【Enter】キーを押します。
インストールを続行します。

6 ドライバをインストールします。

● SCSI アレイコントローラカードをご使用の場合

1. 「記憶アダプタ」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
2. すでに組み込まれているドライバを選択解除します。
「12OPCI.NLM」にカーソルを合わせ、【Delete】キーを押します。
3. ディスクドライバを指定します。
【Insert】キーを 2 回押し、【F3】キーを押します。
4. ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをセットします。
5. 以下のコマンドを入力して【Enter】キーを押します。

A:¥NW

ディスクドライバがコピーされ、「ドライバ名」に「12OPCI.NLM」が表示されます。

6. 「追加ドライバオプション」の「ドライバサマリに戻る」を選択し、インストールを続行します。
7. 記憶デバイスを選択します。
「次の ADAPTER をサポートする複数のドライバが見つかりました」画面で「BKSTROSM.HAM」を選択します。
インストールを続行します。

● SCSI カードをご使用の場合

1. 「記憶アダプタ」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
2. ディスクドライバを指定します。
【Insert】キーを 2 回押し、【F3】キーを押します。
3. ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをセットし、【Enter】キーを押します。
ディスクドライバがコピーされ、「ドライバ名」に「SYM_U3NW_HAM」が表示されます。
4. 「追加ドライバオプション」の「ドライバサマリに戻る」を選択し、インストールを続行します。

7 LAN ドライバをインストールします。

1. 「ネットワークボード」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
2. LAN ドライバを指定します。
【Insert】キーを 2 回押し、【F3】キーを押します。
3. ServerStart CD-ROM から作成した LAN ドライバディスクをセットします。
4. 以下のコマンドを入力して【Enter】キーを押します。

A:¥NWSERVER

ディスクドライバがコピーされ、「ドライバ名」に「CE100B.LAN」が表示されます。

5. 以下の名称が表示されていることを確認してください。

- SCSI アレイコントローラご使用の場合

- 「記憶デバイス」 : 「BKSTROSM」、「IDECD」
 - 「ネットワークボード」 : 「CE100B」
 - ・SCSI カードご使用の場合
 - 「記憶デバイス」 : 「SCSIHD」、「IDECD」
 - 「ネットワークボード」 : 「CE100B」
6. 「追加ドライバオプション」の「ドライバサマリに戻る」を選択し、インストールを続行します。

8 ServerStart CD-ROMから作成したPentium 4用の修正プログラムのフロッピーディスクをセットします。

以降、画面の指示および NetWare 5.1 に添付のマニュアルの指示に従って、インストールを続行します。

重要

- ▶ インストールが終了するまで、Pentium 4 用の修正プログラムのフロッピーディスクはセットしたままにしておいてください。

■ インストール後の留意事項

- NetWare 5.1 でミラーリングを行う場合は、ハードディスク 3 台以上によるミラーリングは設定できません。ハードディスク 2 台でのミラーリングに設定してください。
- NetWare 5.1 の AUTOEXEC.NCF で、NetWare 5.1 のモニタ画面 "MONITOR.NLM" と、NetWare for FNA のモニタ画面 "FJNNON.NLM" を記述する場合は、"MONITOR.NLM" をサーバ ID の直後に記述してください。
- NetWare 5.1 のインストール後、NetWare 5.1 用の最新パッチモジュールを適用してください。

3.7.4 Linux のインストール

Linux サービスバンドルタイプをご購入の場合は、本体に添付の Linux 関連マニュアルを参照してください。また、HD タイプ / ディスクレスタイプにて Linux ディストリビューションをご使用の場合は、下記の URL の Linux 情報を参照してください。

- PRIMESERVER WORLD Linux 関連情報
<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/linux/>

3.8 OS の手動インストール (L100 の場合)

ServerStart を使用しない場合の、OS インストール方法について説明します。

インストールを開始する前に「2.4 OS を手動インストールする前に」(→ P.31) をお読みになり、留意事項を確認してください。

3.8.1 Windows 2000 Server のインストール

POINT

- サーバ本体に搭載のオンボードIDEアレイコントローラカード配下にWindows 2000 Server をインストールするハードディスクが接続されている装置を対象にしています。

1 ドライバディスクを作成します。

Windows 2000 Server をインストールする前に、必要なドライバを用意してください。

Windows 2000 Server で使用するドライバには、ServerStart CD-ROM から作成するものもあります。Windows 2000 Server で使用するドライバの種類とドライバディスクの作成方法の詳細については、「7.1 ドライバの作成方法」(→ P.234) を参照してください。

● インストール時に必要なドライバディスク

オプションカード / オンボードコントローラ	ドライバ
グラフィックコントローラ	L100 OnBoard Display Driver for Windows 2000 V5.0.2195.5005
オンボード LAN	*
LAN カード (PG-1851)	
LAN カード (PG-1871)	
LAN カード (PG-1871L)	
LAN カード (PG-1881)	*
LAN カード (PG-1891)	
オンボード IDE アレイコントローラ	*
SCSI カード (PG-128)	OS 標準提供のドライバ
SCSI カード (PG-130L)	OS 標準提供のドライバ
上記以外のオプションカード	各オプションカードに添付のドライバ

*ServerStart CD-ROM から作成します。

2 メンテナンス区画を作成します。

サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を、ServerStart CD-ROM を使用して作成します。保守サポートサービスをご利用になる場合は、メンテナンス区画が必要となります。メンテナンス区画は、エキスパートモードの機能を使用して作成します。詳細は、「3.4 エキスパートモード」(→ P.76) および「3.4.3 メンテナンス区画の作成」(→ P.79) を参照してください。

なお、メンテナンス区画作成後は、ServerStart を終了して、サーバ本体の電源を切斷してください。

☞ 重要

- ▶ メンテナンス区画のサイズについて
サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を作成した場合は、150MB 使用します。
ディスクアドミニストレータを使用した場合には、メンテナンス区画のことが「EISA ユーティリティ」と表示されます。そのまま削除せずに使用してください。

3 Windows 2000 Server の CD-ROM を準備します。

サーバの電源を入れた直後に Windows 2000 Server の CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットします。このとき、フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っていないことを確認してください。ハードディスクにアクティブ領域が設定されていると、画面に以下のメッセージが表示されます。

Press any key to boot from CD....

この場合、メッセージが表示されている間に任意のキーを押すことで、CD-ROM からブートします。

4 Windows 2000 Server セットアップ画面が表示されます。

セットアップ画面表示直後に以下のメッセージが画面下に表示されるので、【F6】キーを押します。

Press F6 if you need to install a third party SCSI or RAID driver ...

☞ 重要

- ▶ このメッセージは、セットアップ画面（青い画面）が表示された直後のわずかな時間しか表示されませんので、画面が青色に変わったあとすぐに【F6】キーを押してください。

5 手動でドライバを組み込みます。

1. 以下のメッセージが表示されたら【S】キーを押します。

To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives, or special disk controllers for use with Windows 2000, including those for which you have a device support disk from a mass storage device manufacturer, press S.

2. 「Please insert the disk labeled Manufacturer-supplied hardware support disk into Drive A:」というメッセージが表示されたら、ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、【Enter】キーを押します。

次のメッセージが表示されます。

You have chosen to configure a SCSI Adapter for use with Windows 2000, using a device support disk provided by an adapter manufacturer.

Select the SCSI Adapter you want from the following list, or press ESC to return to the previous screen.

3. 以下を選択します。

Win2000 Promise FastTrack100(tm) Controller(Primergy L100)

4. 画面の指示に従って、インストールを行ってください。

インストール中にフロッピーディスクをセットするようメッセージが表示された場合は、ServerStart CD-ROM から作成した以下のドライバディスクをフロッピーディスクドライブにセットして【Enter】キーを押してください。

「Onboard / IDE RAID Card FastTrack100LP Driver Disk V2.03L10」

POINT

- ▶ 他のカードのドライバをインストールする場合は、手順4、5を繰り返して、ドライバをインストールしてください。

6 セットアッププログラムの指示に従って、インストール作業を続行します。

重要

▶ 再起動時の注意

インストールの途中で、セットアッププログラムが再起動するメッセージを表示します。この場合、自動的に再起動するのを待ってください。

7 LAN ドライバをインストールします。

ServerStart CD-ROM を使用して、LAN ドライバをインストールします。詳細は、「7.2.1 LAN ドライバのインストール (Windows 2000 Server)」(→ P.238) を参照してください。

8 チップセットドライバをインストールします。

1. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。

ServerStart の画面が表示された場合は、いったん ServerStart を終了します。

2. ServerStart CD-ROM 内の以下のコマンドを実行します。

<CD-ROM ドライブ>:DRIVERS\¥L100\¥VIAChipSet\¥via4in1.exe

3. 以降、画面の指示に従ってインストールを行ってください。

4. 「InstallShield(R) ウィザードが完了しました。」と画面に表示されたら、ServerStart CD-ROM を CD-ROM ドライブから取り出し、[完了] をクリックしてシステムを再起動します。

9 ディスプレイドライバをインストールします。

1. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。

ServerStart の画面が表示された場合は、いったん ServerStart を終了します。

2. 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、表示されたメニューから「管理」を選択します。

3. 表示された画面内の一覧から「デバイスマネージャ」をクリックします。

4. 「ディスプレイアダプタ」配下の「ATI Technologies Inc. RAGE XL AGP 2X」をダブルクリックします。

5. 「ATI Technologies Inc. RAGE XL AGP 2X」のプロパティ画面が表示されたら、「ドライバ」タブを選択し、「ドライバの更新」をクリックします。

6. デバイスドライバのアップグレード ウィザードの開始画面で「次へ」をクリックします。

7. ハードウェア デバイス ドライバのインストール画面で「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」を選択し、「次へ」をクリックします。

8. ドライバファイルの特定画面で「場所の指定」のみを選択し、「次へ」をクリックします。

9. 「製造元のファイルのコピー元」を「D:\DRIVERS\VIDEO\ATI\RageXL\W2K」に指定し、[OK] をクリックします。
10. 「ドライバ ファイルの検索」画面で以下のメッセージが表示されるのを確認し、[次へ] をクリックします。

次のドライバが検索されました。
 ATI Technologies Inc. RAGE XL AGP 2X
 現在のドライバよりさらに適切なドライバが検出されました。このドライバをインストールするには、[次へ] をクリックしてください。
 d:\drivers\video\ati\ragexl\w2k\ati2kad.inf

11. 「デバイス ドライバのアップグレード ウィザードの完了」画面で以下のメッセージが表示されるので、[完了] をクリックします。

XPERT 98 RXL AGP 2X
 このデバイスに対するソフトウェアのインストールが終了しました。

12. ServerStart CD-ROM を CD-ROM ドライブから取り出し、設定内容を有効にするためにシステムを再起動してください。

10 各ドライバのインストール終了後、Windows 2000 Service Pack を適用します。

Windows 2000 Service Pack の CD-ROM から Service Pack を適用します。詳細については、画面の説明を参照してください。

Service Pack 適用時に、ドライバが Service Pack 内のドライバに置換される場合があります。詳細については、各ハードウェアに添付のマニュアルを参照してください。

ServerStart には CD-ROM のラベルに記載されている Service Pack が搭載されています。

この Service Pack を適用するには、CD-ROM 内の以下の EXE を起動してください。

ここでは CD-ROM ドライブを d: としています。

d:\w2ksp3.exe

11 IDE RAID 管理ツールをインストールします。

インストール方法については、「3.8.4 IDE RAID 管理ツールのインストール」(→ P.114) を参照してください。

これで Windows 2000 Server のインストールは終了です。

サーバの運用を開始する前に、「第4章 OS インストール後の操作」(→ P.115) を参照し、「修復ディスクの作成」、「高信頼ツールのインストール」などを行ってください。

3.8.2 Windows NT Server 4.0 のインストール

POINT

- ▶ サーバ本体に搭載のオンボード IDE アレイコントローラカード配下に Windows NT Server 4.0 をインストールするハードディスクが接続されている装置を対象にしています。

1 ドライバディスクを作成します。

Windows NT Server 4.0 をインストールする前に、必要なドライバを用意してください。Windows NT Server 4.0 で使用するドライバには、ServerStart CD-ROM から作成するものがあります。Windows NT Server 4.0 で使用するドライバの種類とドライバディスクの作成方法の詳細については、「7.1 ドライバの作成方法」(→ P.234) を参照してください。

● インストール時に使用するドライバ

オプションカード / オンボードコントローラ	ドライバ
グラフィックコントローラ	L100 Onboard Display Driver for Windows NT V4.00.1381.1011
オンボード LAN	*
LAN カード (PG-1851)	
LAN カード (PG-1871)	
LAN カード (PG-1871L)	
LAN カード (PG-1881)	*
LAN カード (PG-1891)	
オンボード IDE アレイコントローラ	*
SCSI カード (PG-128)	*
SCSI カード (PG-130L)	*
上記以外のオプションカード	各オプションカードに添付のドライバ

*ServerStart CD-ROM から作成します。

2 メンテナンス区画を作成します。

サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を、ServerStart CD-ROM から作成します。保守サポートサービスをご利用になる場合は、メンテナンス区画が必要となります。メンテナンス区画は、エキスパートモードの機能を使用して作成します。詳細は、「3.4 エキスパートモード」(→ P.76) および「3.4.3 メンテナンス区画の作成」(→ P.79) を参照してください。

なお、メンテナンス区画作成後は、ServerStart を終了してサーバ本体の電源を切断してください。

重要

- ▶ メンテナンス区画のサイズについて
サーバ保守用アプリケーションをインストールするためのメンテナンス区画を作成した場合は、150MB 使用します。
ディスクアドミニストレータを使用した場合には、メンテナンス区画のことが「EISA ユーティリティ」と表示されます。そのまま削除せずに使用してください。

3 Windows NT Server 4.0 のセットアップディスク 1 をフロッピーディスクドライブにセットし、サーバの電源を入れます。

このとき、CD-ROM ドライブに CD-ROM が入っていないことを確認してください。

4 Windows NT Server セットアップ初期画面が表示されます。

セットアップ初期画面の指示に従って、セットアップディスクの交換を行います。
Windows NT Server セットアップ画面が表示されます。

5 CD-ROM ドライブコントローラのドライバをインストールします。

1. 画面下方に、以下のメッセージが表示されたら、【S】キーを押します。

大容量記憶装置の検出を省略するには、S キーを押してください。
SCSI アダプタ、CD-ROM ドライブ、および特殊なディスク コントローラを手動で選択してインストールできます。

2. 画面下方に、以下のメッセージが表示されたら、【S】キーを押します。

Windows NT で使用する SCSI アダプタ、CD-ROM ドライブ、
または特殊なディスク コントローラを追加して指定する場合は、
S キーを押してください。大容量記憶装置のメーカーのデバイス
サポート ディスクで指定する場合も、S キーを押してください。

3. 以下を選択します。

IDE CD-ROM(ATAPI 2.2)/PCI IDE Controller

4. 画面の指示に従って、「Windows NT Server Setup Disk #3」をフロッピーディスク ドライブにセットし、【Enter】キーを押します。

ドライバがインストールされます。

6 手動でドライバを組み込みます。

1. 画面下方に、以下のメッセージが表示されたら、【S】キーを押します。

Windows NT で使用する SCSI アダプタ、CD-ROM ドライブ、
または特殊なディスク コントローラを追加して指定する場合は、
S キーを押してください。大容量記憶装置のメーカーのデバイス
サポート ディスクで指定する場合も、S キーを押してください。

2. 以下を選択します。

その他 (ハードウェアメーカー提供のディスクが必要)

3. ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクを、フロッピーディスク ドライブにセットし、【Enter】キーを押します。

4. 以下を選択します。

WinNT Promise FastTrack100(tm) Controller(Primergy L100)

ドライバがインストールされます。

7 選択したコントローラが表示されます。

確認後、【Enter】キーを押します。

8 セットアッププログラムの指示に従って、インストール作業を続行します。

Windows NT Server の CD-ROM を入れるようメッセージが表示されたら、Windows NT Server の CD-ROM をセットします。

9 Windows NT Server 4.0 をインストールするハードディスクユニットのパーティションを選択する画面が表示されます。画面の指示に従って、パーティションを作成し、インストールを続行してください。

10 ドライバのフロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。

ServerStart CD-ROM から作成した以下のドライバディスクをフロッピーディスク ドライブにセットして、【Enter】キーを押します。

「Onboard / IDE RAID Card FastTrack100LP Driver Disk V2.03L10」

11 以降、セットアッププログラムおよび『Windows NT Server ファーストステップガイド』の指示に従って、Windows NT Server 4.0 のインストールを続行します。

※ 重要

▶ 再起動時の注意

インストールの途中で、セットアッププログラムが再起動するようにメッセージを表示します。この場合、1分ほど待ってから、再起動してください。

SCSI アレイコントローラカードをご使用の場合で、バックグラウンドで初期化処理中はハードディスクのアクセスランプが点灯していますが、再起動は可能です。

12 LAN ドライバをインストールします。

「ネットワークアダプタカードの検出」画面が表示されたら、ServerStart CD-ROM から作成した LAN ドライバディスクを使って、LAN ドライバをインストールします。インストール方法について、詳細は「7.2.2 LAN ドライバのインストール (Windows NT Server 4.0)」(→ P.239) を参照してください。

13 インストール終了後、Windows NT 4.0 Service Pack を適用します。

本サーバに添付されている Service Pack のうち、最新の Service Pack を適用します。詳細については、画面の説明を参照してください。

※ 重要

▶ ドライバは置換しないでください。

Service Pack適用中に、ドライバを置換するかどうかのメッセージが表示される場合がありますが、置換しないでください。

14 再起動後、ディスプレイドライバをインストールします。

1. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。

ServerStart の画面が表示された場合は、いったん ServerStart を終了します。

2. エクスプローラを起動します。

3. 以下のファイルをダブルクリックします。

<CD-ROM ドライブ>:DRIVERS\VIDEO\ATI\RageXL\NT\Setup.exe

4. 以降は、画面の指示に従って続行してください。

5. ServerStart CD-ROM を取り出し、設定内容を有効にするためにシステムを再起動してください。

15 チップセットドライバをインストールします。

1. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。

ServerStart の画面が表示された場合は、いったん ServerStart を終了します。

2. エクスプローラを起動します。

3. 以下のファイルをダブルクリックします。

<CD-ROM ドライブ>:DRIVERS\L100\VIAChipSet\via4in1.exe

4. 以降は、画面の指示に従って続行してください。

16 IDE RAID 管理ツールをインストールします。

インストール方法については、「3.8.4 IDE RAID 管理ツールのインストール」(→ P.114) をご覧ください。

これで Windows NT Server 4.0 のインストールは終了です。

サーバの運用を開始する前に、「第 4 章 OS インストール後の操作」(→ P.115) を参照し、「修復ディスクの作成」、「高信頼ツールのインストール」などを行ってください。

3.8.3 Linux のインストール

Linux サービスバンドルタイプをご購入の場合は、本体に添付の Linux 関連マニュアルを参照してください。また、HD タイプ / ディスクレスタイプにて Linux ディストリビューションをご使用の場合は、下記の URL の Linux 情報を参照してください。

- PRIMESERVER WORLD Linux 関連情報
<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/linux/>

3.8.4 IDE RAID 管理ツールのインストール

IDE RAID 管理ツールは、ServerStart を使用して OS をインストールした場合は自動的にインストールされます。OS インストールタイプをご購入の場合、および手動で OS をインストールした場合は、以下の手順に従って IDE RAID 管理ツールをインストールしてください。

インストール方法は Windows NT Server 4.0、Windows 2000 Server ともに共通です。IDE RAID 管理ツールの使用方法については、「C IDE RAID 管理ツールについて」(→ P.281) を参照してください。

- 1 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2 インストールを行う前に、すべてのプログラムを終了します。
- 3 ServerStart CD-ROM から作成した「Onboard IDE RAID Promise FastTrak IDE RAID Controller V1.31」ディスクをセットします。
- 4 「スタート」をクリックし、「ファイル名を指定して実行」を選択します。
- 5 「ファイル名を指定して実行」ダイアログボックスが表示されるので、「名前」に以下を入力し、「OK」をクリックします。

A:¥setup.exe

IDE RAID 管理ツールのセットアップが開始されます。

以降は、画面の指示に従ってインストールしてください。

第4章

OS インストール後の操作

この章では、OS インストール後に行う操作について説明しています。本サーバを運用する前に、必ず行ってください。

4

4.1 メモリダンプ／ページングファイルの 設定	116
4.2 システム修復ディスクの作成	124
4.3 保守ツールの作成	126
4.4 サーバ運用前の留意事項	132

4.1 メモリダンプ/ページングファイルの設定

サーバの運用を始める前に、メモリダンプを取得するための設定を行ってください。Windows NT Server 4.0 と Windows 2000 Server では、設定方法が異なります。

メモリダンプの設定をしておくと、Windows NT Server 4.0 および Windows 2000 Server で STOP エラー（致命的なシステムエラー）が発生した場合に、自動的にデバッグ情報が保存されます。保存されたメモリダンプにより、エラー発生時の原因を分析することができます。特に大容量メモリ搭載時には、メモリダンプファイルの設定には注意が必要です。メモリダンプ取得のための設定は、運用に使用するファイル（OS やアプリケーションなど）をインストールした後で行います。

4.1.1 メモリダンプを取得するための設定方法 (Windows 2000 Server の場合)

メモリダンプを取得するためには、以下の設定を確認し、設定を行ってください。

■ ハードディスクの空き容量の確認

メモリダンプを行うと、システムに搭載されているすべての物理メモリの内容がファイルとして作成されます。このため、ダンプファイルを格納する場合は、ハードディスク容量が十分に存在することを確認してください。

取得可能なダンプの種類と必要なハードディスク容量は以下のとおりです。

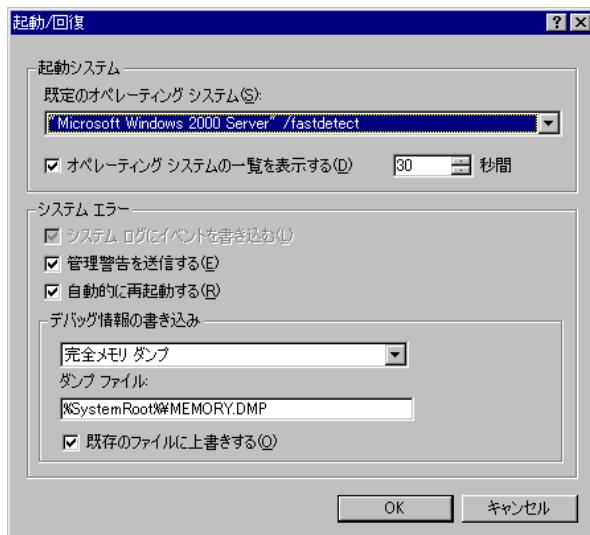
	完全メモリ (フル) ダンプ	カーネルメモリダンプ	最小メモリダンプ
サ イ ズ	搭載物理メモリ +1MB	STOP時のカーネルモードアドレス空間の使用量に依存	2MB以上
含 ま れ る 情 報	共通ヘッダ STOP時にページアウトされていない仮想アドレスページのすべて	共通ヘッダ サマリダンプヘッダ (完全メモリダンプ) — (ユーザプロセス空間のページ) — (キャッシュ領域ページ) — (未使用ブル領域ページ)	共通ヘッダ ミニダンプヘッダ カーネルモジュール・メモリ情報プロセッサ情報・プロセス情報・スレッド情報・スタックページ・アンロードモジュール情報
概要	システムが予期せず停止したときに、システムメモリ全体の内容が記録されます。このオプションを選択した場合、ブートボリュームには、物理RAM全体に1MBを加えた量のページングファイルを保持するだけの領域が必要です。	カーネルメモリ空間のみの情報が記録されます。システムが予期せず停止したときに、情報をログに記録する処理が高速化されます。コンピュータに搭載されているRAMの容量に応じて、ブートボリュームにはページングファイル用に50～800MBの利用可能な領域が必要です。	問題の識別に役立つ最小限の情報が記録されます。このオプションでは、コンピュータのブートボリュームに最低2MBのページングファイルが必要です。また、システムが予期せず停止することに、新しいファイルを作成します。 これらのファイルの履歴は、[最小ダンプディレクトリ]に表示されているディレクトリ（通常はC:\winnt\minidump）に格納されます。

■ メモリダンプファイルの設定

以下の手順に従って、メモリダンプファイルの設定を行います。

- 管理者権限でサーバにログオンします。
- メモリダンプファイルを格納するドライブの空き容量を確認します。
前述の「■ ハードディスクの空き容量の確認」で必要な空き容量を確認してください。
ドライブに空き容量がない場合は、「A.11 メモリダンプが取得できない場合」(→ P.253)を参照してください。
- 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- [システム]アイコンをダブルクリックします。
システムのプロパティが表示されます。

- 5** [詳細] タブを表示し、[起動／回復] をクリックします。
「起動／回復」画面が表示されます。



- 6** 以下の設定を行います。
1. 「デバッグ情報の書き込み」で、メモリダンプファイルの種類を選択します。
 - ・最小メモリダンプ（2MB以上）
最小限の情報がメモリダンプファイルに記録されます。
 - 致命的なエラーが発生するたびに、「最小ダンプディレクトリ」に指定したディレクトリに新しいファイルを作成します。
 - ・カーネルメモリダンプ
カーネルメモリだけがメモリダンプファイルに記録されます。
 - ・完全メモリダンプファイル（推奨）
システムメモリのすべての内容がメモリダンプファイルに記録されます。
 2. 「ダンプファイル」または「最小ダンプディレクトリ」に、メモリダンプファイルを保存するディレクトリをフルパスで指定します。
カーネルメモリダンプ、または完全メモリダンプの場合、「既存ファイルに上書きする」をチェックすると、デバッグ情報が毎回指定したファイルに上書きされます。

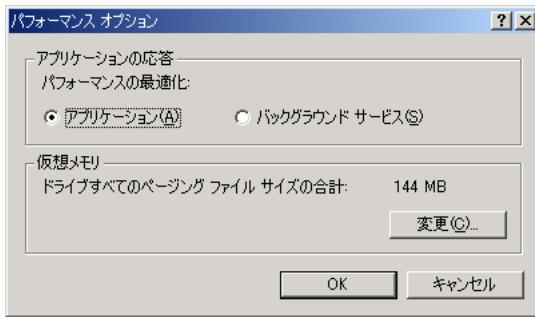
- 7** [OK] をクリックし、システムのプロパティを終了します。
- 8** システムを再起動します。

システム再起動後、設定が有効になります。

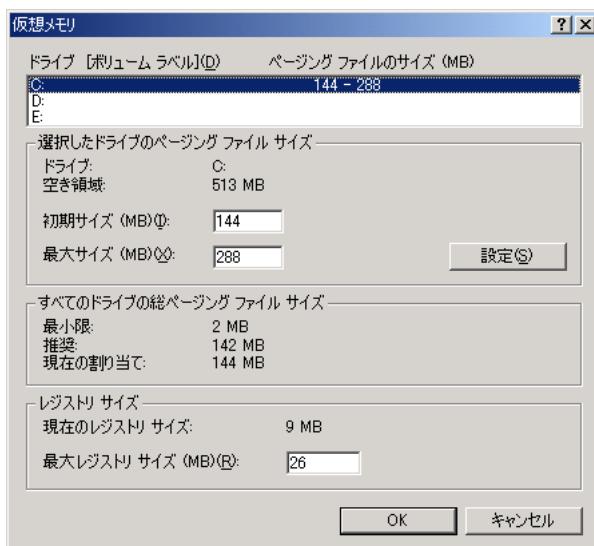
■ ページングファイルの設定

以下の手順に従って、ページングファイルを設定します。

- 1** 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2** システムがインストールされているドライブの空き容量を確認します。
前述の「■ ハードディスクの空き容量の確認」で必要な空き容量を確認してください。
ドライブに空き容量がない場合は、「A.11 メモリダンプが取得できない場合」(→ P.253) を参照してください。
- 3** 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 4** [システム] アイコンをダブルクリックします。
システムのプロパティが表示されます。
- 5** [詳細] タブを表示し、[パフォーマンスオプション] をクリックします。
「パフォーマンス」画面が表示されます。



- 6** [仮想メモリ] の [変更] をクリックします。
「仮想メモリ」画面が表示されます。



7 ページングファイルを作成するドライブを指定します。

「ドライブ」でシステムがインストールされているドライブを選択します。

選択したドライブが「選択したドライブのページングファイルサイズ」の「ドライブ」に表示されます。

8 「初期サイズ」を指定します。

設定したダンプファイルの種類によって値を設定します。

すべてのドライブの総ページングファイルサイズの[推奨]より大きい値を設定します。

 **重要**

- ▶ ページングファイルサイズを小さい値に設定した場合、性能に影響があります。ページングファイルは、推奨値以上に設定することをお勧めします。

9 「最大サイズ」を指定します。

「初期サイズ」より大きい値を設定します。

10 設定を保存します。

「選択したドライブのページングファイルサイズ」の[設定]をクリックします。

設定が保存され、「ドライブ」の「ページングファイルのサイズ」に設定した値が表示されます。

11 [OK]をクリックし、「仮想メモリ」画面を終了します。**12 [OK]をクリックし、システムのプロパティを終了します。****13 システムを再起動します。**

システム再起動後、設定が有効になります。

4.1.2 メモリダンプを取得するための設定方法 (Windows NT Server 4.0 の場合)

メモリダンプを取得するためには、以下の設定を確認し、設定を行ってください。

■ 最新の Service Pack の確認

Windows NT Server 4.0 インストール時には、必ず最新の Service Pack が適用されているか確認してください。

最新の Service Pack には、メモリダンプに関する修正が含まれています。

Service Pack のバージョンは、以下の操作で確認できます。

1. 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
「ファイル名を指定して実行」画面が表示されます。
2. 名前に "winver" を入力し、[OK] をクリックします。
「Windows のバージョン情報」画面が表示され、Service Pack のバージョン情報が表示されます。

■ ハードディスクの空き容量の確認

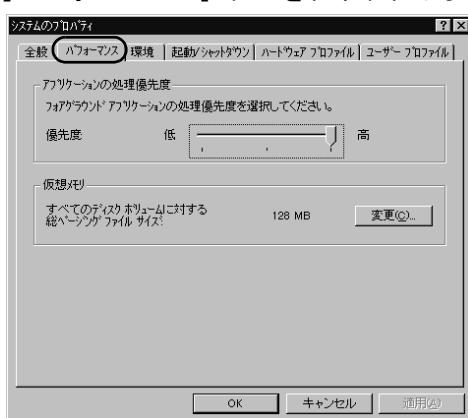
メモリダンプを取得するには、ページングファイルとメモリダンプファイルの作成用に、それぞれ以下のディスク空き容量が必要です。

ファイルの種類	必要な空き容量
ページングファイル	システムがインストールされているドライブに「搭載メモリサイズ + 11MB」以上の空き容量。 ページングファイルは、OS インストール時に作成されます。ファイル名は、PAGEFILE.SYS となります。
メモリダンプファイル	任意のドライブに「搭載メモリサイズと同量」の空き容量。 メモリダンプファイルは、STOP エラー発生時にのみ作成されます。STOP エラー発生時に空き容量がなくなっていないように常に確保しておいてください。

■ ページングファイルの設定

以下の手順に従って、ページングファイルの設定を行います。

- 管理者権限でサーバにログオンします。
- システムがインストールされているドライブの空き容量を確認します。
ページングファイルを作成するには、「搭載メモリサイズ + 11MB」以上の空き容量が必要です。
ドライブに空き容量がない場合は、「A.11 メモリダンプが取得できない場合」(→ P.253) を参照してください。
- 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 【システム】アイコンをダブルクリックします。
「システムのプロパティ」画面が表示されます。
- 【パフォーマンス】タブをクリックします。



- 6 「仮想メモリ」の「[変更]」をクリックします。**
 「仮想メモリ」画面が表示されます。



1. ページングファイルを作成するドライブを指定します。
 「ドライブ」でシステムがインストールされているドライブを選択します。
 選択したドライブが「選択したドライブのページングファイルサイズ」の「ドライブ」に表示されます。
2. 「初期サイズ」を指定します。
 「選択したドライブのページングファイルサイズ」の「初期サイズ」に、「搭載メモリサイズ」以上を設定します。
3. 「最大サイズ」を指定します。
 「選択したドライブのページングファイルサイズ」の「最大サイズ」に、「搭載メモリサイズ + 11MB」以上を設定します。
4. 設定を保存します。
 「選択したドライブのページングファイルサイズ」の「[設定]」をクリックします。
 設定が保存され、「ドライブ」の「ページングファイルのサイズ」に設定した値が表示されます。

7 [OK] をクリックし、「仮想メモリ」画面を終了します。

8 [OK] をクリックし、システムのプロパティを終了します。

9 システムを再起動します。

システム再起動後、設定が有効になります。

■ メモリダンプファイルの設定

以下の手順に従って、メモリダンプファイルの設定を行います。

- 1 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2 メモリダンプファイルを格納するドライブの空き容量を確認します。
 メモリダンプファイルを作成するには、「搭載メモリサイズと同量」の空き容量が必要です。
 ドライブに空き容量がない場合は、「A.11 メモリダンプが取得できない場合」(→ P.253)を参照してください。

3 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

4 [システム] アイコンをダブルクリックします。

システムのプロパティが表示されます。

5 [起動/シャットダウン] タブをクリックします。



6 [回復] で以下の設定を行います。

1. 「デバッグ情報を次へ書き込む」をチェックします。

STOP エラー（致命的なシステムエラー）が発生した場合に、メモリダンプが取得されます。

- ・入力フィールドに、メモリダンプファイルを保存するファイル名をフルパスで指定します。

例) F:\MEMORY.DMP

- ・「既存のファイルに上書きする」をチェックすると、デバッグ情報が毎回指定したファイルに上書きされます。

2. 「自動的に再起動する」をチェックします。

エラー発生時のデバッグ情報取得後に、システムが自動的に再起動します。

7 [OK] をクリックし、システムのプロパティを終了します。

8 システムを再起動します。

システム再起動後、設定が有効になります。

4.2 システム修復ディスクの作成

OSインストールタイプの開封を手動で行った場合や、OSを手動でインストールした場合は、システム修復ディスクの作成を行ってください。

万一、システムファイル、システム構成、およびスタートアップ時の環境変更などが損傷を受けた場合は、作成したシステム修復ディスクに保存されている修復情報を使って、これらを再構築できます。修復ディスクの作成には、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクが1枚必要です。あらかじめ用意してください。

4.2.1 システム修復ディスクの作成 (Windows 2000 Server の場合)

Windows 2000 Server セットアップ後、システム修復ディスクを作成します。作成には、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクが1枚必要です。

- 1 フロッピーディスクに、「Windows 2000 システム修復ディスク」というラベルを貼り、フロッピーディスクドライブにセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「システム ツール」→「バックアップ」の順にクリックします。
バックアップ画面が表示されます。
- 3 「ウィザード」タブをクリックして[システム修復ディスク]をクリックします。
以降、画面の指示に従って、システム修復ディスクを作成してください。

4.2.2 システム修復ディスクの作成 (Windows NT Server 4.0 の場合)

Windows NT Server 4.0 セットアップ後、システム修復ディスクを作成します。作成には、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクが 1 枚必要です。

- 1** フロッピーディスクに、「Windows NT システム修復ディスク」というラベルを貼り、フロッピーディスクドライブにセットします。
- 2** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3** 「名前」に以下のように入力して [OK] をクリックします。
Rdisk
- 4** [修復情報の更新] をクリックします。
「この操作を続行しますか?」というメッセージが表示されるので、[はい] をクリックして続行します。
- 5** 再度メッセージが表示されるので [はい] をクリックします。
- 6** [OK] をクリックします。
修復ディスクの作成が開始します。作成が終了したら、[OK] をクリックし、終了してください。

4.3 保守ツールの作成

サーバを保守するためのツールの作成方法について説明します。

ServerStart では、フロッピービルダ機能により、以下のツールが作成できます。

- ・ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク
- ・Global Array Manager
- ・Storage Manager
- ・ハードウェア構成ツール（BIOS Environment Support Tools など）

フロッピービルダ機能は、以下の環境で利用できます。

- ・クライアントコンピュータで ServerStart システムを起動した場合（推奨）
- ・サーバで ServerStart CD-ROM からシステムを起動した場合

4.3.1 ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクの作成

各種ツール起動時に必要な起動ディスクを作成します。

1 ServerStart を起動します。

- クライアントコンピュータで作成する場合（推奨）
 1. クライアントコンピュータにすでに ServerStart がインストールされている場合、インストール済みの ServerStart をアンインストールします。
アンインストールの方法については、「A.15 ServerStart のアンインストール」（→ P.256）を参照してください。

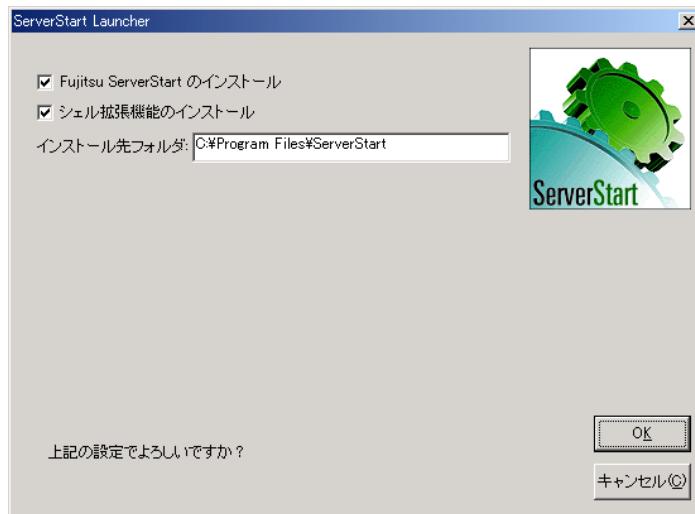


- ▶ 異なるバージョンの ServerStart がインストールされている状態で事前設定モードを起動すると、フロッピービルダ機能が誤作動する可能性があります。インストール済みの ServerStart は、かならずアンインストールしてください。

2 クライアントコンピュータに、ServerStart CD-ROM をセットします。

「ServerStart Launcher」画面が表示されます。

自動的に「ServerStart Launcher」画面が表示されない場合は、CD-ROM 内の “Launcher.exe” を実行してください。



3. チェックボックスがすべて選択されていることを確認し、インストールフォルダを指定して [OK] をクリックします。
- インストールが実行され、「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。



● サーバで作成する場合

1. サーバの電源を入れてすぐに、ServerStart CD-ROM をセットします。
ServerStart が起動し、ServerStart フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。
2. ServerStart に添付の「ServerStart フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブにセットして、[作成] をクリックします。
「ServerStart フロッピーディスクの作成」画面が表示されます。

3. 「ServerStart フロッピーディスクを挿入し、ServerStart を起動する」をクリックします。
「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。
 4. ServerStart フロッピーディスクを取り出します。
- 2** 「フロッピービルダ」をクリックします。
「フロッピービルダ」画面が表示されます。
- 3** 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクの作成」をクリックします。



メッセージに従って、本サーバに添付の「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブにセットしてください。

- 4** 以降、画面のメッセージに従って、操作を行います。
- フロッピーディスクが自動的にフォーマットされ、ファイルのコピーが開始されます。「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」の作成は自動で行われます。作成中は、画面下のプログレスバーに作成状況が表示されます。プログレスバーが右端まで行き、表示が消えたら作成は終了です。フロッピーディスクを取り出してください。

4.3.2 Global Array Manager / Storage Manager の作成方法

Global Array Manager / Storage Manager のインストール用ファイルは、ドライバディスク内に格納されます。ドライバディスクの作成方法は、「7.1 ドライバの作成方法」(→ P.234) を参照してください。

また、Global Array Manager / Storage Manager のインストールに関する詳細は、各 SCSI アレイコントローラカードに添付されている取扱説明書を参照してください。

4.3.3 ハードウェア構成ツールの作成方法

ハードウェア構成ツールを ServerStart CD-ROM から作成する方法について説明します。

あらかじめ、作成するツールの数のフロッピーディスクを用意してください。

ハードウェア構成ツールの種類は、お使いの機種によって異なります。

1 ServerStart を起動します。

● クライアントコンピュータで作成する場合（推奨）

1. クライアントコンピュータにすでに ServerStart がインストールされている場合、インストール済みの ServerStart をアンインストールします。
アンインストールの方法については、「A.15 ServerStart のアンインストール」(→ P.256) を参照してください。

重要

- 異なるバージョンの ServerStart がインストールされている状態で事前設定モードを起動すると、フロッピービルダ機能が誤作動する可能性があります。インストール済みの ServerStart は、必ずアンインストールしてください。

2 クライアントコンピュータに、ServerStart CD-ROM をセットします。

「ServerStart Launcher」画面が表示されます。

自動的に「ServerStart Launcher」画面が表示されない場合は、CD-ROM 内の “Launcher.exe” を実行してください。



3 チェックボックスがすべて選択されていることを確認し、インストールフォルダを指定して [OK] をクリックします。

インストールが実行され、「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。



● サーバで作成する場合

1. サーバの電源を入れてすぐに、ServerStart CD-ROM をセットします。
ServerStart が起動し、ServerStart フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。
2. ServerStart に添付の「ServerStart フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブにセットして、[作成] をクリックします。
「ServerStart フロッピーディスクの作成」画面が表示されます。
3. 「ServerStart フロッピーディスクを挿入し、ServerStart を起動する」をクリックします。
「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。

2 「フロッピービルダ」をクリックします。

3 「ハードウェア構成ツール」をクリックします。



4 作成するツールをクリックします。

メッセージに従って、用意したフロッピーディスクをフロッピーディスク ドライブにセットしてください。

5 以降、画面のメッセージに従って、作業を行います。

フロッピーディスクが自動的にフォーマットされ、ファイルのコピーが開始されます。各ツールの作成は自動で行われます。作成中は、画面下のプログレスバーに作成状況が表示されます。プログレスバーが右端まで行き、表示が消えたら作成は終了です。フロッピーディスクを取り出してください。

4.4 サーバ運用前の留意事項

サーバの運用を始める前に、以下の設定を行ってください。

各設定については『ファーストステップガイド』を参照してください。

- LAN カードを増設する場合、「7.2 ドライバのインストール」(→ P.238) を参照してドライバをインストールしてください。
- SCSI 外部オプション装置（ハードディスクキャビネット、光磁気ディスクユニットなど）を接続する場合、『ハードウェアガイド 第4章 内蔵オプションの取り付け』を参照して接続してください。
- インストールした添付アプリケーションの設定を、各アプリケーションの取扱説明書を参照して行ってください。

4.4.1 Windows Update（システムを最新にする）

Windows Update は、Windows 2000 システムをお使いの場合に利用できます。

Windows Update を実行すると、ご使用の OS に適用可能な最新の QFE（修正モジュール）を自動的に検索して適用し、システムを最新の状態に更新することができます。ご利用のシステムに潜在する問題を未然に防ぐためにも、定期的に Windows Update を実行してください。Windows Update の実行には、インターネットに接続可能なネットワーク環境が必要になります。

4.4.2 手動で OS のインストールまたは開封を行った場合

ServerStart を使用せずに、OS インストールタイプの開封を行った場合、または OS のインストールを行った場合は、以下の操作が必要です。

■ 高信頼ツールのインストール

高信頼ツールのインストールを行います。「第5章 高信頼ツール」(→ P.139) を参照し、各ツールの標準インストーラでインストールしてください。

■ ファイルシステムについて（Windows NT Server 4.0 インストール時）

セットアップ完了後、ファイルシステムが NTFS に変換されていない場合は、以下の操作を行って NTFS に変換してください。

1 管理者権限でサーバにログオンします。

2 コマンドプロンプトを起動し、コマンドライン上で次のコマンドを入力します。

```
C:\>CONVERT C:/FS:NTFS /V
```

- 3** コマンドラインに、次のメッセージが表示されます。

ファイルシステムの種類は FAT です。
CONVERT で C: ドライブへの排他的アクセスを実行できないため、現時点では変換できません。次回のシステム再起動時にドライブの変換をスケジュールしますか (Y/N) ?

- 4** 【Y】キーを押すと、再起動時に自動的に変換が行われる旨のメッセージが表示されます。メッセージを確認後、再起動してください。

■ 不明デバイス用 Class driver のインストール (Windows 2000 Server インストール時)

Windows 2000 Server では、GEM318 (SAF-TE コントローラ) は不明デバイスとして認識されますが、このデバイス専用 Class driver をインストールすることで、「FSC Termination Module GEM318」として認識させることが可能です。

以下の方法でインストールを行います (C: は OS のインストールされているドライブ、D: は CD-ROM ドライブとして説明します)。

- 1** 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2** ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
ServerStart の画面が表示された場合は、いったん ServerStart を終了します。
- 3** ServerStart CD-ROM の "D:\Siemens\W2k-inf" フォルダ内の以下のファイルを "C:\winnt\wnf" へコピーします。

```
"stmscsi.cat"  
"stmscsi.inf"
```
- 4** デスクトップ上の「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「管理」をクリックします。
- 5** 「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 6** 「その他のデバイス」の「SDR GEM318 SCSI Processor Devise」をダブルクリックします。
「ドライバ」タブをクリックし、[ドライバの更新] をクリックします。
- 7** 「ハードウェアデバイスドライバのインストール」画面で、「デバイスに最適なドライバを検索する (推奨)」を選択し、[次へ] をクリックします。
- 8** 「ドライバファイルの検索」画面で、「場所の指定」のみにチェックを付け、他のチェックを外して [次へ] をクリックします。
- 9** 製造元のファイルのコピー元を「D:\FSC\W2k-inf」と入力し、[OK] をクリックします。

10 「ドライバファイルの検索」画面で、「SDR GEM318 SCSI Processor Devise」が表示されたら、[次へ] をクリックします。
以降、画面の指示に従って操作してください。

11 インストールが終了したら、[完了] をクリックします。
デバイスマネージャの一覧に「FSC SCSI Termination Model GEM318」が追加されます。

4.4.3 Service Pack の適用

ServerStart CD-ROM には、追加／修正モジュールを組み込むための Service Pack が同梱されています。OS インストールタイプには、あらかじめ添付の Service Pack がインストールされています。

この Service Pack より新しい Service Pack が提供されている場合は、Service Pack の「README.TXT」を参照してインストールしてください。

4.4.4 Windows 2000 インストール後に存在するその他のデバイスについて

Windows 2000 のインストールが完了した後に、デバイスマネージャを表示すると、「その他のデバイス」として、デバイスが正しく認識されない場合があります。

この場合、次の手順で確認して正しく構成する必要があります。

■ 確認 / 構成方法

- 1** 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2** 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 3** [システム] アイコンをダブルクリックします。
- 4** [ハードウェア] タブをクリックし、[デバイスマネージャ] をクリックします。
- 5** 「その他のデバイス」が存在するか確認します。
 - 「その他のデバイス」が存在する場合
 1. ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
 2. [エクスプローラ] を起動し、CD-ROM の次のフォルダ内の INF (拡張子 *.inf) を OS インストールフォルダ（例 C:\Winnt）配下の inf フォルダ内にコピーします。
 - Adaptec Management SCSI Processor Device の場合
¥Drivers¥SCSI¥Dpt¥W2k
- 6** 「その他のデバイス」を選択し、右クリックします。
プロパティが表示されます。
- 7** [全般] タブの [ドライバの再インストール…] をクリックして、デバイスドライバのアップグレードウィザードを実行します。

4.4.5 不要なファイルについて

OS のインストールが完了した後に Runonce および Runonce2 というフォルダが、それぞれ次のドライブに残る場合があります。これらのフォルダは、システムをご利用になる上で必要ありませんので削除してください。

Runonce フォルダ : OS をインストールしたドライブ

Runonce2 フォルダ : C ドライブ

4.4.6 CD-ROM からの自動実行機能について

サーバインストール後に、CD-ROM からの自動実行機能の設定を変更するには、以下の操作を行ってください。

- 1 レジストリを編集できる状態にし、以下のレジストリキーの Autorun の値を以下のように変更します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Services\CDRom

自動実行を設定する場合は Autorun の値を「1」に、自動実行しない場合は「0」にします。

- 2 システムを再起動します。

再起動後、設定が有効になります。

4

4.4.7 OSインストールタイプをお使いの方へ

■ インストール環境

OSインストールタイプでのOSのインストール環境は以下のとおりです。

項目	Windows NT	Windows 2000
インストールドライブ	C ドライブ	C ドライブ
ドライブの容量	4GB (C ドライブ)	4GB (C ドライブ)
ファイルシステム	NTFS	NTFS
ディレクトリ名	WINNT	WINNT
ディスプレイの設定 (解像度/色数)	800 × 600 ピクセル/ High Color (16 ビット)	800 × 600 ピクセル／65536 色*
メンテナス区画	150MB	150MB

* Windows 2000 の場合、ディスプレイの設定のリフレッシュレートは 60Hz になります。

ただし、接続されたディスプレイによって設定が異なります。

■ アレイカード搭載モデルをお使いの場合

OSインストールタイプのアレイコントローラカードが搭載されているモデルで、導入種別を「インストールタイプ」に指定した場合は、アレイコントローラカードの管理ソフトウェアはインストールされません。アレイコントローラカードに添付の取扱説明書を参照して、管理ソフトウェアをインストールしてください。

■ 複数の LAN アダプタを搭載した場合

複数の LAN アダプタを搭載したプレインストールタイプを開封する際、ServerStart では 1 つの LAN アダプタに対してのみネットワークプロトコルを設定することができます。他の LAN アダプタについては、開封作業終了後、手動でネットワークの設定を行ってください。また、オプション LAN カードを搭載している場合は、ドライバが自動インストールされないことがあります。フロッピービルダを使って、搭載しているオプション LAN カード用のドライバディスクを作成し、手動でドライバをインストールしてください。詳細は、「7.1 ドライバの作成方法」(→ P.234) および「7.2 ドライバのインストール」(→ P.238) を参照してください。

■ Windows NT Server 4.0 / Windows 2000 Server のインストールに失敗したとき

ServerStart を使用してインストールを行っている途中に失敗があった場合は、再インストールを行う必要があります。インストール時に使用していたコンフィグレーションファイルは、再インストールには利用できません。一度フロッピーディスクを初期化して最初からやり直してください。

4.4.8 バックアップについて

本サーバは、信頼性の高い部品やハードディスクを使用しておりますが、万一の故障に備え、データの定期的なバックアップを必ず実施してください。

■ バックアップの必要性

サーバのデータがバックアップされていれば、ハードウェアの故障や操作ミスなどにより、ハードディスクユニット内のデータが破壊された場合でも、バックアップデータからシステムを復旧させることができます。バックアップが作成されていないと、お客様の大変なデータが失われてしまいます。システムを安心して運用していただくためにも、定期的なバックアップを実施してください。

■ バックアップデバイスとソフトウェア、および運用

バックアップの運用方法は、ご使用になるOSやアプリケーション、システム運用方法によって異なります。そのため、弊社担当営業にご相談の上で、次のものを準備してバックアップを実施してください。

- ・バックアップデバイス（DDS4 ドライブなど）
 - ・バックアップソフトウェア
(OS 標準提供のバックアップ用ソフトウェア、BrightStor ARCserve2000 など)
 - ・バックアップの運用方法（スケジュールなど）
- バックアップデバイス、およびソフトウェアは弊社純正品をご使用ください。バックアップ媒体（テープなど）の保管にあたっては、保管条件をお守りください。

第 5 章

高信頼ツール

PRIMERGY では、高信頼ツールを導入することを推奨しています。

この章では、それぞれのインストール方法や、使用方法について説明しています。

5.1	RAS 支援サービス	140
5.2	サーバ監視ツール [ServerView]	146
5.3	テープ装置のメンテナンス [Tape Maintenance Checker]	153
5.4	クライアントからのサーバの電源制御 [Power MANagement for Windows]	154
5.5	システム環境の診断機能 [FM Advisor]	155
5.6	トラブル原因の早期発見 [PROBEPRO]	157
5.7	トラブル原因の早期発見 [DSNAP]	161
5.8	サーバの遠隔操作 [SystemWalker® / LiveHelp® Client V5.2]	162
5.9	サーバ同士の時刻合わせツール [Chronoworker/S]	166

5.1 RAS 支援サービス

RAS (Reliability, Availability, Serviceability) 支援サービスは、本サーバの定期交換部品である電源／ファン／UPS のバッテリの状況を監視し、定期交換部品の交換時期になったときに通知する機能を持ったソフトウェアです。定期交換部品の故障による、本サーバの運用停止状態を回避できます。

以下の定期交換部品を監視します。

- ・電源ユニット
- ・システムファン
- ・高性能無停電電源装置（オプション）のバッテリ

5.1.1 RAS 支援サービスのインストール方法

RAS 支援サービスは、OS 導入時に ServerStart を使用してセットアップした場合、OS や他の高信頼ツールと一緒にインストールできます。

ServerStart を使用しないで OS をインストールした場合は、RAS 支援サービスを手動でインストールする必要があります。

RAS 支援サービスを手動でインストールするには、次の操作を行います。

- 1 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2 ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
「ServerStart」画面が表示されたら、いったん ServerStart を終了します。
- 3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 4 「名前」に、以下のように入力し、[OK] をクリックします。
<CD-ROM のドライブ>:\Programs\Japanese\Elis\Setup.bat
- 5 インストール終了後、ServerStart CD-ROM を取り出し、システムを再起動します。

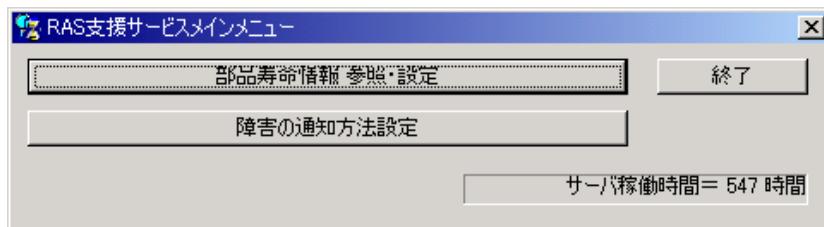
重要

- ▶ RAS 支援サービスを使用する上での注意事項
 - ・RAS 支援サービスは、アンインストールしないでください。
 - ・RAS 支援サービスの Windows 2000／Windows NT サービス(F5EP50)は停止しないでください。

5.1.2 RAS 支援サービスの使用方法

RAS 支援サービスを起動します。

- 1** 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2** 「スタート」ボタン→「RAS 支援サービス」の順にクリックします。
メニュー画面が表示されます。



メニュー	説明
部品寿命情報 参照・設定	<ul style="list-style-type: none"> UPS のバッテリの交換予定日、搭載日を表示します。 バッテリの交換を行った際に、搭載日を今日の日付にリセットします。 電源／FAN の稼働時間、定期交換時期を表示します。 電源／FAN の交換を行った際に、稼働時間を 0 時間にリセットします。 本サーバの稼働時間を表示します。 本サーバの稼働時間の手入力が可能です。
障害の通知方法設定	定期交換部品の交換時期を伝えるメッセージを画面に表示するかどうかを設定します。

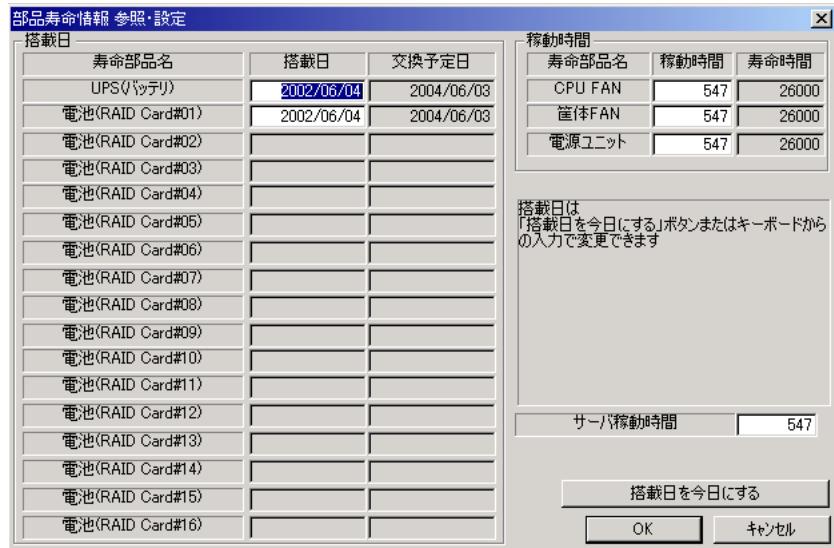
- 3** 終了する場合は、「終了」をクリックします。

5.1.3 部品寿命情報

「部品寿命情報 参照・設定」メニューで、本サーバの定期交換部品の状態、交換推奨時期を確認します。

本サーバの運用開始前および本サーバの定期交換部品の交換を行った場合、最新の情報に変更しておいてください。

- 1** 「部品寿命情報 参照・設定」をクリックします。
「部品寿命情報 参照・設定」画面が表示されます。



☞ 重要

- ▶ RAS 支援サービスのインストールは、OS インストール時など、本サーバの運用開始前に行ってください。
- ▶ RAS 支援サービスのインストール直後、搭載日には初期値として、RAS 支援サービスのインストール日が表示されます。したがって、UPS のバッテリを搭載して長期間が経過した後に、RAS 支援サービスをインストールした場合は、手動で搭載日を修正しないと、交換推奨時期の誤差が大きくなります。

項目	説明
寿命部品名	定期交換部品の種類を表示します。
搭載日	UPS のバッテリの搭載日を表示します。 各バッテリを交換した場合、交換した日付を入力します。 すでにお手持ちの UPS を本サーバに搭載した場合は、UPS を購入した日を搭載日として入力してください。
交換予定日	定期交換部品の交換推奨日時を表示します。
稼働時間	CPU FAN / 筐体 FAN / 電源ユニットの稼働時間を表示します。 単位は、時間 (hour) です。 CPU FAN / 筐体 FAN / 電源ユニットを定期交換した場合、稼働時間に 0 を入力します。 ただし、1 台が交換周期を経過する前に故障して、交換しても本項目は変更しません。また、電源ユニット増設時にも本項目は変更しません。

項目	説明
寿命時間	CPU FAN／筐体FAN／電源ユニットの定期交換時間を表示します。 単位は、時間(hour)です。
サーバ稼動時間	稼動時間を表示します。
搭載日を今日にする	ボタンをクリックすると、[搭載日] のカーソル位置の日付が今日の日付になります。 運用開始時や、UPS のバッテリをすべて交換した場合にクリックすると、入力の手間が省けて便利です。

POINT

- ▶ 寿命について
 - ・ UPS のバッテリは、サーバの電源が切れている状態でも寿命を消費します。
 - ・ 電源、FAN の寿命は、サーバの電源が入っている時間に依存します。
- ▶ 定期交換部品の交換周期について

本サーバの定期交換部品の交換周期を以下に示します。交換周期の際の参考にしてください。

なお、下記の値は本サーバ本体の設置環境温度（10～35°C）で使用している場合のものです。10°Cの温度上昇で寿命期間はほぼ1/2に低下します。

定期交換部品	交換周期	備考
電源	約 26,000 時間	8 時間運用の場合、約 9 年間 24 時間運用の場合、約 3 年間
FAN	約 26,000 時間	8 時間運用の場合、約 9 年間 24 時間運用の場合、約 3 年間
UPS のバッテリ	約 2 年間	8 時間運用の場合も 24 時間運用の場合も 約 2 年間

- ▶ サーバ稼動時間の再設定

システム運用時、万が一システムクラッシュ等で OS の再インストールが必要になった場合、稼動時間の再設定が必要となります。ただし、リモートサービスボード (PG-RSB101) 搭載時は、再設定の必要はありません。

計算方法は、以下のとおりです。

$$\text{稼動時間} = \text{使用月数} \times 30 \times 24 \times \text{稼働率} / \text{月} \times \text{稼働率} / \text{日}$$
 - ・ 1 日 8 時間、1 ヶ月に 20 日稼動してシステムが 4 ヶ月使用時にシステムクラッシュした場合
$$\begin{aligned} \text{稼動時間} &= \text{使用月数 (4)} \times 30 \times 24 \times \text{稼働率} / \text{月} (20/30) \times \text{稼働率} / \text{日} (8/24) \\ &= 640 \text{ 時間} \end{aligned}$$

- 2 各情報の確認、設定が終了したら、[OK] をクリックします。
設定を変更した場合、変更を保存するかどうかの確認のメッセージが表示されます。
- 3 [OK] をクリックして、終了します。

⚡ 重要

- ▶ 定期交換部品の交換周期について
 - ・定期交換部品の交換周期は周囲温度で変動します。
 - ・定期交換部品の交換周期は、サーバ本体の使用温度を年間平均温度 25 °Cと想定してしております。したがって、年間平均温度が 25 °Cを超えた環境で使用すると交換時期が早くなる場合があります。
 - ・一般的に温度が 10 °C上ると（年間平均温度 35 °C）、定期交換部品の交換周期は約半分に短縮されます。
 - ・他のサーバで使用されていた UPS を本サーバに搭載した場合、使用期間分の寿命を消費しています。
 - ・累積使用期間が交換周期に達した場合は、バッテリを交換してください。

5.1.4 障害の通知方法の設定

定期交換部品が交換時期になったときに、交換時期を通知するメッセージを画面に表示するかどうかを設定します。

1 [障害の通知方法設定] をクリックします。

「障害の通知方法設定」画面が表示されます。



2 「画面への表示」にチェックを付けて、[OK] をクリックします。

部品の交換周期を過ぎた場合に、メッセージが画面に表示されます（初期設定値）。

チェックしない場合は、部品の交換周期を過ぎても、メッセージが画面に表示されません。

■ 定期交換部品交換時期のメッセージ

メッセージは、障害の通知方法設定画面の「画面への表示」をチェックした場合に表示されます。

メッセージが表示されたら、表示された定期交換部品を交換してください。

● 表示されるメッセージと表示先

メッセージ	表示先	対処
寿命を超えている部品があります。	ディスプレイ	寿命部品の交換時期です。 担当保守員に連絡してください。
寿命部品 CPU FAN の使用時期がしきい値を超えたしました。	システムイベントログ	CPU FAN (プロセッサのファン) の交換時期です。
寿命部品 CPU FAN を交換してください。	ディスプレイ	担当保守員に連絡してください。
寿命部品 FAN (ハウジングファン) の使用時間がしきい値を超えたしました。	システムイベントログ	筐体 FAN (冷却ファン) の交換時期です。 担当保守員に連絡してください。
寿命部品 FAN (ハウジングファン) を交換してください。	ディスプレイ	
寿命部品 PSU (電源供給装置) の使用時間がしきい値を超えたしました。	システムイベントログ	電源ユニットの交換時期です。 担当保守員に連絡してください。
寿命部品 PSU (電源供給装置) を交換してください。	ディスプレイ	
寿命部品 UPS BBU の使用時間がしきい値を超えたしました。	システムイベントログ	UPSのバッテリの交換時期です。 担当保守員に連絡してください。
寿命部品 UPS BBU を交換してください。	ディスプレイ	

■ 異常時にシステムイベントログに表示されるメッセージ

異常に、システムイベントログに表示されるエラーメッセージです。

メッセージ	内容と対処
F5EP50 でエラーが発生しました。	担当保守員に連絡してください。

■ システムイベントログに表示される通知メッセージ

RAS 支援サービスのインストール時、および運用開始後にシステムイベントログに表示される通知メッセージです。

メッセージ	内容と対処
F5EP50 をインストールしました。	RAS 支援サービスが正常にインストールされました。
F5EP50 の実行を開始しました。	RAS 支援サービスが正常に起動しました。
F5EP50 を実行を停止しました。	RAS 支援サービスが正常に停止しました。

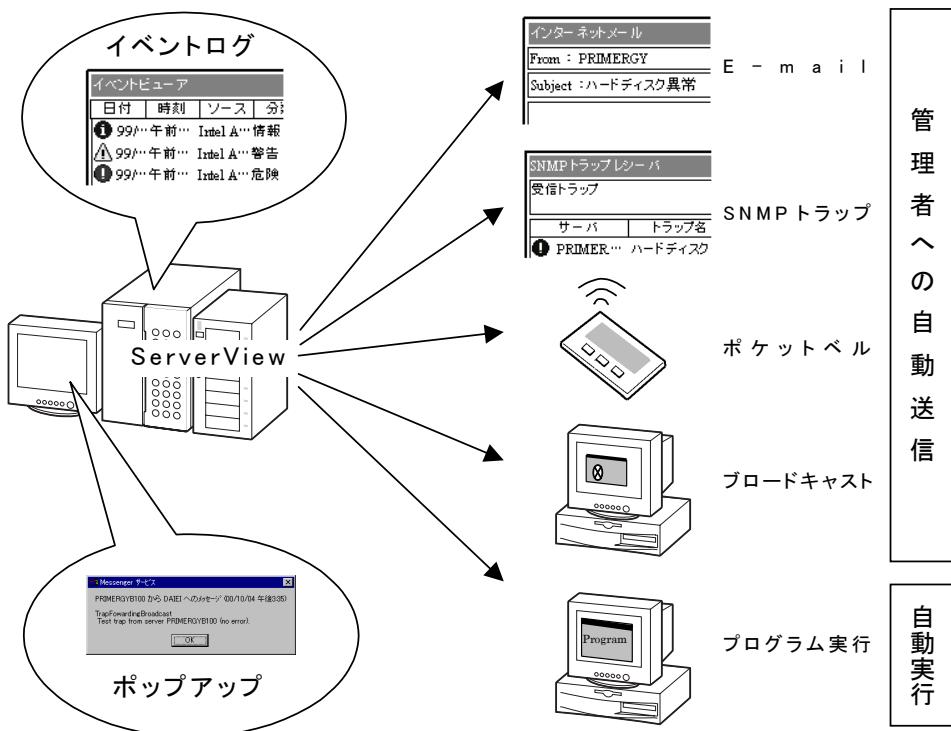
5.2 サーバ監視ツール [ServerView]

サーバ監視ツール「ServerView」は、ネットワーク上の各サーバのハードウェアの状態を常時監視するとともに、管理者がすべてのサーバの状態を一目で確認できるコンソールを提供します。また、万一異常が発生した場合には、早期対応が図れるように、管理者にリアルタイムに知らせるソフトウェアです。

5.2.1 異常発生の通知

ServerView は、サーバのハードウェアの監視により異常を発見すると、リアルタイムにさまざまな方法で管理者に通知します。異常の通知方法は、次の図のとおり豊富に用意されています。サーバの管理者は、どこにいてもすぐに通知を確認することができます。

■ 万ーサーバで異常が発生すると …



5.2.2 ハードウェアの監視

ServerView は、管理者に代わってサーバのハードウェアの状態が正常かどうかを常時監視します。サーバのハードウェアの各部からサーバに搭載されたオプション装置にいたるまで必要な監視を行います。ServerView で監視できるサーバのハードウェアおよびオプション装置は次のとおりです。

■ サーバ

監視できるハードウェア	監視内容
電圧センサ	サーバの電圧
温度センサ	CPU・筐体内の温度
CPU	エラー
ファン	CPU・筐体内・電源のファンの障害
筐体	筐体の開閉
メモリ	エラー
電源	故障

■ オプション装置

監視できるオプション装置	監視概要
オンボードSCSIに取り付けた内蔵ハードディスクユニット	デバイス情報の表示
SCSI カード	カード情報の表示
SCSI アレイコントローラカード	ドライブ一覧の表示 カード情報の表示 デバイス情報の表示 *RAIDmanager が必須となります。
LAN カード	インターネット情報の表示 イーサネット MAC 統計情報の表示

5.2.3 ハードウェアの状態の表示

サーバの管理者は、ServerViewにより監視されたサーバの現在のハードウェアの状態を、管理コンソールに表示させて確認できます。

ServerViewには、次の3つのソフトウェア・コンポーネントがあり、それぞれには、役割の異なる管理コンソールが含まれています。

ServerView の コンポーネント	含まれている管理コンソール	
	表示できる場所	役割
ServerView Basic ^{*1}	監視対象サーバ	自サーバのみの状態を表示
ServerView Full ^{*1}	監視対象サーバ	すべての監視対象サーバの状態を一括表示（集中管理）
ServerView Console ^{*2}	任意のパソコン	すべての監視対象サーバの状態を一括表示（管理端末で集中管理）

* 1 サーバの監視機能と管理コンソールがセットで含まれています。

* 2 管理コンソールのみが含まれ、パソコンにのみインストールできます。

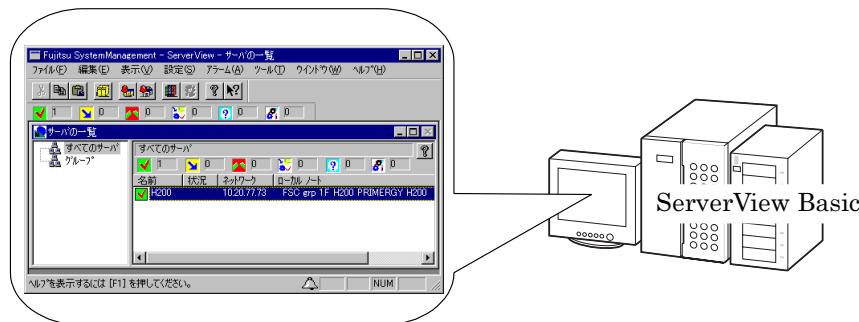
ServerViewで、ネットワークを管理しやすい最適な監視システムを構築するには、これらの管理コンソールを、目的に応じてご使用いただく必要があります。

サーバの運用形態に応じてご使用いただくと、最適な結果が得られます。ただし、ServerView Basic/Fullには共通のサーバの監視機能も一緒に含まれていますので、監視対象のサーバには、どちらかをインストールする必要があります。

■ ServerView Basic に含まれている管理コンソール

この管理コンソールは、監視対象のサーバ上で、自サーバの状態のみを表示できます。

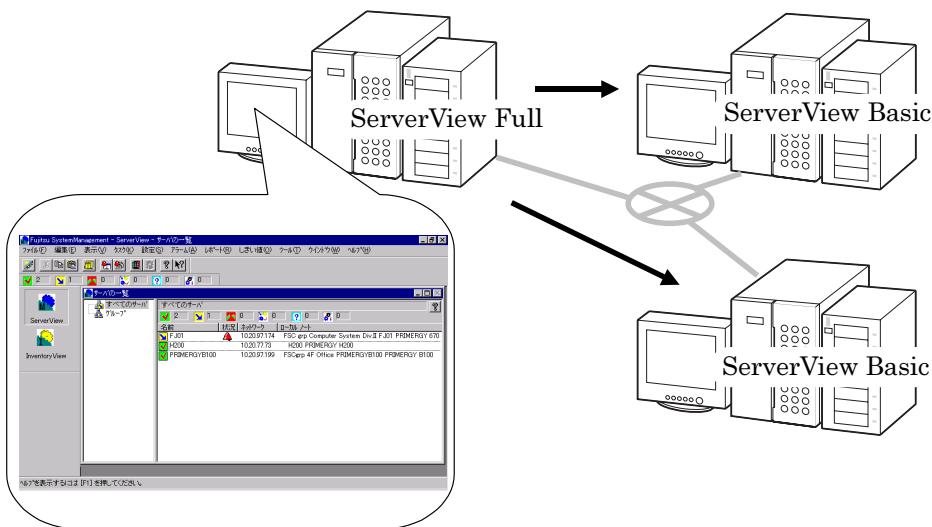
管理するネットワークが小規模で監視対象のサーバがすべて管理者の近くにある場合などには、この管理コンソールだけで足りることもあります。



■ ServerView Full に含まれている管理コンソール

この管理コンソールは、任意の監視対象のサーバ上で、すべての監視対象のサーバの状態を一括して表示できます。

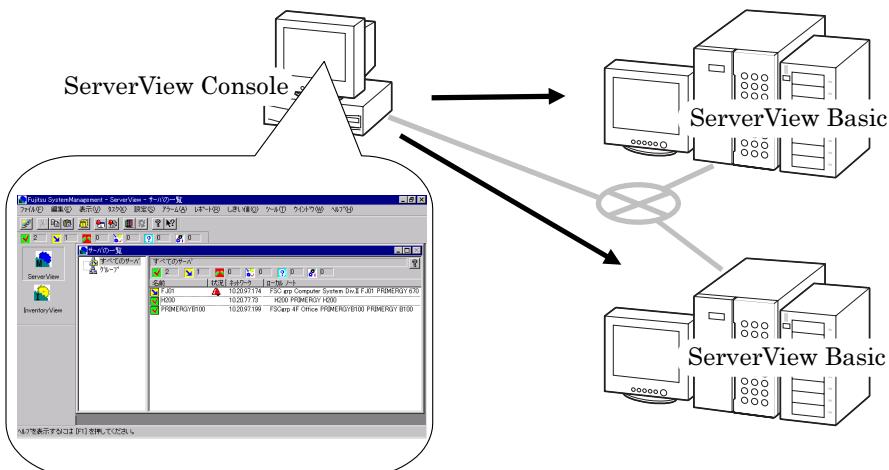
任意の監視対象のサーバが管理者の近くにあり、他の監視対象のサーバが管理者から離れた場所にある場合などに最適です。



■ ServerView Console (管理コンソールのみ含まれる)

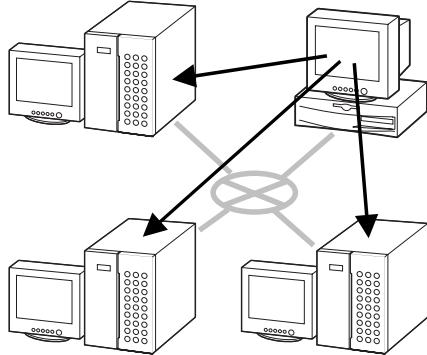
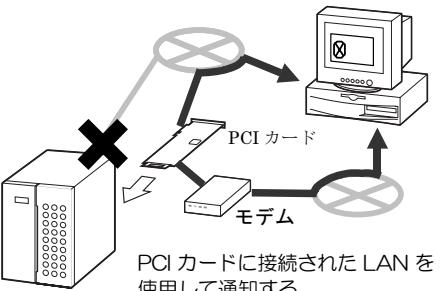
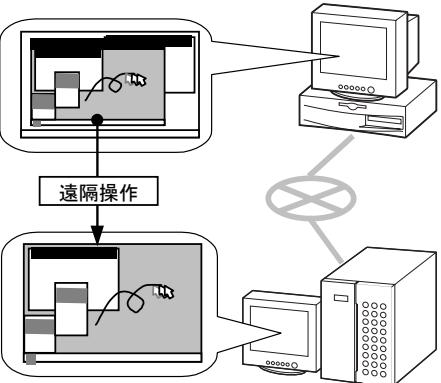
この管理コンソールは、任意のパソコン上で、すべての監視対象のサーバの状態を一括して表示できます。

任意の監視対象のサーバが管理者の近くにない場合、あるいは、大規模なネットワークを管理する場合などに最適です。この管理コンソール（ServerView Console）がインストールされたパソコンは、管理端末と呼ばれます。



5.2.4 集中管理／遠隔操作／サーバダウン時の通知

これまでに紹介した基本的な機能の他に、運用時のヒントとなる集中管理／遠隔操作／サーバダウン時の通知について、次の表に示します。

重要な機能	運用時のヒント
集中管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理端末、あるいは ServerView Full がインストールされたサーバの管理コンソールに、複数のサーバの状態を一括表示させ、一括管理できます。 ・LiveHelp^{*1}と ServerView Basic のみを併用した場合には、任意のサーバまたはパソコンから複数のサーバの状態を、一台ずつ単独でディスプレイに表示させての管理となります。 ・SystemWalker と ServerView Full を併用すると、集中管理するサーバに、各サーバ（LAN 内）のイベントログを収集できます。
サーバダウント/OSハング時の通知  <p>PCI カードに接続された LAN を使用して通知する。</p>	<p>サーバにリモートサービスボード (PG-RSB101 : オプションハードウェア製品) を搭載することにより可能です。 機種によっては、リモートサービスコントローラが標準搭載されている場合があります。</p>
遠隔操作 	<p>LiveHelp^{*1}と ServerView を併用すると、万一異常発生の通知を受けた場合などに、サーバの画面を遠隔操作できるため早期対応が図れます。また、ネットワークの規模が小さい場合には、管理端末の代わりに遠隔操作で管理できます（上記の集中管理を参照）。</p>

*1 サーバ本体には、監視される側のサーバにインストールする LiveHelp Client V5.2 が標準で添付されています。LiveHelp の機能をご使用いただくためには、サーバを監視する側のパソコンにインストールするソフトウェアを別途ご購入いただく必要があります。詳細は「5.8 サーバの遠隔操作 [SystemWalker® / LiveHelp® Client V5.2]」（→ P.162）を参照してください。

5.2.5 ServerView のインストール

ServerView は、OS 導入時に ServerStart を使用してセットアップした場合、OS や他の高信頼ツールと一緒に一括インストールすることができます。ただし、ServerStart でインストールされるのは、ServerView Basic のみです。ServerView Full および ServerView Console をインストールする場合には、OS 導入後に、『ServerView ユーザーズガイド 第2章 インストール』を参照して、インストールを行ってください。

なお、Linux での ServerStart を用いたセットアップをサポートしていません。

Linux での ServerView のインストールは ServerView ユーザーズガイドを参照して行ってください。

■ 重要

- ▶ ServerView をインストールする前に、必ず RAS 支援サービスをインストールしておいてください。

5.2.6 インストール後のサーバの設定について

ServerView のインストール後、ServerView を正しく運用できるように、サーバを以下のとおり設定する必要があります。設定方法など、詳細は『ServerView ユーザーズガイド 2.2 インストール後の処理について』を参照してください。

■ Service Pack を適用する

ServerView を使用する前に、サーバに Service Pack の適用を行ってください。

- Windows NT4.0 の場合、Service Pack 6a 以降を適用します。
- Windows 2000 の場合、Service Pack 1 以降を適用します。

■ 重要

- ▶ Service Pack の適用について
Service Pack の適用は必ず行ってください。Service Pack を適用しない場合には、動作は保証されません。

■ Microsoft Virtual Machine を設定する

ServerView を使用する前に、次の設定処理の適用を必ず行ってください。

1 ServerView の CD-ROM から、次のプログラムを起動します。

<CD-ROM のドライブ>:\\$ServerMANAGE\\$TOOLS\\$VMSETUP.EXE

Microsoft Virtual Machineがインストールされます。インストールされている場合は、バージョン / レベルを確認し、古い場合にはアップデートを行います。

■ ServerView の監視機能を設定する

サーバに、監視処理の機能を設定する必要があります。

■ 管理ユーザを設定する

ServerView をインストールすると、デフォルトで ServerView の管理権限をもつグループ (FUJITSU ServerUSER) が設定されます。このグループに属するユーザのみが ServerView で監視対象サーバの設定変更、シャットダウンなどを行えます。このグループに属するユーザは自動的に作成されませんので、監視対象サーバごとに ServerView の管理者を FUJITSU ServerUSER グループに追加します。設定方法などの詳細については、『ServerView ユーザーズガイド 2.5 インストール後の処理』を参照してください。

5.2.7 オプション装置を追加監視する

サーバに搭載／接続されているオプション装置の監視機能を有効にする場合には、各オプション装置の監視ソフトウェアをインストールする必要があります。

オプション装置の監視ソフトウェアのインストールについては、各オプション装置に添付の取扱い説明書をお読みになり、正しく行ってください。オプション装置によりインストール方法などに違いがありますのでご注意ください。

☞ 重要

- ▶ ServerStart で ServerView をインストールした場合
『ServerView ユーザーズガイド 2.8 アレイコントローラのインストール方法』に従い、オプション装置の追加処理を行ってください。
- ▶ 途中で処理を中断したり、インストール中にエラーメッセージが表示された場合
インストールが正しく行われていません。この場合には、インストールされていないソフトウェアが正しくインストールされるように対処し、もう一度インストールし直す必要があります。

5.3 テープ装置のメンテナンス [Tape Maintenance Checker]

Tape Maintenance Checker を標準のインストーラでインストールするには、次の操作を行います。

重要

- ▶ インストールする前に
 - ・メンテナンス対象のテープ装置がサーバに装着されていることを確認してから行ってください。
 - ・すべてのプログラム（ウィルスワクチンプログラムなど）を終了してください。

- 1** 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2** ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
「ServerStart」画面が表示されたら、いったん ServerStart を終了します。
- 3** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
「ファイル名を指定して実行」画面が表示されます。
- 4** 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。
<CD-ROM のドライブ>:\PROGRAMES\Japanese\TMCHECK\Setup.exe
- 5** インストーラが起動します。
以降、画面のメッセージに従って、インストールを行ってください。
- 6** インストール終了後、ServerStart CD-ROM を取り出し、システムを再起動します。

5.4 クライアントからのサーバの電源制御 [Power MANagement for Windows]

Power MANagement for Windows を標準のインストーラでインストールするには、次の操作を行います。

- 1 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2 ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
「ServerStart」画面が表示されたら、いったん ServerStart を終了します。
- 3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
「ファイル名を指定して実行」画面が表示されます。
- 4 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。
<CD-ROM のドライブ>:\PRGRAMS\Japanese\PMAN\AGENT\SETUP.EXE
- 5 インストーラが起動します。
以降、画面のメッセージに従って、インストールを行ってください。
- 6 インストール終了後、ServerStart CD-ROM を取り出し、システムを再起動します。

5.5 システム環境の診断機能 [FM Advisor]

FM Advisor を標準のインストーラでインストールするには、次の操作を行います。

- 1** 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2** ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
「ServerStart」画面が表示されたら、いったん ServerStart を終了します。
- 3** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
「ファイル名を指定して実行」画面が表示されます。
- 4** 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。
<CD-ROM の ドライブ>:\PROGRAMS\Japanese\FMADV\SETUP.EXE
- 5** インストーラが起動します。
以降、画面のメッセージに従って、インストールを行ってください。
- 6** インストール終了後、システムを再起動します。

5.5.1 診断方法

FM Advisor を実行すると自動的に調査が開始され、調査結果が表示されます。

- 1** 「スタート」ボタン→「プログラム」→「FM Advisor」の順にクリックします。
FM Advisor が起動します。
- 2** [OK] をクリックします。
自動的に定義ファイルが読みこまれ、調査が実行されます。
調査の状況はウィンドウのグラフに表示され、進行状況をチェックすることができます。なお、ファイルの検索をキャンセルしたい場合は、[キャンセル] をクリックしてください。ファイルの検索をキャンセルしても、次のシステム情報の取得が行われます。
- 3** ファイルの検索が終了すると、自動的にシステム情報の取得を実行します。
調査結果が表示されます。[OK] をクリックして、詳細情報を確認します。

POINT

- ▶ システム情報の表示について
「表示」メニューの「システム情報の表示」で表示する環境情報において、[コンピュータ] タブ内の「機種情報」の内容が正しく表示されない場合があります。
この場合は、サーバ監視ツール「ServerView」および『ハードウェアガイド』などで機種名を確認してください。

5.5.2 定義ファイルの入手方法

最新の定義ファイルは弊社のホームページ "FMWORLD" の「ソフトウェアライブラリ」で公開されています。コンピュータを正確に診断するには、定義ファイルは非常に重要な役割を担います。最新の定義ファイルをご利用ください。

FM Advisor の最新バージョンの定義ファイルは、Windows 95/98 用、Windows 2000/NT 用の 2 種類があります。各 OS に対応した定義ファイルをご利用ください。異なった定義ファイルを使用した場合、FM Advisor は、正確にコンピュータを診断することができません。

- FM WORLD の URL: <http://www.fmworld.net/>
- ソフトウェアライブラリの URL: http://www.fmworld.net/index_down.html

5.6 トラブル原因の早期発見 [PROBEPRO] 一サーバ環境の更新履歴の確認

標準のインストーラを使用してPROBEPROをインストールする方法とPROBEPROの動作環境の定義について説明します。ServerStart から PROBEPRO をインストールした場合には、PROBEPRO の動作環境の定義（→ P.158）だけを行ってください。

5.6.1 インストール方法

PROBEPRO を標準のインストーラでインストールするには、次の操作を行います。

- 1** 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2** パフォーマンス情報の収集で、メモリ情報を採取対象にする場合は、「5.6.5 シンボルファイルの準備」（→ P.159）を行います。
- 3** ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
「ServerStart」画面が表示されたら、いったん ServerStart を終了します。
- 4** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
「ファイル名を指定して実行」画面が表示されます。
- 5** 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。
<CD-ROM のドライブ>:\PROGRAMS\Japanese\PROBEPRO\SETUP.EXE
インストーラが起動します。
- 6** 画面のメッセージに従ってインストールします。
PROBEPRO のインストールが終了すると、動作環境の定義を行うかどうかを確認するメッセージボックスが表示されます。
- 7** [はい] をクリックします。
定義ウィザードが起動し、ウィザードの初期画面が表示されます。

POINT

- ▶ PROBEPRO を再インストールする場合
PROBEPRO をアンインストール（→ P.159）してから再インストールを行ってください。

5.6.2 動作環境を定義する

PROBEPRO をご使用になるには、PROBEPRO の動作環境が定義されている必要があります。動作環境の定義は、標準のインストーラでのインストール時、または PROBEPRO がインストール済みの場合に、定義ウィザードを操作して行えます。ServerStart で PROBEPRO をインストールした場合は、インストール時には動作環境が定義できないので、インストール後に定義ウィザードを起動して動作環境を定義する必要があります。

定義ウィザードを起動して動作環境を定義するには、次の操作を行います。

- 1 管理者権限でサーバにログオンします。**
- 2 パフォーマンス情報の収集で、メモリ情報を採取対象にする場合は、シンボルの準備（→ P.159）を行います。**
- 3 「スタート」ボタン→「プログラム」→「PROBEPRO V2.0L20B」→「PROBEPRO 定義ウィザード」の順にクリックします。**
定義ウィザードが起動し、ウィザードの初期画面が表示されます。
- 4 [次へ] をクリックします。**
PROBEPRO で収集できる情報の種類が表示されます。
- 5 収集したい情報を選択します。**
メモリ情報まで採取したい場合は、「プロセス情報のみを収集する」のチェックを外します。
- 6 [次へ] を順にクリックします。**
手順5で「プロセス情報のみを収集する」のチェックを外した場合、Windows NT/Windows 2000 のサーバでは、シンボルパス名の設定画面が表示されます。「シンボルパス名」ボックスに、現在のシステムレベルに対応したシンボルファイルが格納されるディレクトリを入力してください。
- 7 [次へ] を順にクリックします。**
- 8 「定義内容の設定確認」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。**
パフォーマンス情報の収集で、メモリ情報を採取対象にした場合は、Pool Enhancements のインストール、およびシステムの再起動が行われます。

5.6.3 初回インストール時の初期設定について

■ システム情報の収集契機

機能	収集契機
モジュール情報の収集	システム起動時、24 時間インターバル
レジストリ情報の収集	システム起動時、24 時間インターバル
パフォーマンス情報の収集	30 分インターバル

■ 出力先ディレクトリ

PROBEPRO が収集したシステム情報は以下のディレクトリに出力されます。

C:\Program Files\FUJITSU\PROBEPRO\Data

5.6.4 アンインストール方法

PROBEPRO をアンインストールするには、次の操作を行います。

- 1 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「PROBEPRO V2.0L20B」→「PROBEPRO アンインストール」の順にクリックします。
アンインストーラが起動します。
- 3 画面のメッセージに従ってアンインストールを行います。

5.6.5 シンボルファイルの準備

シンボルファイルの準備について説明します。

- 1 シンボルファイルを入手します。

● WindowsNT の場合

シンボルファイルは、次のいずれかより入手できます。

- Windows NT インストール用 CD-ROM
Service Pack を適用していない場合にご用意ください。通常「\\$SUPPORT\\$DEBUG」配下に収められています。
- Service Pack の CD-ROM
Service Pack を適用している場合にご用意ください。変更モジュールに対応するシンボルファイルが同時提供されていますので、該当する SP のシンボルで上書きしてください。

● Windows 2000 の場合

Windows 2000 のシンボル情報は、次のいずれかの方法で入手できます。

- ・ Windows 2000 Customer Support and Diagnostics Tools CD-ROM
- ・ Microsoft Web サイト
次の URL からダウンロードできます。
<http://www.microsoft.com/windows2000/downloads/tools/symbols/default.asp>
インストールの方法については、次の URL を参照してください。
<http://www.microsoft.com/JAPAN/support/kb/articles/J054/0/84.htm>
なお、上記 URL などは変更されることもあります。あらかじめご了承ください。

2 システムレベルに対応するシンボルファイルを任意のディレクトリにコピーします。

ディレクトリ名の最後は、必ず「¥Symbols」としてください。

5.7 トラブル原因の早期発見 [DSNAP] —サーバ環境情報の一括取得

DSNAP をインストールする方法について説明します。

ServerStart CD-ROM の "¥PROGRAMS¥Japanese¥DSNAP" フォルダには、以下のファイルが格納されています。

- DSNAP.EXE
- README.TXT

サーバのハードディスク内にコピーしてください。使用方法については、"README.TXT" を参照してください。

5.8 サーバの遠隔操作 [SystemWalker® / LiveHelp® Client V5.2]

SystemWalker®/LiveHelp® Client V5.2 を標準のインストーラでインストールする方法、および操作などについて説明します。

5.8.1 インストール方法

SystemWalker®/LiveHelp® Client V5.2 をインストールするには、次の操作を行います。

- 1 管理者権限でサーバにログオンします。**
- 2 ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。**
「ServerStart」画面が表示されたら、いったん ServerStart を終了します。
- 3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。**
「ファイル名を指定して実行」画面が表示されます。
- 4 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。**
<CD-ROM のドライブ>:\PROGRAMES\Japanese\LIVEHELP\INSTALL
- 5 インストーラが起動します。**
以降、画面のメッセージに従って、インストールを行ってください。
- 6 インストール終了後、システムを再起動します。**

5.8.2 操作概要

PRIMERGY に添付の ServerStart CD-ROM では、サーバにインストールする LiveHelp Client ソフトウェアが標準で添付されていますので、サーバをリモート操作する側のパソコンに、LiveHelp Expert ソフトウェア^{*1} または SystemWalker/CentricMGR^{*2} を購入してインストールする必要があります。

LiveHelp では、リモート操作されるサーバをクライアント (Client) と呼びます。サーバをリモート操作する人をエキスパート (Expert) と呼びます。クライアントとエキスパートが通信している状態をセッションと呼びます。



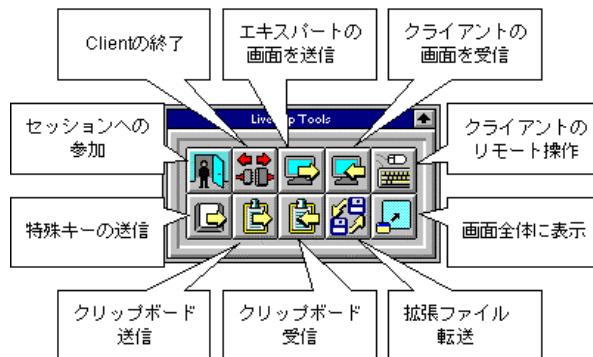
[Client] プログラムの起動

操作対象のサーバで [Client] プログラムを起動します。[Client セットアップ] プログラムで [Client] プログラムを Windows NT 4.0 や Windows 2000 のサービスとして自動起動するように設定すると、Windows NT 4.0 や Windows 2000 へのログオン前からリモート操作が行えます。[Expert] プログラムとの通信方式も [Client セットアップ] プログラムで選択します。



[Expert] プログラムの起動

リモート操作しようとするエキスパートは、LiveHelp の [Expert] アイコンをダブルクリックして、[Expert] プログラムを起動します。エキスパートは、次に示す [Expert] ツールバーを使ってセッションを管理します。



サーバへの接続

エキスパートは、[セッションへの参加] をクリックします。エキスパートは、クライアントを選択してサーバに接続します。これでセッションが始まります。



画面受信、リモート操作

セッションが始まるとすぐに、これらのボタンが自動的にクリックされ、エキスパートはサーバの画面内容を見たり、サーバをリモート操作することができます。

セッション中は、ツールバーやメニュー命令を使って LiveHelp のさまざまな機能を利用できます。



画面を全体に表示

画面を全体に表示すると、操作が楽になります。この場合、ツールバーは画面にフロート化されて常に他の画面より手前に表示されます。



特殊キーの送信

[Client] プログラムを Windows NT 4.0 や Windows 2000 のサービスとして自動起動するように設定すると、[特殊キーの送信] をクリックして【Ctrl+Alt+Del】キーを送信することで、Windows NT 4.0 や Windows 2000 へのログオン操作が行えます。

[特殊キーの送信] では、【Ctrl+Alt+Del】、【Ctrl+Esc】、【Print Screen】、【Alt+Print Screen】キーをサーバに送信します。【Ctrl+Alt+Del】キーを送信すれば、サーバへリモートログオン、ログオフ、シャットダウンもできます。



クリップボード送信

エキスパート側のパソコンのクリップボード内容は、[クリップボード送信] をクリックすることで転送して、サーバ側にコピーできます。



クリップボード受信

サーバのクリップボード内容は、[クリップボード受信] をクリックすることで転送して、エキスパート側のパソコンにコピーできます。



ファイル転送

複数のファイルをエキスパートのパソコンとサーバの間で一括転送ができます。また、問題解析情報の取得やシステム修復が簡単にできます。



Client の終了

サポートが終了したら、[Client の終了] をクリックして、動作中の LiveHelp Client を終了することができます。

重要

- ▶ サーバをリモート操作する場合
LiveHelp Client を終了すると、[Client] プログラムを Windows NT 4.0 や Windows 2000 のサービスとして自動起動するように設定していない限り、再度接続することができなくなります。
- ▶ LiveHelp Expert を終了する場合
[Client の終了] をクリックせずに LiveHelp Expert を終了すると、LiveHelp Client はサーバで動作を続け、接続待ちの状態になります。

5.8.3 その他の機能

LiveHelp には、前述の操作概要で説明した機能のほか、次のような機能を備えています。

■ 複数人のエキスパートによるリモート操作

サーバの画面やマウスの動きを、複数人のエキスパートがリアルタイムで受信し、同時に状況を把握できます。また、複数人のエキスパートが交代で、自分のキーボードとマウスでサーバを操作、非定型的な操作も自由に行えます。

■ 接続のパスワード

LiveHelp Client の起動時にパスワードを設定できます。この場合、サポート部門の専門家がサーバへ接続する時に、同じパスワードの入力が必要になります。[Client] プログラムを Windows NT 4.0 や Windows 2000 のサービスとして自動起動するように設定されている場合、Windows NT 4.0 や Windows 2000 へのログオンを行います。

■ エンドユーザのサポート

LiveHelp Client ソフトウェア^{*3}をエンドユーザのパソコンにインストールすると、サーバのリモート操作と同様に、同じ LiveHelp Expert を使って、エンドユーザサポートのためにパソコンをリモート操作できます。

■ インターネットのサポート

LiveHelp のインターネット対応は、DMZ に設置されているサーバ上で、オプション製品 SystemWalker®/LiveHelp® Connect V5.2^{*4}（以降、LiveHelp Connect と略します）を動作させることが必須です。LiveHelp Connect は、LiveHelp Client や LiveHelp Expert がファイアウォールで守られている場合でも、両者に共通のアクセスポイントとなって Expert と Client 間のデータパケットの中継を行うことにより通信可能にします。また、転送されるデータの暗号化もサポートしました。詳細は、LiveHelp Connect の CD-ROM に格納されている「LiveHelp Connect 管理者ガイド」を参照してください。

*1 製品名称 :SystemWalker®/LiveHelp Expert V5.2、製品型名 :B298C1600

*2 製品名称 :

SystemWalker/CentricMGR EE V5.0 マネージャ、製品型名 :B293C4491

SystemWalker/CentricMGR EE V5.0 エージェント、製品型名 :B293C74F0

SystemWalker/CentricMGR SE V5.0 マネージャ、製品型名 :B293C1515

SystemWalker/CentricMGR SE V5.0 エージェント、製品型名 :B293C74D0

*3 製品名称 :SystemWalker/LiveHelp Client V5.2、製品型名 :B298C1610

*4 製品名称 :SystemWalker/LiveHelp Connect V5.2、製品型名 :B293C80U0

5.9 サーバ同士の時刻合わせツール [Chronoworker/S]

Chronoworker/S は、NTP（Network Time Protocol）およびSNTP（Simple Network Time Protocol）のネットワークを利用したコンピュータ同士の時刻合わせを行うアプリケーションです。サーバとサーバ間、サーバとクライアント間の時刻合わせが行えます。

Chronoworker/S の使用方法については、インストール後のオンラインマニュアル（[ヘルプ]）を参照してください。

5.9.1 インストール方法

Chronoworker/S をインストールするには、次の操作を行います。

- 1 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2 ServerStart CD-ROM をサーバにセットします。
「ServerStart」画面が表示されたら、いったん ServerStart を終了します。
- 3 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
ファイル名を指定して実行の画面が表示されます。
- 4 「名前」に以下のように入力し、[OK] をクリックします。
< CD-ROM のドライブ> :¥PROGRAMS¥Japanese¥cmwrk¥Setup¥Setup.exe
- 5 インストーラが起動します。
以降、画面のメッセージに従って、インストールを行ってください。

5.9.2 運用の手順

Chronoworker/S を運用するには、[スタートアップモード]による疎通確認を行ってから、[サービスモード] でシステムを運用します。

■ [スタートアップモード] による疎通確認

最初に「スタート」ボタンから「Chronoworker」を起動すると、Chronoworker/S は [スタートアップモード] が選択されています。Chronoworker/S の導入当初は、Chronoworker/S を [スタートアップモード] で数回起動させ、タイムサーバの登録や時刻合わせパラメータの調整を行います。

疎通確認に際して、次のパラメータの設定や変更が必要です。

- タイムサーバの登録（必須）
時刻を取得するタイムサーバの登録を行います。

- SNTP サーバとして動作（必要に応じて）
他のサーバやクライアントに時刻を供給する場合に指定します。
- 時刻合わせパラメータ（必要に応じて）
タイムサーバとの繰り返し時刻合わせ間隔や、タイムサーバからの応答待ち監視時間、タイムサーバ時刻と内部時計との誤差の修正範囲を指定します。デフォルト値は LAN 接続の最適値が設定されています。外部公開サーバと交信を行う場合は変更が必要です。
- LAN 接続／ダイアルアップ接続（必要に応じて）
タイムサーバとの接続形態を指定します。ダイアルアップ接続の場合や、Socks5 Proxy サーバ経由の場合に変更が必要です。

■ [サービスモード] でのシステム運用

[スタートアップモード] でパラメータの調整後、Chronoworker/S の動作モードを [サービスモード] に切り替え、通常のシステムの運用を行います。[サービスモード] では、Windows NT/2000 のサービス (ChronoNTService) が時刻合わせを行います。

時刻合わせのサービス (ChronoNTService) を停止する場合、および動作パラメータの再変更を行う場合は、管理者権限を持つアカウントでサーバにログオンし、「スタート」ボタンから Chronoworker/S を起動します。

5.9.3 起動と終了の方法

Chronoworker/S を起動／終了するには、次の操作を行います。

■ 起動方法

- 1 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2 「スタート」ボタン→「Chronoworker」の順にクリックします。
- 3 タイムサーバの名前、またはアドレスを登録後、[スタート] をクリックします。

POINT

- ▶ タイムサーバ名について
あらかじめ登録されているタイムサーバ名は、インターネット上に公開されている公開 NTP サーバのものです。ファイアウォール等で使用できない場合は、使用可能なタイムサーバをネットワーク管理者にご確認ください。

■ 終了方法

● サービスモードで運転中の場合

- 1 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2 「スタート」ボタン→「Chronoworker」の順にクリックします。
- 3 [ストップ] をクリックします。

● スタートアップモードで運転中の場合

- 1** 管理者権限でサーバにログオンします。
- 2** タスクトレイの [Chronoworker] アイコンを右クリックしてメニューを表示させ、「終了」を選択します。

5.9.4 アンインストール方法

Chronoworker/S をアンインストールするには、次の操作を行います。

- 1** Chronoworker/S を終了します。
- 2** 「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」で、Chronoworker/S をアンインストールします。

第 6 章

クライアントのインストール

この章では、WizardConsole を使用したネットワークアカウントの設定方法や、クライアントへのインストール方法について説明しています。

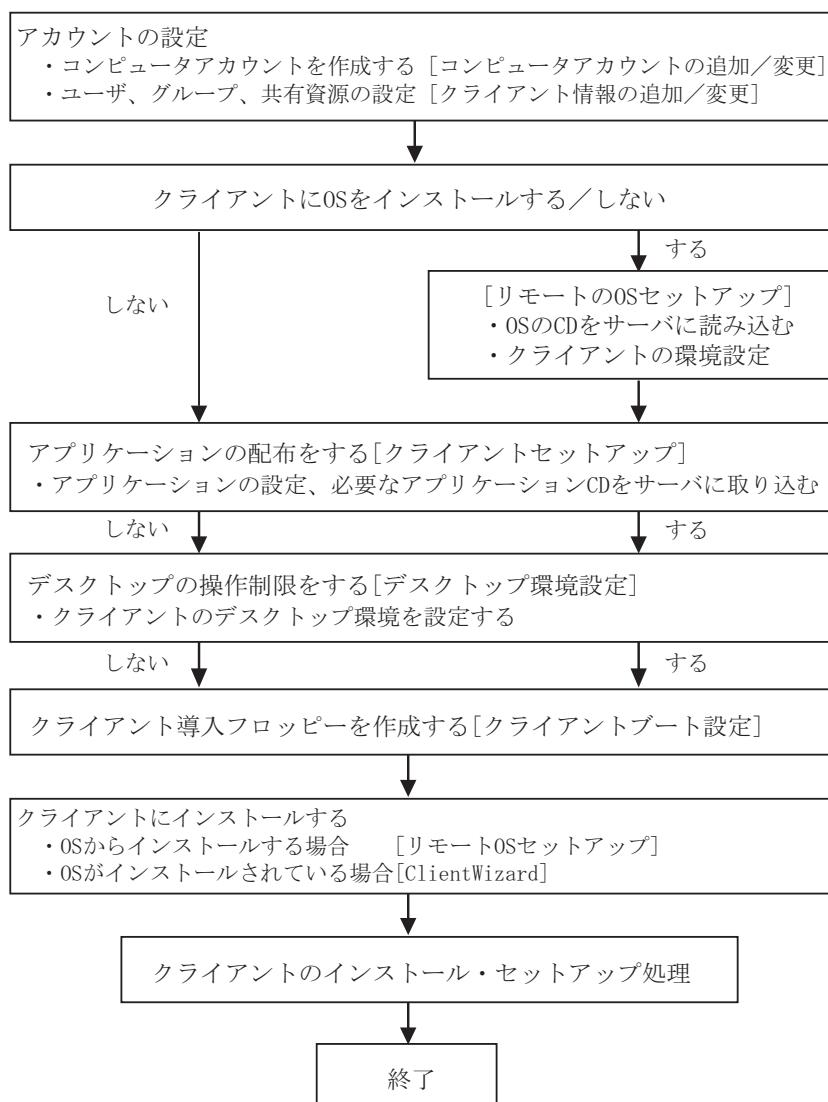
6.1	クライアントのセットアップ	170
6.2	クライアントコンピュータの追加／変更	175
6.3	ユーザ、グループ、共有資源の追加／変更	179
6.4	リモートOS セットアップ	186
6.5	クライアントセットアップ	191
6.6	クライアントのデスクトップ環境を設定する	201
6.7	クライアントブート設定	206
6.8	クライアントへのインストール	212
6.9	変更した情報の登録	218
6.10	WizardConsole 使用時の留意事項	219
6.11	WizardMenu によるデスクトップメニューの作成	226
6.12	WizardConsole のアンインストール	230

6.1 クライアントのセットアップ

ここでは、WizardConsole を使ったクライアントセットアップの概要を説明します。

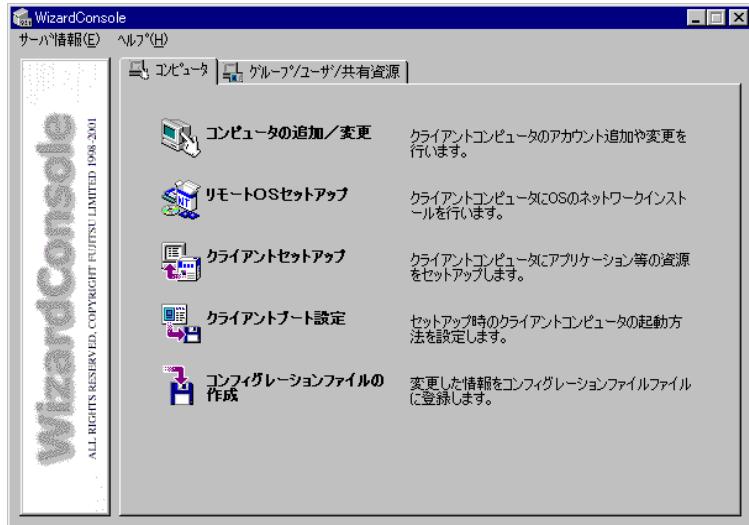
6.1.1 クライアントへのインストールとセットアップ操作の流れ

クライアントへのインストール、セットアップは、以下の流れで行います。



6.1.2 WizardConsole の各機能

「スタート」ボタン→「ServerStart」→「WizardConsole」の順にクリックします。
WizardConsole が起動します。



■ [コンピュータ] タブ

● コンピュータの追加／変更



ネットワーク環境を構築するためのコンピュータアカウントを登録します。

OS 種別が同じクライアントコンピュータを、一括して大量に登録することもできます。

● リモート OS セットアップ



OS をインストールしていないクライアントコンピュータに、OS のインストールを行う機能です。OS のインストールだけでなく、セットアップ、アプリケーションのインストールまでを行うことができます。

● クライアントセットアップ



クライアントに同一アプリケーションや、同一ファイルのインストールを行うための設定です。ここで設定したアプリケーションなどは、クライアントがログインすると自動的にインストールされます。それぞれのクライアントへインストールする作業が軽減できます。

● クライアントブート設定

クライアントをセットアップするときに使用するクライアント起動用フロッピーディスクを作成します。



● コンフィグレーションファイルの作成

WizardConsole で追加、変更した設定情報を、フロッピーディスクまたはハードディスクに保存します。



■ [グループ／ユーザ／共有資源] タブ

● クライアント情報の追加／変更



ユーザの追加、グループの追加、共有資源の設定など、ネットワークに必要なアカウントを作成したり、変更する機能です。設定したアカウントは一覧で表示され、関連付けも簡単です。

● デスクトップ環境設定



クライアントのデスクトップの表示状態を設定できます。たとえば、業務に必要な機能のみを表示させたり、スタートメニューなどを設定することができます。

6.1.3 各OS環境における利用可能な機能

■ 各機能と使用可能なOS種別

クライアントの個別セットアップには、リモートOSセットアップ、クライアントセットアップ、デスクトップ環境設定機能がありますが、ご使用になるOSとネットワーク環境によっては使用できない機能があります。各機能における使用可能OSとネットワークの関係は以下のとおりです。

OS	ネットワークタイプ	WizardConsole の機能		
		リモートOS セットアップ	クライアント セットアップ	デスクトップ 環境設定
Windows NT Server 4.0	プライマリドメイン コントローラ	×	×	×
	バックアップドメイン コントローラ	×	×	×
	メンバサーバ	×	×	○
Windows 2000 Server	ドメインコントローラ	×	×	×
	メンバサーバ	×	×	○
Windows NT Workstation 4.0	ドメインメンバ	○	○	○
Windows 2000 Professional	ドメインメンバ	○	○	○
Windows XP	ドメインメンバ	×	○	○
Windows 98	ドメインメンバ	×	○	○
Windows 95	ドメインメンバ	×	○	○
Windows Me	ドメインメンバ	×	○	×

6.1.4 WizardConsole を利用するための準備

■ クライアント側の準備

● ハードウェアのセットアップ

本体ハードウェアマニュアルをよく読み、コンピュータを正しく組立ててください。

LANカードを装着し、サーバと接続できる状態にしておきます。

接続方法など、詳しくはご使用の各装置に添付のマニュアルを参照してください。

クライアントコンピュータに複数のLANカードが装着されていた場合、サーバに正常に接続できない場合があります。LANカードの装着は1つのみにしてください。

● ソフトウェアの準備

MS-DOS

リモートOSセットアップを使用する場合には、MS-DOSシステムの入ったフロッピーディスクが必要になります。MS-DOSシステムの入ったフロッピーディスクは、以下の方法により作成してください。

—FDバックアップコマンドを使用する

クライアントコンピュータに添付のドライバーズCD-ROMからFDバックアップコマンドを使用して作成できます。

FDバックアップコマンドの使用方法に関しては、クライアントコンピュータに付属のマニュアルを参照してください。

—Windows 95 / 98から作成する

- ・Aドライブに初期化可能なフロッピーディスクをセットします。
 - ・マイコンピュータからA:ドライブを選択します。
 - ・右クリックし、フォーマットを選択します。
 - ・フォーマットの種類に「起動専用(C)」を選択し、[開始(S)]をクリックします。
- 使用可能なMS-DOSのバージョンは、以下の通りです。
- ・MS-DOS V6.2
 - ・MS-DOS V7.0 (Windows 95)
 - ・MS-DOS V7.1 (Windows 98)



重要

▶ ソフトウェアのライセンス

どの方法による作成でも、必ず使用するクライアント台数分のライセンスが必要となります。ご契約の内容を確認して作成してください。

MS-DOS® LAN マネージャ

以下のMS-DOS® LANマネージャのファイルが必要です。

Protman.dos / Protman.exe / Netbind.com

次の方法で入手してください。

- ・Windows NT Server 4.0のCD-ROM
¥CLIENTS¥MSCLIENT¥NETSETUP
- ・MicrosoftのWebサイトからダウンロードする。
[ftp://ftp.microsoft.com/bussys/clients/msclient/disk3-1.exe](http://ftp.microsoft.com/bussys/clients/msclient/disk3-1.exe)

☞ 重要

- ▶ Web サイトからダウンロードした場合は、ファイルが圧縮されています。次の手順でファイルを展開してください。
 1. disk3-1.exe を実行します。
 2. Expand コマンドでファイルを展開します。
例) c:\temp に disk3-1.exe を展開した場合
Expand c:\temp\protman.do_ /r [Enter]
Expand c:\temp\protman.ex_ /r [Enter]

■ ネットワーク環境の設定

WizardConsole をご使用いただくには、以下のネットワーク設定が必要です。

● TCP/IP プロトコルの設定

WizardConsole をインストールするコンピュータには、TCP/IP プロトコルが必要です。

あらかじめ TCP/IP プロトコルのインストールおよび設定を行ってください。

また、WizardConsole をインストールしたコンピュータには、固定された IP アドレスを用いるようにしてください。詳しい IP アドレスの設定方法は各 OS のマニュアルを参照してください。

● 複数セグメントを含んだネットワークでの留意点

ルータと複数のセグメントを含んだ TCP/IP ネットワークで、WizardConsole をご利用になる場合、以下の注意が必要です。

コンピュータの追加／変更

コンピュータの追加／変更で、クライアントコンピュータの設定を行う際、各セグメントに所属するクライアントコンピュータごとに、適切なデフォルトゲートウェイを指定してください。デフォルトゲートウェイを指定しない場合、クライアントセットアップが正常に利用できなくなります。

例) セグメント 1 のゲートウェイアドレスが 192.168.1.1、セグメント 2 のゲートウェイアドレスが 192.168.2.1 の場合

セグメント 1 に含まれるクライアントコンピュータアカウントのデフォルトゲートウェイアドレスは 192.168.1.1 に、セグメント 2 に含まれるクライアントコンピュータアカウントのデフォルトゲートウェイアドレスは 192.168.2.1 を指定する必要があります。

クライアントセットアップ

ドメインコントローラが存在しないセグメントに含まれるクライアントコンピュータがドメインに参加するためには、WINS を使用するか、LMHOSTS ファイルにドメインコントローラの IP アドレスを記述してください。

WINS または、LMHOSTS の設定方法は、ネットワーク管理者にご相談ください。

● クライアントコンピュータの設定

インストールモデルなどで、すでに OS がインストール済みのコンピュータに対してクライアントセットアップを行う場合は、あらかじめ「TCP/IP プロトコル」、「Microsoft ネットワーククライアントサービス」(Windows95/98/Me の場合) を設定しておく必要があります。各 OS のマニュアルを参照の上、インストールおよび設定を行ってください。

6.2 クライアントコンピュータの追加／変更

WizardConsole で管理するクライアントコンピュータを登録します。

登録済みのコンピュータ情報を変更する場合、または個別の情報を持つクライアントコンピュータを追加する場合は、「6.2.1 コンピュータの変更、追加」(→ P.176)

WizardConsole をインストールする前に、すでにコンピュータを登録している場合は、「6.2.2 コンピュータ情報の取得」(→ P.177) を行ってください。

OS 種別が同じクライアントコンピュータを大量に一括登録する場合は、「6.2.3 コンピュータの一括導入」(→ P.178) を行ってください。

- 「WizardConsole」画面で [コンピュータ] タブを選択し、[コンピュータの追加／変更] をクリックします。

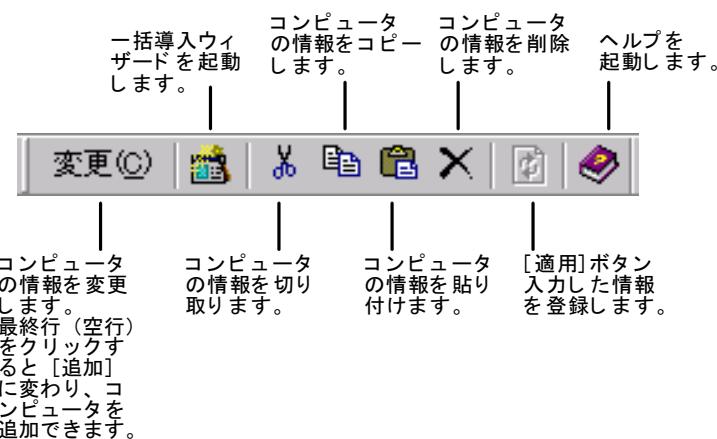
「クライアントシステム設計 コンピュータの追加／変更」画面が表示されます。



重要

- 背景が黄色で表示されているアカウントは、すでに登録済みであることを表します。
- 登録済みのアカウントを変更する場合は [変更] をクリックし、表示された画面で修正を行ってください。変更内容は即時に反映されますので、情報を変更する場合は十分注意してください。

■「クライアントシステム設計 コンピュータの追加／変更」画面のツールバー



■「クライアントシステム設計 コンピュータの追加／変更」画面の説明

項目	説明
コンピュータ名	WizardConsole で管理しているコンピュータ名が表示されます。
OS	OS の種類が表示されます。
IP アドレス	設定されている IP アドレスが表示されます。
サブネットマスク	設定されているサブネットマスクが表示されます。
デフォルトゲートウェイ	設定されているデフォルトゲートウェイが表示されます。

■「クライアントシステム設計 コンピュータの追加／変更」画面のメニュー

項目	説明
「ファイル」メニュー	
コンピュータの読み込み	コンピュータ情報を読み込みます。
CSV ファイル	あらかじめ複数のコンピュータの情報を CSV 形式で記述してファイルを作成しておき、まとめてコンピュータを登録できます。 CSV ファイルの記述方法については、「6.10.5 CSV ファイルフォーマットについて」(→ P.224) を参照してください。
コンピュータ情報の取得	ネットワーク上でドメインメンバーとして動作中のコンピュータ情報を取得することができます。ツールバーまたはメニューの「適用」が有効な場合は選択できません。
CSV ファイル出力	登録されているコンピュータ情報を CSV 形式のファイルに書き出します。
導入ウィザード	同じ OS 種別のコンピュータを大量に一括して登録します。
アプリケーションの終了	クライアントシステム設計を終了します。
「編集」メニュー	
切り取り	選択したコンピュータ情報を切り取り、クリップボードに保存します。
コピー	選択したコンピュータ情報を、クリップボードに保存します。
貼り付け	クリップボードに保存された内容を、貼り付けます。
削除	削除するコンピュータを選択し、登録済みのコンピュータを削除します。
適用	入力した情報を登録します。

☞ 重要

- ▶ Windows NT の「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール」の「サーバマネージャ」、または Windows 2000 の「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「管理ツール」の「Active Directory ユーザとコンピュータ」を使用してコンピュータを追加、変更した場合は、2048 件以上の情報を正常に反映できないことがあります。
- ▶ クライアントコンピュータの追加を行った場合、追加したクライアントにアプリケーションやファイルをインストールするには、「クライアントセットアップ」画面から次の操作を行ってください。
セットアップ資源がまだ取り込まれていない場合は、「セットアップ資源の取り込み」画面からセットアップ資源の取り込みを行ってください。
セットアップ資源がすでに取り込まれている場合は、「登録済みセットアップ一覧」からセットアップ資源を選択して、「クライアント一覧」の追加したクライアントを選択状態にしてください。

6.2.1 コンピュータの変更、追加

登録済みのコンピュータの情報を変更したり、新規にコンピュータを追加します。

- 1 変更するコンピュータの欄をクリックし、[変更] をクリックします。**
新規にコンピュータを追加する場合は、最終行（空行）をクリックして [追加] をクリックします。

コンピュータは 2048 件まで登録できます。

「コンピュータの変更」画面が表示されます（追加時も同様の画面が表示されます）。



【再作成】は、変更画面で OS に Windows NT WS 4.0、Windows NT Server 4.0 (BDC)、または Windows 2000 Professional、Windows XP を指定した場合に表示されます。

- 2 コンピュータの情報を設定します。**

各項目の詳細説明については、[ヘルプ] をクリックして参照してください。

- 3 [OK] をクリックします。**

コンピュータ情報が変更、または追加されます。

6.2.2 コンピュータ情報の取得

WizardConsole をインストールする前にクライアントコンピュータを登録している場合、登録されているクライアントコンピュータの情報を、WizardConsole に取り込みます。

- 1 「ファイル」メニューから「コンピュータの取込み」－「コンピュータ情報の取得」を選択します。**

「コンピューター一覧」画面が表示されます。すでにクライアントシステム設計に登録されているコンピュータは、グレー表示されます。

- 2 登録するコンピュータを選択します。**

すべてのコンピュータを登録する場合は [全て選択] をクリックします。

- 3 [登録] をクリックします。**

選択したコンピュータの情報が取り込まれ、一覧に追加されます。

重要

- ▶ [コンピュータ情報の取得] で取り込まれたサブネットマスク、デフォルトゲートウェイは、起動しているマシンから取得されます。必要に応じて値を変更してください。
- ▶ DHCP 起動のコンピュータの場合、割り当てられた IP アドレスが表示されますので、登録後、IP アドレスを DHCP に変更してください。
- ▶ IP アドレスが「不明」と表示される場合は、以下の問題が考えられます。
 1. 取得されたコンピュータに TCP/IP プロトコルがインストールされていない。
 2. DNS に登録されているホスト名と実際のコンピュータ名が異なっている。
- 1. の場合、このコンピュータを選択しないか、TCP/IP プロトコルをインストールしてください。2. の場合、正しい値に変更してください。

6.2.3 コンピュータの一括導入

OS 種別が同じクライアントの場合は、一括で大量のクライアントコンピュータを登録できます。一括導入は、ウィザードに従って設定を行います。

コンピュータ名、IP アドレスは任意の文字列に連番で取得されます。導入後、必要に応じて変更してください。

重要

- ▶ 一括導入ウィザードでコンピュータを作成する場合、次の制限があります。
IP アドレス設定を選択した場合は、開始アドレス xx.xx.xx.nn の 255 – (nn – 1) 台まで（例：開始アドレスが 10.10.1.11 の場合、255 – (11 – 1) = 245 台まで）作成できます。DHCP アドレスを選択した場合は、最大 2048 台まで作成できます。登録中にクライアント登録数が 2048 台になった時点で作成を終了します。

1 「ファイル」メニューから「導入ウィザード」を選択します。

一括導入ウィザードが表示されます。

ウィザードに従って操作を行ってください。

確認画面で「完了」をクリックすると指定した台数分のクライアントコンピュータが追加されます。この状態ではまだ登録は行われていません（背景が白色）。設定を変更する場合は、必要に応じて設定を変更後「適用」をクリックしてください。

コンピュータが登録されます（背景が黄色）。

6.2.4 コンピュータの削除

不要のないコンピュータを、登録から削除します。

1 削除するコンピュータを選択します。複数のコンピュータを選択できます。

2 「編集」メニューから「削除」を選択します。

選択したコンピュータが一覧から削除されます。

6.3 ユーザ、グループ、共有資源の追加／変更

重要

- ▶ 背景が黄色で表示されているアカウントは、すでに登録済みであることを表します。登録済みのアカウントを変更する場合は【変更】をクリックし、修正してください。変更内容は即時に反映されますので、情報を変更する場合は十分注意してください。
- ▶ 背景が白色で表示されているアカウントは、【適用】または【OK】をクリックすると登録されます。

1 「WizardConsole」画面で【グループ／ユーザ／共有資源】タブを選択し、【クライアント情報の追加／変更】をクリックします。

「クライアント情報の追加／変更」画面が表示され、【ユーザの設定】タブ画面が表示されます。各タブをクリックすると【グループの設定】タブ画面、【共有資源の設定】タブ画面に切り替わります。



2 各タブをクリックして設定します。

POINT

- ▶ あらかじめ登録するユーザの情報、グループ情報、共有資源情報を、それぞれ CSV 形式で記述してファイルを作成しておくと、「ファイル」メニューから「CSV ファイル読み込み」を選択して、まとめて登録できます。
- また、登録したユーザの情報は、「ファイル」メニューから「CSV ファイル出力」を選択して、CSV 形式のファイルに書き出せます。
- CSV ファイルの記述方法については、「6.10.5 CSV ファイルフォーマットについて」(→ P.224) を参照してください。

6.3.1 ユーザの追加／変更

[ユーザの設定] タブが表示されていることを確認してください。

1 ユーザの情報を設定します。

新規にユーザを追加する場合は、入力する欄をクリックし、直接入力するか [追加] をクリックします。2048 件まで設定できます。
「ユーザの追加」画面が表示されます。

2 追加するユーザの情報を設定し、[追加] をクリックします。

ユーザが追加されます。追加するユーザの情報を続けて設定できます。

3 すべてのユーザの追加が終わったら、[閉じる] をクリックします。

「クライアント情報の追加／変更」画面に戻ります。

POINT

- ▶ ユーザ情報の変更
変更するユーザを選択して [変更] をクリックするか、変更するユーザをダブルクリックします。
「ユーザの変更」画面が表示されます。設定を変更し [OK] をクリックします。
- ▶ ユーザの削除
削除するユーザを右クリックし [削除] を選択します。【Delete】キーを押しても削除できます。

重要

- ▶ Windows NT の「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール」の「ユーザーマネージャ」、または Windows 2000 の「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「管理ツール」の「Active Directory ユーザとコンピュータ」を使用してユーザを追加、変更した場合、2048 件以上の情報を正常に反映できない場合があります。

6.3.2 グループの追加／変更

1 [グループの設定] タブをクリックします。

[グループの設定] タブ画面が表示されます。



2 グループの情報を設定します。

新規にグループを追加する場合は、[追加]をクリックします。2048件まで設定できます。「グループの追加」画面が表示されます。

3 追加するグループの情報を設定し、[追加]をクリックします。

グループが追加されます。追加するグループを続けて設定できます。

4 すべてのグループの追加が終わったら、[閉じる]をクリックします。

「クライアント情報の追加／変更」画面に戻ります。

POINT

▶ グループ情報の変更

変更するグループを選択して[変更]をクリックするか、変更するグループをダブルクリックします。「グループの変更」画面が表示されます。設定を変更し[OK]をクリックします。

▶ グループの削除

削除するグループを右クリックし、[削除]を選択します。【Delete】キーを押しても削除できます。

重要

- Windows NT の「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール」の「ドメインユーザーマネージャ」、または Windows 2000 の「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「管理ツール」の「Active Directory ユーザとコンピュータ」を使用してグループを追加、変更した場合は、2048件以上の情報を、正常に反映できないことがあります。

6.3.3 共有資源フォルダの追加／変更**1 [共有資源の設定]タブをクリックします。**

[共有資源の設定]タブ画面が表示されます。



2 共有資源の情報を設定します。

新規にグループを追加する場合は、入力する欄をクリックし、直接入力するか【追加】をクリックします。2048件まで設定できます。
「共有資源の追加」画面が表示されます。

3 追加する共有資源の情報を設定し、【追加】をクリックします。

共有資源が追加されます。続けて追加する共有資源を設定できます。

4 すべての共有資源の追加が終わったら【閉じる】をクリックします。

「クライアント情報の追加／変更」画面に戻ります。

POINT

- ▶ 共有資源情報を変更する
変更する共有資源を選択して【変更】をクリックするか、変更する共有資源をダブルクリックします。
「共有資源の変更」画面が表示されます。設定を変更し【OK】をクリックします。
- ▶ 共有資源を削除する
削除する共有資源を右クリックし、【削除】を選択します。【Delete】キーを押しても削除できます。

○ 重要

- ▶ 共有資源の"SVWIZARD"とユーザ名の"SWClientSetupUser"は、WizardConsoleでクライアントコンピュータの登録に使用するために作成されます。
登録中は、この共有資源を削除したり、アクセス権の変更、ユーザのパスワード変更等を行わないでください。
インターネット等の他のネットワークに接続しているサーバでは、セキュリティ確保のため、ClientWizard すべてのクライアントに登録が終了したら削除してください。
- ▶ デスクトップ設計をお使いになる場合は、共有資源を削除しないでください。
- ▶ 32件以上の共有資源を登録した場合、操作は続行できますが、サーバ情報ファイルには32件までしか登録できません。
- ▶ Windows NT の「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール」の「ドメインユーザー マネージャ」、または Windows 2000 の「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」→「管理ツール」の「Active Directory ユーザとコンピュータ」を使用して共有資源を追加、変更した場合は、2048件以上の情報を正常に反映できないことがあります。

続いてユーザ、グループ、共有資源の関連付けの操作を行います。

6.3.4 ユーザ、グループ、共有資源の関連付け

1 「クライアント情報の追加／変更」画面で【OK】をクリックします。

「追加変更」画面が閉じて、「クライアントシステム設計」画面が表示されます。
ユーザのグループ構成、およびユーザ／グループ単位で使用できる共有資源の関連付けを行います。

■ ユーザの所属グループの設定

ユーザをグループに関連付けます。



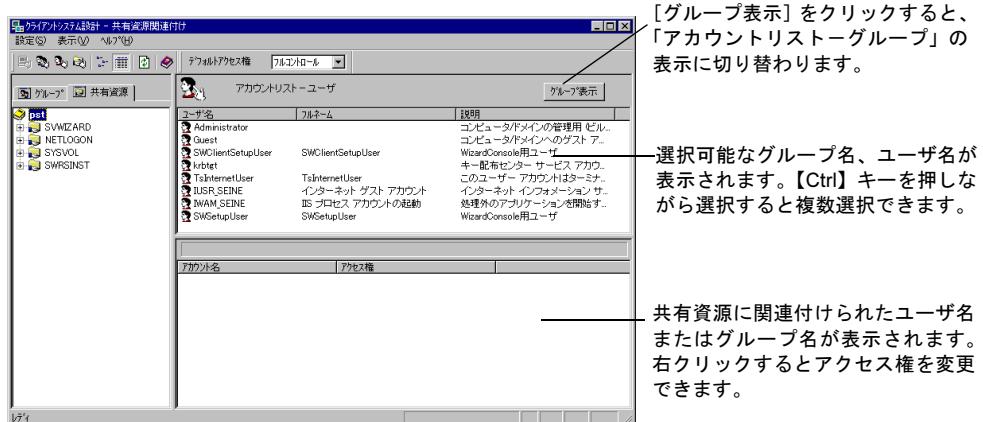
POINT

- OU 設定時、ビルトイングループとして Active Directory にあらかじめ登録されているグループは、Bold 表示されます。

1 設定したいユーザを選択し、「アカウントリスト - ユーザ」から、左側の「[グループ]」タブ内の目的のグループ、または右下側の「グループ xx に関連付けられたアカウント」のリスト内にドラッグ & ドロップします（xx は選択されているグループ名）。

■ 共有資源の設定（ユーザ／グループ単位）

グループ、ユーザを共有資源に関連付けます。



1 設定したいユーザまたはグループを選択し、「アカウントリスト」から左側の「共有資源」タブ内の目的の共有資源、または右下側の「共有資源 xx に関連付けられたアカウント」のリスト内にドラッグ & ドロップします（xx は選択されている共有資源名）。

選択状態の共有資源に関連付けられたユーザ、またはグループのアクセス権は次の方法で変更できます。

2 「関連付け一覧」からアクセス権を変更したいアカウントをダブルクリックするか、右クリックします。

ダブルクリックした場合は、「アクセス権の変更」画面が表示されます。

右クリックした場合は、ポップアップメニューが表示されます。

3 変更したいアクセス権を選択し、[OK] をクリックします。

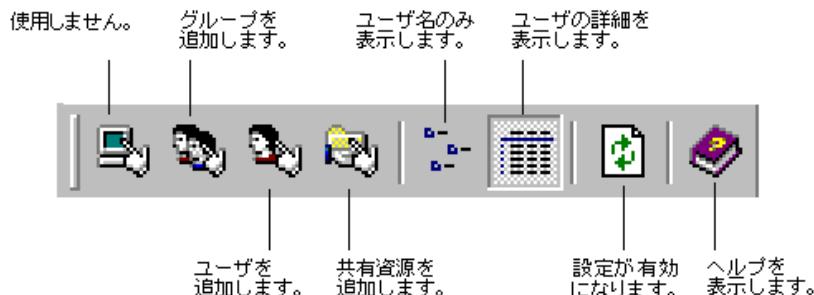
POINT

- ▶ ツールバーのアクセス権を変更すると、デフォルトのアクセス権を変更できます。
- ▶ アカウントの関連付けをキー操作で行うこともできます。
 1. 「アカウントリスト」の目的のアカウントをクリックし、【Ctrl】 + 【C】キーを押します。
 2. 左側の「グループ」または「共有資源」タブ内の目的のアカウントをクリックします。
 3. 【Ctrl】 + 【V】キーを押します。
- ▶ ユーザ、またはグループの関連付けを確認したい場合は、アカウントを選択し右クリックのポップアップメニューから「関連付け確認」を選択します。「関連付け確認」画面が表示されます。

重要

- ▶ クライアントシステム設計での設定を反映するには、「適用」をクリックするか、「設定」メニューの「適用」を選択してください。

■「クライアントシステム設計」画面のツールバー



■「クライアントシステム設計」画面のメニュー

項目	説明
「設定」メニュー	
追加／変更	追加／変更には以下のサブメニューがあります。 コンピュータ：使用しません。 グループ：グループ情報を追加、または変更します。 ユーザ：ユーザ情報を追加、または変更します。 共有資源：共有資源情報を追加、または変更します。
デフォルトアクセス権	表示されたサブメニューからアクセス権を選択します。 フルコントロール：すべての操作が行えます。 変更のみ：変更のみ行えます。 読み込みのみ：読み込みのみ行えます。 アクセス権なし：アクセスすることはできません。
適用	クライアントシステム設計で設定した内容を保存します。
終了	クライアントシステム設計で設定した内容を保存するかを確認するメッセージが表示されます。[OK] をクリックすると、設定内容を保存してクライアントシステム設計を終了します。
「表示」メニュー	
ツールバー	ツールバーの表示、非表示を切り替えます。
デフォルトアクセス権	ツールバー上のデフォルトアクセス権の表示、非表示を切り替えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示、非表示を切り替えます。
関連付け画面切替え	グループと共有資源の画面を切り替えます。 グループ：関連付けのツリーをグループに切り替えます。 共有資源：関連付けのツリーを共有資源に切り替えます。
アカウントリスト切替え	[共有資源] タブ選択中に、アカウントリストの表示をユーザとグループに切り替えます。 ユーザー一覧：アカウントリストにユーザのリストを表示します。 グループ一覧：アカウントリストにグループのリストを表示します。
関連付け一覧表示切替え	画面右下の関連付けられたアカウントの表示方法を切り替えます。 小さいアイコン：関連付けられたアカウントを小さいアイコンで表示します。 詳細：関連付けられたアカウントの詳細情報を表示します。
「ヘルプ」メニュー	
トピックの検索	リモート OS セットアップのヘルプが表示されます。ヘルプには、各画面の説明が書かれています。
クライアントシステム設計のバージョン情報	バージョン情報が表示されます。

6.4 リモート OS セットアップ

クライアントにOSをインストール、セットアップするための設定を行います。

インストールするOSの媒体が必要です。あらかじめお手元にご用意ください。Windows NT Workstation 4.0の場合は、クライアントのドライバーズCD-ROMもあわせてご用意ください。

POINT

- リモートOSセットアップでインストールできる機種

Windows NT Workstation 4.0の場合

以下の3つの条件を満たすFMVシリーズで利用できます。これらの条件を満たす機種の名称が「機種名」に一覧表示されます。

- Windows NT Workstation 4.0のインストールタイプモデル
- ドライバーズCD-ROM／リカバリCD-ROMが添付されている
- MS-DOS上で動作するNDISのLANドライバが添付されている

また、99年冬モデル以降（99年10月以降に出荷されたモデル）の機種名は【CD読込】を押した後、ドライバーズCD-ROMを入れると表示されます。

Windows 2000 Professionalの場合

Windows 2000 Professionalに対応する機種で利用できます。対応機種について、詳しくは弊社ホームページ"FM WORLD (<http://www.fmworld.net>)"をご覧ください。

6.4.1 リモートOSセットアップを起動する

- 「WizardConsole」画面で【コンピュータ】タブを選択し、【リモートOSセットアップ】をクリックします。

「リモートOSセットアップ」画面が表示されます。



■「リモート OS セットアップ」画面のツールバー



■「リモート OS セットアップ」画面の説明

項目	説明
OS セットアップ登録一覧	登録したクライアントへの OS セットアップ情報の一覧が表示されます。最大、64 個まで登録できます。
登録名	入力したセットアップ情報の登録名が表示されます。
OS	セットアップする OS の種別が表示されます。
説明	セットアップ情報の説明が表示されます。

■「リモート OS セットアップ」画面のメニュー

項目	説明
「セットアップ情報の設定」メニュー	
新規作成	クライアントへの OS セットアップ情報を新規に作成します。
登録名の変更	クライアントへの OS セットアップ情報の登録名、説明を変更します。
削除	クライアントへの OS セットアップ情報を削除します。
プロパティ	セットアップ情報の内容を確認、変更します。
CD イメージの登録／削除	リモート OS セットアップで利用する OS の CD-ROM イメージを削除、または再登録します。
クライアントブート設定起動	クライアントブート設定を起動します。（「6.7.2 OS セットアップ用」（→ P.208））
終了	リモート OS セットアップが終了します。
「表示」メニュー	
ツールバー	ツールバーの表示／非表示を切り替えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示／非表示を切り替えます。
「ヘルプ」メニュー	
トピックの検索	リモート OS セットアップのヘルプが表示されます。ヘルプには、各画面の説明が書かれています。
リモート OS セットアップのバージョン情報	バージョン情報が表示されます。

6.4.2 OS セットアップ情報を設定する (Windows 2000 Professional の場合)

クライアント側に OS をインストールする際の情報を設定します。

- 1 「セットアップ情報の設定」メニューから「新規作成」を選択します。**
「新規登録—リモート OS セットアップ」画面が表示されます。
- 2 登録名、説明などを入力して [OK] をクリックします。**
Windows 2000 Professional の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。
ただし、すでに Windows 2000 Professional の CD-ROM がコピーされている場合は表示されません。
「ハードディスクの設定」画面が表示されますので、手順 4 へ進んでください。
- 3 Windows 2000 Professional の CD-ROM をセットして、[OK] をクリックします。**
ファイルのコピーが開始されます。
「ハードディスクの設定」画面が表示されます。

POINT

- ▶ Windows 2000 Professional のインストールには、1GB の容量が必要ですが、リモート OS セットアップの場合は、ワークエリアが必要になりますので最低 2GB 必要です。

- 4 OS をインストールする区画を設定して [次へ] をクリックします。**
「ユーザ情報の設定」画面が表示されます。
- 5 ユーザ情報を設定して [次へ] をクリックします。**
「メンバシップの設定」画面が表示されます。
- 6 ワークグループ、またはドメインを設定してユーザ情報を設定して [次へ] をクリックします。**

POINT

- ▶ ドメインに参加する場合は、コンピュータをドメインに参加させる権限のあるアカウントの名前とパスワードが必要です。パスワードは暗号化して保存されます。

- 7 ネットワークの設定を行います。**
[追加] をクリックすると、「コンポーネントの選択」画面が表示されます。
追加したいコンポーネントを選択し [OK] をクリックします。「ネットワークの設定」画面に戻ります。
- 8 [次へ] をクリックします。**
「機能の設定」画面が表示されます。詳細設定が必要なサービスを使用する場合は [詳細] をクリックして、各項目を設定してください。
- 9 [次へ] をクリックします。**
「ドライバの追加」画面が表示されます。
- 10 Plug&Play に対応した機器のドライバをインストールする場合は、追加するドライバを指定し、[追加] をクリックします。**

- 11 [完了] をクリックします。**
OS セットアップ情報が設定され、「リモート OS セットアップ」画面に戻ります。
続いてクライアントにインストールするアプリケーション、コピーするファイル、実行コマンドを設定する場合は、「クライアントセットアップ」を行ってください。

6.4.3 OS セットアップ情報を設定する (Windows NT Workstation 4.0 の場合)

クライアント側に OS をインストールする際の情報を設定します。

- 1 「セットアップ情報の設定」メニューから「新規作成」を選択します。**
「新規登録—リモート OS セットアップ」画面が表示されます。
- 2 各項目を設定して [OK] をクリックします。**
ドライバーズ CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。
- 3 ドライバーズ CD-ROM をセットして、[OK] をクリックします。**
サーバにドライバーズ CD-ROM の情報がコピーされます。コピーが終了すると Windows NT Workstation 4.0 の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。
ただし、すでに Windows NT Workstation 4.0 の CD-ROM がコピーされている場合は表示されません。
「ユーザ情報の設定」画面が表示されますので、手順 **5** へ進んでください。
- 4 Windows NT Workstation 4.0 の CD-ROM をセットして、[OK] をクリックします。**
ファイルのコピーが開始されます。
終了すると「ユーザ情報の設定」画面が表示されます。
- 5 ユーザ情報を設定して [次へ] をクリックします。**
「ネットワークの設定」画面が表示されます。
- 6 プロトコルを指定します。**
[詳細] をクリックすると、「ネットワークの詳細」画面が表示されますので、必要な項目を設定し、[OK] をクリックします。
- 7 [次へ] をクリックします。**
「サービスの設定」画面が表示されます。詳細設定が必要なサービスは、[詳細] をクリックして、各項目を設定してください。
- 8 設定するサービスを選択して、[完了] をクリックします。**
OS セットアップ情報が設定され、「リモート OS セットアップ」画面に戻ります。
続いてクライアントにインストールするアプリケーション、コピーするファイル、実行コマンドを設定する場合は、「クライアントセットアップ」を行ってください。

6.4.4 OS セットアップ情報の登録名を変更する

OS セットアップ情報の登録名と説明を変更します。

- 1 「セットアップ情報の設定」メニューから「登録名の変更」を選択します。**
「リモート OS セットアップ」画面が表示されます。

- 2** 登録名、説明を変更して [OK] をクリックします。
OS セットアップ情報が変更されます。

6.4.5 OS セットアップ情報を確認／変更する

設定した OS セットアップ情報の内容を確認、または変更します。

- 1** OS セットアップ登録一覧から操作を行う OS セットアップ情報を選択します。
- 2** 「セットアップ情報の設定」メニューから「プロパティ」を選択します。
「OS セットアップ情報のプロパティ」画面が表示されます。
- 3** 各設定のタブを選択し、内容を確認して必要に応じて設定を変更してください。
- 4** [OK] をクリックします。

POINT

- ▶ 削除する場合は、「セットアップ情報の設定」メニューから「削除」を選択します。
削除を確認するメッセージが表示されますので [はい] をクリックします。
OS セットアップ情報が削除されます。

6.4.6 CD-ROM イメージを削除する

リモート OS セットアップで利用する Windows NT Workstation 4.0 / Windows 2000 Professional の CD-ROM イメージが不要になった場合、CD-ROM イメージを削除して、サーバのハードディスクの空き容量を増やすことができます。

- 1** 「セットアップ情報の設定」メニューから「CD イメージ登録／削除」を選択します。
「CD イメージ登録／削除」画面が表示されます。
- 2** 削除する CD-ROM イメージの [削除] をクリックします。
ファイルの削除が開始されます。

POINT

- ▶ 再登録する場合は、再登録する CD-ROM イメージの [読み込み] をクリックします。
ファイルのコピーが開始されます。

6.5 クライアントセットアップ

クライアントセットアップでは、クライアント側にインストールするアプリケーション、コピーするファイル、実行するコマンドを指定します。

クライアントセットアップで指定した内容は、ClientWizard でクライアントをセットアップする際に利用されます。

■ セットアップする内容

● アプリケーション

アプリケーションソフト（複数のファイルで構成され、setup コマンドなどのインストーラが使われるもの）をクライアント側にインストールするように指定します。インストールが自動化されておらず、インストール時に設定操作が必要なアプリケーションソフトを指定するには、事前に Rational Visual Test® などを使ってスクリプトを作成しておく必要があります。標準的なアプリケーションについては、本製品にスクリプトが用意されています。

● ファイル

クライアント側にコピーするファイルを指定します。ディレクトリを指定すると複数のファイルを一度にコピーするように指定できます。

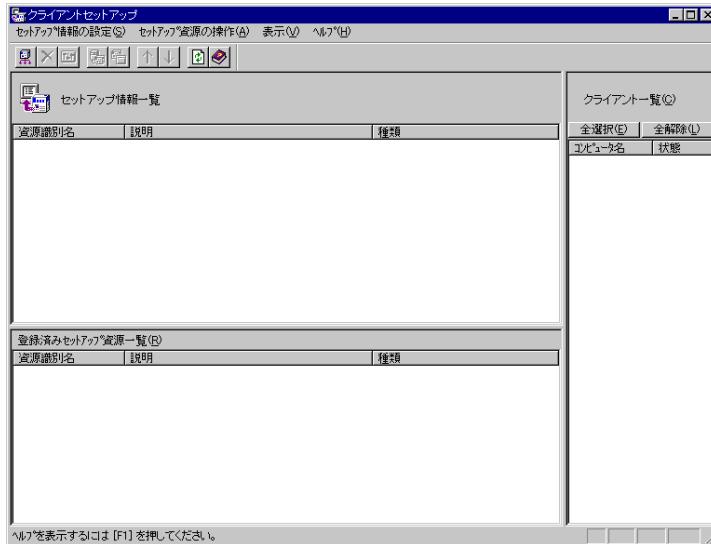
● 実行コマンド

クライアント側で最初のログオン時に実行するコマンドを指定します。ファイルのコピーは行われず、コマンドの実行のみが行われます。例えば、インストールしたアプリケーションソフトの環境設定を自動化するバッチファイルなどを指定できます。

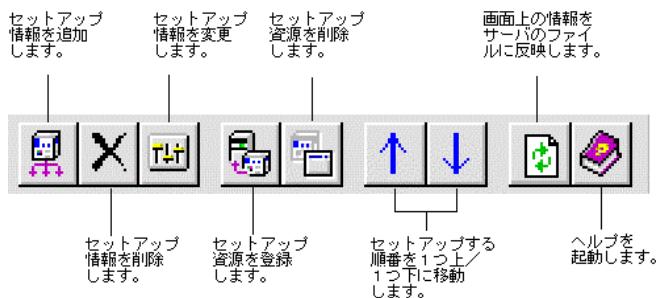
6.5.1 クライアントセットアップを起動する

- 1 「WizardConsole」画面で [コンピュータ] タブを選択し、[クライアントセットアップ] をクリックします。

「クライアントセットアップ」画面が表示されます。



■「クライアントセットアップ」画面のツールバー



■「クライアントセットアップ」画面の説明

項目	説明
セットアップ情報一覧	セットアップ情報が設定されている資源の一覧が表示されます。登録済み資源とあわせて、64個まで追加できます。複数選択はできません。
	資源識別名 セットアップ情報が設定されている資源識別名が表示されます。資源識別名とは、セットアップ資源を識別するためにユーザが指定する名前です。 標準対応製品についてはスクリプトが用意されており、資源識別名の先頭に@が付いています。
	説明 セットアップ情報が設定されている資源の説明が表示されます。
	種類 セットアップ情報が設定されている資源の種類が表示されます。資源の種類には「アプリケーション」、「ファイル」、「実行コマンド」の3種類あります。
登録済みセットアップ資源一覧	登録済みのセットアップ資源の一覧が表示されます。登録済み資源とは、クライアントにセットアップする資源をサーバ上のディスクに登録した資源です。表示される情報は「セットアップ情報一覧」と同じです。クライアントへのインストールは、この一覧の順に行われます。 「セットアップ情報一覧」からセットアップ情報を選択し、資源の登録を行うと、資源がサーバのディスクに登録され、「セットアップ情報一覧」に表示されていた情報が「登録済みセットアップ資源一覧」に移動します。複数選択できません。
クライアント一覧	セットアップ情報一覧または登録済みセットアップ資源一覧で選択している情報（資源）のセットアップ対象のクライアントを選択します。 初期状態は、すべてのクライアントが選択されています。複数のクライアントを選択できます。 なお、バックアップドメインコントローラはセットアップ対象のクライアントとしては表示されません。
全選択	表示されているすべてのクライアントコンピュータを選択状態にします。
全解除	表示されているすべてのクライアントコンピュータを非選択状態にします。
コンピュータ名	WizardConsole の「コンピュータの追加／変更」で設定したクライアントのコンピュータ名が表示されます。
状態	資源のセットアップ状態が表示されます。以下の状態があります。 完了：セットアップ済みです。 未完了：セットアップしていません。 エラー：セットアップ情報に異常があり、セットアップに失敗しました。 セットアップ情報が正しいか確認してください。

■「クライアントセットアップ」画面のメニュー

項目	説明
「セットアップ情報の設定」メニュー	
追加	セットアップ情報を追加します。 セットアップ情報は、登録済み資源の情報とあわせて64個まで追加できます。64個を超えて追加しようとすると、メッセージが表示されます。
削除	セットアップ情報一覧で選択されているセットアップ情報を削除します。削除の操作を行うと、セットアップ情報の削除を確認する画面が表示されます。
設定変更	「セットアップ情報一覧」で選択されているセットアップ資源の情報を変更します。登録済み資源のセットアップ情報は変更できません。登録済み資源のセットアップ情報を変更したい場合は、セットアップ資源の削除をしてから、セットアップ情報の変更をします。
設定確認	セットアップ情報の設定内容を表示します。
終了	設定した情報を保存し、「クライアントセットアップ」画面を終了します。

「セットアップ資源の操作」メニュー	
資源の登録	「セットアップ情報一覧」で選択されているセットアップ資源をサーバのディスクに登録します。登録先のフォルダは WizardConsole のインストール時に指定したデータフォルダです。 「セットアップ情報一覧」から、セットアップ情報を選択し、「資源の登録」を選択すると、「資源の登録」画面が表示されます。詳細登録したセットアップ情報は「登録済みセットアップ資源一覧」に移動します。
資源の削除	「登録済みセットアップ資源一覧」で選択しているセットアップ資源をサーバのディスクから削除します。資源の削除確認が表示されます。 削除されたセットアップ資源は「セットアップ情報一覧」に移動し、「クライアント一覧」の「状態」が「未完了」に戻ります。
資源の全登録	「セットアップ情報一覧」に表示されているすべてのセットアップ資源をサーバのディスクに登録します。登録されたセットアップ情報は「登録済みセットアップ資源一覧」の最後尾に、そのままの順番で移動します。
資源の全削除	「登録済みセットアップ一覧」に表示されているすべてのセットアップ資源をサーバのディスクから削除します。資源の削除確認画面が表示されます。
インストール順番上へ／インストール順番下へ	「登録済みセットアップ資源一覧」で選択されているセットアップ資源のインストール順番を1つ上、または下に移動します。表示順番を上に移動すると、クライアントでのセットアップ順番が早くなります。
「表示」メニュー	
ツールバー	ツールバーの表示／非表示を切り替えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示／非表示を切り替えます。
最新に更新	画面上の情報をサーバ上のファイルに反映します。サーバでセットアップ情報および登録済み資源を操作している間、「クライアントセットアップ」画面の情報と、クライアントから参照できる情報が一致しないため、クライアントへのインストールは実行できません。「クライアントセットアップ」画面を終了せずに、インストールしたい場合、「表示」メニューから「最新に更新」を選択してからインストールしてください。サーバ上の情報が更新され、クライアントから最新の情報が参照できるようになります。
動作環境設定	選択できません。淡色表示されます。
「ヘルプ」メニュー	
トピックの検索	クライアントセットアップのヘルプが表示されます。ヘルプには、各画面の説明が書かれています。
バージョン情報	クライアントセットアップのバージョン情報が表示されます。

6.5.2 セットアップ情報（アプリケーション）を追加する

クライアント側にインストールするアプリケーションを指定します。

各画面の項目の詳細については、「ヘルプ」をクリックして参照してください。

- 1 「クライアントセットアップ」画面で、「セットアップ情報の設定」メニューから「追加」を選択します。**

「セットアップ種類の選択」画面が表示されます。



- 2 「アプリケーション」の「一覧から選択」が選択されていることを確認します。**

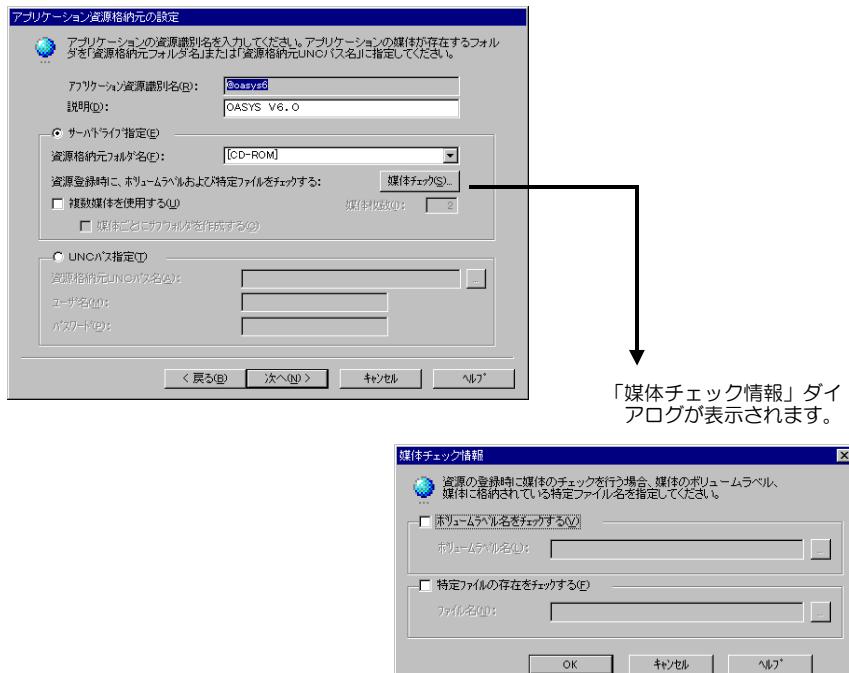
- 3 「標準対応製品」から、インストールしたいアプリケーションソフトを選択し、[次へ] をクリックします。**

「標準対応製品」にインストールしたいアプリケーションが表示されていない場合は、「一覧から選択」のチェックをはずして [次へ] をクリックします。

POINT

- ▶ 「標準対応製品」にないアプリケーションで、対話型インストールを行うアプリケーションを指定するには、事前にスクリプトの作成が必要になります。スクリプトを作成していない場合は、[キャンセル] をクリックして作業を中断し、Rational Visual Test®などを使ってスクリプトを作成してください。
- ▶ 「標準対応製品」のアプリケーションによって、インストールできるOSは異なります。「6.10.4 クライアントセットアップに関する留意事項」(→ P.222) を確認してください。サポートしていないOSにインストールすると、アプリケーションを正しくインストールできない可能性があります。

「アプリケーション資源格納元の設定」画面が表示されます。



4 サーバ内のどのドライブからアプリケーションを登録するかを指定し、[次へ] をクリックします。

「標準対応製品」から選択した場合は、「インストール詳細設定」画面が表示されます。手順 5 へ進みます。

「標準対応製品」から選択しなかった場合は、「インストーラ情報／スクリプト情報の設定」画面が表示されます。手順 7 へ進みます。

5 選択したアプリケーション用の詳細設定画面が表示されます。

各項目の内容については、各アプリケーションのマニュアルを参照してください。

6 各項目を設定して、[次へ] をクリックします。

セットアップ情報の設定確認画面が表示されます。手順 9 へ進みます。

7 「インストーラ情報／スクリプト情報の設定」画面が表示されます。

「従来のインストーラ製品」と「Windows インストーラ製品」では、表示される項目が異なります。

8 各項目を設定して、[次へ] をクリックします。

セットアップ情報の設定確認画面が表示されます。

9 設定内容を確認して、[完了] をクリックします。

アプリケーションのセットアップ情報が設定され、「クライアントセットアップ」画面に戻ります。

10 必要に応じてセットアップ対象となるクライアントを指定します。

初期状態のとき、すべてのクライアントがセットアップ対象（緑色）になっています。特定のクライアントをセットアップ対象から外すには、クライアント一覧内をクリックして、選択状態（緑色）を解除してください。

6.5.3 セットアップ情報（ファイル）を追加する

クライアント側にコピーするファイルを指定します。

1 「クライアントセットアップ」画面で、「セットアップ情報の設定」メニューから「追加」を選択します。

「セットアップ種類の選択」画面が表示されます。

2 「ファイル」を選択し、[次へ] をクリックします。

「ファイル情報設定」画面が表示されます。

3 各項目を設定し、[完了] をクリックします。

ファイルの情報が設定され、「クライアントセットアップ」画面に戻ります。

4 必要に応じてセットアップ対象となるクライアントを指定します。

初期状態のとき、すべてのクライアントがセットアップ対象（緑色）になっています。特定のクライアントをセットアップ対象から外すには、クライアント一覧内をクリックして、選択状態（緑色）を解除してください。

6.5.4 セットアップ情報（実行コマンド）を追加する

クライアント側で実行するコマンドを指定します。

1 「クライアントセットアップ」画面で、「セットアップ情報の設定」メニューから「追加」を選択します。

「セットアップ種類の選択」画面が表示されます。

2 「実行コマンド」を選択し、[次へ] をクリックします。

「実行コマンド詳細設定」画面が表示されます。

3 各項目を設定し、[完了] をクリックします。

実行するコマンドの情報が設定され、「クライアントセットアップ」画面に戻ります。

4 必要に応じてセットアップ対象となるクライアントを指定します。

初期状態のとき、すべてのクライアントがセットアップ対象（緑色）になっています。特定のクライアントをセットアップ対象から外すには、クライアント一覧内をクリックして、選択状態（緑色）を解除してください。

6.5.5 セットアップ情報の内容確認／設定変更

● 設定内容を確認する

セットアップ情報の設定内容を確認します。

- 1 「クライアントセットアップ」画面で、設定を確認するセットアップ情報を選択します。
- 2 「セットアップ情報の設定」メニューから「設定確認」を選択します。
各セットアップ情報の設定確認画面が表示されます。

● 設定内容を変更する

セットアップ情報の設定内容を変更します。

- 1 「クライアントセットアップ」画面で、設定を変更するセットアップ情報を選択します。
- 2 「セットアップ情報の設定」メニューから「設定変更」を選択します。
各セットアップ情報の設定画面が表示されます。
操作方法は、追加する場合と同じです。

6.5.6 セットアップ資源をサーバへ登録する

セットアップ情報で設定した資源をサーバのディスクに登録します。登録先のフォルダは WizardConsole のインストール時に指定した「データフォルダ」です。

☞ 重要

- ▶ 各セットアップ資源の登録には、ハードディスクに充分な空き容量が必要です。あらかじめ、十分な空き容量がハードディスクにあるか確認してください。
- ▶ 「標準対応製品」のアプリケーションによって、インストールできる OS は異なります。サポートしていない OS にインストールすると、アプリケーションを正しくインストールできない可能性があります。

- 1 「クライアントセットアップ」画面で、「セットアップ情報一覧」からセットアップ資源をサーバに登録するセットアップ情報を選択します。
- 2 「セットアップ資源の操作」メニューから「資源の登録」を選択します。
「セットアップ資源の登録」画面が表示されます。
- 3 内容を確認して、[登録] をクリックします。
セットアップ資源がサーバに登録されます。「クライアントセットアップ」画面の「登録済みセットアップ資源一覧」に資源識別名などが追加されます。クライアントへのインストールは、「登録済みセットアップ資源一覧」に表示されている順番（上から）で行われます。

■ まとめて登録

セットアップ情報で設定したすべての資源をサーバのディスクに登録します。特定のセットアップ資源の登録を行わないようにスキップすることもできます。

- 1** 「クライアントセットアップ」画面で、「セットアップ資源の操作」メニューから「資源の全登録」を選択します。
1つめの「セットアップ資源の登録」画面が表示されます。
- 2** 内容を確認して、[登録] をクリックします。登録しない場合は、[スキップ] をクリックします。
セットアップ資源がサーバに登録され、次の「セットアップ資源の登録」画面が表示されます。
- 3** 必要に応じて、手順**2**を繰り返します。
すべてのセットアップ資源の登録が完了すると、「クライアントセットアップ」画面の「登録済みセットアップ資源一覧」に登録が完了した資源名が追加されます。

POINT

- ▶ セットアップ資源の全登録中に [キャンセル] をクリックすると、セットアップ資源の全登録が中断されます。すでに登録が完了したセットアップ資源は削除されません。

■ クライアントへのインストール順を変更する

クライアントへのインストールは、「登録済みセットアップ資源一覧」に表示されている順番に行われます。インストール順を変更するには、以下の操作を行います。

- 1** 「登録済みセットアップ資源一覧」で、インストール順を変更するセットアップ資源を選択します。
- 2** ツールバーの [↑] [↓] をクリックして、任意の位置へ移動します。
または「セットアップ資源の操作」メニューから「インストール順番上へ」「インストール順番下へ」を選択します。
インストール順が変更されます。

6.5.7 セットアップ資源の登録解除

サーバに登録したセットアップ資源を削除します。

- 1** 「クライアントセットアップ」画面で、「登録済みセットアップ情報一覧」からセットアップ資源を削除するセットアップ情報を選択します。
- 2** 「セットアップ資源の操作」メニューから「資源の削除」を選択します。
すべてのセットアップ資源をサーバから削除する場合は「資源の全削除」を選択します。
確認のメッセージが表示されます。

3 [はい] をクリックします。

「登録済みセットアップ資源一覧」で選択されているセットアップ資源がサーバから削除されます。

6.6 クライアントのデスクトップ環境を設定する

デスクトップ環境設定では、サーバ側で、クライアントのデスクトップ環境を一括管理します。

業務に必要な機能のみをクライアントのデスクトップに表示することで、ユーザが業務に集中しやすい環境を作ります。

また、システムに習熟していないユーザによる偶発的な事故を防ぐこともできます。

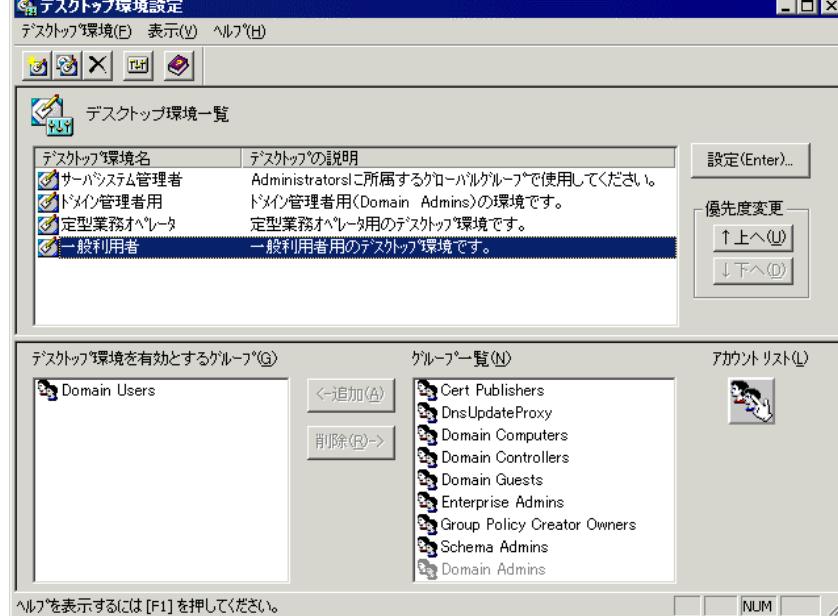
■ デスクトップ環境設定の準備

■ 重要

- ▶ Windows 2000 Server の場合は、WizardConsole のインストール時に必ず OU を設定してください。OU を指定しなかった場合は、デスクトップ環境設定でクライアント環境制御は行えません。
- ▶ デスクトップ環境設定は、Windows Me クライアントのデスクトップ制御をサポートしていません。Windows Me クライアントを使用する場合は、デスクトップ環境設定によるデスクトップ制御を行わないでください。
- ▶ サーバ側で設定したポリシー情報の変更は、必ずデスクトップ環境設定を使用してください。デスクトップ環境設定により作成したポリシーをデスクトップ環境設定を使用せずに変更、削除すると、誤動作の原因となります。

- 1 「WizardConsole」画面で [グループ / ユーザ / 共有資源] タブを選択し、[デスクトップ環境設定] をクリックします。

「デスクトップ環境設定」画面が表示されます。



操作方法については、「6.6.1 「デスクトップ環境設定」画面での操作」(→ P.203) を参照してください。

項目	説明
デスクトップ環境一覧	設定されているデスクトップ環境の一覧が表示されます。一覧の上にあるほど優先度が高くなります。デスクトップ環境は15個まで作成できます。
【設定 .. (Enter)】	選択しているデスクトップ環境の設定を変更します。クリックまたは、【Enter】キーを押すと「デスクトップ環境の設定」画面が表示されます。
優先度変更	選択しているデスクトップ環境の優先度を【Ctrl】+【↑】【↓】キーで変更します。
デスクトップ環境を有効とするグループ	デスクトップ環境一覧で選択されているデスクトップ環境を使用するグループを表示します。
グループ一覧	存在しているグループの一覧が表示されます。この一覧から「デスクトップ環境を有効とするグループ」へ追加することができます。グレー表示になっているグループは他のデスクトップ環境に割り当てられているので、追加することはできません。

●「デスクトップ環境設定」画面のツールバー

「表示」メニューの「ツールバー」表示が有効の場合、以下のアイコンが表示されます。



●「デスクトップ環境設定」画面のメニュー

「デスクトップ環境設定」画面には、次のメニューがあります。

項目	設定
「デスクトップ環境」メニュー	
追加	デスクトップ環境を追加します。クリックするとデスクトップ環境の設定画面が表示されます。
コピー	デスクトップ環境をコピーします。
削除	デスクトップ環境を削除します。
設定	デスクトップ環境の設定を変更します。クリックするとデスクトップ環境の設定画面が表示されます。
優先度上へ	デスクトップ環境の優先度を1つ上げます。
優先度下へ	デスクトップ環境の優先度を1つ下げます。
終了	「デスクトップ環境設定」画面を閉じます。
「表示」メニュー	
ツールバー	ツールバーの表示、非表示を切り替えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示、非表示を切り替えます。
「ヘルプ」メニュー	
トピックの検索	デスクトップ環境設定のヘルプが表示されます。
バージョン情報	デスクトップ環境設定のバージョン情報が表示されます。

6.6.1 「デスクトップ環境設定」画面での操作

「デスクトップ環境設定」画面での操作について説明します。

■ デスクトップ環境の優先順位を設定する

デスクトップ環境はドメインのグローバルグループ（Windows 2000 ではセキュリティグループ）に対して割り当てを行います。ユーザは複数のグローバルグループに所属することが可能です。そのためユーザが所属するグローバルグループそれぞれにデスクトップ環境設定が割り当てられている場合、ユーザにはデスクトップ設定が複数割り当てられていることになります。その場合、デスクトップ環境設定の優先順位を決める必要があります。

- 1** 「デスクトップ環境一覧」から、優先順位を変更したいデスクトップ環境を選択します。
- 2** 「デスクトップ環境」メニューから「優先度上へ」／「優先度下へ」を選択します。画面上の〔↑上へ〕／〔↓下へ〕をクリックしても順位を変更できます。

■ デスクトップ環境設定の追加変更

- ・ 追加
「デスクトップ環境」メニューから「追加」を選択するか、[デスクトップ環境の追加] アイコンをクリックします。デスクトップ環境の設定画面が表示されますので、設定を行ってください。
- ・ 複写
複写するデスクトップ環境名をクリックし、「デスクトップ環境」メニューから「コピー」を選択するか、[デスクトップ環境のコピー] アイコンをクリックします。
- ・ 削除
削除するデスクトップ環境名をクリックし、「デスクトップ環境」メニューから「削除」を選択するか、[デスクトップ環境の削除] アイコンをクリックします。

■ デスクトップ環境設定を適用するグループの設定

デスクトップ環境を適用するグループを設定します。

- ・ 適用グループを追加する
「グループ一覧」から追加したいグループを選択し〔←追加〕をクリックするか、グループ名をダブルクリックします。
- ・ 適用グループを解除する
「デスクトップ環境を有効とするグループ」から削除したいグループを選択し〔削除→〕をクリックするか、グループ名をダブルクリックします。

POINT

- ▶ 「グループ一覧」にはグローバルグループ（Windows 2000 ではセキュリティグループ）の一覧が表示されています。淡色表示になっているグループは他のデスクトップ環境設定に割り当てられているので追加することはできません。
- ▶ [アカウントリスト] で、グローバルグループの追加が行えます。

6.6.2 デスクトップ環境の設定

各デスクトップ環境の詳細設定を行います。各項目の詳細説明は、[ヘルプ] をクリックすると表示されます。

- 「デスクトップ環境設定」画面で、次のいずれかの操作をします。

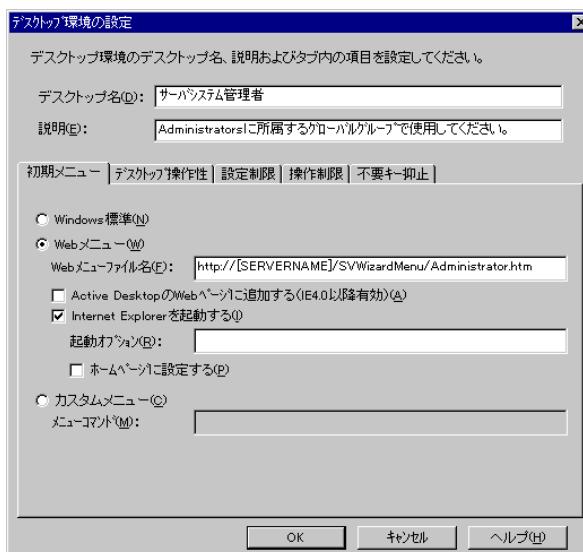
● 設定を変更する場合

- デスクトップ環境名を選択し、[設定] をクリックします。
- デスクトップ環境名をダブルクリックします。

● 追加する場合

- [デスクトップ環境の追加] アイコンをクリックします。
- 「デスクトップ環境」メニューから「追加」を選択します。

「デスクトップ環境の設定」画面が表示されます。



項目	説明
デスクトップ名	変更、追加するデスクトップ環境名を入力します。
説明	デスクトップ環境の使用基準などの説明を入力します。
[初期メニュー] タブ	クライアントのログオン直後に表示される初期メニューの設定を行います。
[デスクトップ操作性] タブ	デスクトップの操作性に関する制限を行います。
[設定制限] タブ	各種設定に関する制限を行います
[操作制限] タブ	ユーザの操作に関する制限を行います。
[不要キー抑止] タブ	入力操作を無効にするキーの設定を行います。

POINT

- デスクトップ環境設定に関する詳細やトラブルシューティングについては、ヘルプを参照してください。

- 各タブをクリックし、項目を設定します。

POINT

▶ [初期メニュー] タブ

Web メニュー (WizardMenu) は、インターネットエクスプローラ上で、ボタンを選択してアプリケーションを起動する機能です。Web メニューは、WizardMenu 作成ツールを使用して、大きさを変更したり、画像データをボタンに貼り付けるなど、自由な形式で作成できます。WizardMenu 作成ツールを起動するには、WizardConsole インストール終了後に「スタート」ボタン→「プログラム」→「ServerStart」→「WizardMenu 作成ツール」の順にクリックします。

Web メニュー、WizardMenu 作成ツールについての詳細は、それぞれのヘルプを参照してください。IIS が構成されていない状態で WizardConsole をインストールすると、WizardMenu が利用できません。その場合は、以下の操作を行ってください。

1. サーバ上に IIS (バージョン 3.0 以上) を構成します。
2. 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Microsoft インターネット サーバー(共通)」(Windows2000 は「管理ツール」)→「インターネット サービス マネージャ」の順にクリックします。
3. WWW サービスのプロパティを開き、「ディレクトリ」タブから、以下の 3 つのフォルダに対し、エイリアスを追加します。
 - ① c:\WZCNSL\desktop\CGI⇒ エイリアス名「ServerWizardMenu\APPS」
 - ② c:\WZCNSL\desktop\Controls⇒ エイリアス名「ServerWizardMenu\Controls」
 - ③ c:\WZCNSL\desktop\inetpub⇒ エイリアス名「ServerWizardMenu」
4. WWW サービスを再起動します。
5. デスクトップ環境設定の「初期メニュー」タブで「Web メニュー」を選択します。

▶ [デスクトップ操作性] タブ

「タスクバーを隠す」をチェックすると、「スタート」ボタンからのログオフ操作ができなくなります。この項目を設定する場合には、メニューにログオフの項目を追加するなど、ログオフを行う手段を必ず用意してください。

ログオフを行うには、"ExitWin.exe" コマンドを実行してください。"ExitWin.exe" コマンドは、システムフォルダ配下 (NT の場合 "C:\Winnt\system32") に格納されています。

3 [OK] をクリックします。

デスクトップ環境が変更、設定されます。

4 デスクトップ環境設定を終了します。

デスクトップ環境の変更、設定は、デスクトップ環境設定の終了時に適用されます。

6.7 クライアントブート設定

クライアントブート設定では、クライアントコンピュータのセットアップ内容、起動方法を設定します。

クライアントブート設定は、クライアントのセットアップ方法によって、次の2種類があります。セットアップ内容にあわせて設定を行ってください。

操作を始める前に、あらかじめ未使用のフロッピーディスクを用意してください。

● OS セットアップ用

クライアントコンピュータのハードディスクを初期化し、新規にOSをインストールする場合に使用します。

クライアントブート設定を行う前に、あらかじめ「リモートOSセットアップ」の設定を行ってください。

● ClientWizard用

ClientWizardでセットアップを行うためのフロッピーディスクを作成します。ClientWizardは、インストールモデルなど、すでにOSがインストールされているクライアントコンピュータのネットワーク環境（IPアドレスやドメインへの参加など）を設定する機能です。また、クライアントセットアップで設定したアプリケーションなどのセットアップも行います。

POINT 重要

- ▶ Windows NT Server のドメインのメンバサーバのアカウントは、Windows NT Workstation 4.0 と同等に扱われます。そのため、Windows NT Server 4.0 に対してもクライアント起動用フロッピーディスクの作成はできますが、Windows NT Server 4.0 に対して ClientWizard やクライアントセットアップなどの機能は使用できません。

■ MS-DOSイメージの作成

リモートOSセットアップでは、クライアントを起動するために、MS-DOSシステムの入ったフロッピーディスクが必要です。通常は、あらかじめMS-DOSの起動用のフロッピーディスクを作成して使用しますが、WizardConsoleでは、初回の起動設定時に、MS-DOSシステムの入ったフロッピーディスクを使用することで、起動に必要な情報を「MS-DOSイメージ」としてサーバに格納します。2回目以降は、サーバに格納されたMS-DOSイメージを使用して起動設定を行います。

POINT

- ▶ MS-DOSイメージ作成中に、ファイルが不足している旨のメッセージが表示される場合があります。その場合は、MS-DOSシステムの入ったフロッピーディスクを作成したシステムから、メッセージで要求されたファイルをコピーし、使用してください。

● MS-DOSシステムの入ったフロッピーディスクの作成

MS-DOSイメージを作成するためのMS-DOSシステムの入ったフロッピーディスクを、あらかじめ以下のいずれかの方法で作成してください。

FD バックアップコマンドを使用する場合

クライアントコンピュータに添付のドライバーズ CD-ROM から FD バックアップコマンドを使用して作成します。FD バックアップコマンドの使用方法については、ドライバーズ CD-ROM に添付のマニュアルを参照してください。

Windows 95 および Windows 98 から作成する場合

Windows 95 および Windows 98 のシステムから以下の方法で作成できます。

1. A ドライブに、初期化してもよいフロッピーディスクをセットします。
2. マイコンピュータの A ドライブを右クリックし、メニューから「初期化」を選択します。
3. 「フォーマットの種類」は「起動専用 (C)」を選択し、[開始] をクリックします。

● MS-DOS イメージの削除

作成した起動用フロッピーディスク、またはネットワークからの起動が正常に行われない場合は、サーバに格納された MS-DOS イメージを削除し、再度 MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを作成し、起動設定をやり直してください。

MS-DOS イメージを削除するには、クライアントブート設定を起動し、「起動イメージの設定」メニューから「MS-DOS イメージの削除」を選択します。

確認のメッセージが表示されるので、削除する場合は [OK] をクリックします。

6.7.1 クライアントブート設定を起動する

- 1 「WizardConsole」画面で [コンピュータ] タブを選択し、[クライアントブート設定] をクリックします。

「クライアントブート設定」画面が表示されます。



■「クライアントブート設定」画面のツールバー



■「クライアントブート設定」画面の説明

項目	説明
コンピュータ名	WizardConsole で管理しているコンピュータ名が表示されます。
OS	OS の種類が表示されます。
インストール方法	設定されているインストール方法が表示されます。
起動方法	起動方法が表示されます。
パラメータ	パラメータをどこで指定するかが表示されます。
LAN ドライバ	設定されている LAN ドライバが表示されます。

■「クライアントブート設定」画面のメニュー

項目	説明
「起動イメージの設定」メニュー	
FD 作成 Wizard	クライアント起動用フロッピーディスクを作成します。
MS-DOS イメージの削除	起動用フロッピーディスクの MS-DOS イメージを削除します。
削除	インストール方法、起動方法など、セットアップの情報を削除します。 起動用フロッピーディスクからの起動がうまくいかない場合は、MS-DOS イメージを削除し、再度 MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを作成し、起動用フロッピーディスクを作成し直してください。
プロパティ	セットアップ方法などの設定内容が表示されます。

POINT

- 「FD 作成 Wizard」、「削除」、「プロパティ」は、「クライアントブート設定」画面で「コンピュータ名」を選択したときのポップアップメニューからも操作できます。

6.7.2 OS セットアップ用

あらかじめリモート OS セットアップ機能を実行し、OS をセットアップするための各設定を行っておいてください。

コンピュータの OS が Windows NT4.0 Workstation / Server (MEMBER) および Windows 2000 Professional の場合のみ有効です。それ以外の場合にはエラーメッセージが表示されます。

- 1** 「コンピュータ名」から対象のコンピュータを選択します。
複数のコンピュータを選択できます。
- 2** 「起動イメージの設定」メニューから「ブート／セットアップ設定」を選択します。
セットアップの種類を選択する画面が表示されます。
- 3** 「OS セットアップ用」を選択し、[次へ] をクリックします。
「登録名の指定」画面が表示されます。
- 4** 登録名を指定し、[次へ] をクリックします。
「LAN カード指定」画面が表示されます。
- 5** 利用する LAN カードを指定します。
「その他のドライバ」以外を選択した場合は、手順 **9** に進みます。
- 6** [次へ] をクリックします。
- 7** 「その他のドライバ」を選択した場合は、クライアントで使用する LAN カードのドライバを指定し、[次へ] をクリックします。
[参照] をクリックして、ファイルを選択できます。

POINT

- ▶ 利用する LAN カードに「その他のドライバ」を選択した場合は、お使いのシステムによって Protocol.ini ファイルの編集が必要です。[詳細] をクリックし、設定してください。ただし、IO ポート /IRQ の設定がそれぞれ 0x300/10 の場合は、編集の必要はありません。
例) 「FMV - 181/2/3/4」を選択した場合、以下の行を編集します。

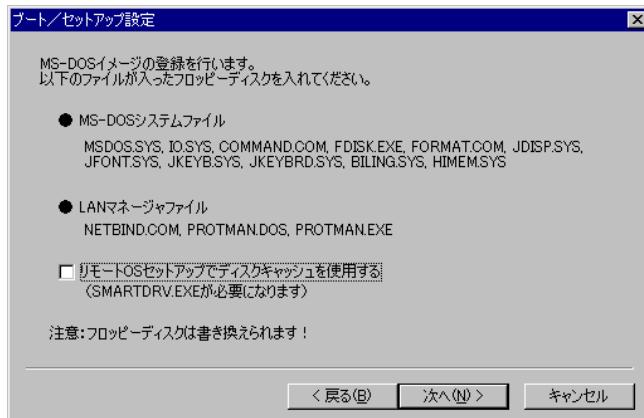
```
[FMV-18x-NIF]
Drivername=FJN00I$$
IOAddress =0x300
Interrupt =10
```

- 8** LAN カードのタイプを指定します。
「NonPNP」を指定した場合は、IO ポートと IRQ を指定してください。

9 [次へ] をクリックします。

「フロッピーディスク挿入」画面が表示されます。

初回設定時は、MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを作成し、セットしてください。

**POINT**

- ▶ 「リモート OS セットアップでディスクキャッシングを使用する」をチェックすると、SMARTDRV.EXE が組み込まれ、OS セットアップの処理が早くなります。
- ▶ MS-DOS® LAN マネージャファイルは、以下の方法で入手できます。
 - ・ Windows NT Server 4.0 の CD-ROM の場合
¥CLIENTS¥MSCLIENT¥NETSETUP
 - ・ Microsoft の Web サイトからダウンロードする
ftp://ftp.microsoft.com/bussys/clients/msclient
 - ・ Windows 95 および Windows 98 で MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを作成した場合、MS-DOS イメージ作成中に、ファイルが不足している旨のメッセージが表示される場合があります。その場合は、MS-DOS システムの入ったフロッピーディスクを作成したシステムから、メッセージで要求されたファイルをコピーし、使用してください。

2 回目以降は、初期化済みのフロッピーディスクをセットしてください。

POINT

- ▶ 初期化されていないフロッピーディスクの場合は「初期化する」をクリックし、フロッピーディスクを初期化します。ただし、初期化を実行しても不良セクタがある場合は、別のフロッピーディスクを使用してください。

10 フロッピーディスクをセットし、[次へ] をクリックします。

作成が開始されます。終了すると、「完了」画面が表示されます。

11 [完了] をクリックします。

「クライアントブート設定」画面に戻ります。

作成したフロッピーディスクのラベルには、「コンピュータ名 (OS セットアップ) 用ディスク」と書いておいてください。

6.7.3 ClientWizard 用フロッピーディスクの作成

- 1** 「コンピュータ名」から対象のコンピュータを選択します。
複数のコンピュータを選択できます。
- 2** 「起動イメージの設定」メニューから「ブート／セットアップ設定」を選択します。
セットアップの種類を選択する画面が表示されます。
- 3** 「ClientWizard 用」を選択し、[次へ] をクリックします。
「クライアント情報ファイルの作成」画面が表示されます。
- 4** フロッピーディスクをセットし、[次へ] をクリックします。

POINT

▶ 初期化されていないフロッピーディスクの場合は【初期化する】をクリックし、フロッピーディスクを初期化します。ただし、初期化を実行しても不良セクタがある場合は、別のフロッピーディスクを使用してください。

クライアント情報ファイルが作成され、フロッピーディスクに登録されます。登録が終了すると、「クライアントブート設定」画面に戻ります。

作成したフロッピーディスクのラベルには、「コンピュータ名（ClientWizard 用）」と書いておいてください。

6.7.4 クライアントのインストール方法、起動方法の変更

クライアントの起動設定を行った後、クライアントのインストール方法などの情報を変更する場合は、一度登録した情報を削除して、再度【FD 作成 Wizard】を行ってください。

- 1** 変更対象のコンピュータを選択します。
- 2** 「起動イメージの設定」メニューから「削除」を選択します。
確認のメッセージが表示されます。
- 3** [OK] をクリックします。
情報が削除されます。再度【FD 作成 Wizard】でクライアント起動設定を行ってください。

6.8 クライアントへのインストール

クライアントのインストール、セットアップを行います。

クライアントにOSがインストールされている場合と、インストールされていない場合とで、操作が異なります。

6.8.1 クライアントにOSがインストールされていない場合

リモートOSセットアップで設定した情報を使って、クライアントコンピュータにOSをインストールします。

◀ 重要

- ▶ あらかじめクライアントブート設定の「6.7.2 OSセットアップ用」(→P.208)を行い、リモートOSセットアップ用フロッピーディスクを作成してください。

1 クライアント起動用フロッピーディスクをセットして、コンピュータの電源を入れます。

「OSセットアップ起動」画面が表示されます。

ただいまから
FMV-6400TX2
のセットアップを開始します。
Cドライブのデータはすべて削除されます！
セットアップを開始する場合はEnterキーを
中止する場合はESCキーを押してください。

2 登録名が正しいことを確認して【Enter】キーを押します。

「ユーザ情報の設定」画面で指定した区画サイズを設定できない場合、区画サイズを調整する旨の確認の画面が表示されます。

システム区画を 4094MB
アプリケーション区画を 2086MB で作成します。
よろしいですか？

3 表示された区画サイズで区画を作成する場合は【Enter】キーを押します。

Cドライブのフォーマットに続いて、セットアップに必要なファイルがコピーされ、OSのインストールが開始されます。

OSのインストール終了後、必要に応じてクライアントセットアップ機能をインストールしてください。

■ クライアントセットアップ機能のインストール

Windows NT Workstation 4.0 / Windows 2000 Professional のインストール終了後、デスクトップ上にある[クライアントセットアップ機能のインストール]アイコンをダブルクリックします。クライアントセットアップ機能がインストールされます。

セットアップを正しく行うには管理者権限が必要です。また、クライアントセットアップ機能を有効にするには、インストール終了後、再起動してください。

POINT

- ▶ セットアップ中に「ウィンドウステーションがシャットダウン中であるため、初期化に失敗しました。」というメッセージが表示されることがあります。運用上の支障はありません。
- ▶ クライアントにセットアップ資源をインストールするタイミングを設定する場合は、「6.8.3 セットアップ資源がクライアントへインストールされるタイミング」(→ P.216) を参照してください。

重要

- ▶ セットアップする機種によってはインストール中にInternet Explorer やServicePack のCD-ROMをセットするようメッセージが表示されることがあります。
- これらの CD-ROM は、ドライバやアプリケーションを正しく動作させるのに必要ですので、メッセージに従って CD-ROM をセットしてください。CD-ROM をセットせずに操作を進めた場合、以降のセットアップが正しく行われない可能性があります。
- その他の注意点に関して、リモート OS セットアップを開始する前に『ハードウェアガイド』の「システムの修復と再インストール」の説明などをご確認ください。

6.8.2 クライアントにOSがインストールされている場合

インストールモデルなど、すでにOSがインストール済みのクライアントコンピュータのセットアップを行います。クライアントセットアップで設定した内容もセットアップされます。

重要

- ▶ クライアントのインストールを行う前に、起動中のアプリケーションをすべて終了しておいてください。Windows NT Workstation 4.0、Windows 2000 Professional または Windows XP を使用している場合は、管理者用アカウントでログオンしてください。
- ▶ あらかじめクライアントブート設定の「6.7.3 ClientWizard 用フロッピーディスクの作成」(→ P.211)を行って、ClientWizard 用のフロッピーディスクを作成してください。

1 セットアップを行うクライアントコンピュータに、ClientWizard 用フロッピーディスクをセットします。

フロッピーディスクは、書き込み可能な状態にしておいてください。

2 エクスプローラなどでフロッピーディスクドライブをクリックします。



3 [CWizard] をダブルクリックします。

ClientWizard が起動します。

4 「クライアントの登録」をクリックします。

「コンピュータ選択」画面が表示され、接続するサーバ情報が表示されます。

5 セットアップするコンピュータを選択します。

をクリックし、コンピュータ名の一覧からセットアップするコンピュータ名を選択します。

6 [次へ] をクリックします。

「設定の確認」画面が表示されます。

すでにドメインに参加していて、かつコンピュータ名を変更するときは、「コンピュータ名の変更」画面が表示されます。[OK] をクリックし、画面の記述に従って、コンピュータ名を変更します。

重要

- ▶ クライアントが Windows 2000 Professional または Windows XP の場合、ドメイン参加中にコンピュータ名を変更することができません。以下の操作を行って、ワークグループに変更し、もう一度最初（ClientWizard の起動）からやり直してください。
 1. 「システムのプロパティ」画面で「ネットワーク ID」（Windows XP は「コンピュータ名」）タブをクリックします。
 2. 「[プロパティ]」（Windows XP は「[変更]」）をクリックします。
 3. 「識別の変更」（Windows XP は「コンピュータ名の変更」）画面の「次のメンバ」で「ワークグループ」を選択します。
 4. ワークグループ名（WORKGROUP など）を入力し、[OK] をクリックします。
 5. 画面の指示に従って、再起動します。

7 [実行] をクリックします。

セットアップが開始されます。

セットアップが終了した項目にはチェックマークが付きます。

8 LMHOSTS の編集が終了すると、再起動のメッセージが表示される場合があります。その場合は、フロッピーディスクを取り出して [OK] をクリックします。
再起動され、ログオン画面が表示されます。

9 以降、ご使用の OS により、操作が異なります。

● (Windows 95 / 98 / Me の場合)

1. ユーザ名はデフォルトで表示されますので、ユーザ名を変更せず、パスワードを入力しないで [OK] をクリックします。
はじめてサーバにログオンする場合、「パスワードの確認」画面が表示されますが、何も入力せずに [OK] をクリックしてください。
2. アプリケーションの登録が終了すると、途中再起動を行っていた場合は、「クライアント導入フロッピーディスクをセットし、準備ができたら OK を押してください。」というメッセージが表示されます。
3. ClientWizard 用フロッピーディスクを再度セットして [OK] をクリックします。
セットアップが終了すると、システムが再起動されます。
4. ClientWizard 用フロッピーディスクを取り出して [OK] をクリックします。
再起動後、ログオン画面が表示されます。

● (Windows NT Workstation 4.0 / Windows 2000 Professional / Windows XP の場合)

1. 管理者用アカウントでログオンしてください。
以前に別のドメインに参加していた場合、そのドメイン名が表示されますが、「ドメイン」には、▼をクリックしてローカルコンピュータアカウントを指定してください。引き続きセットアップの処理が行われます。
2. アプリケーションの登録が終了すると、途中再起動を行っていた場合は「クライアント導入フロッピーディスクをセットし、準備ができたら OK を押してください。」のメッセージ画面が表示されます。
3. フロッピーディスクを再度セットして [OK] をクリックします。
セットアップが終了すると、システムが再起動されます。
4. ドメイン名変更要求の画面が表示されたら [OK] をクリックします。
ネットワークパネルが表示されるので、ドメイン名を指定どおり変更して再起動してください。再起動後、ログオン画面が表示されます。

10 実際にログオンするユーザ名、パスワードを入力して [OK] をクリックします。

「パスワードの確認」画面（変更）が表示されます。

ユーザ名とパスワードはサーバの管理者に確認してください。

11 「パスワード」「パスワード確認」を入力して [OK] をクリックします。

ログオン画面が表示されます。

12 パスワードを入力して [OK] をクリックします。

「OS の起動」画面が表示されます。

クライアントセットアップの設定が行われていた場合は、サーバで設定したセットアップ指示に従い、アプリケーションやファイルがインストールされます。

 **重要**

- ▶ クライアントセットアップによるクライアントへの資源の自動インストールは、ClientWizard 起動後の初回ログオン時に一度だけ行われます。ただし、この時にセットアップ指示がない場合は、セットアップ指示が設定された後の最初のログオン時に一度だけ行われます。クライアントに資源がセットアップされるタイミングを設定する場合は、「6.8.3 セットアップ資源がクライアントへインストールされるタイミング」(→ P.216) を参照してください。

POINT

- ▶ 一度セットアップしたコンピュータ名は、ClientWizard用フロッピーディスクから削除されます。
- ▶ セットアップ後のクライアントコンピュータにおいて、OSを再インストールし、前回のセットアップ時と同じコンピュータ名でセットアップを行う場合は、WizardConsoleで一度コンピュータ名を削除してください。その後、新しくコンピュータを追加し、ClientWizard用フロッピーディスクを作成し、セットアップを行ってください。
- ▶ Windows 95 / 98でデスクトップ環境設定を使用する場合は、自動的にユーザプロファイルを有効とする環境に設定されます。ユーザプロファイルが有効になると、それぞれのユーザが独自のデスクトップ環境を保持できるようになります。
- ▶ この設定は、「コントロールパネル」の「パスワード」画面の【ユーザ別の設定】タブで確認することができます。
- ▶ Active Directoryにログオンするクライアントは、ネットワークのDNSサーバの設定を行ってください。正しく設定を行わなかった場合、デスクトップ環境設定で行ったポリシー設定をクライアントに適用できません。
- ▶ Active DirectoryにWindows 2000 ProfessionalまたはWindows XPクライアントからAdministratorアカウントでログオンする場合、デフォルトではポリシー設定は適用されません。管理者にもポリシー設定を反映させる場合は、管理者用のアカウントを「クライアント情報の追加／変更」で作成し、そのアカウントが属するグループに対してポリシー設定を行ってください。

6.8.3 セットアップ資源がクライアントへインストールされるタイミング

セットアップ資源をクライアントにインストールするタイミングを指定します。初期状態は、次にクライアントがログインした時にセットアップ資源がインストールされるように設定されています。

セットアップを行ったクライアントコンピュータで操作します。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「WizardConsole Client」→「クライアントセットアップークライアントセットアップ動作環境」の順にクリックします。
「クライアント動作環境設定」画面が表示されます。
- 2 クライアントログイン時にセットアップを実行するかしないかを選択して[OK]をクリックします。
「実行する」を選択した場合は、次回クライアントコンピュータのログイン時にセットアップ資源が自動的にインストールされます。

重要

- ▶ セットアップ資源のインストールに失敗した場合、「クライアントセットアップ」画面で設定したセットアップ情報が間違っていることが考えられます。セットアップ情報を見直してください。

POINT

- ▶ 以下のような場合、セットアップ資源が再インストールされます。再インストールを行いたくない場合は、「クライアントセットアップ」画面のクライアント一覧に表示されるクライアントコンピュータを非選択状態にしてください。
 - ・サーバに同一製品が異なる資源識別名で登録された場合

- ・サーバに同一製品を再登録した場合
- ・クライアントのOSを入れ替えたことにより、クライアントセットアップを使用してインストールした資源の情報が削除されてしまった場合

6.9 変更した情報の登録

WizardConsole で追加、変更した設定情報を登録するには、「コンフィグレーションファイルの作成」を行い、フロッピーディスクに保存します。別のサーバ構築時に使用できます。

☞ 重要

- ▶ コンフィグレーションファイルに保存される情報は、以下の情報です。
 - ・コンピュータアカウント
 - ・ユーザアカウント、グループ、共有資源の設定
 - ・デスクトップ設計情報
- ▶ パスワード、サーバの IP アドレス、添付アプリケーションの設定等、運用中に更新・変更されたサーバの情報は、コンフィグレーションファイルに保存されません。そのため、システムのバックアップには使用できません。
システムのバックアップは専用のソフトウェアを使用して定期的に行ってください。

- 1 「WizardConsole」画面で【コンフィグレーションファイルの作成】を選択します。
「ファイル名を付けて保存」画面が表示されます。
- 2 サーバ情報ファイルの保存先を指定し、ファイル名を入力します。

☞ 重要

- ▶ ファイル名には、任意の名前を使用できますが、"SerStartBatch.ini" という名前のファイルのみ OS のインストールが可能です。

- 3 【保存】をクリックします。
コンフィグレーションファイルが作成され、「WizardConsole」画面に戻ります。

☞ 重要

- ▶ WizardConsole で作成したコンフィグレーションファイルは、そのままではインストールできません。必ず ServerStart ガイドモードまたは事前設定モードでコンフィグレーションファイルの内容を確認し、適切に修正してから上書き保存してご使用ください。
- ▶ Windows NT、Windows 2000 および WizardConsole で予約されているグループ、ユーザ、共有資源の設定を変更した場合、サーバを再インストールしても設定は更新されません。再インストール後、WizardConsole で設定し直してください。

6.10 WizardConsole 使用時の留意事項

WizardConsole 使用時にエラーなどが発生した場合、以下の事項を参照してください。

6.10.1 トラブルシューティング

■ 「サーバ内の資源情報を参照できませんでした。サーバの情報を最新に更新してから再試行してください。」と表示された場合

サーバ側で「クライアントセットアップ」画面の操作中にクライアント側でログオンすると、「サーバ内の資源情報を参照できませんでした。サーバの情報を最新に更新してから再試行してください。」というメッセージが表示されます。

操作中の「クライアントセットアップ」画面で  をクリックするか、「表示」メニューから「最新に更新」を選択した後、「インストールコマンド」画面の〔再試行〕をクリックしてください。

■ クライアントコンピュータへのインストール中に「セットアップに失敗した資源があります」と表示された場合

サーバのクライアントセットアップを起動し、「クライアント一覧」で対象クライアントコンピュータのセットアップ結果を確認してください。確認時は、「表示」メニューから「最新に更新」を実行してください。

「登録済みセットアップ資源一覧」でセットアップを行った資源を選択し、クライアント一覧のセットアップ状態が「エラー」の場合は、その登録資源についてセットアップ情報を見直し、正しい設定で資源の再登録を行ってください。

ただし、資源の再登録を行った場合はセットアップが完了しているクライアントの状態も未完了となりますので、セットアップが完了しているクライアントについては、対象クライアントの選択を解除してください。

■ 「デスクトップ環境設定」画面を閉じる時に「システムポリシーファイルの作成中に異常が発生しました。」とエラーメッセージが表示された場合

Windows 2000のドメインコントローラ上でデスクトップ環境設定を使用する場合、デスクトップ環境設定を起動した管理者ユーザが「Enterprise Admins」グループに属していないと、このメッセージが表示されます。

この場合、ポリシーの変更は失敗しており、設定は保存されていません。管理者ユーザを「Enterprise Admins」グループに追加して再起動し、デスクトップ環境設定をやり直してください。

■ ログオン時に自動的にインターネットエクスプローラが起動する場合

WizardConsole をインストールしたサーバ、または起動用フロッピーディスクでセットアップしたクライアントコンピュータにログオンした直後に、インターネットエクスプローラが起動することがあります。

WizardMenu を使用しない場合は、サーバ側で WizardConsole の「デスクトップ環境設定」を起動し、「初期メニュー」タブで「Windows 標準」を選択します。

また、WizardMenu を使用する場合は、IIS がサーバ上に構成されていない状態のとき、インターネットエクスプローラが起動する際にエラーとなります。WizardMenu を使用するには、以下の操作を行ってください。

1. サーバ上に IIS (バージョン 3.0 以上) を構成します。
2. 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Microsoft インターネットサーバー（共通）」(Windows 2000 では「管理ツール」)→「インターネットサービスマネージャ」の順にクリックします。
3. WWW サービスのプロパティを開き、以下の 3 つのフォルダに対して、[ディレクトリ] タブからエイリアスを追加します。
 c:\WZCNSL\af12\CGI : エイリアス名「ServerWizardMenu/APPS」
 c:\WZCNSL\af12\Controls : エイリアス名「ServerWizardMenu/Controls」
 c:\WZCNSL\af13\inetpub : エイリアス名「ServerWizardMenu」
4. WWW サービスを再起動します。
5. デスクトップ環境設定の「初期メニュー」タブで「Web メニュー」を選択します。

■ リモート OS セットアップ中に発生する可能性のあるエラーについて

エラー コード	原因と対策
10	原因 区画が作成できませんでした。 対策 OS セットアップを実行して区画サイズを変更してフロッピーディスクを作成し直してください。
11	サーバと通信できなかった場合に発生します。以下の原因と対策があります。 原因 1 LAN ケーブルが正しく接続されていません。 対策 1 LAN ケーブルがきちんと接続されているか確認してください。 原因 2 サーバ上で TFTP サービスが実行されていません。 対策 2 コントロールパネルより「サービス」の「Fujitsu SystemcastWizard/ServerStart TFTP Service」が開始されているか確認してください。 原因 3 サーバとクライアントが同じネットワーク上にいません。 対策 3 サーバとクライアントの IP アドレスとサブネットマスクを確認してください。 同じネットワークにいない場合はゲートウェイアドレスを設定してください。 原因 4 指定されたファイルがサーバ上で見つかりません。 対策 4 OS セットアップ実行後にファイルが削除された可能性があります。もう一度 OS セットアップを実行してドライブ Z: CD-ROM をコピーし直してください。
12	原因情報ファイル Cwizard.ini の内容が正しくありません。 対策 OS セットアップを実行して、フロッピーディスクを作成し直してください。
15	説明ファイルの書き込みが出来ませんでした。 原因 ディスクが利用可能でない可能性があります。
16	説明 Windows NT の無人セットアップスクリプト Unattend.txt が正しくありません。 原因 ドライブ Z: CD-ROM から正しくコピーされなかつた可能性があります。
20	説明クライアントのコンピュータ情報が取得できませんでした。 対策 WizardConsole からクライアント導入フロッピーディスクを再作成してください。

■ 電源スイッチを押しても電源が切断できない場合

セットアップ中、PCI カードのコンフィグレーションチェックでエラーがあった場合、エラーメッセージを表示後に電源スイッチを押しても電源が切断できなくなることがあります。この場合、電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切断して、エラー要因を取り除いてください。

■ Intel® PROSet II がインストールされない場合

Windows 2000 Server インストール後、「コントロールパネル」に、「Intel® PROSet II」が登録されていない場合は、以下の手順に従ってインストールしてください。

1. ServerStart の CD-ROM 内の以下のコマンドを実行します。
¥Tools¥GENERAL¥Intel¥ProSetW2k¥ProSet.exe
2. 「自動実行—直ちにセットアップの開始」を選択して、[OK] をクリックします。以降、画面の指示に従ってインストールを行ってください。

6.10.2 バックアップドメインコントローラ (BDC) に関する留意事項 (Windows NT Server 4.0 の場合)

バックアップドメインコントローラ（以下、BDC）のサーバに WizardConsole をインストールして使用する場合には、以下の注意が必要です。

■ グループ、ユーザアカウントについて

作成したグループとユーザアカウントは Domain 全体で使用されます。

そのため、プライマリドメインコントローラ（以下、PDC）に WizardConsole をインストールして使用している場合には、BDC で作成したアカウントは、PDC でも管理することができます。

■ コンピュータアカウントについて

作成したコンピュータのアカウントは、WizardConsole がインストールされているサーバごとに管理されます。ある BDC で作成したコンピュータは、PDC や他の BDC では管理できません。同様に、PDC で作成したコンピュータは、他の BDC では管理できません。

■ クライアントセットアップ情報について

WizardConsole がインストールされているコンピュータごとに管理されます。

BDC で資源の読み込みを行っても、読み込みを行った BDC 以外のサーバ（PDC や他の BDC）で使用することはできません。

クライアントコンピュータは、最初に登録したサーバに接続し、資源をコピーします。複数台のコンピュータで管理している場合には、クライアントコンピュータで資源を取り出すサーバ名を変更することもできます。

■ デスクトップ環境設定について

作成したデスクトップ設計の情報は、WizardConsole がインストールされているコンピュータごとに管理されます。

複数台のコンピュータで管理している場合には、クライアントコンピュータで設計情報を取り出すサーバ名を変更することもできます。

■ リモート OS セットアップについて

WizardConsole がインストールされているコンピュータごとに管理されます。

資源を他のコンピュータで管理することはできません。

■ コンフィグレーションファイルについて

BDC では WizardConsole でコンフィグレーションファイルを作成することはできません。

6.10.3 クライアントコンピュータの追加／変更時の留意事項

クライアントセットアップ機能で定義された資源は、ServerStart または WizardConsole で指定したクライアントコンピュータに対してインストールされます。

WizardConsole の「コンピュータの追加／変更」を行ったクライアントについては、デフォルトでセットアップ資源のインストール対象になります。追加／変更したクライアントコンピュータに対してセットアップ資源のインストールを行わない場合は、WizardConsole のクライアントセットアップを起動し、インストール対象から解除してください。

6.10.4 クライアントセットアップに関する留意事項

■ 同時インストールできる台数

クライアントセットアップで、同時にインストールできるクライアントコンピュータの台数は 15 台です。15 台以上インストールする場合は、一度にインストールするクライアント台数を 15 台単位で行ってください。

■ 標準対応製品をインストールする際の注意事項

● 標準対応製品のインストール可能 OS とインストール条件

標準対応製品によってインストールできる OS は異なります。また、インストール時の条件も各標準対応製品で異なります。適切なインストール対象クライアントを選択してください。

● インストールに必要なハードディスク容量の確認

ハードディスク空き容量が不十分なクライアントへのインストールは、アプリケーションエラーになる場合があります。クライアント環境の違いにより、インストールに必要なハードディスク容量は異なります。十分な空き容量を確認してからインストールの設定を行ってください。

■ クライアントセットアップ機能でインストールしたアプリケーションの削除

● アプリケーションの削除方法

クライアントセットアップ機能でインストールしたアプリケーションは、クライアントセットアップ機能を使用して削除することはできません。アンインストール方法については、アプリケーションに添付されているマニュアルを参照してください。

● アンインストールが失敗する場合

クライアントセットアップで登録されたアプリケーションをサーバで削除した場合、アプリケーションのアンインストール時にエラーが発生する場合があります。

エラーが発生した場合は、アプリケーション媒体を使用してアンインストールを行ってください。

■ スクリプトに関する留意事項

● スクリプトを使用してインストールする場合

標準対応製品等でスクリプトを使用してインストール実行中は、マウス・キーボードに触らないでください。スクリプトが停止し、サイレントインストールが失敗する原因となります。

● アプリケーションインストール用のスクリプト作成時の注意事項

クライアントセットアップ機能で使用するアプリケーションインストール用スクリプトは、以下の手順で作成してください。なお、スクリプト作成を簡単にするには、アプリケーションをインストールするマシンと同一環境でスクリプト採取することを推奨します。

1. クライアントコンピュータへインストールするアプリケーションのインストールコマンドを起動します。
2. 上記インストールコマンドの初期画面が表示されたら、Windows 上で動作する自動化ツール（注 1）を使用し、インストール操作のイベント採取を開始します。
3. インストール処理が終了したら、自動化ツールのイベント採取を終了します。
4. 採取したスクリプトを、配付先のクライアントの環境に合わせ編集し（注 2）、必要に応じてコンパイルします。なお、コンパイルが必要かどうかは使用する自動化ツールのマニュアルを参照してください。
5. インストールする製品の機能上、システムに対してリブートを要求してくる場合はリブートを実行せずにインストールが終了するようにスクリプトを採取してください。

注 1)

Windows 上で動作する自動化ツールとは、Windows 上で利用者が行った操作をファイルにスクリプト形式で格納し、そのスクリプトを実行して操作を再現するツールです。

例) 米国 Rational SoftWare Corporation の Rational Visual Test®

注 2)

採取したスクリプトはイベント採取したマシンに密着したものになっているため、複数のマシンで共通に使用するためには下記の点をカスタマイズする必要があります。

①不要関数の削除

イベント採取で不要なイベントを採取した場合は不要な処理や関数を削除します。

②画面待ち合わせ

採取したスクリプトを実行する際、実行マシンの性能により処理速度が異なるため、スクリプト内で時間を指定して処理の待ち合わせを行うと動作が不安定になります。時間指定で待ち合わせている個所は、待ち合わせ時間を持くするか、次に表示される画面で待ち合わせを行うようにカスタマイズします。

③画面の切り分け

インストール時に表示される画面が局面によって異なる場合は、同一ループ内で複数の画面の待ち合わせを行い、どちらの画面が表示されても対応できるようにカスタマイズします。

6.10.5 CSV ファイルフォーマットについて

使用する CSV ファイルの形式は、カンマで区切ったテキストのファイル形式です。ファイルは登録する画面にあわせてそれぞれ作成してください。

それぞれ第1フィールド以外は空白にすることができます。ただし、入力必須項目は CSV ファイル読み込みを行った後、入力を行ってください。CSV ファイルの作成は、表計算ソフトを使用すると簡単に作成できます。

■ コンピュータ用

	第1フィールド	第2フィールド	第3フィールド	第4フィールド	第5フィールド
入力項目	コンピュータ名 (半角 15 文字以内)	OS 種別 1-Windows95 2-Windows NT 4.0 Workstaion / Server 4.0 (MEMBER) 3-Windows98 4-Windows NT Server 4.0 (BDC) 5-Windows 2000 Professional / Server (MEMBER) 6-Windows Me 7-Windows XP	IP アドレス 0-DHCP XXX.XXX.XXX.XXX (第1オクテット は 1 ~ 223)	サブネット マスク 0-DHCP XXX.XXX.XXX.XXX (第1オクテット は 1 ~ 223)	デフォルト ゲートウェイ 0-DHCP XXX.XXX.XXX.XXX (第1オクテット は 1 ~ 223)
設定値					

例 1) Computer1,,0,0,0

例 2) Computer2,3,100.10.10.3,255.255.255.0,100.10.10.1

例 3) Computer4,,0,,

■ グループ用

	第1フィールド	第2フィールド
入力項目	グループ名	説明
設定値	半角 20 文字以内	半角 64 文字以内

例) PG Group1,PG グループ

■ ユーザ用

	第1フィールド	第2フィールド	第3フィールド
入力項目	ユーザ名	フルネーム	説明
設定値	半角 20 文字以内	半角 64 文字以内	半角 48 文字以内

例) fuji,taro fuji, 富士太郎

■ 共有資源用

	第1フィールド	第2フィールド	第3フィールド
入力項目	共有資源名	ディレクトリ名	説明
設定値	半角 80 文字以内	半角 246 文字以内	半角 48 文字以内

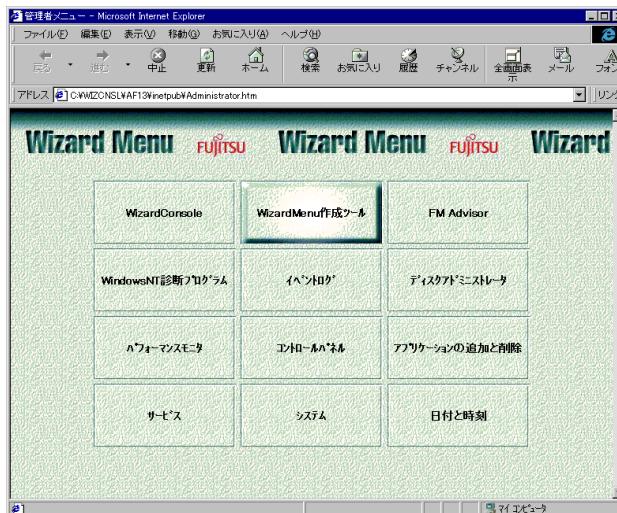
例) tool,c:\tool, ツール用

6.11 WizardMenuによるデスクトップメニューの作成

WizardMenuは、クライアントコンピュータに表示するアプリケーション起動ツールです。

WizardMenuは、Internet Explorer上で、ボタンを選択してアプリケーションを起動する機能です。WizardMenu作成ツールを使って、WizardMenuのボタンに任意のアプリケーションの起動を割り当てることができます。また、ボタンの大きさを変更したり、画像データをボタンに貼り付けたり、自由な形式でアプリケーション起動ボタンを作成できます。

■ メニュー作成例



WizardMenuを作成するには、「WizardMenu作成ツール」を使用します。

WizardMenu作成ツールを起動するには、サーバインストール終了後に「スタート」ボタン→「プログラム」→「ServerStart」→「Wizard Menu作成ツール」の順にクリックします。

6.11.1 動作環境

項目	説明
動作 OS	Windows NT Server 4.0 / Windows 2000 Server
必須ソフトウェア (WWW サーバ)	Microsoft® Internet Information Server 3.0 以降 未インストールの場合、Wizard Menu が正しく表示されません。
必須ソフトウェア (WWW クライアント)	Microsoft® Internet Explorer 3.02 以降
選択ソフトウェア	WizardMenu 作成ツールで作成した Web メニューを編集するときに必要です。 • Microsoft® FrontPage® Express (Microsoft インターネット エクスプローラ 4.0 に添付) • Microsoft® FrontPage® • Microsoft® Visual InterDev™

6.11.2 WizardMenu を作成する

WizardMenu 作成ツールで作成した WizardMenu は、HTML ファイルとして指定のディレクトリに格納します。なお、WizardMenu 作成ツールでは、HTML ファイルとしての保存はできますが、再度、その HTML ファイルを編集することはできません。

編集する場合は、WizardMenu 作成ツールの「ファイル」メニューの「WizardMenu 形式」(拡張子 .SWM) で保存してから編集操作を行ってください。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「ServerStart」→「WizardMenu 作成ツール」の順にクリックします。
- 2 [ファイル情報] タブを選択し、HTML ファイルの格納先、ファイル名を指定します。



項目	説明
ファイル名	保存するファイル名を指定します。指定できる文字列長は、保存先と合わせて 259 バイトまでです。
保存先	保存するファイルのディレクトリを指定します。指定できる文字列長は、ファイル名と合わせて 259 バイトまでです。
[参照]	ファイル名を指定する画面が表示されます。ファイル名を指定すると「ファイル名」と「保存先」に情報が表示されます。

POINT

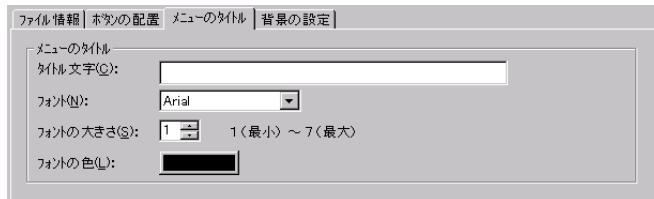
- ▶ ファイル名と保存先に情報を入力するまで、他のタブ情報（ボタンの配置／メニューのタイトル／背景の設定）を表示することはできません。

3 [ボタンの配置] タブを選択し、表示するボタンの情報を設定します。

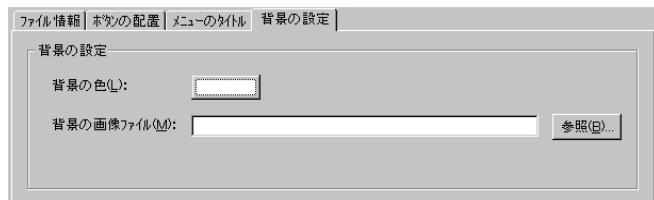


項目	内容
ボタンの個数	ボタンの個数を縦×横で指定します。デフォルトでは、縦は4、横は3が設定されています。ボタンの個数（縦と横）は、カーソルが次のフィールドへ移動した時点で反映されます。個数に変更がある場合は、行が追加または削除されるメッセージが表示されます。指定できる範囲は、1～20です。
ボタンの大きさ	ボタンの大きさを縦×横で指定します。デフォルトでは、縦は80、横は180が設定されています。指定できる範囲は、縦が20～200、横が20～600です。
ボタンの間隔	ボタンとボタンの間隔をドット単位で指定します。デフォルトでは、5が設定されています。指定できる範囲は、1～100です。

4 [メニューのタイトル] タブを選択し、表示するメニュータイトルのフォントの大きさや色を設定します。



5 [背景の設定] タブを選択し、表示する背景の情報を設定します。



項目	内容
背景の色	背景の色を指定します。デフォルトは、白です。ボタンを選択すると、色を選択する画面が表示され、色を変更できます。
背景の画像ファイル	背景で表示する画像ファイルを指定します。[参照] を選択すると、ファイル名を指定する画面が表示されます。ファイル名を指定する画面でファイルを選択すると、ファイル名が表示されます。指定できる画像データは、BMP、GIF、JPGです。

6 各ボタンの設定をします。

No.	表題	ボタン名	表題の色	ボタンの色	通常時の画像	押下時の画像	選択の画像	上書き表示	ボタンの形状	二重起動抑止	コマンド	起動先
1		System.014	0x000000	0xffffffff	-	-	-	✓	-	✓	-	Client
2		System.014	0x000000	0xffffffff	-	-	-	✓	-	✓	-	Client
3		System.014	0x000000	0xffffffff	-	-	-	✓	-	✓	-	Client
4		System.014	0x000000	0xffffffff	-	-	-	✓	-	✓	-	Client
5		System.014	0x000000	0xffffffff	-	-	-	✓	-	✓	-	Client
6		System.014	0x000000	0xffffffff	-	-	-	✓	-	✓	-	Client
7		System.014	0x000000	0xffffffff	-	-	-	✓	-	✓	-	Client
8		System.014	0x000000	0xffffffff	-	-	-	✓	-	✓	-	Client
9		System.014	0x000000	0xffffffff	-	-	-	✓	-	✓	-	Client
10		System.014	0x000000	0xffffffff	-	-	-	✓	-	✓	-	Client
11		System.014	0x000000	0xffffffff	-	-	-	✓	-	✓	-	Client
12		System.014	0x000000	0xffffffff	-	-	-	✓	-	✓	-	Client

項目	内容	
表題	ボタンに表示する表題を指定します。指定可能な文字列長は、64 文字です。表題は、ボタン上にセンタリングされて表示されます。そのため、ボタンの大きさより長い文字列を指定すると、文字列の両端が欠けたように表示されます。	
フォント名	表題のフォント名を指定します。	
表題の色	表題の文字の色を指定します。	
ボタンの色	ボタンの色を指定します。	
通常時の画像ファイル	ボタンが選択されていないとき表示する画像データを指定します。	
押下時の画像ファイル	ボタンが選択されているとき表示する画像データを指定します。	
フォーカス時の画像ファイル	ボタンにフォーカスが当たっているとき表示する画像データを指定します。	
上書き表示	ON にすると表題の文字を画像データの上に表示します。	
ボタンの形状	ON にすると立体タイプ、OFF にすると平面タイプのボタンを表示します。	
二重起動抑止	ON にすると起動するコマンドの二重起動を抑止します。	
コマンド	ボタンを押したときに起動するコマンドを指定します。	
起動先		
	ClientWeb	Web メニューが表示されているクライアントコンピュータで指定したコマンドを起動します。
	Server	サーバで指定したコマンドを起動します。
起動ホスト名	起動するサーバ名を指定します。「起動先」に「Server」を指定しているときのみ選択できます。	
タイムアウト	サーバとの通信タイムアウト時間をしています。「起動先」に「Server」を指定しているときのみ選択できます。	
ユーザ認証		
	指定なし	ユーザ名、パスワードの指定をしません。
	1回のみ	ボタンを選択した1回目だけユーザーにユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されます。
	必ず指定	ボタンを選択する度に、必ずユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されます。「起動先」に「Server」を指定しているときのみ選択できます。

7 「ファイル」メニューから「WizardMenu 形式」－「保存」を選択します。

WizardMenu を WizardMenu 形式（拡張子 .SWM）で保存します。

6.12 WizardConsole のアンインストール

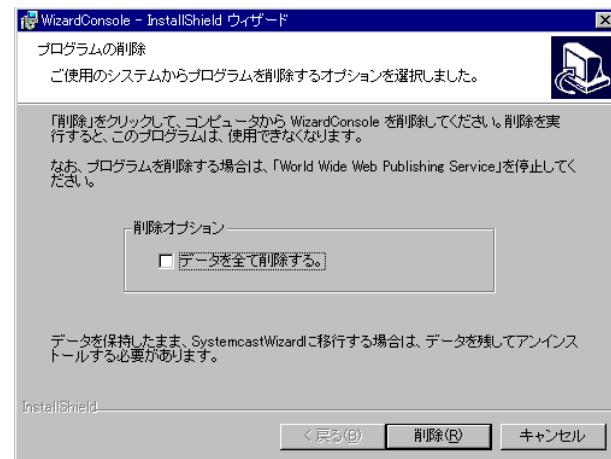
WizardConsole のアンインストール方法について説明します。

WizardConsole 機能を削除する場合は、「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」で行ってください。

重要

- ▶ WizardConsole のアンインストールを行う前に、起動しているすべてのプログラムを終了させてください。

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 2 [アプリケーションの追加と削除] をダブルクリックします。
- 3 「WizardConsole」を選択し、[追加と削除] をクリックします。



POINT

- ▶ 「データを全て削除する」をチェックした場合は、クライアントセットアップ、リモート OS セットアップなどにより既に取り込み済みのデータすべてが削除されます。チェックしない場合は、削除されません。削除する場合は手動でデータフォルダを削除してください。

- 4 [削除] をクリックします。
アンインストールが行われ、完了画面が表示されます。
- 5 [完了] をクリックします。
システムを再起動します。

※ 重要

- ▶ アンインストール後は、必ずシステムを再起動してください。

POINT

- ▶ アンインストール後、インストール時に自動的に作成されるユーザーアカウント(SWClientSetupUser、SWSetupUser)が必要ない場合は、以下の手順に従ってアカウントを削除してください。
 - ・< Windows NT ドメインコントローラ>
「プログラム」の「管理ツール（共通）」－「ドメインユーザーとマネージャ」を起動し、「SWClientSetupUser」と「SWSetupUser」を削除してください。
 - ・< Windows 2000 ドメインコントローラ>
コントロールパネルの「管理ツール」－「Active Directory ユーザーとコンピュータ」を起動し、作成した OU または User から「SWClientSetupUser」と「SWSetupUser」を削除してください。
- ▶ アンインストール後、次のフォルダが残る場合があります。エクスプローラなどをを利用して、手動で削除してください。
C:\¥WZCNSL¥desktop フォルダが残っている場合は、「World Wide Web Publishing Service」を停止してからフォルダを削除してください。

第7章

ハードウェア増設時の操作

この章では、ドライバの作成方法とインストール方法について説明しています。

7.1 ドライバの作成方法	234
7.2 ドライバのインストール	238

7.1 ドライバの作成方法

サーバの運用中にオプションカードを増設する場合や、サーバを手動でインストールする場合などに必要なドライバディスクの作成方法／インストール方法について説明します。

ドライバディスクは、ServerStart のフロッピービルダ機能を使用して作成します。

7.1.1 ドライバの作成方法

ドライバディスク作成用のフロッピーディスクをあらかじめご用意ください。

フロッピービルダ機能は、以下の環境で利用できます。

- ・クライアントコンピュータで ServerStart システムを起動した場合（推奨）
- ・サーバで ServerStart CD-ROM からシステムを起動した場合

1 ServerStart を起動します。

● クライアントコンピュータで作成する場合

1. クライアントコンピュータにすでに ServerStart がインストールされている場合、インストール済みの ServerStart をアンインストールします。
アンインストールの方法については、「A.15 ServerStart のアンインストール」（→ P.256）を参照してください。

◆ 重要

- ▶ 異なるバージョンの ServerStart がインストールされている状態で事前設定モードを起動すると、フロッピービルダ機能が誤作動する可能性があります。インストール済みの ServerStart は、必ずアンインストールしてください。

2. クライアントコンピュータに、ServerStart CD-ROM をセットします。

「ServerStart Launcher」画面が表示されます。

自動的に「ServerStart Launcher」画面が表示されない場合は、CD-ROM 内の “Launcher.exe” を実行してください。



3. チェックボックスがすべて選択されていることを確認し、インストールフォルダを指定して [OK] をクリックします。

インストールが実行され、「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。



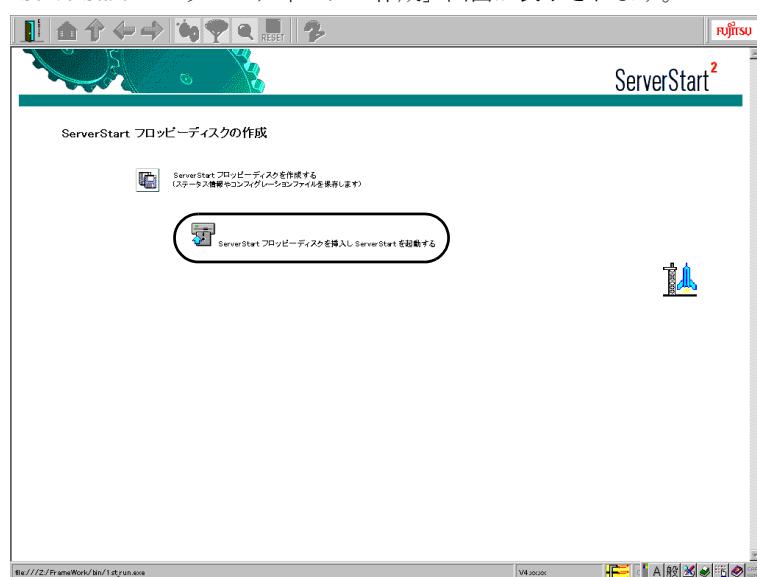
● サーバで作成する場合

1. サーバの電源を入れ、すぐに ServerStart CD-ROM をセットします。

ServerStart が起動し、ServerStart フロッピーディスクをセットするようメッセージが表示されます。

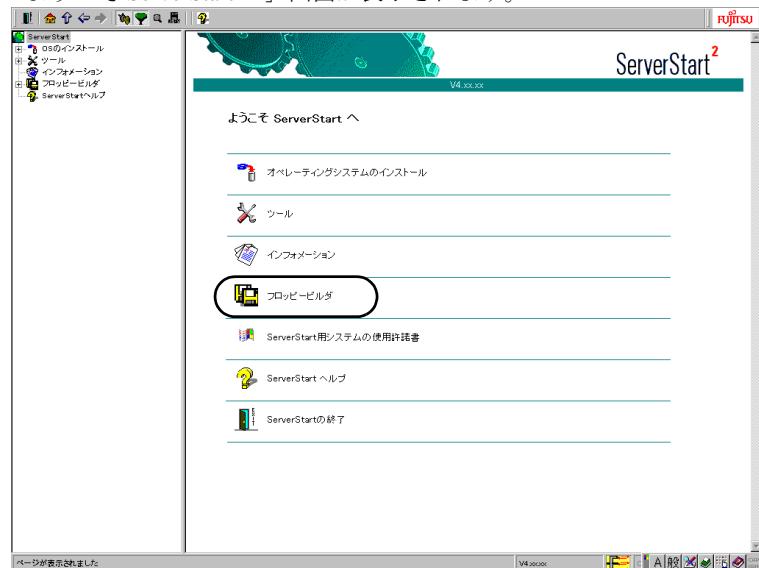
2. ServerStart に添付の「ServerStart フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブにセットして、「作成」をクリックします。

「ServerStart フロッピーディスクの作成」画面が表示されます。



3. 「ServerStart フロッピーディスクをセットして、ServerStart を起動する」をクリックします。

「ようこそ ServerStart へ」画面が表示されます。



4. 「ServerStart フロッピーディスク」をフロッピーディスク ドライバから抜き出します。

2 「コンピビルド」をクリックします。

「コンピビルド」画面が表示されます。



3 「ドライバディスク」をクリックします。

「コンピビルド ドライバディスク」画面が表示されます。

4 作成したいドライバの種類をクリックします。

5 作成したいドライバディスクをクリックします。

メッセージに従って、フロッピーディスクをフロッピーディスク ドライブにセットします。

6 以降は画面のメッセージに従い、操作を行います。

自動的にフロッピーディスクがフォーマットされ、ファイルのコピーが開始されます。ドライバディスクの作成は自動で行われます。作成中は、画面下のプログレスバーに作成状況が表示されます。プログレスバーが右端まで行き、「フロッピーディスクの作成が完了しました」というメッセージが表示されたら作成は終了です。[OK] をクリックし、フロッピーディスクを取り出してください。

POINT

- ▶ ドライバディスクは「ServerStart フロッピーディスク」とは別のものをあらかじめご用意ください。
- ▶ 作成するドライバごとにフロッピーディスクが必要です。

7.2 ドライバのインストール

LAN ドライバ、VIA チップセットドライバ、ディスプレイドライバのインストール方法について説明します。

7.2.1 LAN ドライバのインストール (Windows 2000 Server)

■ LAN ドライバの更新

- 1 ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをサーバ本体にセットします。
- 2 デスクトップ上の「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、表示されたメニューの中から [管理] を選択します。
- 3 「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 4 搭載されている LAN のポート数だけ以下の名称が表示されます。
 - ・「その他のデバイス」配下の「イーサネット コントローラ」これらのネットワークアダプタをダブルクリックして、以下の手順 5 ~ 10 をすべての LAN ポートに対して行います。
- 5 [ドライバ] タブをクリックし、「ドライバの更新」をクリックします。「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」画面が表示されます。
- 6 [次へ] をクリックします。
- 7 「ハードウェア デバイス ドライバのインストール」画面で「デバイスに最適なドライバを検索する（推奨）」を選択し、[次へ] をクリックします。
- 8 「ドライバファイルの特定」画面で、検索場所のオプションに「フロッピーディスクドライブ」のみを選択し、[次へ] をクリックします。
- 9 「次のデバイスドライバが検出されました」と表示されたら [次へ] をクリックします。
ドライバのインストールが開始されます。
- 10 [完了] をクリックします。
- 11 [閉じる] をクリックします。
- 12 設定内容を有効にするために、システムを再起動してください。

■ 重要

- ▶ オンボード LAN /PG-1851/PG-1861/PG-1871/PG-1871L/PG-1881/PG-189/PG-1891は、上記の手順 4 で、すべて「イーサネットコントローラ」と表示されるため、どのドライバディスクが適切か判断できません。間違ったドライバディスクの場合、上記の手順 7 を実行後、「このデバイスのドライバの場所を特定できません」と表示されます。ドライバディスクを交換後、再度インストールを行ってください。

■ LAN カードを増設した場合

LAN カードを新しく増設した場合、システム起動時に、以下の画面が表示される場合があります。それぞれ次のように対処してください。

- ・「新しいハードウェアの検出ウィザード」画面が表示される場合
ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをセット後、「LAN ドライバの更新」の手順 6 から操作してください。
- ・「ディスクの挿入」画面が表示され、「Intel PRO Adapter CD-ROM or floppy disk」または、「Intel(R) PRO/1000 Disk Driver」のセットが要求される場合
ServerStart CD-ROM から作成したドライバディスクをセットして、ドライバのインストールを行ってください。

■ 重要

- ▶ 「デジタル署名がみつかりませんでした」というメッセージが表示される場合がありますが、その場合は「[はい]」をクリックして、処理を続行してください。
- ▶ 「ファイルの上書き確認」画面が表示された場合は、通常、上書きは行わないでください（「すべて上書きしない」を選択してください）。

7.2.2 LAN ドライバのインストール (Windows NT Server 4.0)

Windows NT Server 4.0 対応 LAN ドライバ（以降、Windows NT ドライバと呼びます）のインストールには、次の 2 つの方法があります。

- ・すでに Windows NT Server 4.0 がインストールされている状態で、Windows NT ドライバを追加する方法（→ P.239）
- ・Windows NT Server 4.0 のシステムインストールと同時に Windows NT ドライバをインストールする方法（→ P.240）

■ Windows NT ドライバを追加する場合

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 2 「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。
「ネットワークの設定」画面が表示されます。
- 3 「アダプタ」をクリックし、「追加」をクリックします。

- 4 [ディスク使用] をクリックします。
「フロッピーディスクの挿入」画面が表示されます。
- 5 ServerStart CD-ROM から作成したフロッピーディスクをセットし、[OK] をクリックします。
「OEM オプションの選択」画面が表示されます。
- 6 「Intel (R) PRO Adapter」を選択し、[OK] をクリックします。
Windows NT ドライバがインストールされます。
- 7 設定内容を有効にするために、システムを再起動してください。

■ Windows NT Server 4.0 と同時にインストールする場合

- 1 Windows NT Server 4.0 のインストール途中で、「ネットワークアダプタ」画面が表示されます。[一覧から選択] をクリックします。
- 2 [ディスク使用] をクリックします。
「フロッピーディスクの挿入」画面が表示されます。
- 3 ServerStart CD-ROM から作成したフロッピーディスクをセットし、[OK] をクリックします。
「OEM オプションの選択」画面が表示されます。
- 4 「Intel(R) PRO Adapter」を選択します。
- 5 [OK] をクリックします。
Windows NT ドライバがインストールされます。

☞ 重要

- ▶ Windows NT Server 4.0 で、LAN カードを取り外す時は、カードを取り外す前に、以下の手順でドライバを削除してください。
 1. 「コントロールパネル」から「ネットワーク」をダブルクリックします。
 2. 「アダプタ」タブを表示し、削除するアダプタを選択して [削除] をクリックします。

7.2.3 最新のドライバについて

最新のドライバは、弊社ホームページ (PRIMESERVER WORLD) の「会員ページ」(無料) 内で公開されています。

「会員ページ」ではまた、PRIMERGY に関する有効な詳細技術情報、ご利用者間の情報交換の場（談話室）、新着情報やセミナーなどのメールサービスなどのサービスを提供しております。

- PRIMESERVER WORLD の URL:<http://primeserver.fujitsu.com/>

付録

この章では、トラブルシューティングと、ネットワークパターンについて説明しています。また、ServerStart を使用してインストールを行う場合に有効なデザインシートを添付しています。

付録 A トラブルシューティング	242
付録 B ネットワークパターン別 設定方法	257
付録 C IDE RAID 管理ツールについて	281
付録 D デザインシート	289

付録 A トラブルシューティング

本サーバのインストール時における留意事項や、エラーメッセージなどについて説明します。

A.1 インストール先区画サイズについて

インストール先区画の設定可能なサイズは、インストール対象となる OS とフォーマット形式によって、次のようにになります。

	Windows NT	Windows 2000
最小値	1024MB	2030MB
最大値	4095MB	15000MB
デフォルト値*	4000MB	15000MB
推奨構成	ファイルシステム：FAT 区画サイズ：4000MB	ファイルシステム：NTFS 区画サイズ：15000MB

* デフォルト値：ディスク ウイザードで区画設定時に表示される初期値です。

- OS および BOOT パーティションを別々の区画に設定する場合は、区画サイズに「自動設定」を選択せず、直接区画サイズを指定します。

- BOOT

起動区画を表します。「ntldr」などの起動に必要な最小の情報が配置されます。

- OS

OS インストール区画を表します。

- 区画サイズは、次の値未満になるように設定してください。

- OS および BOOT パーティションを同一パーティションに設定する場合

Windows NT : BOOT,OS 区画サイズ = 4000MB

Windows 2000 : BOOT,OS 区画サイズ = 15000MB

- OS および BOOT パーティションを別々の区画に設定する場合

Windows NT : BOOT + OS 合計区画サイズ = 4000MB

Windows 2000 : BOOT + OS 合計区画サイズ = 15000MB

- 次の値を超えた区画にはインストールできません。

Windows NT : 4000MB

Windows 2000 : 15000MB

A.2 RAID を構築するときの留意事項

RAID を構築する際の留意事項について説明します。

■ ハード構成

条件	内容
サポートするSCSIアレイコントローラカード枚数	1枚
SCSIアレイコントローラカードとして使用できる条件	『ハードウェアガイド 第4章 内蔵オプションの取り付け』に記述してある所定のスロット位置に装着されていること
ハードディスクの条件	<ul style="list-style-type: none"> ・本体内蔵のみ ・必ず同形式および同容量のハードディスクを使用すること ・RAID レベルにより設定できる台数は、次のとおりです。 RAID レベル 0 : 2 ~ 16 台 RAID レベル 1 : 2 台 RAID レベル 5 (推奨) : 3 ~ 16 台 ・ホットスペア (スタンバイディスク) なし／あり (1台まで、RAID レベル 0 を除く)

重要

- ▶ ハードディスクの設定台数について
 - ・本体の最大搭載数を超えて設定しないでください。本体の最大搭載数は、『ハードウェアガイド 第7章 技術情報』を参照してください。
 - ・SCSI アレイコントローラカードの最大搭載数より多い数は設定できません。カードの最大搭載数は、カードのマニュアルを参照してください。
- ▶ ホットスペアを「あり」に設定した場合
 - 実際に搭載するハードディスク台数は、上記の設定台数 + 1台としてください。

■ アレイ構成

項目	内容
フィジカルパック数	1
システムドライブ数	1
最大システムドライブ容量	1TB
ハードディスクのパック順	<p>ハードディスクに設定された SCSI ID の小さい順で Channel 0 と Channel 1 を交互にパックします（2 チャンネルの場合）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例（2 チャンネルの場合） <ul style="list-style-type: none"> パック A-1 Channel 0 SCSI ID 0 パック A-2 Channel 1 SCSI ID 0 パック A-3 Channel 0 SCSI ID 1 パック A-4 Channel 1 SCSI ID 1 パック A-5 Channel 0 SCSI ID 2 <p>ホットスペアを指定した場合は、ホットスペアのハードディスクは一番小さいチャンネル番号で SCSI ID が最小のハードディスクとなります（通常は Channel 0 で SCSI ID 0 のハードディスク）。</p>

■ ディスク台数

- ・ 設定した台数（ホットスペアありの場合は + 1 台）より実際に装着されている台数が少ない場合、ServerStart はエラーとなり、セットアップは中断されます。
- ・ 設定した台数（ホットスペアありの場合は + 1 台）より実際に装着されている台数が多い場合、設定どおりになり、余ったディスクはスタンバイディスクとなります。また、後からフィジカルパックを追加することもできます。詳しくは、SCSI アレイコントローラカードに添付されている『取扱説明書』を参照してください。

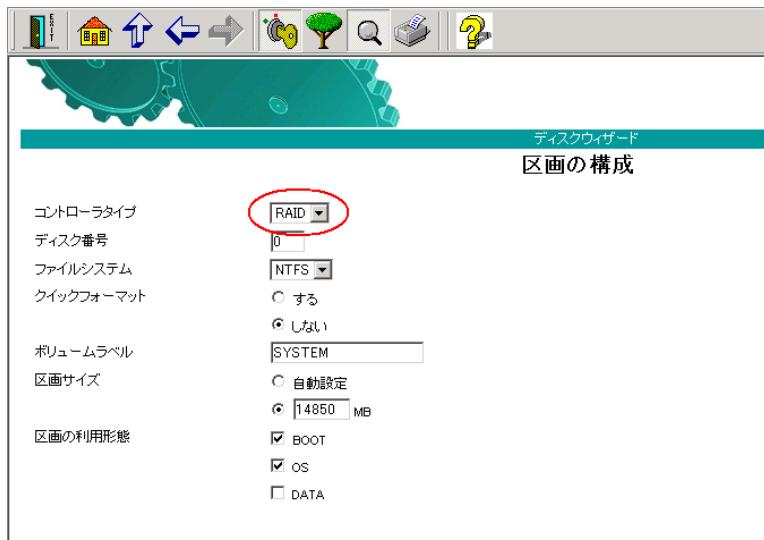
■ RAID 構築済みディスクを利用する場合

SCSI アレイコントローラカードの交換などで、既に構築済みのディスクを利用する場合は、SCSI アレイコントローラカードを交換する前に、フィジカルパックを削除しておく必要があります。フィジカルパックを削除せずにインストールを開始すると、そのディスクを正常に認識できない場合があります。

フィジカルパックの削除方法については、SCSI アレイコントローラカードに添付されている『取扱説明書』を参照してください。

■ 事前設定モードで RAID 環境にインストールする場合

事前設定モードで RAID 環境にインストールを行う場合は、ディスクウィザードで作成区画の設定を行う際に注意が必要です。ディスクウィザードの区画設定画面で、区画作成先のコントローラのデフォルト値が「SCSI」になっているため、そのままの状態でインストールを実行すると、区画作成時にエラーとなりインストールが正しく終了しません。RAID 構成のサーバにインストールする場合は、区画作成先コントローラを「RAID」に設定する必要があります。



A.3 複数 LAN アダプタ搭載時の留意事項

ServerStart では、OS インストールウィザードで、システムに搭載された複数の LAN アダプタ（ネットワークアダプタ）をあらかじめ構成することができます。ただし、次の制限事項があります。

■ アダプタ番号について

複数の LAN カードおよび通信カード（GP5-163/165 など）を構成する場合、アダプタ 1、アダプタ 2 の順でアダプタ番号を選択し、アダプタごとに設定内容を入力します。ただし、アダプタ番号は、搭載されている LAN アダプタのスロット順と必ずしも一致するわけではありません。アダプタ 1 の設定内容が、常にオンボード LAN に設定されるとは限らないため、OS インストール完了後に、どの LAN アダプタに、どの設定内容が反映されたかを必ず確認してください。

■ OS インストールタイプの場合

OS インストールタイプでは、ServerStart を使用して開封する際に構成できるアダプタは 1 つだけです。インストール完了後に、残りの LAN アダプタの構成（ドライバのインストール、IP アドレスの設定など）を行ってください。

■ DHCP より IP アドレスを取得する場合

Windows NT Server 4.0 および Windows NT Server Enterprise Edition で複数の LAN アダプタを構成し、DHCP より IP アドレスを取得するように設定した場合、ポート 1 以外のポートに対しては、DHCP より IP アドレスを取得することができません。この場合、OS インストール完了後、再度 DHCP を選択し直し、サーバを再起動してください。

A.4 LAN ドライバの詳細設定について

LAN ドライバの詳細設定は、「コントロールパネル」に登録されている「Intel®PROSet II」から行ってください。通常「Intel®PROSet II」は、ドライバと同時にインストールされますが、Windows 2000 Server で、ServerStart CD-ROM から作成したフロッピーディスクを使用してドライバをインストールした場合は、「Intel®PROSet II」はインストールされません。

Windows 2000 Server で、「コントロールパネル」に「Intel®PROSet II」が登録されていない場合は、次の手順に従ってインストールを行ってください。

1 ServerStart CD-ROM 内の以下のコマンドを実行します。

CD-ROM ドライブ:¥Drivers¥LAN¥Intel¥Pro100¥W2k¥Proset¥Proset.exe

2 「自動実行—直ちにセットアップの開始」を選択して、[OK] をクリックします。 以降は、指示に従ってインストールを続行してください。

■ ヘルプ参照時の注意

ヘルプを参照するときは、次の点に注意してください。

- インテル社のオンラインサービスからダウンロードできるドライバを、本サーバ上で使用しないでください。
- LAN カード (PG-1851、PG-1871/1871L) は、PRO/100S adapter、82550-based adapter に対応します。ただし、PG-1851にはSecurity offloading(IPSecのハードアシスト)機能はありません。
- LAN カード (PG-189/1891) は、PRO/1000 (Server) adapter、PRO/1000T model、82543-based adapter に対応します。
- LAN カード (PG-1891) は、PRO/1000 copper-based models に対応します。
- Priority Packet(802.lp/802.1q Tagging) 機能は使用しないでください。
- IPSec は、Windows 2000 Server でのみ使用可能です。Windows NT Server 4.0 で IPSec は Enable にしないでください。

■ PG-183/188x/189x LAN ドライバ V3.1 の制限事項

Gigabit Ethernet 用 LAN ドライバ PG-183/188x/189x LAN Driver V3.1 には以下の制限事項があります。

- Windows NT Server 4.0 もしくは Windows 2000 Server で PG-1891 をご使用の場合、システム起動時に、イベントビューアのシステムログに以下のログが格納される場合があります。

ソース	E1000
ID	13
種別	警告
説明	(アダプタ名) PROBLEM: Could not established link. ACTION: Check network cable ACTION: Run PROSet diagnostics * (アダプタ名) は OS やハード構成によって異なります。

このイベントログは、ネットワークのリンクは正しく確立されていても格納されますので、無視してください。

また、Windows NT Server 4.0 もしくは Windows 2000 Server で PG-1891 を使用して Teaming を構成すると、システム起動時に、イベントビューアのシステムログに以下のログから始まり、同一ソースからのログが複数格納される場合があります。

ソース	iANSMiniport
ID	11
種別	警告
説明	Adapter link down: (アダプタ名) * (アダプタ名) は OS やハード構成によって異なります。

これらのイベントログは、Teaming が正しく動作していても格納されてしましますので無視してください。

- Gigabit Ethernet LAN カード (PG-1881/PG-1891) と Ethernet LAN カード (PG-1851/1871/1871L オンボード LAN) との Teaming は使用しないでください。

■ Teaming 機能について

Teaming 機能を使用する場合は、次の点に注意してください。

- Windows NT Server 4.0 では、Service Pack 5 以降が必須です。
- Windows 2000 Server では、Service Pack 2 以降が必須です。
- 次の機能は使用しないでください。
 - Fast EtherChannel
 - Gigabit EtherChannel
 - IEEE802.3ad
- オンボード LAN はチームに組み込めません。
- 1 チームに組み込める LAN のポート数は、最大 4 ポートです。
- IPSec のハードアシスト機能を使用しないでください。
- Windows 2000 Server で、Team を作成すると、システムの「デバイスマネージャ」や「ネットワークとダイアルアップ接続」に仮想アダプタ（Intel® Advanced Network Service Virtual Adapter）が作成されます。この仮想アダプタを、「デバイスマネージャ」や「ネットワークとダイアルアップ接続」から無効化したり、削除したりしないでください。削除する場合は、必ず「Intel® PROSet II」を使用してください。
- Teaming の設定手順
 - 「コントロールパネル」から「Intel® PROSet II」を起動します。
 - Team に組み込むカードを選択し、マウスを右クリックします。
 - 「Add to Team」の「Create New Team」をクリックします。

以降は、画面の指示に従って設定してください。

■ VLANについて

VLANを使用する場合は、次の点に注意してください。

- VLANはGigabit Ethernet LANカード(PG-189/1891)でのみ使用可能です。
- VLAN上では、TCP/IP以外のプロトコルは使用しないでください。
- 1つのLANポートに設定可能なVLANの数は最大10個までです。
- Windows 2000 ServerでVLANを追加したり、削除する場合は、必ず「Intel® PROSet II」を使用してください。VLANを「デバイスマネージャ」や「ネットワークとダイヤルアップ接続」から無効化したり、削除したりしないでください。
- VLANの設定手順
 1. 「Intel® PROSet II」を起動します。
 2. VLANを設定するLANカードを選択し、マウスを右クリックします。
 3. 「ADD VLAN」をクリックします。このとき、次のメッセージが表示される場合がありますが、「[はい]」をクリックしてください。

IEEE VLANs (802.1Q)をサポートしているスイッチに接続する必要がありますが、QoS Packet Taggingをイネーブルにしますか？

以降は、画面の指示に従って設定してください。

■ ローカルアドレスの設定

次の手順に従って、ローカルアドレスを設定してください。

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 2 「Intel® PROSet」または「Intel® PROSet II」を起動します。
- 3 設定するカードを選択し、[Advanced]タブをクリックします。
- 4 「Locally Administered Address」の値に設定したいローカルアドレスを設定します。

■ Jumboフレームについて

Gigabit Ethernet LANカード(PG-1881/PG-1891)では、Jumboフレームが使用できます。Jumboフレームを使用する際は、Jumboフレームネットワーク内の機器は、すべてJumboフレーム対応装置で構成し、Jumboフレームを有効とする設定をしてください。

次の手順で、Jumboフレームの設定を行います。

- 1 「コントロールパネル」から「Intel® PROSet II」を起動します。
- 2 設定するカードを選択し、「Advanced」タブをクリックします。
- 3 「Jumbo Frames」に、使用する最大フレームサイズを設定します。

■ その他の注意事項

- Windows NT Server 4.0でアダプタの設定を変更する場合は、終了後システムを必ず再起動してください。

- ・ハブスイッチまたはルータを経由せず、クロスケーブルを用いて直接他装置と接続する運用はできません。
- ・Windows NT Server 4.0をご使用の場合、ネットワークのプロパティで、LAN を複数ポート設定して、バインドおよび TCP/IP の設定を行うと、「rundll32.exe アプリケーションエラー」が発生する場合があります。この場合は、次の手順で TCP/IP を設定してください。
 1. バインド情報の設定後、TCP/IP を設定する前に、システムを再起動します。
 2. 再起動後、TCP/IP を設定します。

A.5 Windows 2000 セットアップ中に自動ログオンされない場合

ServerStart では、OS のインストール時に添付されているアプリケーションや、ハードウェアのユーティリティも同時にインストールされます。インストールやその後の再起動およびログオンは、必要に応じて自動的に行われますが、まれに自動ログオンが行われず、ログオン画面が表示される場合があります。この場合、あらかじめインストール前に設定したユーザ名、パスワードでログオンしてください。ログオン後、セットアップ処理が継続されます。

A.6 Active Directory 構築中に入力画面で停止した場合

Active Directory の構築中に自動インストールが停止してしまった場合は、最初にエラーの内容を確認してください。自動インストールでは、パスワードが必要な場合は、DNS への登録に失敗した場合などに停止することがあります。環境を確認して手動でインストールを続行してください。問題が解決しない場合は、[キャンセル] をクリックして、OS インストール終了後、手動で Active Directory の構築を行ってください。

Active Directory のインストールウィザードを手動で続行した場合は、インストールウィザードが終了すると、次のメッセージが表示されます。

“Active Directory のインストールウィザードによって行われた変更を有効にする前に Windows を再起動する必要があります。”

このメッセージが表示された場合は、[再起動する] をクリックして、インストールを続行してください。

A.7 インストール時に表示されるエラーメッセージについて

● “WzDiskAdmin: System Error!xxxxxxxxxxxxxx, Last Error: デバイスの準備ができません。”と表示される

SCSI オプション装置（ハードディスクキャビネット、光磁気ディスクなど）が接続されている可能性があります。この場合、SCSI オプション装置を外してから、再度インストールを実行してください。取り外したオプション装置は、インストールがすべて終了してから取り付けてください。

● “**WzDiskAdmin: Partition detected! Please delete all partition before starting Configuration**” と表示される

再度ガイドモード、または事前設定モードを実行し、ディスクウィザードで、「表示されているディスクに存在する、全ての区画を削除する」にチェックを付けてください。

● “**WzRaid: RAID arrays detected! Please delete all RAID arrays before starting Configuration**” と表示される

作成した ServerStart フロッピーディスクを使用して、RAID ウィザードで、「既存の RAID アレイを削除する」にチェックを付けてください。

● **CD-ROM からのファイルコピー後の再起動で “Operating System not found” と表示される**

次の問題が考えられます。確認してください。

- ・インストール先区画サイズを 15000MB 以上にした
- ・搭載 RAID カードの起動デバイスの順番が、Onboard SCSI より後になっている
- ・Active フラグが指定されている

● インストール中に “**Missing Operating System**” と表示される

インストール先区画サイズが大きすぎる可能性があります。インストール先区画サイズには正しい値を指定してください。

インストール先区画サイズの詳細については、「A.1 インストール先区画サイズについて」(→ P.242) を参照してください。

A.8 Windows NT でのドライブ文字の割り当てについて

SCSI オプション装置を接続した場合、ドライブ文字が入れ替わることがあります。

SCSI オプション装置を接続する場合は、必ずセットアップを終了してからディスクアドミニストレータを起動し、ディスクの構成を保存してから接続してください。

ディスクの構成を保存するには、ハードディスクの構成を変更する必要があります。未使用の領域にいったんパーティションを作成してからそのパーティションを削除して、ディスクの構成情報を保存します。

1 管理者権限でサーバにログオンします。

2 ディスクアドミニストレータを起動します。

ハードディスクの未使用の領域を選択し、「パーティション」メニューから「作成」を選択します。

確認のダイアログが表示されたら、[はい] をクリックします。

3 プライマリパーティションの作成ダイアログが表示されます。

作成するパーティションサイズを指定して、[OK] をクリックします。

作成したパーティションを選択して、「パーティション」メニューから「削除」を選択します。

4 ディスクアドミニストレータを終了します。

確認のダイアログが表示されるので、[はい] をクリックします。

- 5** [ディスクアドミニストレータ] ダイアログが表示されたら、[OK] をクリックします。
- 6** システムをシャットダウンして本体の電源を切ってから、外部 SCSI オプション装置を接続します。
- 7** 本体の電源を入れて、システムを起動します。

POINT

- ▶ 万ードライブ文字が入れ替わってしまった場合は、SCSI オプション装置をいったん取り外してシステムを再起動し、ディスクアドミニストレータを起動してドライブ文字を変更してから、SCSI オプションを取り付けてください。

A.9 スーパーフロッピー形式の光磁気ディスクの使用方法

SCSI カードなどに添付されているフォーマッタを使用して、光磁気ディスクをスーパーフロッピー形式でフォーマットした場合、Windows NT で認識できないことがあります。光磁気ディスクをスーパーフロッピー形式でフォーマットする場合には、光磁気ディスクユニット添付のデバイスドライバ内の「MO フォーマッタ」を使用してください。詳しくは、光磁気ディスクユニットのマニュアルを参照してください。

A.10 Windows 2000 インストール後に発生するイベントログのエラーについて

Windows 2000 のインストールが完了した後に、イベントビューアに次のイベントが表示される場合があります。該当するイベントの対処方法を確認し、対処してください。

ID	説明	原因と対処方法
9	デバイス XXXX は、タイムアウト期間内に応答しませんでした。	PG-144B/142B/128 などの SCSI カードを搭載した場合に表示される可能性がありますが、問題はありません。
15	デバイス XXXX は、まだアクセスできる状態ではありません。	PG-144B/142B/128 などの SCSI カードを搭載した場合に表示される可能性がありますが、問題はありません。
62	このコンピュータは、フォレストのルートにあるドメインの PDC です。net コマンド「net time /setsntp:<サーバー名>」を使って、外部タイムソースから同期するように構成してください。	原因：コンポーネントとして NTP を選択すると発生します。 対処方法：ServerStart では、NTP サーバを指定する設定箇所がないため、自動構成できません。OS インストール後に、次の手順でタイムサーバの指定を行ってください。 1. 別マシンで SNTP サーバを稼動させます。 仮に SNTP サーバのアドレスを <172.22.78.246> とします。 2. コマンドプロンプトで次のように入力します。 <pre>net time /setsntp:172.22.78.246 w32tm -s 172.22.78.246</pre>
1000	ユーザまたはコンピュータ名を判断できません。戻り値は「1722」です。	原因：優先 DNS サーバのアドレスが無効であるか、接続できない場合に発生する可能性があります。 対処方法：次の手順でインターネットプロトコル (TCP/IP) プロパティの DNS アドレスを修正してください。 <ol style="list-style-type: none"> 【マイネットワーク】を右クリックし、【プロパティ】をクリックします。 【ローカルエリア接続】を右クリックして、【プロパティ】をクリックします。 【インターネットプロトコル (TCP/IP)】をクリックして、【プロパティ】をクリックします。 【優先 DNS サーバ】ボックスに正しい DNS アドレスを入力します。

A.11 メモリダンプが取得できない場合

メモリダンプファイルが作成されない場合は、以下の方法で対処します。

■ 正しい設定を行う

メモリダンプを取得できない場合、ページングファイルの設定とダンプファイルの設定を確認してください。

設定方法については、「4.1 メモリダンプ／ページングファイルの設定」(→ P.116) を参照してください。

■ システムドライブ以外にメモリダンプを取得する

システムドライブ (c:¥) にメモリダンプを取得している場合は、システムドライブ以外にメモリダンプを取得するように設定を変更します。

設定方法については、「4.1 メモリダンプ／ページングファイルの設定」(→ P.116) を参照してください。

システムドライブしかない場合や、どのドライブにも空き容量がない場合には、次のどちらかの方法で対処します。

- ハードディスクを増設する。
- より大きな容量のハードディスクへ交換する。

■ 搭載メモリを減らしてメモリダンプを取得する

搭載メモリサイズに関係なくメモリダンプを取得する場合には、搭載メモリをメモリダンプ取得可能なメモリ容量に減らしてメモリダンプを取得します。

搭載メモリを変更した場合は、メモリダンプの設定を確認してください。

設定方法については、「4.1 メモリダンプ／ページングファイルの設定」(→ P.116) を参照してください。

■ デバッグ情報の書き込みの種類を変更する (Windows 2000 Server の場合)

メモリダンプを取得できない場合、ボリュームサイズの空き容量の範囲内に収まるデバッグ情報の書き込みの種類を選択してください。

上記対処ができない場合、ハードディスクを増設するなどの方法で対処します。

■ 再インストールする (Windows NT Server 4.0 の場合)

システムドライブに十分な空き容量が確保できるシステム区画を作成し、Windows NT Server 4.0 を再インストールします。

十分な空き容量が確保できない場合には、次のどちらかの方法で対処します。

- ハードディスクを増設する。
- より大きな容量のハードディスクへ交換する。

POINT

▶ インストール区画について

Windows NT Server 4.0 セットアップによって作成できるブートパーティションのサイズは、4GB までです。

ただし、ハードディスクドライブを、Windows NT Server 4.0 を実行させている他の同一環境のシステムに接続し、ディスクアドミニストレータを実行して NTFS パーティションを作成すれば、最大 7.8GB でフォーマットされているパーティションにインストールが可能になります。本パーティションへ Windows NT Server 4.0 をインストールする場合、ファイルシステムの選択画面で、「現在のファイルシステムをそのまま使用（変更なし）」を選択します。

A.12 カスタムメイドにおけるプレインストールタイプについて

OS インストールタイプ（Windows NT Server 4.0）では、メモリダンプを取得できない構成があります。メモリダンプの取得可能なメモリ容量を次に示します。

■ メモリダンプをシステムドライブに取得する場合

搭載可能なメモリ容量は、次の値を超えない実際のメモリの組み合わせとなります。

搭載可能なメモリ容量 = ([システム区画サイズ] - [インストールサイズ]) / 2

なお、インストールサイズには、ページングファイルのサイズは含みません。

■ メモリダンプをシステムドライブ以外に取得する場合

搭載可能なメモリ容量は、次の値を超えない実際のメモリの組み合わせとなります。

搭載可能なメモリ容量 = [システム区画サイズ] - [インストールサイズ]

なお、インストールサイズには、ページングファイルのサイズは含みません。

詳細については、「4.1 メモリダンプ／ページングファイルの設定」（→ P.116）を参照してください。

また、メモリダンプを取得できない場合は、「A.11 メモリダンプが取得できない場合」（→ P.253）を参照してください。

A.13 システムの修復について

万一、システムファイル、システム構成、およびスタートアップ時の環境変更などが損傷を受けた場合は、インストール時に作成した修復ディスクに保存されている修復情報を使ってこれらを再構築できます。

OS インストール時や、システム構成を変更した場合は、「4.2 システム修復ディスクの作成」（→ P.124）を参照して、修復ディスクを作成してください。

■ Windows NT の場合

- 用意するもの
 - Windows NT Server 4.0 Disc1
 - Windows NT セットアップディスク 3 枚
 - あらかじめ作成した Windows NT システム修復ディスク
 - Windows NT Server ファーストステップガイド

- 1** 「Windows NT Server ファーストステップガイド」に従って、Windows NT のセットアップを開始します。
- 2** Windows NT Server セットアップの「セットアップへようこそ」画面で、【R】キーを押して修復を選択します。
- 3** セットアップ画面のメッセージに従って、システムを修復します。

POINT

- ▶ システム修復時の注意点
 - ・システムの修正を行うと、情報によっては新規インストール状態に戻ってしまう場合があります。システムの修復後、再設定する必要があります。
 - ・システムファイル、システム情報の損傷が大きい場合は、Windows NT Server 4.0 の再インストールが必要になる場合があります。そのときは「3.6 再インストール」(→ P.93) を参照して再インストールしてください。
 - ・ファイルの修復中に、「セットアップが Windows NT のインストール時にコピーしたオリジナルのファイルではありません」というメッセージが表示されます。その場合、【Enter】キー、もしくは【A】キーを押して非オリジナルファイルを修復し、システムの修復が完了したあとに、本体添付のドライバや、Windows NT 4.0 Service Packなどを再インストールしてください。

■ Windows 2000 の場合

- 用意するもの
 - ・Windows 2000 Server の CD-ROM
 - ・あらかじめ作成した Windows 2000 システム修復ディスク
 - ・Windows 2000 Server ファーストステップガイド
- 1** 「Windows 2000 Server ファーストステップガイド」(SBS 2000 の場合は、「スタート」ボタン→「ヘルプ」から「システム修復ディスクを使ってシステムを修復するには」) に従って、Windows 2000 Server のセットアップを開始します。
 - 2** Windows 2000 Server セットアップの「セットアップへようこそ」画面で、【R】キーを押して修復を選択します。
 - 3** セットアップ画面のメッセージに従って、システムを修復します。

POINT

- ▶ システム修復時の注意点
 - ・システムの修正を行うと、情報によっては新規インストール状態に戻ってしまう場合があります。システムの修復後、再設定する必要があります。
 - ・システムファイル、システム情報の損傷が大きい場合は、Windows 2000 Server の再インストールが必要になる場合があります。そのときは「3.6 再インストール」(→ P.93) を参照して再インストールしてください。
 - ・ファイルの修復中に、「ファイル XXXXXX.XXX は Windows 2000 のインストール時にコピーされた元のファイルではありません」というメッセージが表示されます。その場合、【Enter】キー、もしくは【A】キーを押してファイルを修復してください。

A.14 プリンタのセットアップについて

プリンタのセットアップには対応していません。セットアップ終了後にインストールを行ってください。

A.15 ServerStart のアンインストール

事前設定モードや、ドライバフロッピーディスクの作成のため、クライアントにインストールした ServerStart をアンインストールする場合は、次の手順に従ってください。

- 1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 2 「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。
- 3 「Fujitsu ServerStart」を選択し、[削除] をクリックします。
正常にアンインストールが実行されると、Fujitsu ServerStart が削除されます。

POINT

- ▶ Windows 2000 Professional でアンインストールを行った場合
「アプリケーションの追加と削除」が応答しなくなる場合があります。この場合、システムをログオフしてください。

付録 B ネットワークパターン別 設定方法

ここでは、ドメインコントローラ、ドメインメンバサーバおよびスタンダードアロンサーバなど、パターン化されたネットワーク構成の設定のポイントについて説明します。

それぞれのネットワークパターンを構築する場合の設定について、「OS ウィザード (Windows 2000 インストールウィザード)」(→ P.295) または「OS ウィザード (Windows NT 4.0 インストールウィザード)」(→ P.291) のデザインシートにあらかじめ設定値を記入しておくと、インストール時にスムーズに設定が行えます。

B.1 ServerStart で構築できるネットワークパターン

ServerStart では、次の目的別サーバを構築できます。

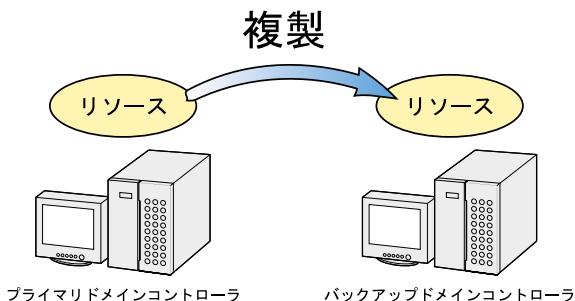
- ドメインコントローラ
OS の種別により、次の 2 種類のドメインがあり、それぞれいくつかのパターンが構築できます。
 - Windows NT 4.0 ドメイン
PDC (プライマリドメインコントローラ) / BDC (バックアップドメインコントローラ)
 - Active Directory ドメイン
新しいフォレスト / 新しいツリー / 追加ドメインコントローラ / 子ドメイン
- ドメインメンバサーバ
- スタンダードアロンサーバ

■ ドメインコントローラ

● Windows NT 4.0 ドメイン

Windows NT 4.0 を使ってドメインを構築する場合、ドメインコントローラには、PDC (プライマリドメインコントローラ) と BDC (バックアップドメインコントローラ) のいずれかを選択できます。

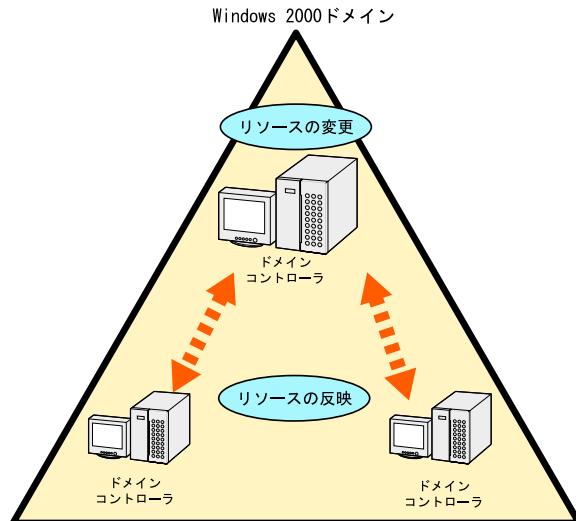
ドメイン内でリソースを変更できるのは PDC のみです。変更された内容が BDC に複製されます。



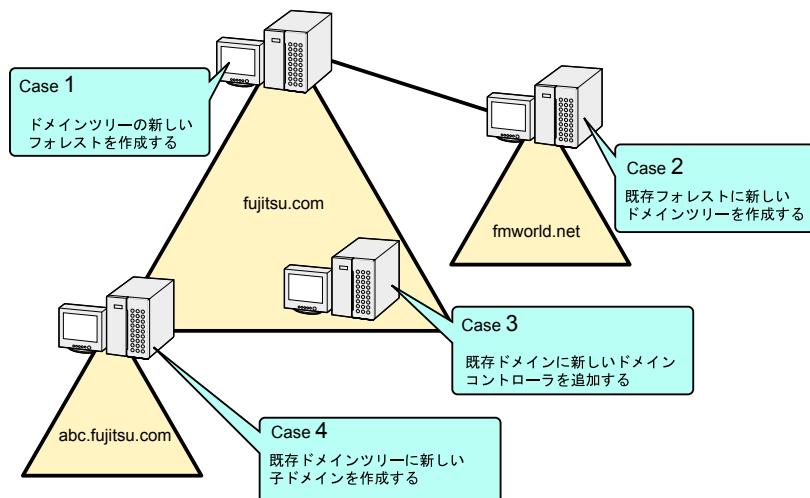
● Active Directory ドメイン

Windows 2000 ドメインは、Active Directory（LDAP をベースとしたディレクトリサービス）を基本に構築されており、一般的に Active Directory ドメインと呼ばれます。

Active Directory では、PDC（プライマリドメインコントローラ）と BDC（バックアップドメインコントローラ）という概念はなく、Active Directory 内の、あるドメインコントローラ上で変更されたリソースは、同じネットワークにあるすべてのドメインコントローラに反映されます。このため、Windows 2000 をドメインコントローラとする場合は、Active Directory に関して理解しておく必要があります。



Active Directory を構築するには、次の 4 つのパターンがあります。



1. ドメインツリーの新しいフォレストを作成します（新しいフォレストの構築）。
2. 既存フォレストに新しいドメインツリーを作成します（新しいツリー）。
3. 既存ドメインに新しいドメインコントローラを追加します（追加ドメインコントローラ）。
4. 既存ドメインツリーに新しい子ドメインを作成します（子ドメイン）。

POINT

- ▶ Active Directoryに関する基礎用語
 - ・ドメインツリー
ドメインツリーは、ドメインを構成する最小単位です。既存のドメインツリーに子ドメインを作成する場合、DNS サフィックスが継承されます。
 - ・フォレスト
1つ以上のドメインツリーが、依存関係なく接続されている関係を表します。
新しいドメインツリーを作成する場合、DNS サフィックスは継承されません。

重要

- ▶ ドメインコントローラを構築する際の注意事項
 - ・ドメイン環境にアドオンされるクライアント OS のレベルにより、ドメインコントローラがサービスすべき WINS 等のサービスをインストールする必要があります。
 - ・インストールするネットワークパターンによっては、事前に上位ドメインコントローラ（DNS サーバ）の設定が必要になる場合があります。

■ ドメインメンバサーバ

ドメインメンバサーバとは、ドメインに参加している多目的サーバを意味します。
権限があるドメイン内のすべてのリソースにアクセスすることができ、またアクセスされます。

■ スタンドアロンサーバ

スタンドアロンサーバとは、一般にワークグループ環境と呼ばれる小規模な環境で利用するサーバを意味します。

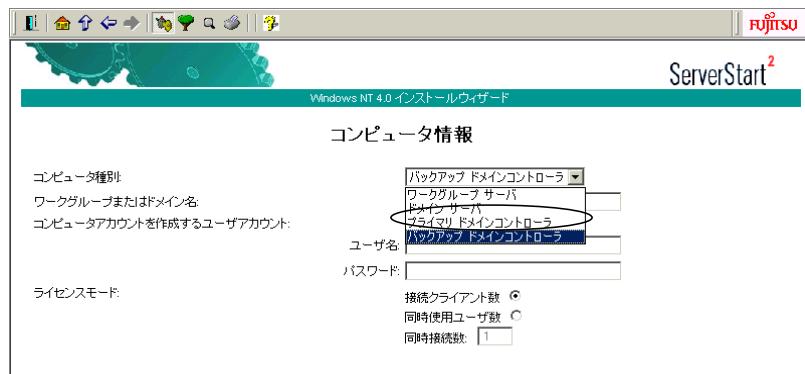
B.2 Windows NT 4.0 ドメインの構成

PDC（プライマリドメインコントローラ）またはBDC（バックアップドメインコントローラ）の設定を行います。

■ PDC の場合

OS インストールウィザードの「コンピュータ情報」画面で、次の設定を行います。

●「コンピュータ情報」画面

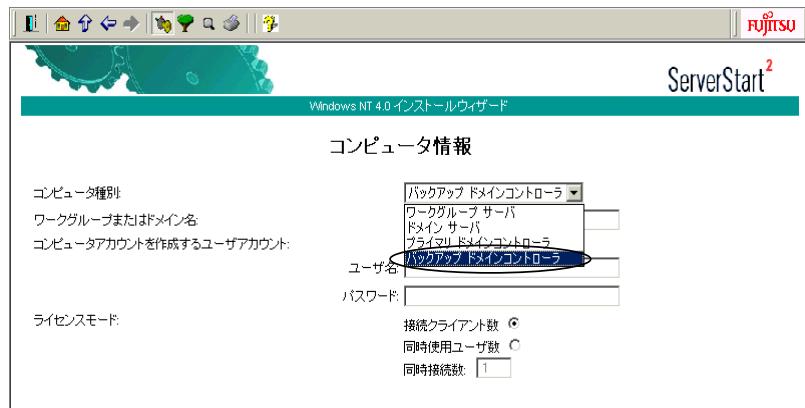


- 1 「コンピュータ種別」で「プライマリドメインコントローラ」を選択します。
- 2 「ワークグループまたはドメイン名」に作成するドメイン名を指定します。
- 3 「コンピュータアカウントを作成するユーザアカウント」は空白のままでです。

■ BDC の場合

OS インストールウィザードの「コンピュータ情報」画面で、次の設定を行います。

●「コンピュータ情報」画面



- 1** 「コンピュータ種別」で「バックアップドメインコントローラ」を選択します。
- 2** 「ワークグループまたはドメイン名」に参加するドメイン名を指定します。
- 3** 「コンピュータアカウントを作成するユーザアカウント」にコンピュータアカウントを作成する権限のあるドメインユーザアカウントとパスワードを指定します。

POINT

- ▶ ドメインコントローラ上にコンピュータアカウントを作成している場合
あらかじめドメインコントローラ上にコンピュータアカウントを作成している場合は、手順3.でコンピュータアカウントを作成する権限のないドメインユーザを指定することができます。

B.3 Active Directory の構成（新しいフォレスト）

新しいフォレストとして Active Directory を構築する場合、Active Directory は新しいシステム全体のルートドメインとして定義されます。そのため、この Active Directory の作成は、新しいシステムを作成する場合、または既存のシステムを新しいシステムとして作り変える場合に、最初に行う作業となります。

Active Directory を構築する前に、ネットワーク構成を十分検討して設計する必要があります。

重要

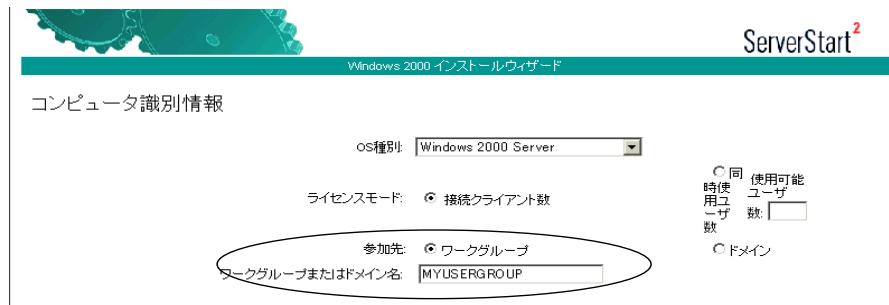
- ▶ Active Directory を構築する際の注意点
 - ・既存の DNS サーバを利用して Active Directory を構築することはできません。
 - ・既存の DNS を利用してドメインを構築する場合は、スタンドアロンサーバとして OS インストールした後、手動でドメインの構築を行います。

■ 新しいフォレストのドメインを構築する

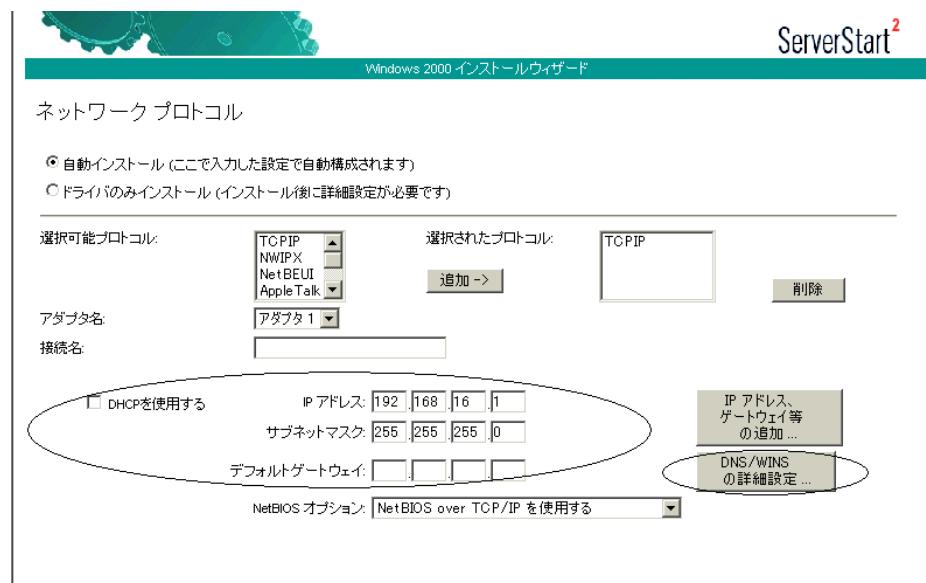
新しいフォレストとしてドメインを構築する場合は、OS インストールウィザードで次のように設定してください。

●「コンピュータ識別情報」画面

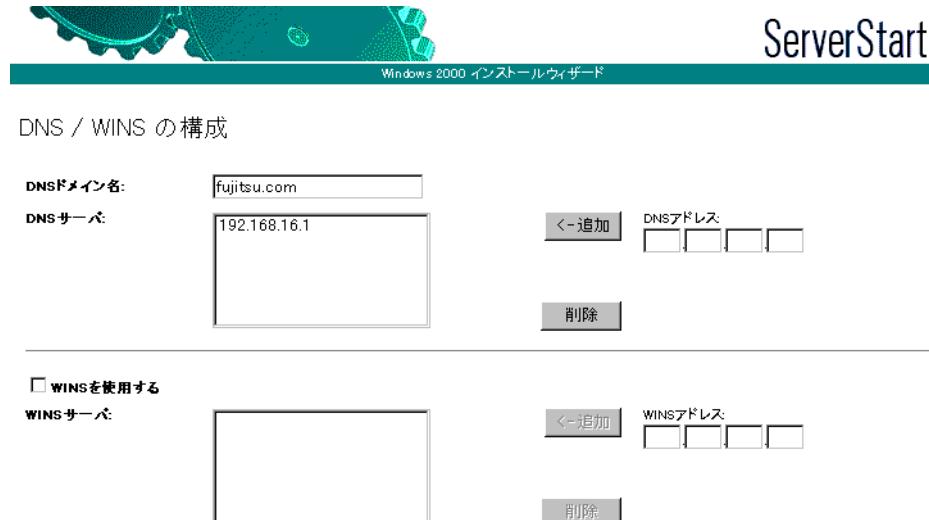
- 1** 「参加先」を「ワークグループ」にして、ワークグループ名を入力します（初期値：MYUSERGROUP）。



●「ネットワークプロトコル」画面



- 1 「DHCP を使用する」のチェックをはずし、IP アドレス／サブネットマスク／デフォルトゲートウェイを指定します。
- 2 [DNS/WINS の詳細設定] をクリックし、DNS に関する詳細設定を行います。



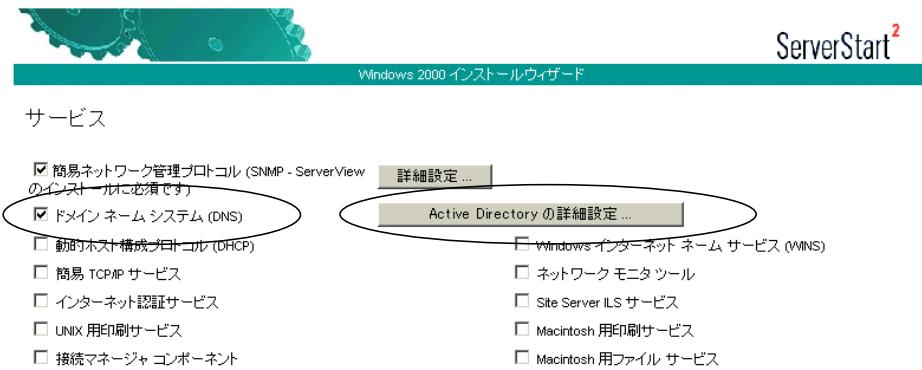
この例では、DNS ドメイン名を fujitsu.com とし、DNS サーバを自分自身 (192.168.16.1) に設定しています。DNS ドメイン名は後の設定にも利用するので、必ず覚えておいてください。

必要に応じて WINS の設定も行います。

●「サービス」画面

- 1 「ドメインネームシステム（DNS）」にチェックを付け、[Active Directory の詳細設定] をクリックします。

WINS を設定した場合、「Windows インターネットネームサービス（WINS）」にチェックを付けます。



- 2 「Active Directory の詳細設定」画面で、各項目を設定します。



1. 「Active Directory をインストールする」にチェックを付けます。
2. 「ドメインツリーの新しいフォレストを作成する」が選択されていることを確認します。
3. Windows2000 以外のマシンも管理する場合は、「Windows2000 以前のサーバと互換性があるアクセス許可」にチェックを付けます。
4. 「新しいツリーの完全な DNS 名」に DNS サーバ名を、「ドメイン NetBIOS 名」に NetBIOS 名を指定します。

B.4 Active Directory の構成（新しいツリー）

新しいツリーとして Active Directory を構築する場合、Active Directory は新しい下部組織のルートドメインとして定義されます。そのため、この Active Directory の作成は、新しいシステムを作成する場合、または既存のシステムを新しいシステムとして作り変える場合、一番最初に行う作業となります。

新しいツリーを作成する前に、フォレストとの接続性を考えたネットワーク構成を十分検討して設計する必要があります。あらかじめ次の情報を確認してください。

- 既存ルートドメインのネットワークアドレス
- 既存ルートドメインの管理者情報
- 新規ツリールートのネットワークアドレス
- 新規ツリーのドメイン名

◆ 重要

- ▶ Active Directory を構築する際の注意点
ServerStart を使ったこのパターンのインストールでは、あらかじめ新しいツリーが使用する DNS ゾーンを作成しておく必要があります。

■ DNS ゾーンの作成

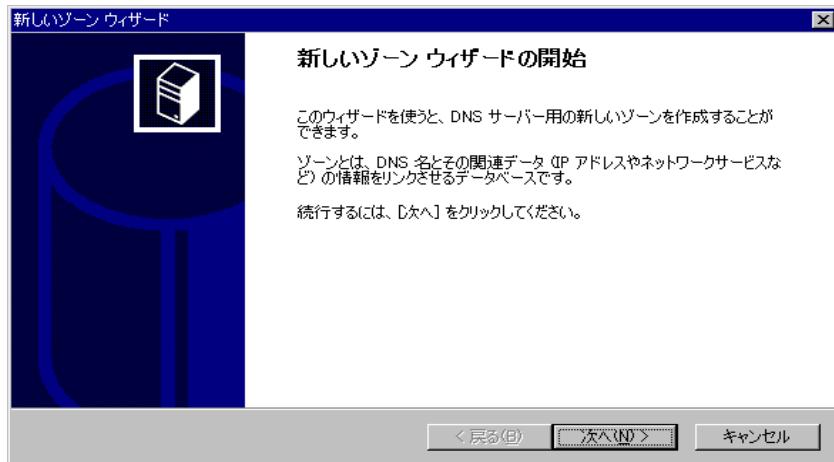
新しいツリーでは、DNS ゾーンを既存のフォレストに「新しいゾーン」として管理する必要があります。ここでは DNS ゾーンの作成方法について簡単に説明します。

次に、ServerStart を利用するために最低限必要な手順を示します。ただし、実際の運用・管理では、このほかに詳細なパラメータ設定が必要となる場合があります。管理方法なども含めて、Windows 2000 Server の Active Directory に関するマニュアルをご覧ください。

- 既存のフォレストのルートドメインコントローラに、ドメインの管理者権限でログオンします。
- 「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール」→「DNS」の順にクリックします。

- 3** コンソールツリーから DNS サーバを選択し、「操作」→「新しいゾーン」の順にクリックします。

新しいゾーンウィザードが起動します。



- 4** 「ゾーンの種類」では「Active Directory 統合」ゾーンを選択します。

- 5** ゾーン名を指定します。

このゾーン名が ServerStart の「DNS ドメイン名」に相当します。



- 6** [次へ] をクリックします。

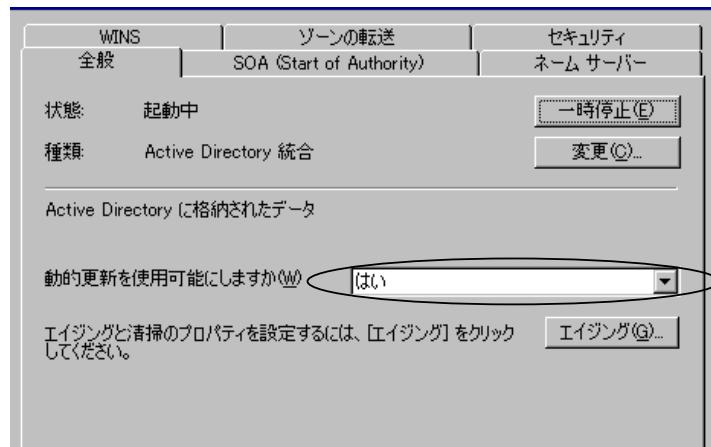
完了画面が表示されるので、ゾーンが作成されていることを確認します。

- 7** DNS ゾーンの設定を行います。作成したゾーンを右クリックし、プロパティをクリックします。

付録

付

- 8 「動的更新を使用可能にする」で「はい」を選択します。**
これ以外のパラメータを選択すると、インストールに失敗します。



■ 新しいドメインツリーを構築する

新しいツリーとしてドメインを構築する場合は、OS インストールウィザードで、次の設定を行います。

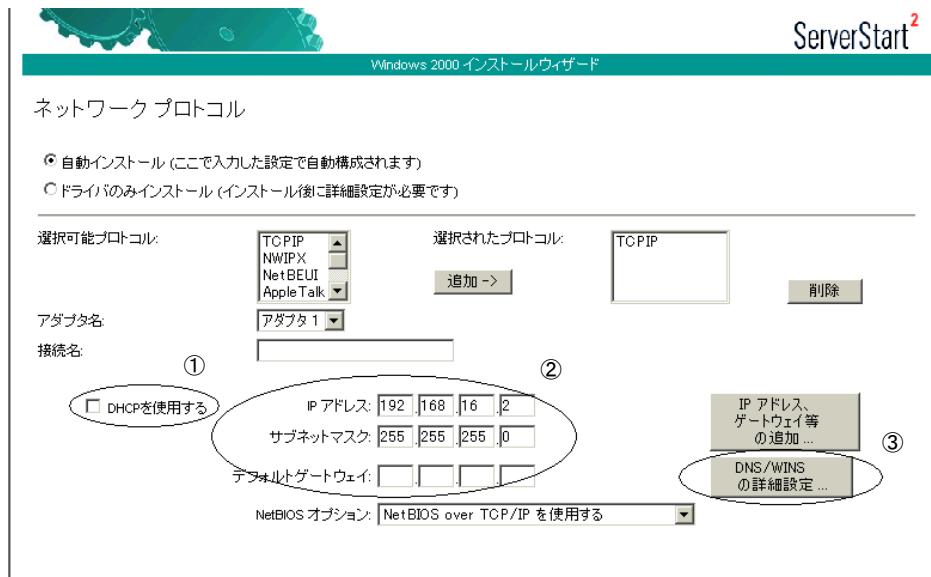
●「コンピュータ識別情報」画面

- 1 「参加先」を「ワークグループ」にし、ワークグループ名を入力します（初期値：MYUSERGROUP）。**

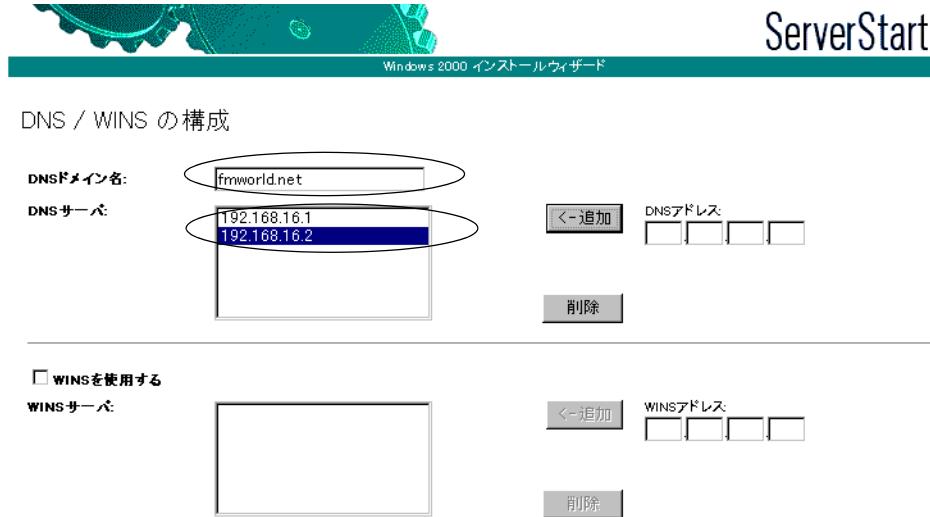


●「ネットワークプロトコル」画面

1 各項目を設定します。



1. 「DHCP を使用する」のチェックをはずします。
2. IP アドレス／サブネットマスク／デフォルトゲートウェイを指定します。
3. [DNS/WINS の詳細設定] をクリックし、DNS に関して詳細設定を行います。



「DNS ドメイン名」に、作成するツリーのドメイン名（この例では fmworld.net）を指定します。

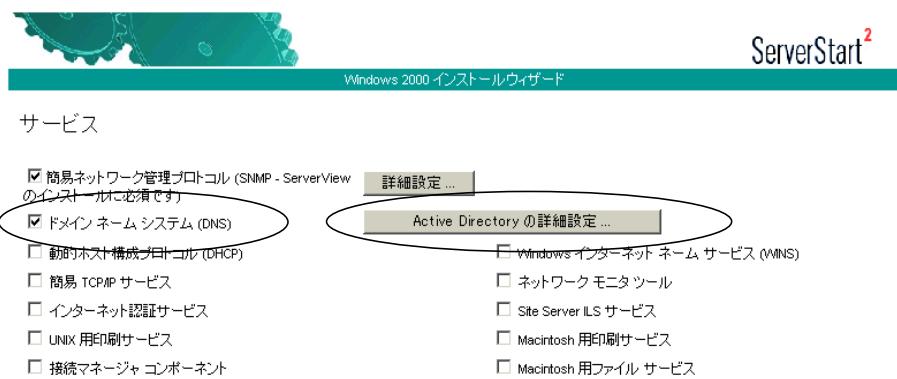
「DNS サーバ」には、次のアドレスを入力します。

- ・既存フォレストの DNS サーバ（ドメインサーバ）の IP アドレス
- ・新規作成ツリーのドメインの IP アドレス

●「サービス」画面

- 1 「ドメインネームシステム (DNS)」にチェックを付け、[Active Directory の詳細設定] をクリックします。**

WINS を設定した場合は、「Windows インターネットネームサービス (WINS)」にチェックを付けます。



- 2 各項目を設定します。**



1. 「Active Directory をインストールする」にチェックを付けます。
2. 「既存フォレストに新しいドメインツリーを配置する」を選択します。
3. Windows 2000 以外のマシンも管理する場合は、「Windows 2000 以前のサーバと互換性があるアクセス許可」にチェックを付けます。

4. ドメイン登録に使う情報を入力します。

項目	説明
ユーザ名	上位ドメインでコンピュータアカウントを作成できる権限を持つグループに属しているユーザアカウント (例: Domain Admin のユーザ)
パスワード	上位のユーザのパスワード
ドメイン名	上位のユーザが所属しているドメイン
新しいツリーの完全なドメイン名	新規に作成するツリーのドメイン名
ドメイン NetBIOS 名	新規に作成するドメイン NetBIOS 名

B.5 Active Directory の構成（追加ドメインコントローラ）

新しいドメインコントローラが追加された場合は、システムの信頼性と冗長性を重要視します。

ここでは、新しいドメインコントローラが追加された場合の設定について説明します。あらかじめ次の情報を確認してください。

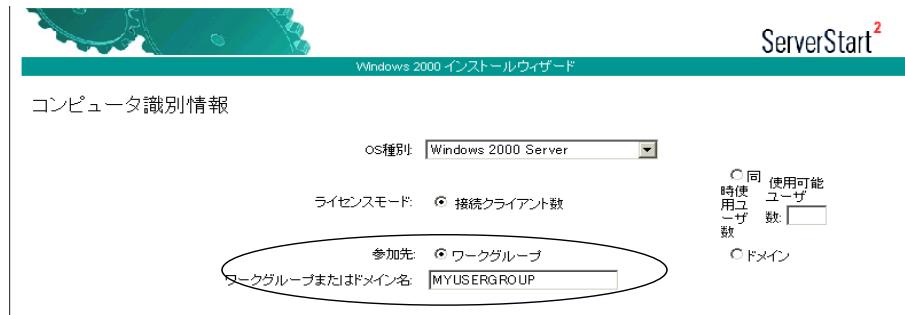
- 既存ルートドメインのネットワークアドレス
- 既存ルートドメインの管理者情報
- 新規ドメインコントローラのネットワークアドレス

■ 追加ドメインコントローラを構築する

追加ドメインコントローラを構築する場合は、OS インストールウィザードで、次の設定を行います。

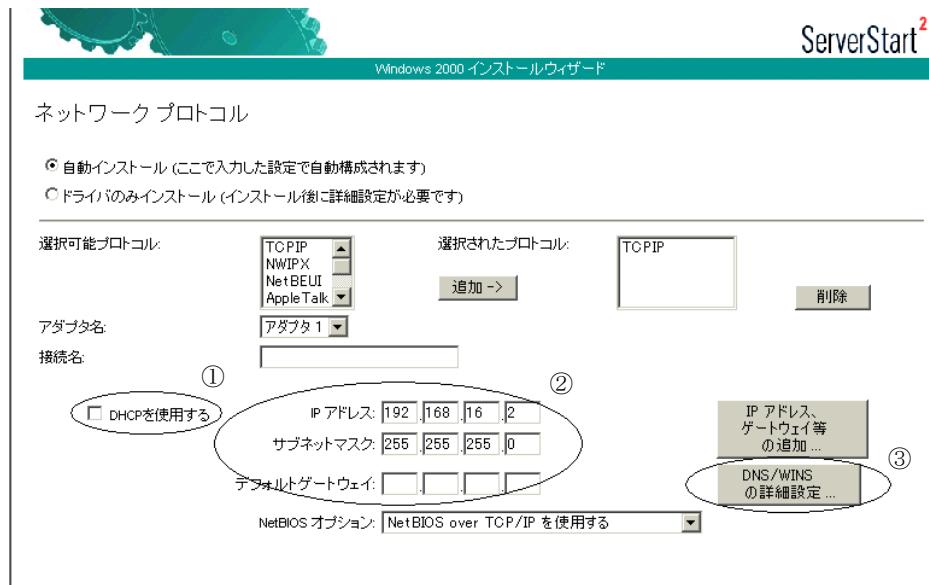
●「コンピュータ識別情報」画面

- 1 「参加先」を「ワークグループ」にし、ワークグループ名を入力します（初期値：MYUSERGROUP）。

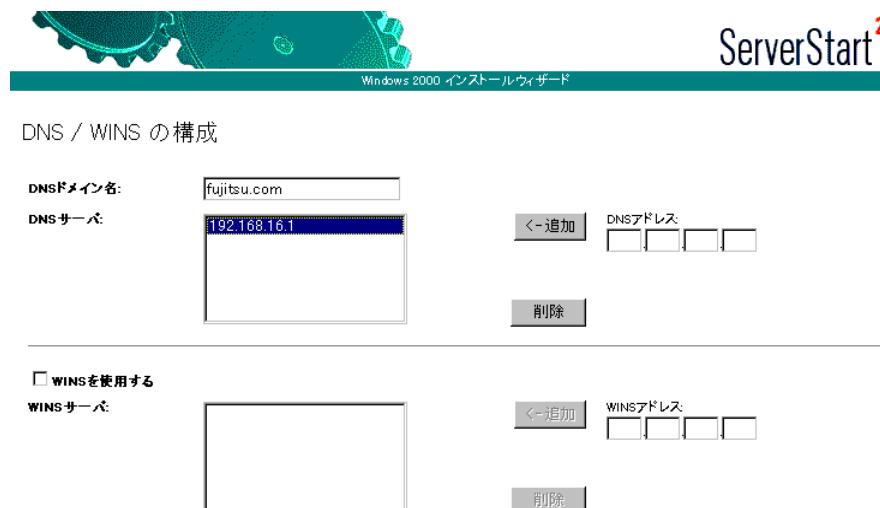


●「ネットワークプロトコル」画面

1 各項目を設定します。



1. 「DHCP を使用する」のチェックをはずします。
2. IP アドレス／サブネットマスク／デフォルトゲートウェイを入力します。
3. [DNS/WINS の詳細設定] をクリックし、DNS に関する詳細設定を行います。



この例では、「DNS ドメイン名」に既存ドメイン名（この場合は fujitsu.com）を指定します。

「DNS サーバ」に次のアドレスを入力します。

- ・既存 DNS サーバの IP アドレス
- ・新規作成ドメインコントローラの IP アドレス

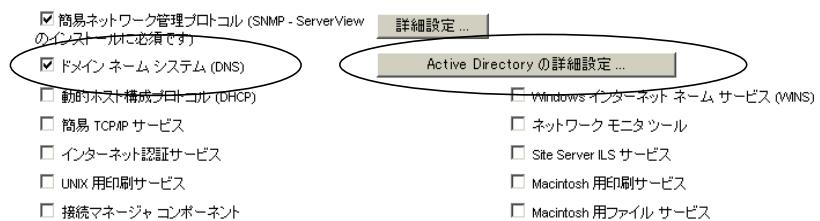
●「サービス」画面

- 1 「ドメインネームシステム (DNS)」にチェックを付け、[Active Directory の詳細設定] をクリックします。**

WINS を設定した場合は、「Windows インターネットネームサービス (WINS)」のインストールにもチェックを付ける必要があります。



サービス



- 2 各項目を設定します。**



Active Directory の詳細設定

<input checked="" type="checkbox"/> Active Directory をインストールする	①
<input type="radio"/> ドメインツリーの新しいフォレストを作成する	
<input checked="" type="radio"/> 既存ドメインの追加ドメインコントローラを追加する	②
<input type="radio"/> 既存ドメインツリーに新しい子ドメインを作成する	
<input type="radio"/> 既存フォレストに新しいドメインツリーを配置する	
<hr/>	
データベースの場所:	<input type="text"/> %systemroot%\NTDS
ログの場所:	<input type="text"/> %systemroot%\NTDS
SysVol フォルダの場所:	<input type="text"/> %systemroot%\SYSVOL
<hr/>	
<input checked="" type="checkbox"/> Windows 2000 以前のサーバと互換性があるアクセス許可	③
<hr/>	
ユーザー名:	<input type="text"/> administrator
パスワード:	<input type="text"/> *****
ドメイン名:	<input type="text"/> fujitsu.com
ドメインの完全な DNS 名:	<input type="text"/> fujitsu

1. 「Active Directory をインストールする」にチェックを付けます。
2. 「既存ドメインの追加ドメインコントローラを追加する」を選択します。
3. Windows 2000 以外のマシンも管理する場合は、「Windows 2000 以前のサーバと互換性があるアクセス許可」にチェックを付けます。

4. ドメイン登録に使う情報を入力します。

項目	説明
ユーザ名	上位ドメインでコンピュータアカウントを作成できる権限を持つグループに属しているユーザアカウント (例 : Domain Admin のユーザ)
パスワード	上位のユーザのパスワード
ドメイン名	上位のユーザが所属しているドメイン
ドメイン NetBIOS 名	ドメイン NetBIOS 名

B.6 Active Directory の構成（子ドメイン）

子メンバドメインが構成されるのは、新しい下部組織が構成される場合です。

これは、新しいツリーの構成とよく似ていますが、子ドメインが上位のフォレストから DNS サフィックスを継承するのに対し、新ツリーはこれを継承しません。

次のような事例の場合、最初に対応するドメインパターンを選択します。

事例	選択するドメインパターン
ABC カンパニーに新たにコンサルティング部署が設立された。	子ドメイン
ABC カンパニーからコンサルティング部署が独立し、ABC コンサルティングカンパニーが設立された。	新ツリー

◆ 重要

- ▶ 子ドメインを構築する際の注意事項
DNS サーバで、あらかじめ新しいドメインのゾーンを作成しておく必要があります。「■ DNS ゾーンの作成」(→ P.264) をお読みください。

ここでは、子ドメインを構築する場合の設定について説明します。あらかじめ次の情報を確認してください。

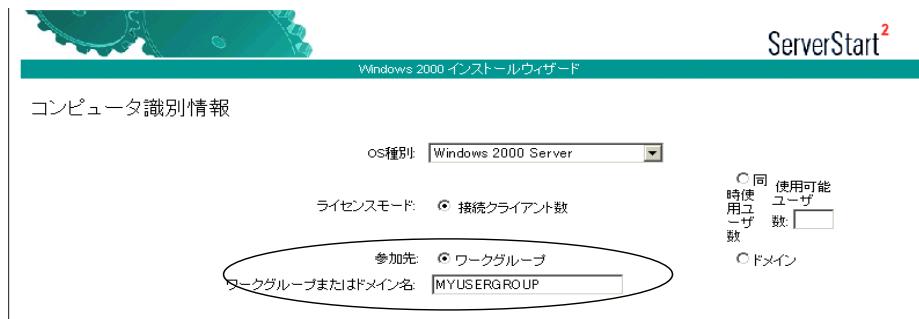
- ・既存ルートドメインのネットワークアドレス
- ・既存ルートドメインの管理者情報
- ・新規ドメインコントローラのネットワークアドレス

■ 子ドメインを構築する

子ドメインを構築する場合は、OS インストールウィザードで、次の設定を行います。

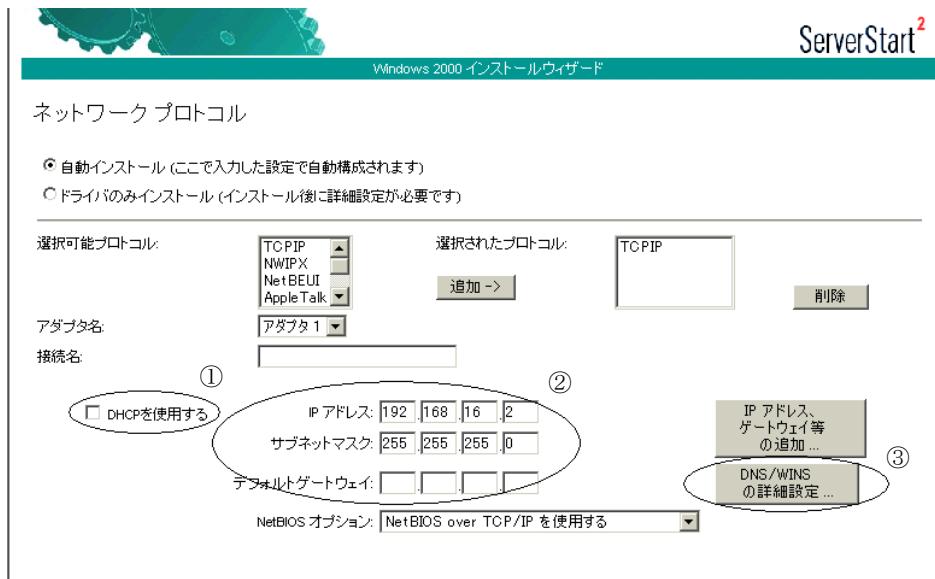
●「コンピュータ識別情報」画面

- 「参加先」を「ワークグループ」にして、ワークグループ名を入力します（初期値：MYUSERGROUP）。



●「ネットワークプロトコル」画面

- 各項目を設定します。



- 「DHCP を使用する」のチェックをはずします。
- IP アドレス／サブネットマスク／デフォルトゲートウェイを入力します。

3. [DNS/WINS の詳細設定] をクリックし、DNS に関する詳細設定を行います。



「DNS ドメイン名」に、作成する子ドメイン名（この例では abcd.fujitsu.com）を指定します。

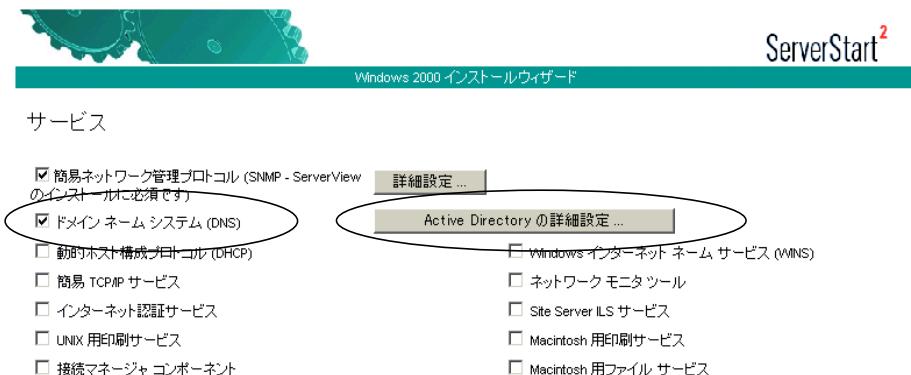
「DNS サーバ」に、次のアドレスを入力します。

- ・既存 DNS サーバの IP アドレス
- ・子ドメインのドメインコントローラサーバの IP アドレス

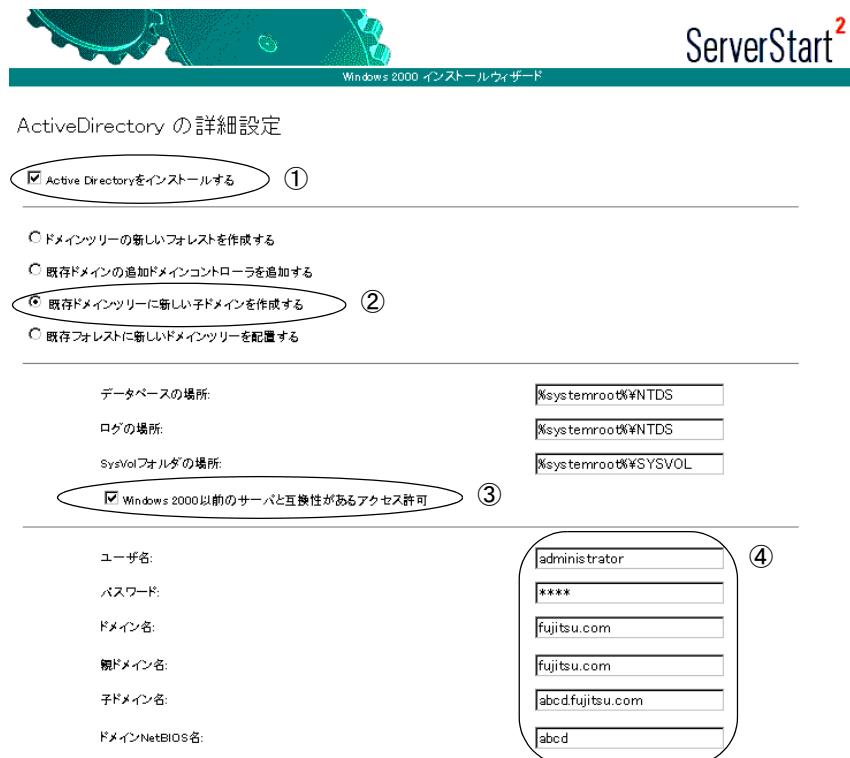
●「サービス」画面

- 1 「ドメインネームシステム (DNS)」にチェックをつけ、[Active Directory の詳細設定] をクリックします。

WINS を設定した場合、「Windows インターネットネームサービス (WINS)」にチェックを付けます。



2 各項目を設定します。



1. 「Active Directory をインストールする」にチェックをつけます。
2. 「既存ドメインの追加ドメインツリーに新しい子ドメインを作成する」を選択します。
3. Windows2000 以外のマシンも管理する場合は、「Windows2000 以前のサーバと互換性があるアクセス許可」にチェックを付けます。
4. ドメイン登録に使う情報を入力します。

項目	説明
ユーザ名	上位ドメインで、コンピュータアカウントを作成できる権限を持つグループに属しているユーザアカウント (例 : Domain Admin のユーザ)
パスワード	上位のユーザのパスワード
ドメイン名	上位のユーザが所属しているドメイン
親ドメイン名	上位のドメイン名
子ドメイン名	新規に作成するドメイン名
ドメイン NetBIOS 名	新規に作成するドメイン NetBIOS 名

B.7 ドメインメンバサーバの構成

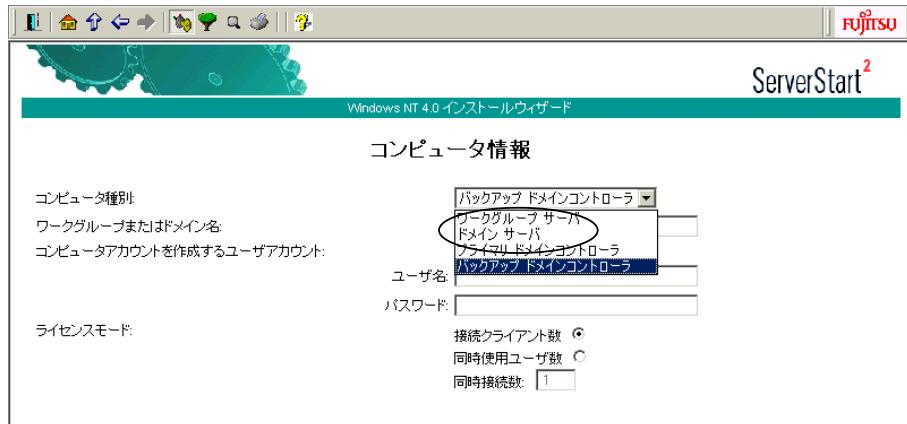
Windows NT ドメインの場合は、PDC（プライマリドメインコントローラ）上で、Windows 2000 ドメインの場合は、ドメインコントローラ上で参加するコンピュータアカウントを作成します。コンピュータアカウントの作成の際には、コンピュータ名をあらかじめ決めておく必要があります。

また、ネットワーク構成にも配慮する必要があります。DHCP を使って IP アドレスをリースする場合は、DHCP サーバのサーバオプションに DNS サーバの情報を設定し、DNS ヘサーバ登録を行ってください。

■ Windows NT Server の場合

OS インストールウィザードのコンピュータ情報画面で、次の設定を行います。

●「コンピュータ情報」画面



- 1 「コンピュータ種別」で「ドメインサーバ」を選択します。
- 2 「ワークグループまたはドメイン名」に参加するドメイン名を指定します。
- 3 「コンピュータアカウントを作成するユーザアカウント」にコンピュータアカウントを作成する権限のあるドメインユーザアカウントとパスワードを指定します。

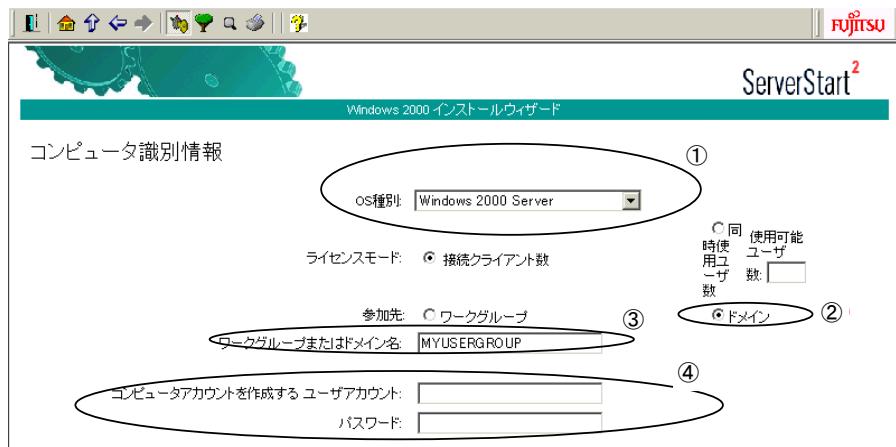
POINT

- ▶ あらかじめドメインコントローラ上にコンピュータアカウントを作成している場合は、手順 3. でコンピュータアカウントを作成する権限のないドメインユーザを指定することができます。

■ Windows 2000 の場合

OS インストールウィザードの「コンピュータ識別情報」画面で、次の設定を行います。

● 「コンピュータ識別情報」画面



- 1 「OS 種別」でインストールする OS のタイプを選択します。
- 2 「参加先」の指定で「ドメイン」を選択します。
- 3 「ワークグループまたはドメイン名」に参加するドメインを指定します。
- 4 「コンピュータアカウントを作成するユーザアカウント」にコンピュータアカウントを作成する権限のあるドメインユーザアカウントとパスワードを指定します。

POINT

- ▶ あらかじめドメインコントローラ上にコンピュータアカウントを作成している場合は、手順 4. でコンピュータアカウントを作成する権限のないドメインユーザを指定することができます。

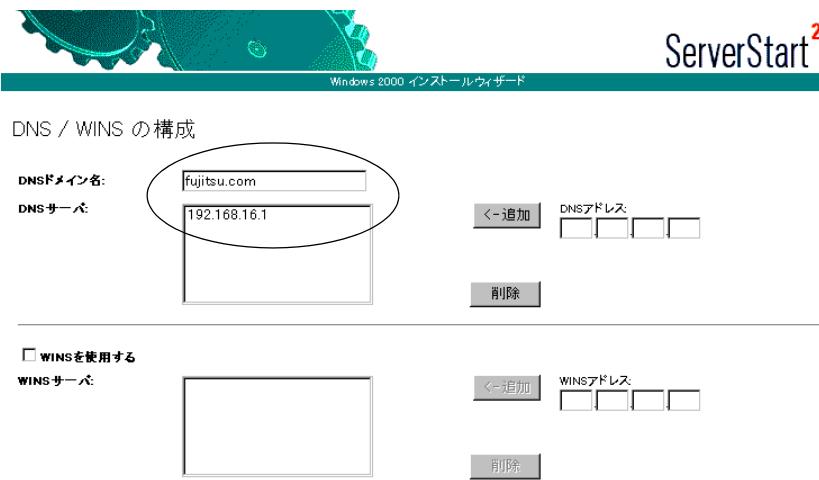
■ DNS / WINS の設定について

● ネットワークプロトコル設定で DHCP を指定する場合

参加先ドメインに DHCP が構成されており、DHCP サーバオプションで「DNS サーバ」が正しく設定されていることを確認してください。

● ネットワークプロトコル設定で固定 IP を指定する場合

「ネットワーク設定」画面の【DNS/WINS の詳細設定】をクリックし、DNS ドメイン名と DNS サーバの指定を行います。



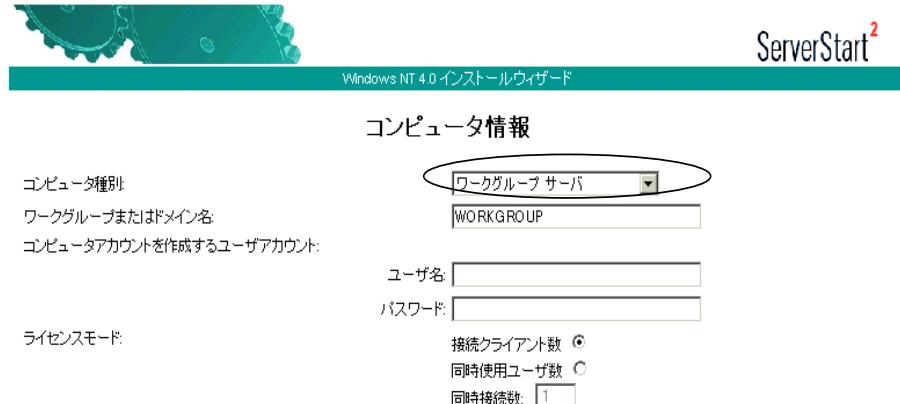
B.8 スタンドアロンサーバの構成

スタンドアロンサーバは、小規模な環境で利用するためのサーバです。このため、リソースにアクセスできる範囲が限定されるなどの制限があります。また、ネットワーク経由でスタンドアロンサーバのリソースにアクセスする場合、スタンドアロンサーバのローカルユーザ情報を参照するので、管理性が低いという特長があります。インストールするサーバがどのタスクを担うか早期に決定し、ドメインへ移行することをおすすめします。

■ Windows NT Server の場合

OS インストールウィザードの「コンピュータ情報」画面で、次の設定を行います。

● 「コンピュータ情報」画面

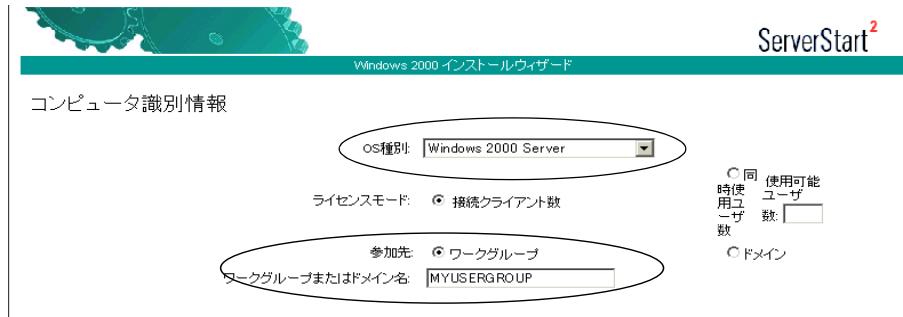


- 1** 「コンピュータ種別」で「ワークグループサーバ」を選択します。
- 2** 「ワークグループまたはドメイン名」に構成するワークグループ名を指定します。

■ Windows 2000 の場合

OS インストールウィザードの「コンピュータ識別情報」画面で、次の設定を行います。

●「コンピュータ識別情報」画面



- 1** 「OS 種別」でインストールする OS のタイプを選択します。
- 2** 「参加先」の指定で「ワークグループ」を選択します。
- 3** 「ワークグループまたはドメイン名」に参加するワークグループ名を指定します。

※ 重要

- ▶ Active Directory の詳細設定画面では、何も設定しないでください。

付録 C IDE RAID 管理ツールについて

IDE RAID 管理ツールについて説明します。

C.1 FastCheck Monitoring Utility

FastCheck Monitoring Utility（以下、FastCheck）は、OS上でディスクアレイの管理を行うためのソフトウェアです。FastCheckはディスクアレイ情報やハードディスク情報の表示、一貫性チェックといった機能を持っています。

FastCheckはログオン時に起動され、通常はタスクバー上にアイコン化されています。このアイコンをダブルクリックすると、画面が表示されます。

重要

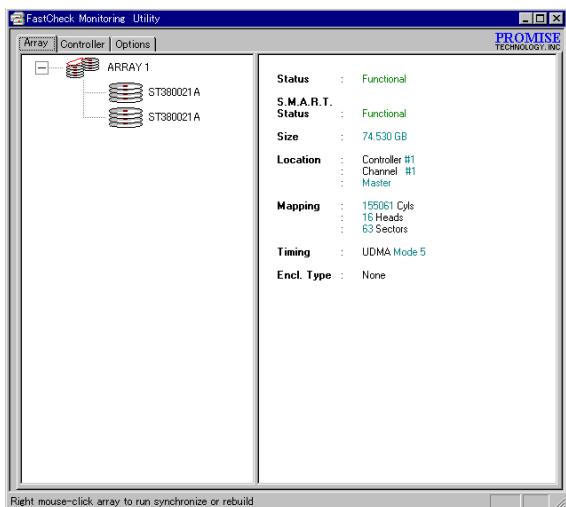
- ▶ 本サーバを安全にご使用いただくために、特に必要のない限り、FastCheckは終了しないでください。

FastCheckには以下の3つの画面があります。

- Array Window
ディスクアレイの構成、状態を表示します。
- Controller Window
物理的構成、およびコントローラ、チャネル、ドライブの状態を表示します。
- Options Window
動作環境を設定します。

■ Array Window

Array Windowでは、本サーバ上で構成されているディスクアレイの構成、状態が表示されます。画面の左側のフィールドが構成表示、右側のフィールドが詳細表示になります。また、ディスクアレイに対する一貫性チェック起動などの指示が行えます。



[構成表示フィールド]

ディスクアレイおよびディスクアレイを構成するハードディスクがツリー表示されます。またハードディスクが Offline 状態の場合は、ハードディスクが「?」付きのアイコンで表示されます。

[詳細表示フィールド]

構成表示フィールド上で各ディスクアレイ、ハードディスクのアイコンをクリックすると、詳細表示フィールドに以下の情報が表示されます。

項目	説明
ディスクアレイ	
RAID Mode	ディスクアレイの種類が表示されます。
Mapping	ディスクアレイの論理的な Cylinder 数、Head 数、Sector 数が表示されます。
Size	ディスクアレイの容量（GB 単位）が表示されます。
Status	ディスクアレイの状態が表示されます。
Functional	ディスクアレイが正常に稼動しています。
Critical	RAID レベル 1 のディスクアレイが、初期化、再構築中あるいは 1 台のハードディスクの故障により、冗長性のない状態で稼動しています。
Offline	ディスクアレイが稼動していないことを示します。RAID レベル 0 のディスクアレイ中の 1 台のハードディスクが故障した場合、または RAID レベル 1 のディスクアレイ中の 2 台のハードディスクが故障した場合に発生します。
ハードディスク	
Status	ハードディスクの状態が表示されます。
Functional	ハードディスクが正常に稼動しています。
Unfunctional (Rebuilding)	ハードディスクに対して、初期化、または再構築（Rebuild）が行われています。
Offline	ハードディスクに異常が発生し、稼動していません。
Free	ハードディスクがアレイ構成に含まれていません。 Assignment にハードディスクの状態が Free と表示されている場合は、新規にディスクアレイを作成するか、リビルド作業を行い、アレイに組み込んだ状態でご使用ください。
Unknown	ハードディスクの状態が不明です。ハードディスクにアクセスできない場合に表示されます。
S.M.A.R.T status	ハードディスクの故障予測機能による監視状態が表示されます。
Functional	故障予測機能による情報が検出されていません。正常に稼動しています。
Predictive Failure	故障予測機能による情報が検出されました。 該当ハードディスクは近い将来故障する可能性があります。ハードディスクの予防交換をお勧めします。
Size	ハードディスクの容量（GB 単位）が表示されます。
Location	ハードディスクの接続されている、コントローラ番号、チャネル番号、ID（Master/Slave）が表示されます。
Mapping	ハードディスクの論理的な Cylinder 数、Head 数、Sector 数が表示されます。
Timing	ハードディスクの転送モードが表示されます。
Encl.Type	常に None が表示されます。

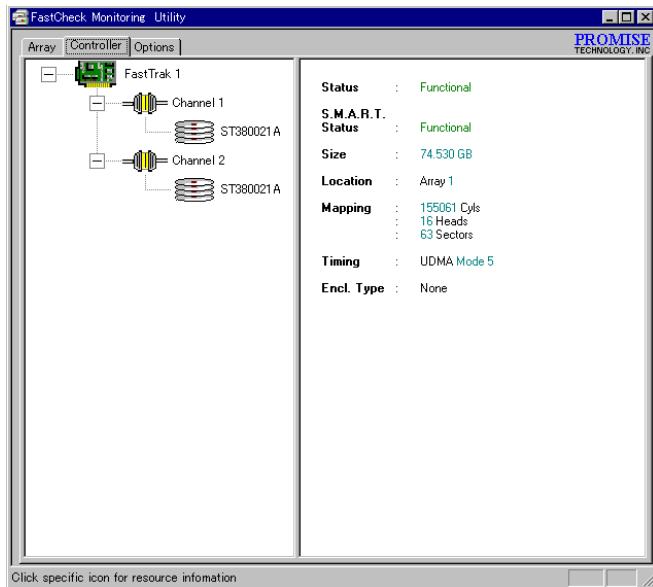
[Pop Up メニュー]

構成表示フィールド上でディスクアレイのアイコンを右クリックすると、Pop Up メニューが表示され、以下の操作を行えます。

項目	説明
Always on top	FastCheck ウィンドウを常に最前面に表示するかどうかを設定します。
Minimize	FastCheck ウィンドウをタスクバーにアイコン化して閉じます。
Synchronize	一貫性チェックを起動します。
Rebuild	リビルドを起動します。 本サーバでは、本機能はサポートしておりません。
About	FastCheck の版数などを表示します。

■ Controller Window

Controller Window では、物理的構成、およびコントローラ、チャネル、ドライブの状態が表示されます。画面の左側のフィールドが構成表示、右側のフィールドが詳細表示になります。



[構成表示フィールド]

コントローラ、チャネル、ドライブがツリー上に表示されます。またドライブが Offline 状態の場合は、ドライブが「×」付きのアイコンで表示されます。

[詳細表示フィールド]

構成表示フィールド上で各コントローラ、チャネル、ハードディスクのアイコンを左クリックすると、詳細表示フィールドに以下の情報が表示されます。

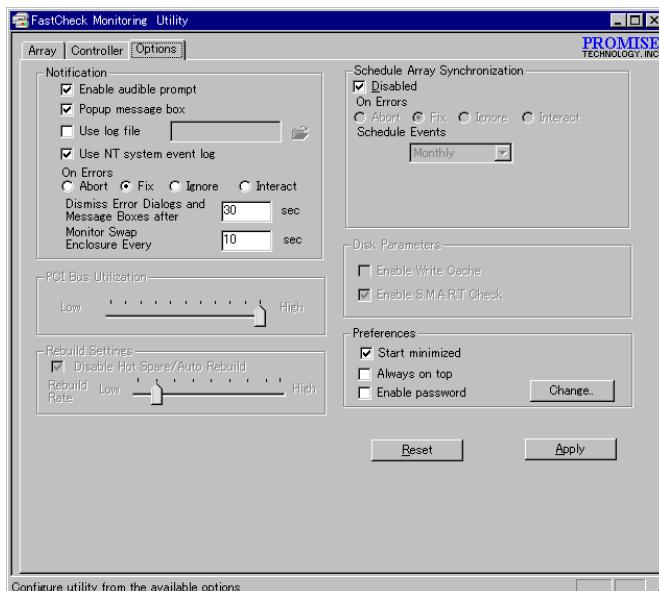
項目	説明
コントローラ	
IRQ	コントローラに割当てられた IRQ が表示されます。
Bus Master Base	コントローラに割当てられた Base Address が表示されます。
Driver Version	デバイスドライバのバージョンが表示されます。
Hardware Type	コントローラのモデル名が表示されます。

項目	説明
チャネル	
Base IO Address	チャネルに割当てられた Base IO Address が表示されます。
ハードディスク	
Status	
Functional	ハードディスクが正常に稼動しています。
Functional (Rebuilding)	ハードディスクに対して、初期化、あるいは再構築 (Rebuild) が行われています。
Offline	ハードディスクに異常が発生し、稼動していません。
Free	ハードディスクがアレイ構成に含まれていません。
Unknown	ハードディスクの状態が不明です。ハードディスクにアクセスできない場合に表示されます。
S.M.A.R.T status	ハードディスクの故障予測機能による監視状態が表示されます。
Functional	故障予測機能による情報が検出されていません。正常に稼動しています。
Predictive Failure	故障予測機能による情報が検出されました。 該当ハードディスクは近い将来故障する可能性があります。ハードディスクの予防交換をお勧めします。
Size	ハードディスクの容量 (GB 単位) が表示されます。
Location	ハードディスクの接続されている、コントローラ番号、チャネル番号、ID (Master/Slave) が表示されます。
Mapping	ハードディスクの論理的な Cylinder 数、Head 数、Sector 数が表示されます。
Timing	ハードディスクの転送モードが表示されます。
Encl.Type	常に None が表示されます。

■ Options Window

Options Window では、動作環境を設定します。設定変更後、[Apply] をクリックすると、設定が有効になります。

また、[Reset] をクリックすると、変更した設定が元に戻ります。



[Notification]

項目	説明
Enable audible prompt	ディスクアレイが正常な状態でない場合、ブザーを鳴らします。
Popup message box	ディスクアレイの状態に変化があった場合、メッセージボックスを表示して通知します。なお、情報レベルのメッセージについては、表示後 10 秒でメッセージボックスを自動的に閉じます。
Use log file	ディスクアレイの状態に変化があった場合、指定したファイルに記録します。
Use NT system event log	ディスクアレイの状態に変化があった場合、OS のシステムイベントログに記録します。
On Errors	Synchronize/Rebuild 中にエラーを検出した際の処理方法を設定します。
Abort	エラーが発生した時点で処理を終了します。
Fix	エラーを自動的に修復します。
Ignore	エラーを無視して処理を続行します。
Interact	エラーが発生した時点で処理を中断し、ダイアログボックスを表示します。詳細は、「C.2 アレイの一貫性チェック (Synchronize)」(→ P.287) を参照してください。
Dismiss Error Dialogs and Message Boxes after	イベントのメッセージボックスや Synchronize/Rebuild 中にエラーを検出した場合に表示されるダイアログボックスを自動的に閉じる時間を設定します。設定可能な値は 0-9999 (秒単位) で、9999 に設定した場合は入力を行うまで表示し続けます。 「Dismiss Error Dialogs and Message Boxes after」で設定した時間が経過すると、直前に設定された処理を実行し、ダイアログボックスを閉じます。
Monitor Swap Enclosure Every	最新の情報を更新する時間を設定します。設定可能な値は 10 ~ 3600 (秒単位) です。必ず 10 に設定してください。

[Rebuild Settings]

項目	説明
Disable Host Spare / Auto Rebuild	ホットスペア機能、オートリビルド機能を無効にします。 必ず無効に設定してください。
Rebuild Rate	通常の I/O アクセスに対する、初期化処理、リビルド処理に関する I/O アクセスの割合を示します。 必ず 1 に設定してください。

[PCI Bus Utilization]

本製品に関する処理が、PCI バスを占有する比率を示します。
必ず High に設定してください。

[Schedule Array Synchronization]

項目	説明
Disabled	定期的に一貫性チェックを行いません。
On Errors	Synchronize のスケジュール運用中にエラーを検出した際の処理方法を設定します。
Abort	エラーが発生した時点で処理を終了します。
Fix	エラーを自動的に修復します。
Ignore	エラーを無視して処理を続行します。
Interact	エラーが発生した時点で処理を中断し、ダイアログボックスを表示します。詳細は、「C.2 アレイの一貫性チェック (Synchronize)」(→ P.287) を参照してください。
Schedule Events	一貫性チェックの実行間隔を設定します。
Monthly	1ヶ月に1回。
Weekly	1週間に1回。
Daily	1日に1回。
By Minutes	x分毎。
By hours	x時間毎。
Start time	Schedule Events で「Monthly」、「Weekly」、「Daily」を選択した場合に、一貫性チェックを開始する時刻を設定します。
On the	Schedule Events で「Monthly」を選択した場合に、一貫性チェックを行う日を設定します。
On	Schedule Events で「Weekly」を選択した場合に、一貫性チェックを行う曜日を設定します。
Every	Schedule Events で「By minutes」、「By hours」を選択した場合に、一貫性チェックを行う間隔を設定します。

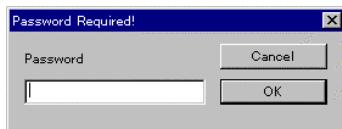
[Disk Parameters]

項目	説明
Enable Write Cache	ハードディスクのライトキャッシングを有効にします。 必ず無効に設定してください。
Enabled S.M.A.R.T Check	ハードディスクの故障予測機能 (S.M.A.R.T) による情報を検出します。 必ず有効に設定してください。

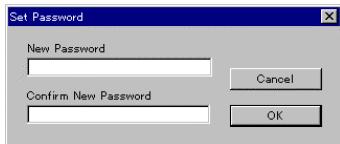
[Preferences]

項目	説明
Start Minimize	FastCheck 起動時、ウィンドウをアイコン化し、タスクバー上に表示します。チェックしていない場合は、FastCheck 起動の際、画面上に表示されます。
Always on top	FastCheck ウィンドウを常に画面の最前面に表示します。
Enable password	パスワードを有効にします。
「Change」ボタン	パスワードを変更します。

パスワードが有効な場合、FastCheck を開く際、およびパスワードに関する設定を変更する際に、以下のウィンドウが表示されます。設定したパスワードを入力後、「OK」をクリックしてください。



また、パスワードを設定／変更する場合は、以下のウィンドウが表示されます。同一のパスワードを入力し、[OK] をクリックしてください。設定したパスワードが有効になります。



C.2 アレイの一貫性チェック (Synchronize)

一貫性チェック (Synchronize) は、ミラーリングされたアレイに対して冗長情報の整合性を検査します。ミラーリングされたドライブペアがセクタごとに比較され、両方のハードディスクに含まれるデータが同一であるかどうかを検査します。データに信頼性があるかどうかを検査するための機能です。

POINT

- 一貫性チェックは、一貫性の検査を行うだけでなく、ハードディスクの媒体エラー（一貫性のエラーとは異なります）を自動的に修正する効果もあります。一貫性チェックはできるだけ頻繁に行ってください。

重要

- 一貫性チェックで不一致が検出された場合、システムに悪影響を及ぼす可能性があります。このような場合には、システムドライブを再度初期化し、信頼性のあるデータを再インストールする必要があります。

■ 一貫性チェックの起動

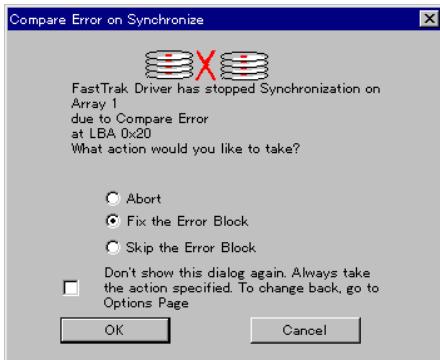
一貫性チェックの起動方法には、以下の 2 つの方法があります。該当する記述を参照して実行してください。

- OS 上の IDE RAID 管理ツールから一貫性チェックを起動
指定したディスクアレイに対する一貫性チェックを、直ちに実行します。Array Windows の「[Pop Up メニュー]」(→ P.283) に関する記述を参照して、実行してください。
- 定期的に一貫性チェックを起動
設定した間隔で一貫性チェックを定期的に実行します。Options Window の「[Schedule Array Synchronization]」(→ P.286) の項を参照し、一貫性チェックの起動間隔、起動開始時間などを設定してください。
なお、定期的な一貫性チェックの設定を行った場合、OS が動作中ならば、FastCheck が起動されていなくても一貫性チェックが起動されます。

■ 一貫性チェック中のエラー通知

一貫性チェック中にデータの不一致や読み取り不良が検出された場合、Options Window 上の On Errors で Interact をチェックしていた場合には、一貫性チェックが一時中断し、次のようなウインドウが表示されます（詳細は「■ Options Window」(→ P.284) 参照）。適切な処置を選択して [OK] をクリックしてください。

[Cancel] をクリックした場合は、一貫性チェックを中止します。



項目	説明
Abort	一貫性チェックを中止します。
Fix the Error Block	1台のディスクからもう1台のディスクへ不一致であったデータを複写し、内容を一致させた後、一貫性チェックを継続します。
Skip the Error Block	不一致であったデータをスキップして、次のデータから一貫性チェックを継続します。
Don't show this dialog again ...	以降、一貫性チェック中に異常が検出されても本ウインドウは表示されなくなり、選択した処置が自動的に行われるようになります。

△ 重要

- ▶ 通常は「Abort」または、「Skip the Error Block」を選択してください。「Fix the Error Block」を選択した場合、一貫性をとるよう強制的にデータが書き換えられますが、信頼性のあるデータになるとは限りませんのでご注意ください。
- ▶ 一貫性チェックで不一致が検出された場合、システムに悪影響を及ぼす可能性があります。このような場合には、システムドライブを再度初期化して、信頼性のあるデータを再インストールする必要があります。

C.3 FastTrak Service

FastTrak Service は、FastCheck が起動されていない場合、OS 上でディスクアレイの状態が変化した場合に、情報を OS の EventLog に通知するソフトウェアです。

FastTrak Service は OS 起動時に起動され、FastCheck が起動されると停止します。

付録 D デザインシート

RAID ウィザード

設定項目		選択項目		
RAID の構成 (RAID 構成時のみ)				
構成モード		<input type="checkbox"/> 非 RAID	<input type="checkbox"/> 自動	<input type="checkbox"/> 手動
手動、自動 設定時のみ	RAID コントローラ	<input type="checkbox"/> PG-141B	<input type="checkbox"/> PG-142B/142C	<input type="checkbox"/> PG-144B
	コントローラ番号	(デフォルト—0)		
手動設定時 のみ	RAID レベル	<input type="checkbox"/> RAID0	<input type="checkbox"/> RAID1	<input type="checkbox"/> RAID5
	ディスク数	台 (RAID0 時 2 ~ 6 台、RAID1 時 2 台、RAID5 時 3 ~ 6 台)		
	ホットスペア	<input type="checkbox"/> 使用する	<input type="checkbox"/> 使用しない	
手動、自動 設定時のみ		<input type="checkbox"/> 既存の RAID アレイ	<input type="checkbox"/> 削除する	

ディスクウィザード

設定項目	選択項目		
ディスクの構成			
コントローラタイプ	<input type="checkbox"/> RAID	<input type="checkbox"/> SCSI	<input type="checkbox"/> IDE
ディスク番号	(デフォルト—0)		
ファイルシステム	<input type="checkbox"/> NTFS	<input type="checkbox"/> FAT	
クイックフォーマット	<input type="checkbox"/> する	<input type="checkbox"/> しない	
ボリュームラベル	(デフォルト—SYSTEM)		
区画サイズ	<input type="checkbox"/> 自動設定	<input type="checkbox"/> MB	
区画の利用形態	<input type="checkbox"/> BOOT	<input type="checkbox"/> OS	<input type="checkbox"/> DATA
ファイルシステム	<input type="checkbox"/> NTFS	<input type="checkbox"/> FAT	
クイックフォーマット	<input type="checkbox"/> する	<input type="checkbox"/> しない	
ボリュームラベル	(デフォルト—DATA)		
区画サイズ	<input type="checkbox"/> 自動設定	<input type="checkbox"/> MB	
区画の利用形態	<input type="checkbox"/> BOOT	<input type="checkbox"/> OS	<input type="checkbox"/> DATA
ファイルシステム	<input type="checkbox"/> NTFS	<input type="checkbox"/> FAT	
クイックフォーマット	<input type="checkbox"/> する	<input type="checkbox"/> しない	
ボリュームラベル	(デフォルト—DATA)		
区画サイズ	<input type="checkbox"/> 自動設定	<input type="checkbox"/> MB	
区画の利用形態	<input type="checkbox"/> BOOT	<input type="checkbox"/> OS	<input type="checkbox"/> DATA
ファイルシステム	<input type="checkbox"/> NTFS	<input type="checkbox"/> FAT	
クイックフォーマット	<input type="checkbox"/> する	<input type="checkbox"/> しない	
ボリュームラベル	(デフォルト—DATA)		
区画サイズ	<input type="checkbox"/> 自動設定	<input type="checkbox"/> MB	
区画の利用形態	<input type="checkbox"/> BOOT	<input type="checkbox"/> OS	<input type="checkbox"/> DATA
表示されているディスクの すべての区画を削除する	<input type="checkbox"/> 削除する		
起動ディスクにメンテナンス区画を作成する	<input type="checkbox"/> 作成する		

※ 複数のディスクを搭載する、またはシートが足りない場合は、コピーしてください。

OS ウィザード (Windows NT 4.0 インストールウィザード)

設定項目	選択項目		
コンピュータ情報			
コンピュータ種別	<input type="checkbox"/> ワークグループサーバ <input type="checkbox"/> ドメインサーバ <input type="checkbox"/> プライマリドメインコントローラ <input type="checkbox"/> バックアップドメインコントローラ		
ワークグループまたはドメイン名	(デフォルト—MYUSERGROUP)		
コンピュータアカウントを作成するユーザアカウント	<table border="1" style="width: 100px; margin-bottom: 5px;"> <tr> <td>ユーザ名</td> </tr> <tr> <td>パスワード</td> </tr> </table>	ユーザ名	パスワード
ユーザ名			
パスワード			
ライセンスモード	<input type="checkbox"/> 接続クライアント数 <input type="checkbox"/> 同時使用ユーザ数		
同時接続数	(同時使用ユーザ数選択時のみ)		
インストール先ディレクトリとタイムゾーン			
インストール先ドライブ	<input type="checkbox"/> 既定値を使用する <input type="checkbox"/> ドライブ名		
ドライブ名			
インストール先ディレクトリ	<input type="checkbox"/> 一意の名前を作成する <input type="checkbox"/> インストール時に指定する <input type="checkbox"/> インストール先を指定する		
ディレクトリ			
ファイルシステムを NTFS へ変換する	<input type="checkbox"/> する		
タイムゾーンの選択	(デフォルト—(GMT+09:00) 東京、大阪、札幌、ソウル、ヤクーツク)		
ユーザ情報			
ユーザ名	(英数半角 50 文字まで 全角使用可)		
組織名	(英数半角 50 文字まで 全角使用可)		
コンピュータ名	(英数半角 50 文字まで)		
プロダクト ID / CD キー	<input type="checkbox"/> —OEM— — <input type="checkbox"/> —		
画面の設定			
ログオン後に画面設定を行う	<input type="checkbox"/> 行う		
色数	<input type="checkbox"/> 16 色 <input type="checkbox"/> 256 色 <input type="checkbox"/> High Color (16 ビット) <input type="checkbox"/> True Color (24 ビット) <input type="checkbox"/> True Color (32 ビット)		
デスクトップ領域 (ピクセル)	<input type="checkbox"/> 640 * 480 <input type="checkbox"/> 800 * 600 <input type="checkbox"/> 1024 * 768 <input type="checkbox"/> 1156 * 864 <input type="checkbox"/> 1280 * 1024 <input type="checkbox"/> 1600 * 1200		
リフレッシュレート (Hz)	<input type="checkbox"/> 60 <input type="checkbox"/> 70 <input type="checkbox"/> 72 <input type="checkbox"/> 75 <input type="checkbox"/> 80 <input type="checkbox"/> 85 <input type="checkbox"/> 100		

(続く)

設定項目		選択項目
		ネットワークプロトコル
手動でネットワークの設定を行う		<input type="checkbox"/> 行う
プロトコル		<input type="checkbox"/> NetBEUI プロトコルのインストール <input type="checkbox"/> NWLink IPX/SPX 互換互換トランスポートのインストール <input type="checkbox"/> TCP/IP プロトコルのインストール <input type="checkbox"/> DLC プロトコルのインストール <input type="checkbox"/> RAS Point to Point Tunneling プロトコルのインストール <input type="checkbox"/> Streams 環境のインストール
TCP/IP パラメータ (TCP/IP プロトコルのインストール選択時)		
DHCP を使用する		<input type="checkbox"/> する
ネットワークインターフェイス	1 DHCP を使用する未選択時のみ	NetBios over TCP/IP 用 コンピュータスコープ識別子
		IP アドレス
		サブネットマスク
		デフォルトゲートウェイ
		DNS サーバ 1
		DNS サーバ 2
		DNS サーバ 3
		WINS プライマリ
	2 DHCP を使用する未選択時のみ	WINS セカンダリ
		DNS ドメイン名
		NetBios over TCP/IP 用 コンピュータスコープ識別子
		IP アドレス
		サブネットマスク
		デフォルトゲートウェイ
		DNS サーバ 1
		DNS サーバ 2

※ 3枚以上のネットワークカードを利用する場合は、コピーしてください。

(続く)

設定項目	選択項目				
サービスの設定					
サービス	<input type="checkbox"/> SNMP サービス <input type="checkbox"/> リモートアクセスサービス <input type="checkbox"/> Microsoft DHCP サーバー <input type="checkbox"/> Microsoft DNS サーバー <input type="checkbox"/> Windows インターネットネームサービス <input type="checkbox"/> 簡易 TCP/IP サービス <input type="checkbox"/> SAP エージェント <input type="checkbox"/> ネットワークモニタツールとエージェント <input type="checkbox"/> Microsoft TCP/IP 印刷 <input type="checkbox"/> Gateway (and Client) Services for NetWare				
SNMP の設定 (選択時のみ)					
トラップ	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">コミュニティ名</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">トラップ送信先</td> <td style="padding: 2px;"></td> </tr> </table>	コミュニティ名		トラップ送信先	
コミュニティ名					
トラップ送信先					
セキユリティ	認証トラップを送信する	<input type="checkbox"/> する (デフォルト—public)			
	受け付けるコミュニティ名				
	すべてのホストから SNMP パケットを受け付ける	<input type="checkbox"/> 受け付ける			
	次のホストから SNMP パケットを受け付ける				
エージェント	連絡先				
	場所				
	サービス	<input type="checkbox"/> 物理層 <input type="checkbox"/> データリンク / アプリケーション <input type="checkbox"/> エンドツー エンド <input type="checkbox"/> アプリケーション <input type="checkbox"/> インターネット			

(続く)

設定項目		選択項目
リモートアクセスサービスの設定 (選択時)		
ポート使用の構成	ポート	<input type="checkbox"/> COM1 <input type="checkbox"/> COM2 <input type="checkbox"/> COM3-COM25
	デバイス	<input type="checkbox"/> Modem
	ポートの使い方	<input type="checkbox"/> ダイアルアウトのみ <input type="checkbox"/> 着信のみ <input type="checkbox"/> ダイアルアウトと着信
RAS パラメータ	ダイアルアウトプロトコル	<input type="checkbox"/> TCP/IP <input type="checkbox"/> IPX <input type="checkbox"/> NETBEUI <input type="checkbox"/> ALL
RAS サーバの設定	次のリモートクライアントを許可する	<input type="checkbox"/> TCP/IP <input type="checkbox"/> IPX <input type="checkbox"/> NETBEUI <input type="checkbox"/> ALL
	リモート NetBEUI クライアントにアクセスを許可する	<input type="checkbox"/> ネットワーク全体 <input type="checkbox"/> このコンピュータのみ
	リモート TCP/IP クライアントにアクセスを許可する	<input type="checkbox"/> ネットワーク全体 <input type="checkbox"/> このコンピュータのみ
リモート TCP/IP クライアントのアドレス割り当てに DHCP を使う		<input type="checkbox"/> 使う
使う未選択時	静的アドレスプールの開始アドレス StaticAddressBegin	
	静的アドレスプールの終了アドレス StaticAddressEnd	
	割り当て範囲除外	
リモートクライアントに事前で定めたIP アドレスの要求を許可する		<input type="checkbox"/> 許可する
リモート IPX クライアントにアクセスを許可する		<input type="checkbox"/> ネットワーク全体 <input type="checkbox"/> このコンピュータのみ
自動的にネットワーク番号を割り当てる		<input type="checkbox"/> 割り当てる
ネットワークの開始番号		(割り当てる未選択時)
すべての IPX クライアントに同じネットワーク番号を割り当てる		<input type="checkbox"/> 割り当てる
リモートクライアントに IPX ノード番号での接続を許可する		<input type="checkbox"/> 許可する
Microsoft Internet Information Server		
Internet Information Server のインストール		<input type="checkbox"/> する
ディレクトリ		(デフォルト—C:\Inetsrv)
FTP サービスのインストール		<input type="checkbox"/> する
ルートディレクトリ		(デフォルト—C:\Inetsrv\FTPRoot)
Word Wide Web サービスのインストール		<input type="checkbox"/> する
ルートディレクトリ		(デフォルト—C:\Inetsrv\WWWRoot)
Gopher サービスのインストール		<input type="checkbox"/> する
ルートディレクトリ		(デフォルト—C:\Inetsrv\GopherRoot)
WWW サービスサンプルのインストール		<input type="checkbox"/> する
インターネットサービススマネージャのインストール		<input type="checkbox"/> する
HTMLA のインストール		<input type="checkbox"/> する

OS ウィザード (Windows 2000 インストールウィザード)

設定項目	選択項目
Windows2000 のインストール	
Administrator 用パスワード	
コンピュータ識別情報	
導入 OS	<input type="checkbox"/> Windows 2000 Server <input type="checkbox"/> Windows 2000 Advanced Server
参加先	<input type="checkbox"/> ワークグループ <input type="checkbox"/> ドメイン
ワークグループまたはドメイン名	(デフォルト—MYUSERGROUP)
コンピュータを作成する ユーザーアカウント	ユーザ名 パスワード
ライセンスマード	<input type="checkbox"/> 接続クライアント数 <input type="checkbox"/> 同時使用ユーザ数
同時接続数	(同時使用ユーザ数選択時のみ)
インストール先ディレクトリとタイムゾーン	
インストール先ドライブ	<input type="checkbox"/> 既定値を使用 <input type="checkbox"/> ドライブ名
ドライブ名選択時	<input type="checkbox"/> C: <input type="checkbox"/> D: <input type="checkbox"/> E: <input type="checkbox"/> F: <input type="checkbox"/> G: <input type="checkbox"/> H: <input type="checkbox"/> I: <input type="checkbox"/> J: <input type="checkbox"/> K: <input type="checkbox"/> L: <input type="checkbox"/> M: <input type="checkbox"/> N: <input type="checkbox"/> O: <input type="checkbox"/> P: <input type="checkbox"/> Q: <input type="checkbox"/> R: <input type="checkbox"/> S: <input type="checkbox"/> T: <input type="checkbox"/> U: <input type="checkbox"/> V: <input type="checkbox"/> W: <input type="checkbox"/> X: <input type="checkbox"/> Y: <input type="checkbox"/> Z:
インストール先ディレクトリ	<input type="checkbox"/> 既定値を使用する <input type="checkbox"/> インストール中に指定する <input type="checkbox"/> あらかじめ指定する
インストール先	(デフォルト—¥winnt)
タイムゾーンの選択	(デフォルト—(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京)
ユーザ情報	
ユーザ名	
組織名	
コンピュータ名	
プロダクトID	<input type="checkbox"/> — — — —
画面の設定	
画面の領域	<input type="checkbox"/> 640 * 480 <input type="checkbox"/> 800 * 600 <input type="checkbox"/> 1024 * 768 <input type="checkbox"/> 1156 * 864 <input type="checkbox"/> 1280 * 1024 <input type="checkbox"/> 1600 * 1200
リフレッシュレート	<input type="checkbox"/> 60 <input type="checkbox"/> 70 <input type="checkbox"/> 72 <input type="checkbox"/> 75 <input type="checkbox"/> 80 <input type="checkbox"/> 85 <input type="checkbox"/> 100
画面の色	<input type="checkbox"/> 16 色 <input type="checkbox"/> 256 色 <input type="checkbox"/> High Color (16 ビット) <input type="checkbox"/> True Color (24 ビット) <input type="checkbox"/> True Color (32 ビット)

(続く)

設定項目		選択項目
ネットワークプロトコル		
インストール方法		<input type="checkbox"/> 自動インストール <input type="checkbox"/> ドライバのみインストール
ネットワークプロトコルのプロパティ（自動インストール選択時）		
アダプタ1	接続名	
	このアダプタにバインドするプロトコル	<input type="checkbox"/> TCP/IP <input type="checkbox"/> NWIPX <input type="checkbox"/> NetBEUI <input type="checkbox"/> Apple Talk <input type="checkbox"/> DLC <input type="checkbox"/> NetMon <input type="checkbox"/> PPTP
	DHCP を使用する（TCP/IP 選択時）	<input type="checkbox"/> 使用する
	IP アドレス	
	サブネットマスク	
	デフォルトゲートウェイ	
	IP アドレス（追加）	(追加する時のみ)
	サブネットマスク（追加）	(追加する時のみ)
	デフォルトゲートウェイ（追加）	(追加する時のみ)
	DNS ドメイン名	(指定する時のみ)
	DNS サーバアドレス	(指定する時のみ)
	WINS を使用する	<input type="checkbox"/> 使用する
	WINS サーバアドレス	DHCP（使用する選択時のみ）
	NetBIOS オプション	<input type="checkbox"/> NetBIOS の設定を、DHCP サーバーから取得する <input type="checkbox"/> NetBIOS over TCP/IP を使用する <input type="checkbox"/> NetBIOS over TCP/IP を使用しない
NWIPX 選択時のみ	内部ネットワーク番号	0x
	ネットワーク番号	0x
	フレームの種類	
アダプタ2	接続名	
	このアダプタにバインドするプロトコル	<input type="checkbox"/> TCP/IP <input type="checkbox"/> NWIPX <input type="checkbox"/> NetBEUI <input type="checkbox"/> Apple Talk <input type="checkbox"/> DLC <input type="checkbox"/> NetMon <input type="checkbox"/> PPTP
	DHCP を使用する（TCP/IP 選択時）	<input type="checkbox"/> 使用する
	IP アドレス	
	サブネットマスク	
	デフォルトゲートウェイ	
	IP アドレス（追加）	(追加する時のみ)
	サブネットマスク（追加）	(追加する時のみ)
	デフォルトゲートウェイ（追加）	(追加する時のみ)
	DNS ドメイン名	(指定する時のみ)
	DNS サーバアドレス	(指定する時のみ)
	WINS を使用する	<input type="checkbox"/> 使用する
	WINS サーバアドレス	DHCP（使用する選択時のみ）
	NetBIOS オプション	<input type="checkbox"/> NetBIOS の設定を、DHCP サーバから取得する <input type="checkbox"/> NetBIOS over TCP/IP を使用する <input type="checkbox"/> NetBIOS over TCP/IP を使用しない
NWIPX 選択時のみ	内部ネットワーク番号	0x
	ネットワーク番号	0x
	フレームの種類	

※ 複数のアダプタをインストールする場合は、コピーしてください。

(続く)

設定項目		選択項目
ソフトウェアコンポーネント		
インストール方法の選択		<input type="checkbox"/> 標準コンポーネントをインストールする <input type="checkbox"/> インストールするコンポーネントを選択する
インストールするコンポーネントを選択する時ののみ	サービス	<input type="checkbox"/> インターネットインフォメーションサービス (IIS) <input type="checkbox"/> オンラインヘルプ <input type="checkbox"/> FTP (File Transfer Protocol) サーバ <input type="checkbox"/> インターネット サービス マネージャ (HTML) <input type="checkbox"/> インターネット インフォメーション サービス スナップ イン <input type="checkbox"/> NNTP Service <input type="checkbox"/> SMTP Service <input type="checkbox"/> WWW (World Wide Web) サーバ <input type="checkbox"/> リモート インストール サービス <input type="checkbox"/> リモート記憶域 <input type="checkbox"/> ターミナル サービス ライセンス <input type="checkbox"/> ターミナル サービス <input type="checkbox"/> ターミナル サービス クライアント <input type="checkbox"/> インデックス サービス <input type="checkbox"/> COM インターネット サービス プロキシ <input type="checkbox"/> FrontPage Server Extensions <input type="checkbox"/> 証明書サービス <input type="checkbox"/> 証明書サービス WEB 登録のサポート <input type="checkbox"/> 証明書サービス CA
	FTP のルート (FTP 選択時のみ)	(デフォルト—¥Inetpub¥Ftproot)
	WWW のルート (WWW 選択時のみ)	(デフォルト—¥Inetsrv¥WWWRoot)
	通信	<input type="checkbox"/> ハイパーテーミナル <input type="checkbox"/> ダイアラ <input type="checkbox"/> チャット <input type="checkbox"/> メッセージキューサービス <input type="checkbox"/> その他のネットワークファイルと印刷サービス
	マルチメディア	<input type="checkbox"/> CD プレーヤー <input type="checkbox"/> メディアプレーヤー <input type="checkbox"/> ユートピアサウンド設定 <input type="checkbox"/> サウンドレコーダー ¹ <input type="checkbox"/> ボリュームコントロール <input type="checkbox"/> サンプルサウンド
	アクセサリ	<input type="checkbox"/> ユーザ補助の設定ウィザード <input type="checkbox"/> 文字コード表 <input type="checkbox"/> 電卓 <input type="checkbox"/> ペイント <input type="checkbox"/> ワードパッド <input type="checkbox"/> ドキュメントテンプレート <input type="checkbox"/> スクリプトデバッガ <input type="checkbox"/> オブジェクトパッケージャ <input type="checkbox"/> デスクトップの壁紙 <input type="checkbox"/> マウスポインタ
	ゲーム	<input type="checkbox"/> フリーセル <input type="checkbox"/> マインスイーパ <input type="checkbox"/> ピンボール <input type="checkbox"/> ソリティア
サービス		
サービス		<input type="checkbox"/> 簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) <input type="checkbox"/> ドメインネームシステム (DNS) <input type="checkbox"/> 動的ホスト構成プロトコル (DHCP) <input type="checkbox"/> Windows インターネットネームサービス (WINS) <input type="checkbox"/> 簡易 TCP/IP サービス <input type="checkbox"/> ネットワーク モニタ ツール <input type="checkbox"/> インターネット認証サービス <input type="checkbox"/> Site Server ILS サービス <input type="checkbox"/> UNIX 用印刷サービス <input type="checkbox"/> Macintosh 用印刷サービス <input type="checkbox"/> 接続マネージャコンポーネント <input type="checkbox"/> Macintosh 用ファイルサービス

(続く)

設定項目		選択項目
SNMP の詳細 (選択時のみ)		
ト ラ ッ プ	コミュニティ名	
	トラップ送信先	
セ キ ュ リ テ イ	認証トラップを送信する	<input type="checkbox"/> 送信する
	受け付けるコミュニティ名 (コミュニティ名 : 権利)	
	すべてのホストから SNMP パケットを受け付ける	<input type="checkbox"/> 受け付ける
	ホスト名	(指定する場合のみ)
エ ー ジ エ ント	連絡先	
	場所	
	サービス	<input type="checkbox"/> 物理 <input type="checkbox"/> データリンクとサブネットワーク <input type="checkbox"/> End-to-End <input type="checkbox"/> アプリケーション <input type="checkbox"/> インターネット
Active Directory の詳細設定		
Active Directory をインストールする		<input type="checkbox"/> インストールする
<input type="checkbox"/> ドメインツリーの新しいフォレストを作成する	<input type="checkbox"/> 既存ドメインの追加ドメインコントローラを追加する	
<input type="checkbox"/> 既存ドメインツリーに新しい子ドメインを追加する	<input type="checkbox"/> 既存フォレストに新しいドメインツリーを配置する	
データベースの場所		
ログの場所		
SyServer01 フォルダの場所		
Windows 2000 以前のサーバと互換性があるアクセス許可	<input type="checkbox"/> 許可する	
ドメインツリーの新しいフォレストを作成する		
新しいツリーの完全な DNS 名		
ドメイン NetBIOS 名		
既存ドメインの追加ドメインコントローラを追加する		
ユーザ名		
パスワード		
ドメイン名		
ドメインの完全な DNS 名		
既存ドメインツリーに新しい子ドメインを追加する		
ユーザ名		
パスワード		
ドメイン名		
親ドメイン名		
子ドメイン名		
ドメイン NetBIOS 名		
既存フォレストに新しいドメインツリーを配置する		
ユーザ名		
パスワード		
ドメイン名		
新しいツリーの完全な DNS 名		
ドメイン NetBIOS 名		

アプリケーションウィザード

設定項目	選択項目
アプリケーション	<input type="checkbox"/> WizardConsol <input type="checkbox"/> Windows NT 4.0 / Windows 2000 サービスパック <input type="checkbox"/> ServerView <input type="checkbox"/> FM Advisor <input type="checkbox"/> DSNAP <input type="checkbox"/> PROBEPRO <input type="checkbox"/> LiveHelp

サーバアプリケーションセットアップウィザード

設定項目	選択項目
サーバアプリケーション	<input type="checkbox"/> PowerChute plus <input type="checkbox"/> ServerProtect <input type="checkbox"/> BrightStor ARCserve 2000 <input type="checkbox"/> ARCserve 2000 <input type="checkbox"/> NetpowerView F

クライアント括導入ウィザード（クライアントシステム設計）

設定項目	選択・指定項目		
OU の指定	<input type="checkbox"/> OU を作成する		
作成する場合	組織名 (OU 名)		
コンピュータ アカウント の作成	コンピュータ名	OS	IP アドレス
		<input type="checkbox"/> Win95 <input type="checkbox"/> Win98 <input type="checkbox"/> WinMe <input type="checkbox"/> NT WS <input type="checkbox"/> NT BDC <input type="checkbox"/> Win2K <input type="checkbox"/> WinXP	<input type="checkbox"/> DHCP <input type="checkbox"/> 手動設定 . . . サブネットマスク . . . デフォルトゲートウェイ . . .
		<input type="checkbox"/> Win95 <input type="checkbox"/> Win98 <input type="checkbox"/> WinMe <input type="checkbox"/> NT WS <input type="checkbox"/> NT BDC <input type="checkbox"/> Win2K <input type="checkbox"/> WinXP	<input type="checkbox"/> DHCP <input type="checkbox"/> 手動設定 . . . サブネットマスク . . . デフォルトゲートウェイ . . .
		<input type="checkbox"/> Win95 <input type="checkbox"/> Win98 <input type="checkbox"/> WinMe <input type="checkbox"/> NT WS <input type="checkbox"/> NT BDC <input type="checkbox"/> Win2K <input type="checkbox"/> WinXP	<input type="checkbox"/> DHCP <input type="checkbox"/> 手動設定 . . . サブネットマスク . . . デフォルトゲートウェイ . . .
		<input type="checkbox"/> Win95 <input type="checkbox"/> Win98 <input type="checkbox"/> WinMe <input type="checkbox"/> NT WS <input type="checkbox"/> NT BDC <input type="checkbox"/> Win2K <input type="checkbox"/> WinXP	<input type="checkbox"/> DHCP <input type="checkbox"/> 手動設定 . . . サブネットマスク . . . デフォルトゲートウェイ . . .
		<input type="checkbox"/> Win95 <input type="checkbox"/> Win98 <input type="checkbox"/> WinMe <input type="checkbox"/> NT WS <input type="checkbox"/> NT BDC <input type="checkbox"/> Win2K <input type="checkbox"/> WinXP	<input type="checkbox"/> DHCP <input type="checkbox"/> 手動設定 . . . サブネットマスク . . . デフォルトゲートウェイ . . .
		<input type="checkbox"/> Win95 <input type="checkbox"/> Win98 <input type="checkbox"/> WinMe <input type="checkbox"/> NT WS <input type="checkbox"/> NT BDC <input type="checkbox"/> Win2K <input type="checkbox"/> WinXP	<input type="checkbox"/> DHCP <input type="checkbox"/> 手動設定 . . . サブネットマスク . . . デフォルトゲートウェイ . . .
グループの作成	グループ名	説明	

※上記では次のように表記しています。

Windows 95 → Win95

Windows 98 → Win98

Windows Me → WinMe

Windows NT WS → NTWS

Windows NT Server (バックアップドメインコントローラの場合)

→ NT BDC

Windows 2000 → Win2K

Windows XP → WinXP

(続く)

設定項目	選択・指定項目		
ユーザアカウントの作成	ユーザ名	フルネーム	説明
共有資源の設定	共有名	ディレクトリ名	説明

*グループの作成、ユーザアカウントの作成、共有資源の設定における「説明」は省略できます。

*ユーザアカウントの作成における「フルネーム」は省略できます。

*共有資源の設定における「ディレクトリ」は必ず設定してください。

クライアント括導入ウィザード（クライアントセットアップ）

設定項目		選択・指定項目	
動作環境設定			
共有ディレクトリ			(デフォルト [SwAp1Drv] ¥Swrsinst)
共有名			(デフォルト SWRSINST)
セットアップ資源の登録			<input type="checkbox"/> システム導入時に ServerStart から資源を登録 <input type="checkbox"/> システム導入後に WizardConsole から資源を登録
セットアップ情報の設定			
セットアップ資源の追加		<input type="checkbox"/> アプリケーション <input type="checkbox"/> ファイル <input type="checkbox"/> 実行コマンド	
ア プリ ケ シ ヨ ン	一覧から選択	<input type="checkbox"/> する	<input type="checkbox"/> しない
	資源識別名		
	説明		
	サーバドライブ指定	<input type="checkbox"/> する	<input type="checkbox"/> しない
	資源格納元フォルダ名		
	ボリュームラベルチェック	<input type="checkbox"/> する	<input type="checkbox"/> しない
	する 選択時	ボリュームラベル名	
	特定ファイルチェック	<input type="checkbox"/> する	<input type="checkbox"/> しない
	する 選択時	ファイル名	
	複数媒体の使用	<input type="checkbox"/> する	<input type="checkbox"/> しない
	する 選択時	媒体枚数	
		媒体ごとにサブ フォルダを作成	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない
	UNC パス指定	<input type="checkbox"/> する	<input type="checkbox"/> しない
	する 選 択 時	資源格納元 UNC パス名	
	ユーザ名		
	パスワード		
アプリケーション固有情報			
し な い 選 択 時	説明		
	サーバドライブ指定	<input type="checkbox"/> する	<input type="checkbox"/> しない
	資源格納元フォルダ名		(デフォルト [CD-ROM])
	ボリュームラベルチェック	<input type="checkbox"/> する	<input type="checkbox"/> しない
	する 選 択 時	ボリュームラベル名	
	特定ファイルチェック	<input type="checkbox"/> する	<input type="checkbox"/> しない
	する 選 択 時	ファイル名	
	複数媒体の使用	<input type="checkbox"/> する	<input type="checkbox"/> しない
	する 選 択 時	媒体枚数	
		媒体ごとに サブフォルダを作成	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない

(続く)

設定項目			選択・指定項目	
ア プリ ケ ー シ ョ ン	する 選 択 時	UNC パス指定	<input type="checkbox"/> する	<input type="checkbox"/> しない
		資源格納元 UNC パス名		
		ユーザ名		
	しない 選 択 時	パスワード		
		インストーラタイプ	<input type="checkbox"/> 従来インストーラ製品	<input type="checkbox"/> Windows インストーラ製品
		従来インストーラ起動コマンド		
		インストーラ起動パラメタ		
		インストーラ起動コマンドフォルダを作業フォルダとして実行	<input type="checkbox"/> する	<input type="checkbox"/> しない
		セットアップ時にスクリプトを使用する	<input type="checkbox"/> する	<input type="checkbox"/> しない
		する選択時	スクリプトファイル名	
フ ア イ ル	インストーラ製品選択時	起動方法	(デフォルト mrun [SW_COMMAND])	
		Windows インストーラパッケージ		
		インストールユーザインターフェース	<input type="checkbox"/> 進行状況とエラーだけを表示	
			<input type="checkbox"/> 対話インストール	
	実行コマンド	ファイル資源識別名		
		説明		
		資源格納元情報	<input type="checkbox"/> ファイル	<input type="checkbox"/> フォルダ配下のすべてのファイル
		ファイル格納元パス		(デフォルト [CD-ROM])
		セットアップ先パス名		
実 行 コ マ ン ド	同一ファイルが存在している場合		<input type="checkbox"/> 置換する	<input type="checkbox"/> 置換しない
	<input type="checkbox"/> ファイルの後に追加する			
	実行コマンド資源識別名			
	説明			
		実行コマンド格納元パス名	(デフォルト [CD-ROM])	
		起動方法	(デフォルト mrun [SW_COMMAND])	

《留意事項》

クライアントセットアップ機能の使用を「しない」と選択した場合はその時点で終了です。

ここでクライアント機能の使用を「する」と選択しないと、クライアントセットアップ機能は使用できません。

クライアントセットアップ機能を使用する場合は必ずセットアップ資源を追加しなくてはなりません。

追加できるセットアップ資源は 64 個までです。

クライアント一括導入ウィザード（デスクトップ設計）

設定項目	選択項目																
デスクトップ名																	
説明																	
グループ一覧から有効とする グループ名																	
初期メニュー																	
Windows 標準	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない																
Web メニュー	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない																
する選択時のみ	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">Web メニューフайл名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>Active Desktop の Web ページを追加する (IE4.0 以降有効)</td> <td><input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない</td> </tr> <tr> <td>Internet Explorer を起動する</td> <td><input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない</td> </tr> <tr> <td>する選択時のみ</td> <td> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">起動オプション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ホームページに設定する</td> <td><input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない</td> </tr> </table> </td> </tr> <tr> <td>カスタムメニュー</td> <td><input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない</td> </tr> <tr> <td>する選択時のみ</td> <td>メニュー命令</td> </tr> </table>	Web メニューフайл名		Active Desktop の Web ページを追加する (IE4.0 以降有効)	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない	Internet Explorer を起動する	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない	する選択時のみ	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">起動オプション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ホームページに設定する</td> <td><input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない</td> </tr> </table>	起動オプション		ホームページに設定する	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない	カスタムメニュー	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない	する選択時のみ	メニュー命令
Web メニューフайл名																	
Active Desktop の Web ページを追加する (IE4.0 以降有効)	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない																
Internet Explorer を起動する	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない																
する選択時のみ	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">起動オプション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ホームページに設定する</td> <td><input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない</td> </tr> </table>	起動オプション		ホームページに設定する	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない												
起動オプション																	
ホームページに設定する	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない																
カスタムメニュー	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない																
する選択時のみ	メニュー命令																
デスクトップ操作性																	
デスクトップ上のすべての オブジェクトアイコン	<input type="checkbox"/> デスクトップ上のすべてのオブジェクトアイコンを隠す <input type="checkbox"/> Active Desktop の Web ページを隠さずにオブジェクトアイコンを隠す (Internet Explorer 4.0 以降有効)																
タスクバーを隠す	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない																
ログオン時に起動するアプリケーション	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない																
する選択時のみ	起動するアプリケーション																
[アプリケーションの追加と削除] を無効にする	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない																
マイドキュメントフォルダの設定	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない																
する選択時のみ	フォルダの場所																
設定制限																	
スタートメニュー	<input type="checkbox"/> [設定] からフォルダを削除 <input type="checkbox"/> [設定] から [タスクバー] を削除																
コントロールパネル	<input type="checkbox"/> [画面] を使用不可にする <input type="checkbox"/> [ネットワーク] を使用不可にする <input type="checkbox"/> [パスワード] を使用不可にする <input type="checkbox"/> [プリンタ] を使用不可にする <input type="checkbox"/> [システム] を使用不可にする																
その他	<input type="checkbox"/> レジストリ編集ツールを使用不可にする <input type="checkbox"/> 終了時に設定を保存しない																

(続く)

設定項目	選択項目
操作制限	
スタートメニュー	<input type="checkbox"/> [ファイル名を指定して削除] を削除 <input type="checkbox"/> [検索] コマンドを削除 <input type="checkbox"/> 共通プログラムグループを削除
ファイルアクセス操作	<input type="checkbox"/> [マイコンピュータ] からドライブを隠す <input type="checkbox"/> [ネットワークコンピュータ] を隠す <input type="checkbox"/> [ネットワークドライブの割り当て] と [ネットワークドライブの切断] を削除
実行操作	<input type="checkbox"/> [MS-DOS プロンプト] を使用不可にする <input type="checkbox"/> タスクマネージャを使用不可にする <input type="checkbox"/> 許可されたプログラムだけ実行
プログラム	(許可されたプログラムだけ実行選択時のみ)
不要キー抑止	
抑止設定キー一覧	

《留意事項》

デスクトップ環境を設定した後、グループ一覧から有効とするグループを選択してください。

索引

あ

新しいドメインツリーを構築する	266
アプリケーションウィザード	
エキスパートモード	86
ガイドモード	61
アレイの一貫性チェック (Synchronize)	287
アンインストール	
WizardConsole	230

い

異常発生の通知	146
インストール	
クライアント	212
Chronoworker/S.	166
PROBEPRO	157
ServerView	151
SystemWalker® / LiveHelp® Client V5.2	162
インストール先区画サイズについて	242
インストール中のエラーメッセージ	249
インストールの開始	
エキスパートモード	86
ガイドモード	65
事前設定モード	72
インストール方法の選択	22

う

運用管理支援ツール	18
-----------	----

え

エキスパートモード	76
エキスパートモードの起動	76
遠隔保守支援ツール	19

お

オプションカード	30
オプション装置の追加監視	152

か

ガイドモードの起動	50
監視機能	151

き

起動

クライアントセットアップ	192
クライアントブート設定	207
リモートOSセットアップ	186
共有資源フォルダの追加／変更	181

く

クライアント一括導入ウィザード	62
クライアントからのサーバの電源制御	154
クライアントコンピュータの追加／変更	175
クライアントセットアップ	191
クライアントセットアップファイル	27
クライアントのインストール方法、起動方法の変更	211
クライアントブート設定	206
クライアントへのインストール	212
グループの追加／変更	180

こ

高信頼ツール	17
高信頼ツールの導入	20
コンピュータ	
一括導入	178
削除	178
情報の取得	177
変更／追加	176
コンフィグレーションファイル	27
コンフィグレーションファイルを閉じる／保存する	65
コンフィグレーションファイルを開く／作成する	53

さ

サーバアプリケーションセットアップウィザード	62
サーバ運用前の留意事項	132
サーバ監視ツール	17, 146
サーバセットアップの流れ	12
サーバ導入時に搭載するメモリ容量	25
サーバ導入前の準備	25
サーバの遠隔操作	162
再インストール	93
再インストール時の注意事項	93

し	
時刻合わせツール	166
システム環境の診断機能	155
システム修復ディスクの作成	
Windows NT Server 4.0	125
Windows 2000 Server	124
システム診断支援ツール	18
システムの修復方法	254
事前設定モードの起動	69
手動インストール後の操作	132
手動インストール時の注意事項	31
NetWare 5.1	35
Windows NT Server 4.0	31, 34
Windows 2000 Server	31, 33
手動インストール (C150 の場合)	96
Linux	106
NetWare 5.1	104
Windows NT Server 4.0	100
Windows 2000 Server	96
手動インストール (L100 の場合)	107
IDE RAID 管理ツール	114
Linux	114
Windows NT Server 4.0	110
Windows 2000 Server	107
障害の通知方法の設定	144
情報ファイル	27
す	
スーパーフロッピー形式の光磁気ディスク使用方法	251
スタンダロンサーバとは	259
スタンダロンサーバの構成	278
せ	
セットアップ資源	
サーバ登録	198
登録解除	199
セットアップ情報の追加	
アプリケーション	194
実行コマンド	197
ファイル	197
セットアップ情報の内容確認／設定変更	198
そ	
その他のデバイス	134
て	
定期交換部品交換時期のメッセージ	144
定義ファイルの入手方法	156
ディスクアドミニストレータ	80
ディスクウィザード	54
と	
ディスク台数についての留意事項	244
テープ装置のメンテナンス	153
デザインシート	289
デスクトップ環境設定	201
ね	
ネットワークパターン別設定方法	257
は	
ハードウェア構成ツール起動用フロッピー	
ディスクの作成	126
ハードウェア構成ツールの作成	129
ハードウェアの監視	147
ハードウェアの状態の表示	148
バックアップ	137
ひ	
必要なシステム	23
ふ	
複数台のインストール	89
複数 LAN アダプタ搭載時	
アダプタ番号について	245
DHCP より IP アドレスを取得する場合	246
OS インストールタイプの場合	245
複数 LAN アダプタ搭載時の留意事項	245
部品寿命情報	141
不要なファイル	135
ほ	
保守ツールの作成	126
め	
メモリダンプが取得できない場合	253
メモリダンプの設定	
Windows NT Server 4.0	120
Windows 2000 Server	116

メンテナンス区画の作成 79

ゆ

ユーザの追加／変更 180
ユーザ、グループ、共有資源の関連付け 182
ユーザ、グループ、共有資源の追加／変更 179

り

リモート OS セットアップ 186
リモート OS セットアップの起動 186

ろ

ローカルアドレスの設定 248

A

Active Directory の構成
 新しいツリー 264
Active Directory の構成（子ドメイン） 272
Active Directory の構成（追加ドメインコントローラ） 269
Active Directory の構築
 新しいフォレストの構築 261

B

BIOS セットアップユーティリティ 25

C

CD-ROM イメージの削除 190
CD-ROM からの自動実行機能 135
Chronoworker/S 18, 166
 アンインストール 168
 運用 166
 起動と終了 167
ClientWizard 用フロッピーディスクの作成 211
CSV ファイルフォーマット 224

D

DNS ゾーンの作成 264
DSNAP 19, 161

F

FastCheck Monitoring Utility 281
 Array Window 281
 Controller Window 283
 Options Window 284
FastTrak Service 288
FM Advisor 18, 155

G

Global Array Manager の作成 128

I

IDE RAID 管理ツール 281

J

Jumbo フレームについて 248

L

LAN ドライバのインストール
 Windows NT Server 4.0 239
 Windows 2000 Server 238
LAN ドライバの詳細設定について 246
LiveHelp® Client V5.2 19, 162

M

Microsoft Virtual Machine の設定 151
MS-DOS 173
MS-DOS LAN マネージャ 173
MS-DOS イメージの作成 206

O

OS インストールウィザード
 エクスパートモード 81
 ガイドモード 56
OS インストールタイプ 136
OS インストールタイプの開封 38
 ServerStart を使用しない (Windows NT Server) 42
 ServerStart を使用しない (Windows 2000 Server) 41
 ServerStart を使用する 38
OS セットアップ情報の確認／変更 190
OS セットアップ情報の設定
 Windows NT Workstation 4.0 189
 Windows 2000 Professional 187
OS セットアップ情報の登録名変更 189
OS セットアップ用 208
OS プラインストールタイプでメモリダンプが取得できない場合 254

P

Power Management for Windows 18, 154
PROBEPRO 19, 157
 アンインストール 159
 初期設定 159
 シンボルファイルの準備 159
 動作環境の定義 158

R

RAID ウィザード	53
RAID 環境へ事前設定モードでインストールする際の注意	245
RAID 管理ツール	17
RAID 構成ウィザード	79
RAID 構築	26
RAID 構築時のハード構成	243
RAID 構築時の留意事項	243
RAID 構築済みディスクの利用について	244
RAID のアレイ構成	244
RAID の初期化	29
RAS 支援サービス	17, 140
RAS 支援サービスのインストール	140
RAS 支援サービスの使用方法	141
REMCS エージェント	19

S

SCSI コンフィグレーションユーティリティ	25
ServerStart 使用時の注意事項	28
ServerStart のアンインストール	256
ServerStart の特長	13
ServerView	17, 146
インストール	151
Service Pack の適用	151
Service Pack	27
Service Pack の適用	134
Storage Manager の作成	128
SystemWalker	19
SystemWalker®	162

T

Tape Maintenance Checker	18, 153
TCP/IP プロトコル	174
Teaming 機能について	247

V

VLAN について	248
-----------------	-----

W

Windows NT 4.0 ドメインの構成	
PDC の場合	260
Windows Update	132
Windows NT 4.0 ドメインの構成	
BDC の場合	260
PDC の場合	260
WizardConsole	170
WizardConsole 使用時の留意事項	219
WizardConsole の各機能	171
WizardConsole の準備	173

WizardMenu	226
WizardMenu の作成	227

PRIMERGY C150 L100 ソフトウェアガイド
B7FH-1321-01-01

発行日 2002年10月
発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権および
その他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。